

FUJITSU Software

Interstage List Creator V11.0.0

A decorative horizontal band with a red-to-dark-red gradient, featuring abstract, glowing white and red lines that swirl and intersect, creating a sense of motion and technology.

PDF変換機能編

Windows/Windows(64)/Solaris/Linux(64)

B1X1-0406-01Z0(00)
2021年6月

まえがき

本書は、PDF変換機能の概要、および前提となる事柄について説明しています。

本書の内容は、各オペレーティングシステムで共通となっています。

本書の構成

本書は、次の構成になっています。

第1章 PDF変換機能とは

PDF変換機能の概要について説明します。

第2章 PDF変換機能の利用手順

PDF変換機能の運用形態と、その設定について説明します。

第3章 運用上の注意

PDF変換機能の運用上の注意について説明します。

付録A PDF変換機能一覧

PDF変換を行う機能範囲について説明します。

付録B PDF手元非表示印刷機能Webサーバサンプルプログラム

PDF手元非表示印刷機能Webサーバサンプルプログラムについて説明します。

輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

著作権

Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

Copyright 2012-2021 FUJITSU LIMITED

© PFU Limited 2012-2021

マニュアルの体系と読み方

本書をお読みになる前に、オンラインマニュアル“マニュアル体系と読み方”をお読みください。

オンラインマニュアル“マニュアル体系と読み方”には、List Creatorのマニュアル体系、マニュアルの読み方、表記上の規則、対象読者と前提知識、用語の対応表、および商標などについて記載されています。

目次

第1章 PDF変換機能とは.....	1
1.1 機能概要.....	1
1.1.1 独自のPDF生成エンジン.....	2
1.1.2 既存の帳票資産の活用.....	3
1.1.3 帳票設計時のフォントが使えます.....	3
1.1.4 高精度なバーコード生成.....	4
1.1.5 PDFファイルのセキュリティ/暗号化.....	5
1.1.6 PDF閲覧制限機能.....	5
1.1.7 PDF手元非表示印刷.....	7
1.1.8 PDFリモート印刷.....	9
1.1.9 PDF自動印刷機能.....	10
1.1.10 PDFメール配信.....	11
1.1.11 PDFファイル操作.....	13
1.1.12 MeFtとの連携.....	13
1.1.13 メインフレーム帳票データのPDF変換.....	14
1.1.14 List Worksとの連携.....	15
1.1.15 Charset Managerとの連携.....	16
1.1.16 モバイル端末上での閲覧.....	17
1.2 動作環境.....	17
第2章 PDF変換機能の利用手順.....	18
2.1 基本運用形態.....	18
2.1.1 List Creator単体でのPDFファイルの出力.....	18
2.1.1.1 PDFファイル出力を行う.....	18
2.1.1.2 PDFメール配信を行う.....	19
2.1.2 帳票設計時のフォントをPDF/TIFF中に使用する.....	24
2.1.3 PDF手元非表示印刷を行う.....	34
2.1.4 PDFリモート印刷を行う.....	35
2.1.5 セキュアなメール配信を行う.....	35
2.1.5.1 S/MIMEを使用した署名付き暗号化メール配信を行う(【Solaris版】).....	35
2.1.5.2 SMTPサーバを使用したPDFメール配信を行う.....	39
2.1.6 MeFtと連携したPDFファイルの出力.....	40
2.1.7 ホスト連携プレミアムと連携したPDFファイルの出力.....	41
2.1.8 List Worksと連携したPDFファイルの出力.....	42
2.1.9 外字を使用したPDFの出力方法.....	43
2.2 細かなPDFの設定が必要な運用形態.....	46
2.2.1 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルの指定方法.....	47
2.2.2 PDF文書情報ファイルの書式.....	48
2.2.3 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード一覧.....	48
2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明.....	51
2.2.5 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルの記述例.....	74
2.2.6 PDFメール配信情報ファイル/PDFメール環境設定ファイルの指定方法.....	74
2.2.7 PDFメール配信情報ファイル/PDFメール環境設定ファイルの書式.....	75
2.2.8 PDFメール配信情報ファイルのキーワード一覧.....	77
2.2.9 PDFメール配信情報ファイルのキーワード説明.....	78
2.2.10 PDFメール環境設定ファイルのキーワード一覧.....	84
2.2.11 PDFメール環境設定ファイルの説明.....	85
2.2.12 PDFメール配信情報ファイル/PDFメール環境設定ファイルの記述例.....	94
2.2.13 PDF環境設定ファイルの概要.....	95
2.2.14 PDF環境設定ファイルの書式.....	96
2.2.15 PDF環境設定ファイルのキーワード一覧.....	96
2.2.16 PDF環境設定ファイルのキーワード説明.....	97
2.2.17 PDF環境設定ファイルの記述例.....	105
2.3 PDFファイル操作コマンド.....	105
2.3.1 pmfmerge(PDFファイルの結合).....	106

2.3.2 pmfsplit (PDFファイルからページの抽出)	109
2.3.3 pmdocinf (PDFファイルの文書情報操作)	112
2.3.4 pmsecinf (PDFファイルのセキュリティ操作)	115
2.3.5 pmpagcnt (PDFファイルのページ数取得)	117
2.3.6 pmxteff (PDFファイルの添付ファイル操作)	118
2.3.7 PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイル	122
2.3.8 PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイルのキーワード一覧	122
2.3.9 PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明	123
2.3.10 PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイルの記述例	132
2.3.10.1 PDF操作コマンドで設定を行うPDF文書情報ファイルの記述例	132
2.3.10.2 PDF操作コマンドで取得したPDF文書情報ファイルの出力例	132
2.3.11 PDF操作コマンドエラーメッセージ一覧	132
2.4 証明書管理環境定義ファイル/証明書管理コマンド (【Solaris版】)	137
2.4.1 証明書管理環境定義ファイルのキーワード一覧	137
2.4.2 証明書管理コマンドの一覧	140
2.4.3 証明書管理コマンドの説明	141
2.4.3.1 lcsetenv (証明書管理環境作成コマンド)	141
2.4.3.2 lcrmenv (証明書管理環境削除コマンド)	142
2.4.3.3 lcaddcert (証明書追加コマンド)	143
2.4.3.4 lrcmcert (証明書削除コマンド)	144
2.4.3.5 lclistcacert (CA局証明書一覧表示コマンド)	145
2.4.3.6 lcchgpasswd (証明書パスワード変更コマンド)	146
2.5 PDF手元非表示印刷の環境設定	147
2.5.1 PDF手元非表示印刷の環境設定概要	147
2.5.2 Webサーバの環境設定	148
2.5.3 Webクライアントの環境設定	148
2.5.3.1 PDF手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムのインストール	149
2.5.3.2 PDF手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムのインストール後の作業	149
2.5.3.3 PDF手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムの設定	149
2.5.4 WebブラウザにPDFファイルをダウンロードさせるしくみ	151
2.5.5 注意事項	152
2.6 PDFリモート印刷の環境設定	153
2.6.1 PDFリモート印刷の環境設定概要	153
2.6.2 クライアントの環境設定	154
2.6.2.1 PDFリモート印刷プログラムのインストール	154
2.6.2.2 PDFリモート印刷プログラムのインストール後の作業	154
2.6.2.3 PDFリモート印刷プログラムの設定手順	154
2.6.2.4 PDFリモート印刷プログラムの監視フォルダ構成	154
2.6.2.5 PDFリモート印刷プログラムの監視画面	155
2.6.2.6 PDFリモート印刷プログラムの監視フォルダ設定画面	157
2.6.2.7 PDFリモート印刷プログラムの環境設定画面	159
2.6.2.8 PDFリモート印刷プログラムの注意事項	161
2.6.2.9 PDFリモート印刷プログラムのエラーメッセージ	161
2.7 SMTP認証に使用するパスワード設定	163
2.7.1 SMTP認証パスワード設定コマンド (lcmfpasswd)	163
2.7.2 環境作成機能	164
2.7.3 パスワード設定機能	164
2.7.4 環境削除機能	166
2.7.5 SMTP認証パスワード設定コマンドが作成するファイル	167
2.7.6 SMTP認証パスワード設定コマンドエラーメッセージ一覧	168
第3章 運用上の注意	172
3.1 帳票設計時の注意事項	172
3.1.1 帳票様式情報設計時の注意事項	172
3.1.2 帳票業務情報設定時の注意事項	175
3.2 アプリケーション作成時の注意事項	176
3.2.1 文字の表示	176

3.2.2 作業ファイルの生成	177
3.2.3 フルスクリーン表示	177
3.3 Adobe Readerの注意事項	177
3.3.1 Adobe Readerの版数	177
3.3.2 PDFファイルの制限	178
3.3.3 PDFファイルの検索	179
3.3.4 網がけパターン	179
3.3.5 破線パターン	179
3.3.6 Acrobatによる文書情報の表示	179
3.3.7 PDFファイルの印刷	179
3.3.8 ファイル添付機能	180
3.3.9 イメージ透過機能	180
3.3.10 Acrobat JavaScriptの設定	181
3.3.11 帳票業務情報とAcrobat製品画面の対応	181
3.4 オーバレイに関する注意事項	182
3.5 バーコードに関する注意事項	183
3.6 PDFメール配信時の注意事項	185
3.6.1 作業ファイルの作成について	185
3.6.2 帳票業務情報と電子メールソフトウェア機能の対応	185
3.6.3 帳票出力インタフェースの復帰値とPDFメール配信機能のエラーについて	186
付録A PDF変換機能一覧	187
A.1 List Creator デザイナによる帳票設計時のサポート一覧	187
A.1.1 帳票様式情報のサポート一覧	187
A.1.2 帳票業務情報のサポート一覧	194
A.1.3 出力できる文字について(【UNIX系OS版】の場合)	195
A.1.3.1 帳票に指定できる文字	195
A.1.3.2 帳票の文字コード変換	196
A.1.3.3 入力データに指定できる文字	196
A.1.4 その他の留意事項(【UNIX系OS版】の場合)	198
A.2 PDF変換機能一覧	198
付録B PDF手元非表示印刷機能Webサーバサンプルプログラム	205
B.1 Javaインタフェース版サンプルプログラム	205
B.2 CFXカスタムタグインタフェース(ColdFusion MX)版のサンプル(【Solaris版】)	208
索引	211

第1章 PDF変換機能とは

ここでは、PDF変換機能の概要について説明します。

1.1 機能概要

List Creator PDF変換機能(以降、PDF変換機能と表記します)は、オープン帳票データ、またはメインフレーム帳票データをコンパクトなファイルサイズのPDFファイルへ高速に変換することが可能です。

【機能】

- PDFファイル生成機能
- PDFメール配信機能
- PDF手元非表示印刷機能
- PDFリモート印刷機能
- PDFファイルの結合/抽出等の操作機能

【特長】

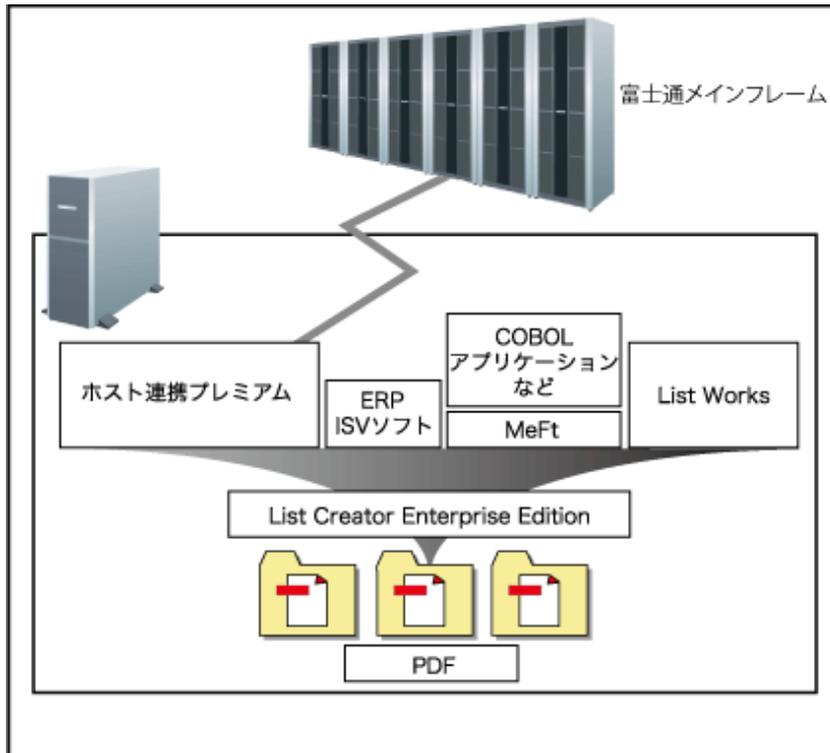
- 独自のPDF生成エンジンにより高速な変換ができます。
- 独自のPDF生成エンジンの技術により、コンパクトなPDFファイルが生成でき、インターネット配信時の回線負荷を軽減できます。
- Acrobatで表示するときに、しおりの表示、フルスクリーン表示、メニューバーやツールバーなどを非表示にするなど、様々な設定ができます。
- 帳票設計時に使用したフォントを、そのままPDFに使用することができます。
- 富士通フォームオーバーレイ形式をサポートしており、既存の帳票資産を活用することができます。
- 出力装置を問わず精度の高いバーコードの出力が可能です。
- 暗号化/セキュリティ機能によって、インターネット上でのセキュリティも万全です。
- Webクライアントに特別なPlug-inをインストールしなくても自動的に印刷することができます。
- 遠隔拠点に配信されたPDFを指定されたプリンタに自動的に印刷することができます。
- MeFtで作成した帳票データをPDFに変換することができます。
- メインフレーム帳票データをPDFに変換することができます。
- List Worksと連携することで、電子帳票データをPDFに変換することができます。
- 外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)フォントがクライアントにインストールされていなくても、アウトラインフォントで美しく表示/印刷することができます。
- PDFに閲覧期限/閲覧期間、閲覧可能なURIなどを設定し、閲覧制限を設定することができます。
- EAN-128(コンビニエンスストア向け)バーコードに対して、バーコードのモジュール幅を調整することができます。
モジュール幅は、バーコード補正情報ファイルで補正できます。詳細については、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。
- List Creatorで生成した既存のPDFファイルを結合したり、所定のページを抽出したりするファイル操作が可能です。生成したPDFファイルをモバイル端末上で閲覧することができます。

ポイント

機能範囲には、動作環境による違いがあります。詳細は以下を参照してください。

⇒ “付録A PDF変換機能一覧”

図1.1 機能概要



1.1.1 独自のPDF生成エンジン

帳票ミドルウェアとのシームレスな連携により、コンパクトで高速なPDF生成を実現しています。

また、PDFファイル情報としてタイトル/サブタイトル/作成者の設定が行えるため、作成したPDFファイルの用途や目的を明確にしておくことができます。

しおりの作成、しおりの表示により、大量ページのPDFファイルの検索性が向上されます。

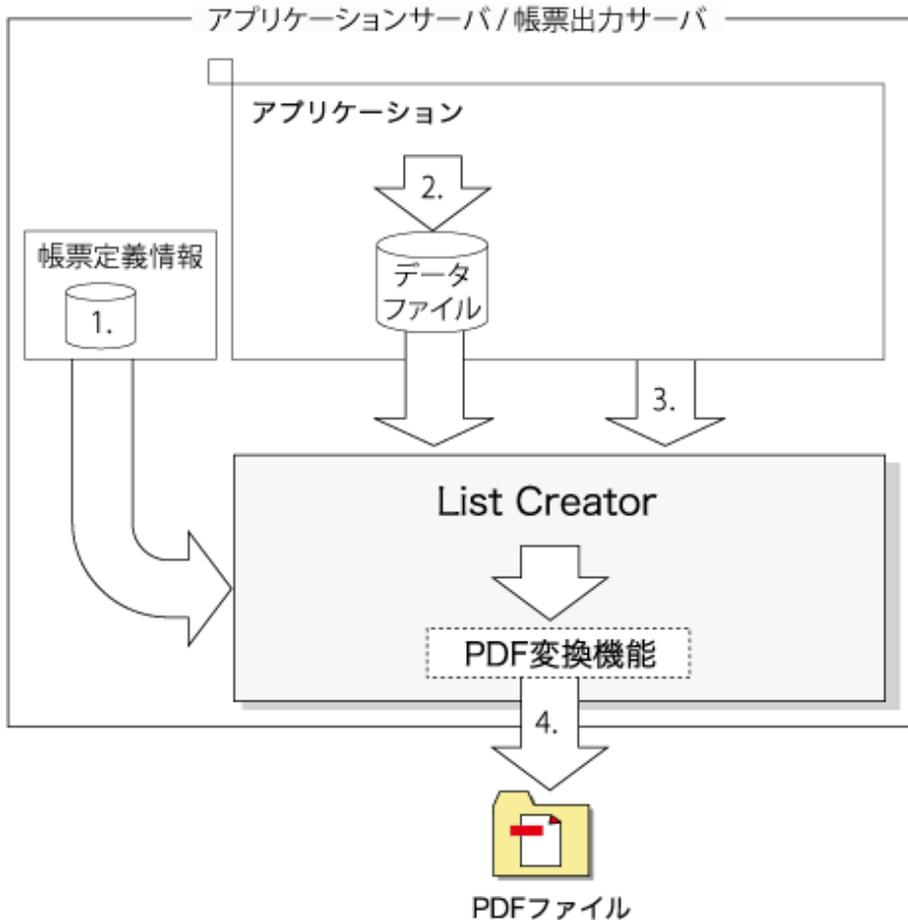
Acrobatのツールバー/メニューバー/タイトルバーの表示/非表示機能や、初期表示ページの指定やページ表示倍率の指定など、運用に応じたAcrobatの表示スタイルをあらかじめPDF中に指定することが可能です。

PDFファイルの出力を目的とする場合、印刷アプリケーションからList Creatorを呼び出すことによって、「PDF変換機能」を利用することができます。

図1.2にList CreatorとしてのPDF変換機能の基本運用形態を示します。

次に、基本運用形態について具体的に説明します。

図1.2 基本運用形態によるPDFファイル出力の具体例



1. 帳票定義情報をアプリケーションサーバ/帳票出力サーバ上に配置します。
2. アプリケーションを実行すると、データファイルにList Creatorの入力となるデータが作成されます。
3. アプリケーションは、List Creatorの帳票出力を実行します。

List Creatorの帳票出力については、以下のマニュアルを参照してください。

- List Creator 帳票出力インタフェース使用時
オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”
- COBOLアプリケーション連携機能使用時
オンラインマニュアル“COBOLアプリケーション連携機能編”

4. List Creatorは、2の入力データを1で配置した帳票定義情報にしたがって出力(PDFファイル出力)します。

1.1.2 既存の帳票資産の活用

オーバーレイを使用した帳票をPDFに変換できます。PDFファイル内でオーバーレイデータを一元管理することによりコンパクトなPDFファイルを実現しています。

オーバーレイは、新規作成したオーバーレイ、および既存のオーバーレイを使用することができます。

富士通オーバーレイ形式(KOL1、KOL5、KOL6)をサポートします。

1.1.3 帳票設計時のフォントが使えます

Windowsなどでお使いのTrueTypeフォントをList Creatorに登録することで、同一フォントの利用が可能になります。フォントの登録方法については、以下を参照してください。

⇒ [“2.1.2 帳票設計時のフォントをPDF/TIFF中に使用する”](#)

1.1.4 高精度なバーコード生成

以下のバーコードをベクトル形式で表現するため、出力装置を問わず、高精度にPDF変換することができます。

- 標準物流
- 拡張物流
- JAN標準
- JAN短縮
- Code 3 of 9
- Code 3 of 9(EIAJ準拠)

Code 3 of 9(EIAJ準拠)で出力できる様式は、様式C-3ラベル、様式Dラベル、標準納品書、および標準返品伝票の1段表記です。

Code 3 of 9(EIAJ準拠)は、「EIAJ準拠 2001年版」に準拠しています。

- Industrial 2 of 5
- Interleaved 2 of 5
- NW-7
- カスタマバーコード
- Code 128
- EAN-128
- EAN-128(コンビニエンスストア向け)

「UCC/EAN-128による標準料金代理収納ガイドライン」に準拠しています。

- UPCバージョンA
- UPCバージョンE
- EAN-13
- U.S. POSTNET (Delivery Point Code)
- U.S.POSTNET (ZIP+4 Code)
- U.S.POSTNET (5-Digit ZIP Code)
- QR Code(モデル1)
- QR Code(モデル2)
- QR Code(マイクロQR)
- PDF417
- MaxiCode
- FIM A(U.S. Postal FIM)
- FIM B(U.S. Postal FIM)
- FIM C(U.S. Postal FIM)
- Intelligent Mail Barcode
- GS1 DataBar Omnidirectional
- GS1 DataBar Stacked
- GS1 DataBar Stacked Omnidirectional
- GS1 DataBar Truncated
- GS1 DataBar Limited

- GS1 DataBar Expanded
- GS1 DataBar Expanded Stacked

バーコードをPDF変換する場合の注意事項に関しては、以下を参照してください。
⇒ “3.5 バーコードに関する注意事項”

1.1.5 PDFファイルのセキュリティ/暗号化

取引伝票などの改ざん防止のため、コピー&ペースト抑止機能、印刷抑止機能、およびパスワードによるファイルのセキュリティを行うことができます。また、機密漏洩を防止するために、PDF変換機能はPDFファイルを生成するときに暗号化します。そのため、インターネット上でのセキュリティが保てます。

暗号化には、40bit暗号化と強度の高い128bit暗号化を選択することができます。

128bit暗号化では、細かなセキュリティオプションを設定することができます。

設定内容については、以下を参照してください。

⇒ “2.2.1 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルの指定方法”

1.1.6 PDF閲覧制限機能

List Creator デザイナで作成した帳票定義を元に、入力データから作成した帳票をPDF変換機能を使って出力したPDFファイルに、URI (閲覧可能なサイト)、閲覧期限/閲覧期間などを設定し、PDFファイルの閲覧を制限できます。

また、動作条件に合致しないときに白紙のページでPDFファイルの内容を隠すことができます。

ポイント

- PDF閲覧制限機能は、List Creator デザイナで帳票設計時に閲覧制限を設定した帳票のみ使用できます。

PDF閲覧制限機能はList Creator デザイナの「文書情報設定画面」で設定します。「文書情報設定画面」の詳細については、オンラインマニュアル“帳票設計編”の「文書情報設定画面」についての記載を参照してください。

なお、閲覧可能なサイト(URI)は、PDF文書情報ファイルのキーワードで設定できます。詳細については、以下を参照してください。

⇒ “2.2.3 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード一覧”

また、閲覧期限、閲覧期間は、帳票出力時に指定可能です。詳細については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

- PDF閲覧制限機能を使用する場合には、PDFファイルのセキュリティオプションおよびセキュリティオプション変更パスワードを設定してください。設定を行わないと、閲覧者がPDF文書の変更を行うことが可能になるため、閲覧者に閲覧制限機能を無効にされる場合があります。

PDFファイルのセキュリティオプションおよびセキュリティオプション変更パスワードの詳細については、以下を参照してください。

— “2.2.3 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード一覧”

— オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”

- PDF自動印刷機能との併用はできません。PDF閲覧制限機能とPDF自動印刷機能を同時に指定した場合、PDF自動印刷機能は無効となります。

PDF自動印刷機能の詳細については、以下を参照してください。

⇒ “1.1.9 PDF自動印刷機能”

- PDF閲覧制限機能はAcrobatのAcrobat JavaScript機能を使用しているため、Acrobat JavaScriptが無効になっている場合、閲覧可能な場合でも閲覧ができない、閲覧制限の設定条件にかかわらず白紙ページが表示される、など、正しく動作しない場合があります。

PDF閲覧制限機能を使用する場合は、必ずAcrobat JavaScriptを有効にしてください。

Acrobat JavaScriptの設定については、以下を参照してください。

⇒ “3.3.10 Acrobat JavaScriptの設定”

URI閲覧制限設定

URI閲覧制限設定とは、WebブラウザでPDFファイルを表示する場合に、URI(閲覧可能なサイト)を設定し、設定したURI以外からのPDFファイル閲覧を制限する設定です。

また、設定したURI以外からPDFファイルを開覧しようとしたとき、Acrobat上にダイアログメッセージが表示されます。ダイアログメッセージに表示する文字列は、任意に設定できます。

URI閲覧制限設定は、List Creator デザイナの「文書情報設定画面(閲覧制限)」でおこないます。文書情報設定画面(閲覧制限)の詳細は、オンラインマニュアル「帳票設計編」の「文書情報設定画面」についての記載を参照してください。



- URIパスにアルファベット以外の文字が含まれる場合、使用するAcrobatの版数によってURI閲覧制限機能が正しく動作しない場合があります。そのため、Webサーバ上のPDFファイルの配置パスは、アルファベット以外の文字が含まれない場所へ格納してください。
- URIの指定に使用できる文字は、半角英数字、記号、および半角空白です。なお、半角空白はパーセントエンコーディングを使用して「%20」と指定してください。
- URIに、半角空白「%20」以外のパーセントエンコーディング(「%XX」)を指定した場合、使用するAcrobatの版数により正しく動作しない場合があります。
- http、およびhttpsスキームが対象となります。

閲覧期限設定/閲覧期間設定

閲覧期限設定とは、設定された期限(閲覧開始日から閲覧終了日まで)に該当しない場合に、PDFファイルの閲覧を制限する設定です。閲覧期限は、年月日および時分秒で設定できます。

閲覧期間設定とは、PDF作成日時から設定した期間を過ぎた場合に、PDFファイルの閲覧を制限する設定です。閲覧期間は日数で設定するため、閲覧制限は、設定した日数×24時間となります。24時間を1日として扱うため、閲覧制限により参照できなくなるのは、日付が変わるタイミングではありません。

また、閲覧期限/閲覧期間による閲覧制限に該当したときに、ダイアログメッセージが表示されます。ダイアログメッセージに表示する文字列は、任意に設定できます。

閲覧期限設定/閲覧期間設定は、List Creator デザイナの「文書情報設定画面(閲覧制限)」でおこないます。文書情報設定画面(閲覧制限)の詳細は、オンラインマニュアル「帳票設計編」の「文書情報設定画面」についての記載を参照してください。



Acrobat上に表示する任意のダイアログメッセージは、List Creator デザイナの「文書情報設定画面(閲覧制限)」でのみ設定できます。

ページマスク機能

ページマスク機能とは、URI閲覧制限、および閲覧期限/閲覧期間で設定した閲覧制限に該当したとき、白紙のページでPDFファイルの内容を隠す機能です。白紙ページの上に任意のメッセージを表示することができるため、PDFファイルの内容が閲覧制限のために隠れていることを知らせることができます。

ページマスク機能は、List Creator デザイナの「文書情報設定画面(動作)」でおこないます。文書情報設定画面(動作)の詳細は、オンラインマニュアル「帳票設計編」の「文書情報設定画面」についての記載を参照してください。



「PDF文書情報設定画面(動作)」で「ページをマスクする」を指定し、白紙のページでPDFファイルの内容を隠した状態でも、隠された内容を選択して抽出/コピーすることが可能です。そのため、セキュリティオプション(PDF-SELECT)で「テキストとグラフィックスの選択の許可」を「許可しない」に設定することを推奨します。この指定により、内容の抽出/コピーを防止できるため、よりセキュアなPDFファイルを生成できます。

セキュリティオプションの詳細については、以下を参照してください。

⇒ [「2.2.3 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード一覧」](#)

1.1.7 PDF手元非表示印刷

PDF変換機能を使って出力したPDFファイルを、WebクライアントでAdobe Readerの機能を使用して自動的に印刷することが可能です。これを、PDF手元非表示印刷と呼びます。



PDF手元非表示印刷する場合、以下のようにPDFファイルを生成してください。

- 印刷の許可を設定してPDFファイルを生成してください。

PDF文書情報ファイルの場合、セキュリティオプション (PDF-PRINT) で印刷の許可を設定してください。

List Creator デザイナの場合、List Creator デザイナの帳票業務情報のプロパティ画面の[ファイル]タブの文書情報設定画面で印刷の許可を設定してください。

- PDFファイルを開く際に必要なパスワードを設定せずにPDFファイルを生成してください。

PDF文書情報ファイルの場合、セキュリティオプション (PDF-OPENPWD) を設定しないでください。

帳票出力時に、PDFファイルを開くパスワードを設定しないでください。

PDF文書情報ファイルのキーワードについては、以下を参照してください。

⇒ “2.2.3 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード一覧”

List Creator デザイナの文書情報設定画面の詳細については、オンラインマニュアル“帳票設計編”の「文書情報設定画面」についての記載を参照してください。

帳票出力時に指定するPDFファイルを開くパスワードについては、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

PDF手元非表示印刷では、次の2種類の印刷が可能です。

- サイレント印刷

Webクライアントで通常使うプリンタとして定義されたプリンタに、プレビューせずに印刷します。

- プリンタ選択ダイアログ表示印刷

印刷実行前にプリンタ選択ダイアログボックスを表示し、ユーザが出力先プリンタを選択してから印刷を実行します。

これらの印刷方法の指定は、PDFファイルの拡張子によって行います。サイレント印刷を行う場合は、PDFファイル名の拡張子に「.pd1」を、プリンタ選択ダイアログ表示印刷を行う場合は、PDFファイル名の拡張子に「.pd2」を設定することによって、印刷方法を指定できます。

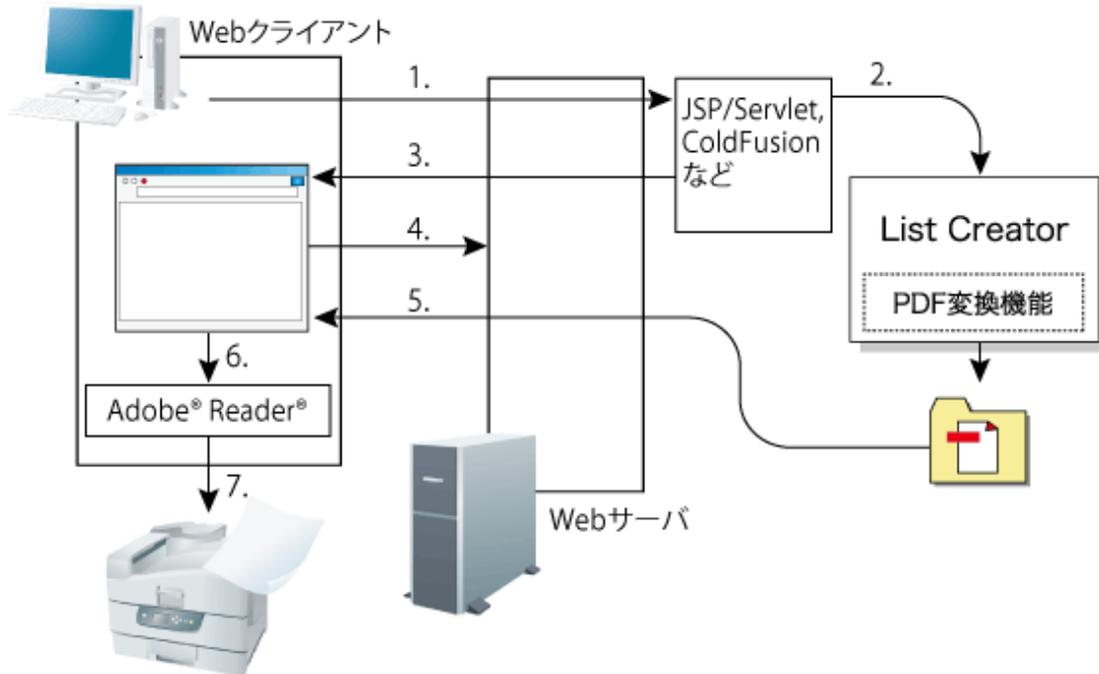
PDF手元非表示印刷を行うためには、WebサーバとWebクライアントの環境設定が必要です。また、WebクライアントにPDFファイルを復帰するため、Webサーバにアプリケーションを作成する必要があります。

これらの詳細については、以下を参照してください。

⇒ “2.5 PDF手元非表示印刷の環境設定”

以下に、PDF手元非表示印刷の流れについて説明します。

図1.3 PDF手元非表示印刷の流れ



1. Webクライアントが、Webサーバのアプリケーションを呼び出し、手元非表示印刷を行うPDFファイルをWebサーバに要求します。
 2. WebサーバのアプリケーションではList Creatorを起動し、PDFファイルを出力します。このとき、手元非表示印刷用のPDFファイルであることを示すため、ファイル名の拡張子に印刷方法に対応する文字列を指定して、PDFファイルを保存します。このPDFファイルは、Webクライアントからダウンロードできるように、URLで参照できるようにする必要があります。
- List Creatorは、帳票出力インタフェースを提供しており、これらの帳票出力インタフェースを使ってPDFファイルを出力するアプリケーションを作成することが可能です。帳票出力インタフェースの詳細については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。
3. Webサーバのアプリケーションが、Webクライアントに手元非表示印刷を行うPDFファイルのURLを通知し、このURLのファイルをダウンロードするようWebクライアントに指示します。
 4. Webクライアントは、Webサーバから通知されたURLのファイルのダウンロード要求を、Webサーバに行います。
 5. Webサーバは、PDFファイルのURLをWebクライアントに通知し、Webクライアントはファイルをダウンロードします。
 6. Webクライアントは、ダウンロードしたPDFファイルの拡張子(または、MIMEタイプ)を参照し、サイレント印刷か、プリンタ選択ダイアログ表示印刷かを判断します。そして、印刷方法に対応した方法でAdobe Readerを起動します。
 7. Adobe Readerが、指定された印刷指示にしたがい、サイレント印刷、またはプリンタ選択ダイアログ表示印刷を実行します。

PDF手元非表示印刷を行うためには、以下の環境が必要です。

Webサーバ

動作可能なWebサーバの制限はありません。ただし、MIMEタイプの定義が可能である必要があります。

Webブラウザ

以下のWebブラウザをサポートしています。

- Internet Explorer 11

Adobe AcrobatまたはAdobe Reader

Webクライアントには、Adobe Acrobat 7.0以降またはAdobe Reader 7.0以降があらかじめインストールされ、かつ印刷が実行できるように設定されている必要があります。

1.1.8 PDFリモート印刷

PDF変換機能を使って出力したPDFファイルを、遠隔地にあるクライアントの所定フォルダに送信することで、自動的に印刷することが可能です。これを、PDFリモート印刷機能と呼びます。

PDFリモート印刷では、クライアントにてPDFリモート印刷プログラムとAdobe Readerの機能を使用して印刷するため、クライアントの動作言語等の環境に依存せずにPDFファイルのリモート印刷が可能です。



注意

PDFリモート印刷する場合、以下のようにPDFファイルを生成してください。

- 印刷の許可を設定してPDFファイルを生成してください。

PDF文書情報ファイルの場合、セキュリティオプション (PDF-PRINT) で印刷の許可を設定してください。

List Creator デザイナの場合、List Creator デザイナの帳票業務情報のプロパティ画面の[ファイル]タブの文書情報設定画面で印刷の許可を設定してください。

- PDFファイルを開く際に必要なパスワードを設定せずにPDFファイルを生成してください。

PDF文書情報ファイルの場合、セキュリティオプション (PDF-OPENPWD) を設定しないでください。

帳票出力時に、PDFファイルを開くパスワードを設定しないでください。

PDF文書情報ファイルのキーワードについては、以下を参照してください。

⇒ [“2.2.3 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード一覧”](#)

List Creator デザイナの文書情報設定画面の詳細については、オンラインマニュアル“帳票設計編”の「文書情報設定画面」についての記載を参照してください。

帳票出力時に指定するPDFファイルを開くパスワードについては、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

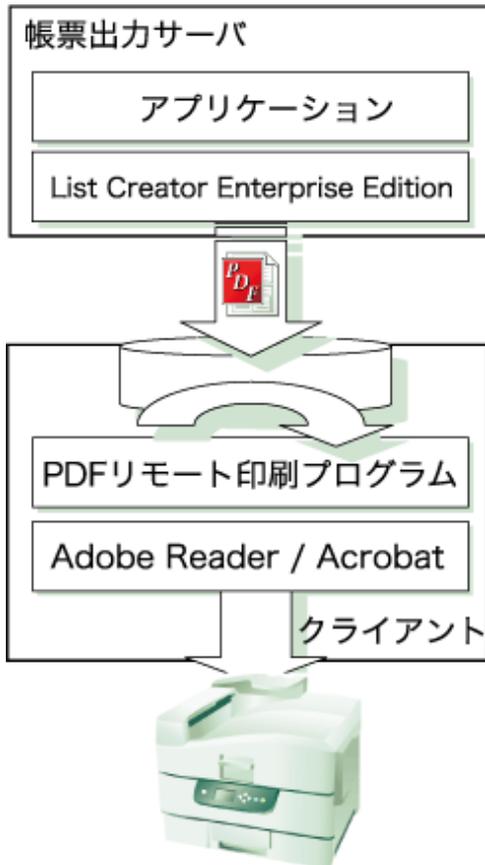
なお、PDFファイルをクライアントに配置するにはWindowsによるファイル共有やFTPサーバの機能を使用してください。

これらの詳細については、以下を参照してください。

⇒ [“2.6 PDFリモート印刷の環境設定”](#)

以下に、PDFリモート印刷の流れについて説明します。

図1.4 PDFリモート印刷の流れ



1. 帳票出力サーバにてPDFファイルを出力し、ファイル共有やFTPなどを利用してクライアントに転送します。
2. クライアントのPDFリモート印刷プログラムにて、PDFファイルの到着を監視し、Adobe AcrobatまたはAdobe Readerを起動します。
3. Adobe Acrobat またはAdobe Readerにて、指定された印刷指示にしたがい印刷を実行します。

PDFリモート印刷を行うためには、以下の環境が必要です。

帳票出力サーバからクライアントへのファイル転送

帳票出力サーバにて出力したPDFファイルをクライアントに転送する仕組みが必要です。

Adobe AcrobatまたはAdobe Reader

クライアントには、Adobe Acrobat 9.0以降またはAdobe Reader 9.0以降があらかじめインストールされ、かつ印刷が実行できるよう設定されている必要があります。

1.1.9 PDF自動印刷機能

PDF中に印刷を行うスクリプトを埋め込むことによりAcrobatでPDFファイルを開いたときに、自動的に印刷を行うことができます。

PDF自動印刷機能(PDF-AUTOPRINT)の設定内容については、以下を参照してください。

- “2.2.1 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルの指定方法”
- オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”

注意

- PDF自動印刷機能は、AcrobatのAcrobat JavaScript機能を使用しているため、Acrobat JavaScriptが無効になっている場合、PDF自動印刷は機能しません。
PDF自動印刷機能を使用する場合は、必ずAcrobat JavaScriptを有効にしてください。
Acrobat JavaScriptの設定については、以下を参照してください。
⇒ “3.3.10 Acrobat JavaScriptの設定”
- PDF閲覧制限機能と同時に使用することはできません。
PDF閲覧制限機能と同時に指定した場合、PDF自動印刷機能は無効となります。
PDF閲覧制限機能の詳細については、以下を参照してください。
⇒ “1.1.6 PDF閲覧制限機能”
- PDF自動印刷機能を使用する場合、以下のようにPDFファイルを生成してください。
 - 印刷の許可を設定してPDFファイルを生成してください。
PDF文書情報ファイルの場合、セキュリティオプション (PDF-PRINT) で印刷の許可を設定してください。
List Creator デザインの場合、List Creator デザインの帳票業務情報のプロパティ画面の[ファイル]タブの文書情報設定画面で印刷の許可を設定してください。
 - PDFファイルを開く際に必要なパスワードを設定せずにPDFファイルを生成してください。
PDF文書情報ファイルの場合、セキュリティオプション (PDF-OPENPWD) を設定しないでください。
帳票出力時に、PDFファイルを開くパスワードを設定しないでください。
PDF文書情報ファイルのキーワードについては、以下を参照してください。
⇒ “2.2.3 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード一覧”
List Creator デザインの文書情報設定画面の詳細については、オンラインマニュアル“帳票設計編”の「文書情報設定画面」についての記載を参照してください。
帳票出力時に指定するPDFファイルを開くパスワードについては、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

1.1.10 PDFメール配信

PDF変換機能を使って出力したPDFファイルを、電子メールの添付ファイルとして送信することができます。

PDFメール配信では、基本的な電子メールの機能を使用したメール配信が可能のため、以下のようなことができます。

- 宛先、カーボンコピー (CC)、ブラインドカーボンコピー (BCC) の送り先へ送信する
- メールごとにメッセージを変更する

また、以下の機能を使用して、セキュアにPDFファイルを配信できます。

- 証明書を使用
署名付きメールや暗号化メールによるPDFメール配信ができます。
- SMTP認証
認証が必要なSMTPサーバを介したPDFメール配信ができます。その際に使用するSMTP認証パスワードは、暗号化して保管されます。

証明書を使用したPDFメール配信

証明書を使用して、電子メールの暗号化や電子署名を添付したPDFメール配信ができます。これにより、インターネット環境におけるPDFメール配信の安全性を高めることができます。

証明書を発行するには認証局 (証明書発行局) が必要です。List Creatorでは、以下で発行された証明書をサポートしています。

- SystemWalker PKI Manager (富士通株式会社)

- ・ シマンテック サーバID (合同会社シマンテック・ウェブサイトセキュリティ)

なお、上記以外の場合、X.509またはRFC2459に準拠していれば扱うことができますが、証明書の入手環境からPDFメール閲覧環境までの動作確認を行った上で使用してください。

ポイント

- ・ 【Solaris版】のみサポートしています。
- ・ List Creatorでは、CRL(無効証明リスト)の運用は行えません。
- ・ List Creatorでは、Oracleを使用した証明書管理環境は使用できません。

SMTP認証

SMTP認証は、認証が必要なSMTPサーバを使用したPDFメール配信を可能にします。対応する認証方法を以下に示します。

- ・ CRAM-MD5
- ・ LOGIN
- ・ PLAIN

SMTPサーバ認証を有効にするには、PDFメール環境設定ファイルで以下のキーワードを設定します。

- ・ MLF_SMTPAuth

また、認証に使用するユーザIDとパスワードは、以下で設定します。

ユーザID

PDFメール環境設定ファイルのキーワード「MLF_SMTPAuthUser」

パスワード

lcmfsetpasswdコマンド

認証に使用するパスワードはコマンドで暗号化し、ファイルで保管します。

セキュアにPDFファイルを配信する方法については、以下を参照してください。

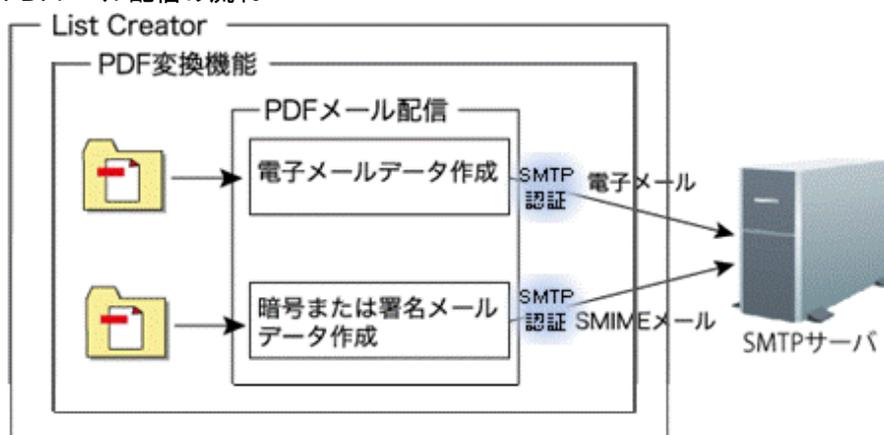
⇒ [“2.1.5 セキュアなメール配信を行う”](#)

その他のPDFメール配信の詳細な機能については、以下を参照してください。

⇒ [“2.2.6 PDFメール配信情報ファイル/PDFメール環境設定ファイルの指定方法”](#)

以下に、PDFメール配信の流れを示します。

図1.5 PDFメール配信の流れ



ポイント

PDFメール配信は10多重以上の同時実行は行えません。

1.1.11 PDFファイル操作

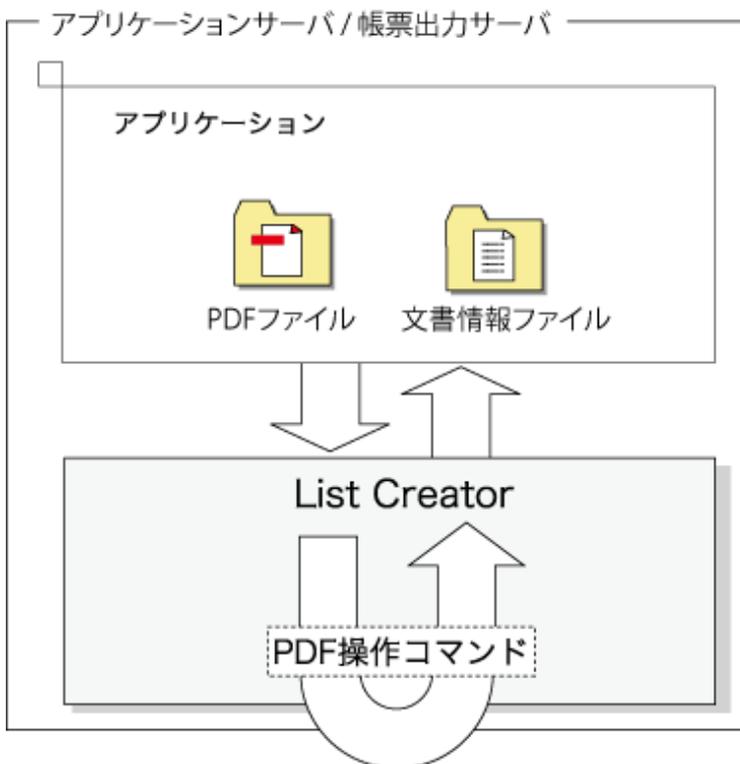
PDF操作コマンドを使用することによって、List Creatorで生成した既存のPDFファイルを結合したり、所定のページを抽出したりするファイル操作が可能です。

さらに、セキュリティオプションの変更やPDFファイルの総ページ数の取得など、PDFファイルを使った上位アプリケーションとの連携に必要なコマンドが用意されています。

PDF操作コマンドの詳細については、以下を参照してください。

⇒ [“2.3 PDFファイル操作コマンド”](#)

図1.6 PDFファイル操作の流れ



1.1.12 MeFtとの連携

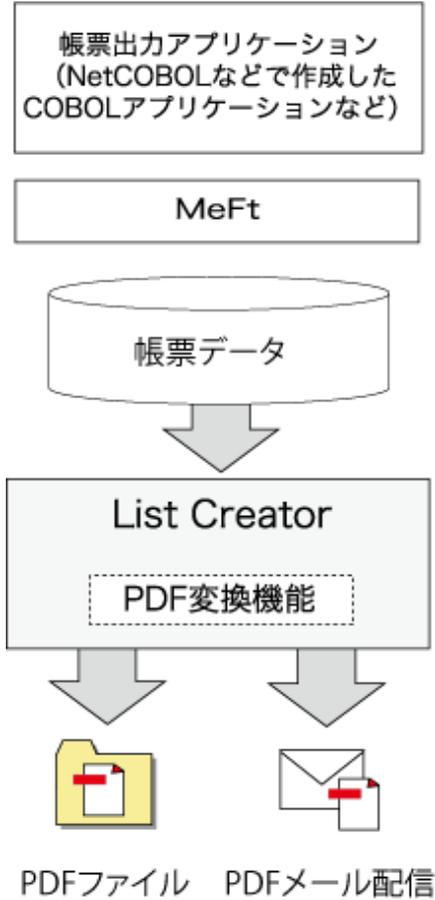
MeFtと連携することにより、MeFtをお使いの上位アプリケーションから簡単にPDFを生成することができます。

MeFtと連携してPDFを生成するためには、あらかじめFORMによって帳票定義体・オーバーレイ定義体を作成する必要があります。

MeFt連携時の設定内容については、MeFtに添付のオンラインマニュアルの“帳票の電子化”および以下を参照してください。

⇒ [“2.1.6 MeFtと連携したPDFファイルの出力”](#)

図1.7 MeFt連携によるPDFファイル出力



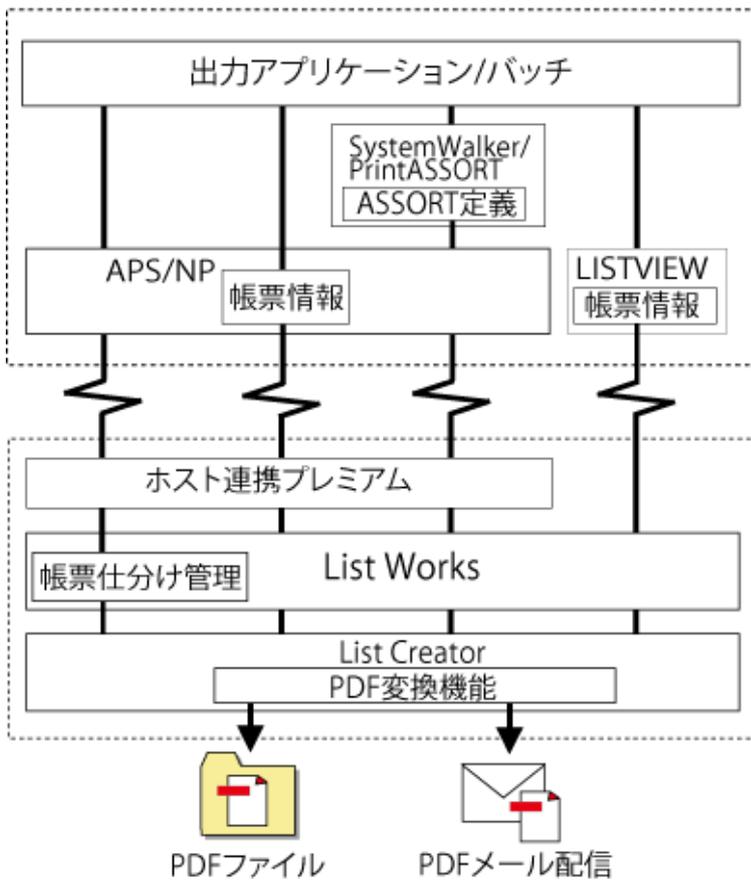
P ポイント

【Linux for Intel64版】の場合は、Linux for Intel64版NetCOBOLのMeFtコンポーネントとの連携となります。

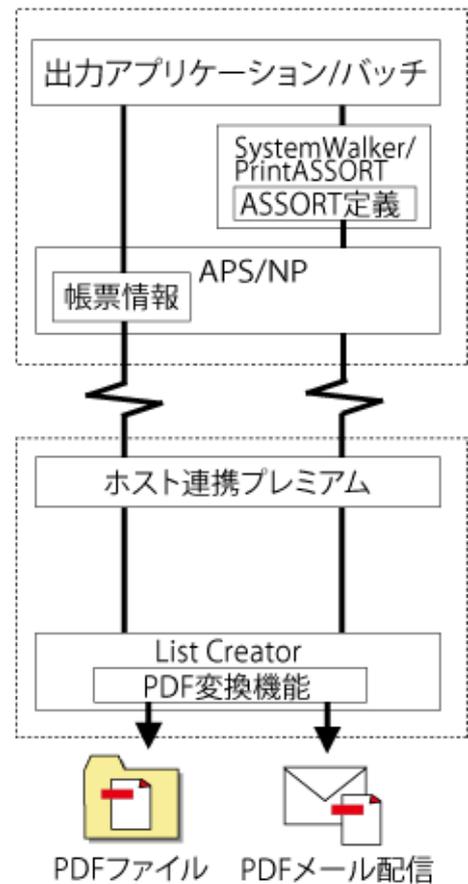
1.1.13 メインフレーム帳票データのPDF変換

ホスト連携プレミアムと連携することにより、メインフレーム帳票のPDF変換が可能になります。

図1.8 メインフレーム帳票のPDFファイル出力
List Works経由



Host連携プレミアム経由



ASSORT定義や仕分け定義などで設定する仕分け情報には、PDF文書情報ファイルの内容を設定します。

仕分け情報の設定は、メインフレーム側でPrintASSORTを使って仕分け処理を行う場合と、オープンシステム側でList Worksを使って仕分けを行う場合の2つの方法があります。

List Worksを使って仕分け処理を行う場合の詳細については、List Worksのマニュアル“帳票仕分け管理手引書”を参照してください。

Host連携プレミアム連携時の設定内容については、Host連携プレミアムに添付のマニュアルおよび以下を参照してください。

⇒ “2.1.7 Host連携プレミアムと連携したPDFファイルの出力”

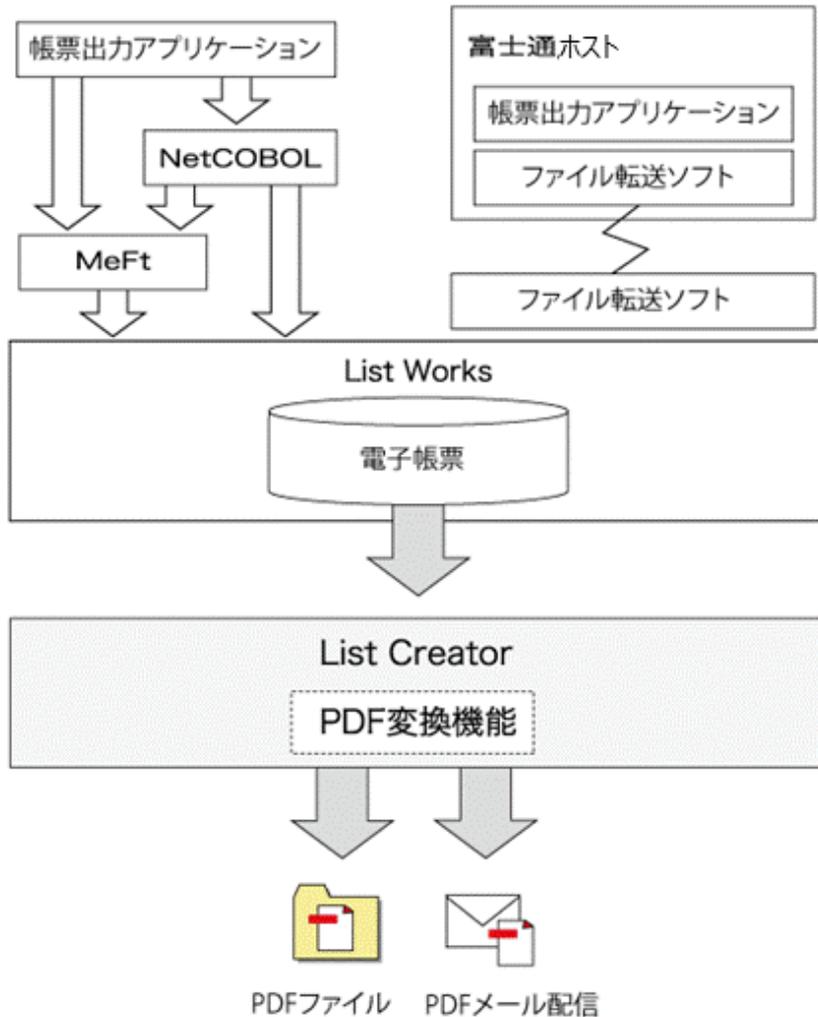
PrintASSORTを使って仕分け処理を行う場合の詳細については、OSIV SystemWalker/PrintASSORTに添付のマニュアルを参照してください。

1.1.14 List Worksとの連携

List Worksと連携することにより、List Works電子帳票データから簡単にPDFを生成することができます。詳細については、List Worksオンラインマニュアル“運用手引書”および以下を参照してください。

⇒ “2.1.8 List Worksと連携したPDFファイルの出力”

図1.9 List Works連携によるPDFファイル出力



1.1.15 Charset Managerとの連携

PDF変換機能で利用できるフォントは、JIS第一水準/第二水準です。外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)をPDF変換する場合は、Charset Managerとの連携により、サーバにインストールされているフォントをエンベッド(貼り付け)することによって、クライアントシステムに外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)フォントがインストールされていなくても、アウトラインフォントで美しく表示/印刷することが可能になります。

また、外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)のエンベッド(貼り付け)指定方法については、以下のマニュアルを参照してください。

- ・ “2.1.9 外字を使用したPDFの出力方法”
- ・ オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”
- ・ オンラインマニュアル“帳票設計編”
- ・ MeFtに添付のオンラインマニュアル
- ・ ホスト連携プレミアムのオンラインマニュアル
- ・ “Charset Manager 使用手引書 標準コード変換機能編”

注意

外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)をPDF変換する場合は、必ずフォントのエンベッドを行ってください。

1.1.16 モバイル端末上での閲覧

生成したPDFファイルをモバイル端末上で閲覧することができます。

閲覧の際は、モバイル版Adobe Readerが必要です。

1.2 動作環境

PDF変換機能は、List Creator Enterprise Editionがサポートしているオペレーティングシステムに対応しています。

List Creator Enterprise Editionの動作環境については、オンラインマニュアル“解説編”を参照してください。

ポイント

以下の機能は、Windows 64ビットOSのWOW64サブシステム上で、32ビットアプリケーションとして動作します。

- PDF手元非表示印刷機能
- PDFリモート印刷機能

PDF変換機能により作成されたPDFは、以下のアプリケーションで利用できます。

- Acrobat Reader 4.0以降
- Adobe Reader 6.0以降
- Acrobat 4.0以降

サポートするAdobe Readerについては、以下を参照してください。

⇒ [“3.3.1 Adobe Readerの版数”](#)

以下の機能は、Acrobat 5.0またはAcrobat Reader 5.0以降で利用できます。

- 128bit暗号化機能
(文書情報ファイルのキーワードPDF-KEY128=ON、PDF-MODIFY=ASMONLY|FFFILL|ADDANNOT、PDF-PRINT=LOWRESO、PDF-SELECT=ACCESSIBILITY|COPY+EXTRACT)
- データファイルの埋め込み機能
(文書情報ファイルのキーワードPDF-DATAFILE)
- ファイル名のタイトルバー表示機能
(文書情報ファイルのキーワードPDF-DOCTITLE=ON)

文書情報ファイルのキーワードの詳細については、以下を参照してください。

⇒ [“2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明”](#)

第2章 PDF変換機能の利用手順

ここでは、PDF変換機能の運用形態と、その設定について説明します。

2.1 基本運用形態

2.1.1 List Creator単体でのPDFファイルの出力

List Creator単体でのPDFファイルの出力には、以下の方法があります。

- PDFファイル出力を行う
- PDFメール配信を行う

以下に、それぞれについて説明します。

2.1.1.1 PDFファイル出力を行う

List Creator 帳票出力インタフェースを使用してPDF変換を行う場合には、以下の方法があります。

- 帳票出力時にコマンド、またはユーザアプリケーションで指定する方法
- 帳票設計時にList Creator デザイナで指定する方法

さらに、COBOLアプリケーション連携機能の初期化ファイルを使用してPDF変換を行う方法もあります。COBOLアプリケーション連携機能および、初期化ファイルの詳細については、オンラインマニュアル“COBOLアプリケーション連携機能編”を参照してください。

帳票出力時にコマンドまたはユーザアプリケーションで指定する方法

- コマンドインタフェースの場合 (prprint/prprintx)

以下のコマンドオプションを指定します。

1. `-atdirect`または`-atmethod`オプションで「file」を指定します。
2. `-keeppdf` (PDFファイル名) オプションを指定します。

- Javaインタフェースの場合

PrintPropertiesクラスのsetPropertyメソッドで、以下のパラメタを指定します。

1. 定数ID_DIRECTMETHODまたはID_OUTPUTMODEの値に「PDF」を指定します。
2. 定数ID_KEEPPDFにPDFファイル名を指定します。

- .NETインタフェースの場合

PrintPropertiesクラスの以下のプロパティを指定します。

1. DirectMethodプロパティまたはOutputModeプロパティの値に「OUTPUTMODE_PDF」を指定します。
2. KeepPdfプロパティに、生成するPDFファイル名を指定します。

- カスタムコントロールの場合

カスタムコントロールPrctrlEx Controlの、以下のプロパティの設定を行います。

1. DirectMethodまたはOutputModeに「TRUE」を指定します。
2. OutputFileに「TRUE」を指定します。
3. KeepPdfにPDFファイル名を指定します。

- CFXカスタムタグインタフェース(ColdFusion MX)の場合

CFX_OAST_OUTPUTQUERYタグ、またはCFX_OAST_CONNECTタグの、以下の属性の設定を行います。

1. DIRECT_METHODまたはMETHODの値に「PDF」を指定します。

2. PDF_KEEPPFILEにPDFファイル名を指定します。
3. KeepPdfにPDFファイル名を指定します。

ポイント

コマンド、またはユーザアプリケーションで指定する方法の詳細については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

帳票設計時にList Creator デザインで指定する方法

1. List Creator デザインの帳票定義一覧画面で出力対象の帳票定義情報を選択し、[ファイル]–[プロパティ]を選択します。
帳票業務情報のプロパティ画面が表示されます。
2. [ファイル]タブを選択し、「ファイル保存する」チェックボックスをチェックします。
3. 格納先ファイル名を指定します。

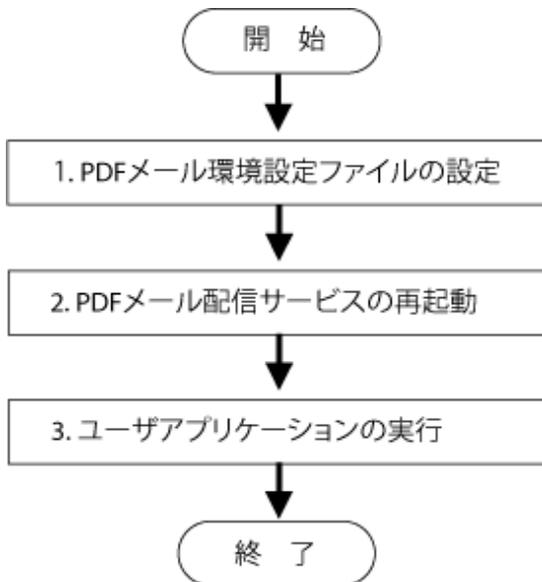
ポイント

帳票設計時の指定の詳細については、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。

2.1.1.2 PDFメール配信を行う

PDF変換機能を使って出力したPDFファイルを、電子メールの添付ファイルとして送信することができます。これをPDFメール配信と呼びます。以下に、PDFメール配信を行う基本的な手順を示します。

図2.1 PDFメール配信を行う基本的な手順



1. PDFメール環境設定ファイルを設定します。
PDFメール環境設定ファイルを編集し、使用するSMTPサーバのアドレス、および送信者のアドレスを指定します。
PDFメール環境設定ファイルとは、電子メール送信に関する環境を定義するファイルです。テキストエディタで編集してください。
PDFメール環境設定ファイルは、以下に格納されています。
 - 帳票出力サーバがWindowsの場合
List Creatorインストールディレクトリ¥swmailenv.ini

- 帳票出力サーバがUNIX系OSの場合

/etc/opt/FJSVedoc/swmailenv.dat

以下の項目を設定します。

- SMTPサーバのアドレス

[MLF_SMTPServer-default]セクション—MLF_SMTPServerAddress(設定項目名)で指定します。

- 送信者のアドレス

[MLF_Default]セクション—MLF_EnvelopeFromAddress(設定項目名)で指定します。

例) swmailenv.ini (帳票出力サーバがUNIX系OSの場合はswmailenv.dat)

```
.....
[MLF_Default]
.....
MLF_EnvelopeFromAddress=lcowner@xxx.yyy.zzz.co.jp
.....
[MLF_SMTPServer-default]
MLF_SMTPServerAddress=lcserver.xxx.yyy.zzz.co.jp
.....
```

その他のPDFメール環境設定ファイルの設定方法については、以下を参照してください。

- ⇒ [“2.2.10 PDFメール環境設定ファイルのキーワード一覧”](#)
- ⇒ [“2.2.11 PDFメール環境設定ファイルの説明”](#)
- ⇒ [“2.2.6 PDFメール配信情報ファイル/PDFメール環境設定ファイルの指定方法”](#)
- ⇒ [“2.2.7 PDFメール配信情報ファイル/PDFメール環境設定ファイルの書式”](#)
- ⇒ [“2.2.12 PDFメール配信情報ファイル/PDFメール環境設定ファイルの記述例”](#)

2. PDFメール配信サービスを再起動します。

設定したPDFメール環境設定ファイルの内容をPDFメール配信サービスに反映させるため、PDFメール配信サービスの再起動を行います。

以下の手順でPDFメール配信サービスを再起動します。

- 帳票出力サーバがWindowsの場合

「ListCREATOR SendMaid Service」を起動します。

- Administrators権限を持つユーザでログオンし、[コントロールパネル]—[管理ツール]—[サービス]を選択します。
サービス一覧画面が表示されます。
- 「ListCREATOR SendMaid Service」を選択します。
- 「再起動」を選択してサービスを再起動します。

- 帳票出力サーバがUNIX系OSの場合

システム管理者権限でログオンし、以下のコマンドを実行して、PDFメール配信デーモンを再起動します。

/opt/FJSVedoc/etc/SKFJSVedocmail restart

ポイント

【Solaris版】の場合、List Creatorのインストール後に、PDFメール配信デーモンが自動起動します。

- PDFメール配信デーモン

/opt/FJSVedoc/bin/swmaild

- 起動/停止スクリプト

起動スクリプト : /etc/rc2.d/S88FJSVedocmail
停止スクリプト : /etc/rc0.d/K55FJSVedocmail
 /etc/rc1.d/K55FJSVedocmail

3. ユーザアプリケーションを実行します。

- ー List Creator 帳票出力インタフェースを使用する場合

帳票出力時に送信先のアドレスを指定 (prprintコマンドの場合は-gpdfmailtoaddrオプションで指定) すると、PDFメール配信が行えます。

例) 帳票出力サーバがWindowsの場合で、prprintコマンドを使用する場合

```
prprint
-assetsdir "C:¥data¥sample"..... 1)
-atdirect file..... 2)
-f "C:¥data¥sample¥LC.dat"..... 3)
"LC"..... 4)
-keeppdf "C:¥tmp¥LC.pdf"..... 5)
-gpdfmailtoaddr lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp..... 6)
```

- 1): 帳票格納ディレクトリを指定
- 2): 出力方法を指定
- 3): 入力データファイルを指定
- 4): 帳票名を指定
- 5): PDFファイルの格納先を指定
- 6): メールを送信先アドレスを指定

アプリケーションの作成方法の詳細については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

- ー COBOLアプリケーション連携機能を使用する場合

PDFメール配信は、PDF変換する指定に加え、PDF文書情報ファイル([MLF_Mail]セクション)に送信先メールアドレスを指定することで行えます。

例) PDF文書情報ファイルへの記述例

```
[MF-PDF]
.....
[MLF_Mail]
.....
MLF_ToAddress=lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp
.....
```

PDF変換の指定方法の詳細については、オンラインマニュアル“COBOLアプリケーション連携機能編”を参照してください。

その他の電子メール機能を使用する場合は以下を参照してください。

- ⇒ “2.2.1 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルの指定方法”
- ⇒ “2.2.2 PDF文書情報ファイルの書式”
- ⇒ “2.2.8 PDFメール配信情報ファイルのキーワード一覧”
- ⇒ “2.2.9 PDFメール配信情報ファイルのキーワード説明”
- ⇒ “2.2.10 PDFメール環境設定ファイルのキーワード一覧”
- ⇒ “2.2.11 PDFメール環境設定ファイルの説明”

セキュリティを設定してメール配信を行う場合は、以下を参照してください。

- ⇒ “2.1.5 セキュアなメール配信を行う”

PDFメール配信のメールsubject、メール本文を作成する

PDFメール配信を行うメールにメールSubjectやメール本文を作成して配信する場合、PDFメール環境設定ファイルに加えて、以下のファイルが必要です。

- ・ PDFメールテンプレートファイル

- PDFメール配信情報ファイル(PDF文書情報ファイル)

COBOLアプリケーション連携機能使用時は、PDF文書情報ファイルにPDFメール配信情報ファイルのキーワードを記載します。

また、PDFメールテンプレートファイルに、メール本文の雛形と変数を組み合わせることで、宛先ごとに異なったメールを送信することができます。

以下に、PDFメールテンプレートファイルとPDFメール配信情報ファイル(PDF文書情報ファイル)を使用した設定手順を示します。

- PDFメールテンプレートファイル

PDFメールのメールsubject、メール本文の雛形を定義するファイルです。

テキストエディタで編集してください。

- PDFメール配信情報ファイル(PDF文書情報ファイル)

[MLF_Message]セクションに変数定義を行うことで、PDFメールテンプレートファイルで定義したメール本文の雛形に、文字列を設定できます。

テキストエディタで作成してください。

PDFメール配信コマンド実行時に作成したPDFメール配信情報ファイルパス(PDF文書情報ファイルパス)を指定します。

PDFメールテンプレートファイルのサンプルは、以下に格納されています。

- 帳票出力サーバがWindowsの場合

List Creatorインストールディレクトリ¥mail_template.txt

- 帳票出力サーバがUNIX系OSの場合

/etc/opt/FJSVedoc/mail_template.txt

以下に、PDFメール配信のメールsubject、メール本文を作成する手順を示します。

1. PDFメールテンプレートファイルを編集します。

- PDFメールテンプレートファイルは、<HEAD>と<BODY>の2つのセクションに分かれています。

<HEAD>に書かれた内容はメールヘッダとして、<BODY>に書かれた内容はメール本文として使われます。

- 記号\$で囲んだ文字列は、変数として扱われます。PDFメール配信情報ファイルの[MLF_Message]セクションで、変数の内容を記載してください。変数に使用できる文字は、半角英数字の小文字です。

- 文書中に「\$」、「<」、「>」、「¥」を含める場合は、「¥\$」、「¥<」、「¥>」、「¥¥」のように、「¥」を付加して記述します。

- <HEAD>に以下のフィールド名を記述しても無視されます。

Date、From、To、CC、BCC、Message-ID、MIME-Version、Content-Type、Envelope-ID、Disposition-Notification-To

- メールの名前を指定する場合は、<HEAD>に「subject:」を必ず指定してください。また、PDFメールテンプレートファイルには1行の文字数が半角英数で3072文字を超えないようにしてください。3072文字を超える文字は無視されます。

- <HEAD>、<BODY>の行には、これ以外に何も記述しないでください。また、同じメールヘッダを複数指定しても無視されます。

- 空行を追加する場合は、半角空白または全角空白を追加してください。

以下にPDFメールテンプレートファイルの例を示します。

例) List Creatorインストールディレクトリ¥mail_template.txt

```
<HEAD>
subject: $subject$
<BODY>
$message$
-----
```

```
連絡先: ○○ □□
メール: lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp
```

2. PDFメール配信情報ファイル(PDF文書情報ファイル)を作成します。

PDFメール配信情報ファイル(COBOLアプリケーション連携機能を使用する場合はPDF文書情報ファイル)を、テキストエディタなどで作成し、任意のディレクトリに作成します。

PDFメール配信情報ファイル(PDF文書情報ファイル)で[MLF_Message]セクションを定義し、テンプレートで定義した変数に文字列を設定します。

以下に、PDFメール配信情報ファイルの例を示します。

例) C:¥tmp¥listcreator.conf

```
[MLF_Message]
subject=これはテストメール
message=〇〇株式会社 様
message=いつもお世話になっております。
message=先日ご依頼いただいた機器のお見積書です。
```

ポイント

COBOLアプリケーション連携機能を使用する場合はPDF文書情報ファイルに、[MF-PDF]セクションの定義以降に[MLF_Message]セクションを定義します。

3. ユーザアプリケーションを実行します

ー List Creator 帳票出力インタフェースを使用する場合

帳票出力時に帳票出力 (prprintコマンドの場合は-gpdfmailtoaddrオプション、および-gpdfmailconffileオプション)で、送信先のアドレス、PDFメール配信情報ファイルを指定すると、メール本文の設定が反映されたPDFメール配信ができます。

例) 送信先のアドレス、PDFメール配信情報ファイルの指定例

```
prprint
-assetsdir "C:¥data¥sample"..... 1)
-atdirect file..... 2)
-f "C:¥data¥sample¥LC.dat"..... 3)
"LC"..... 4)
-keeppdf "C:¥tmp¥LC.pdf"..... 5)
-gpdfmailtoaddr lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp..... 6)
-gpdfmailconffile "C:¥tmp¥listcreator.conf"..... 7)
```

- 1): 帳票格納ディレクトリを指定
- 2): 出力方法を指定
- 3): 入力データファイルを指定
- 4): 帳票名を指定
- 5): PDFファイルの格納先を指定
- 6): メールを送信先アドレスを指定
- 7): PDFメール配信情報ファイルを指定

ー COBOLアプリケーション連携機能を使用する場合

PDFメール配信を行うメールにメールSubjectやメール本文を作成して配信するには、PDFメール配信をする指定に加え、ユーザアプリケーション実行時にPDFメールテキストテンプレートファイルを指定し、2で作成したPDF文書情報ファイルを指定することで行えます。

PDF変換、およびPDFメールテンプレートファイルの指定方法の詳細については、オンラインマニュアル“COBOLアプリケーション連携機能編”を参照してください。

例) 受信メッセージの例

```
〇〇株式会社様
いつもお世話になっております。
先日ご依頼いただいた機器のお見積書です。
```

2.1.2 帳票設計時のフォントをPDF/TIFF中に使用する

帳票を設計したときに使用したフォントを、そのままPDFファイル/TIFFファイル上に使用することが可能です。
TIFF出力を行う場合の留意事項については、オンラインマニュアル“TIFF出力機能編”を参照してください。
使用できるフォントは以下のTrueTypeフォントファイルです。

- **.ttf

True Type Font形式のファイルです。

- **.ttc

True Type Collection形式のファイルです。

- **.tte

True Type標準外字形式のファイルです。

ポイント

- 使用するフォントの外字があらかじめ定義されている場合、その外字データも使用できます。なお、外字を作成した外字エディタによっては、正しく動作しない場合があります。
- 使用できるTrue Typeフォントは、Unicode CMapテーブルを実装しているフォントです。使用したいフォントがUnicode CMapテーブルを実装しているフォントかどうかについては、お使いになるフォントの提供元にご確認ください。
- 帳票設計時に使用したフォントを使用して、JIS X 0208:1990からJIS X 0213:2004にて追加された文字を出力することができます。設定方法は以下のとおりです。

1. 帳票出力環境設定ファイル、または、帳票出力情報ファイルにてキーワード「PDFJIS2004MODE」に「Y」を指定します。
詳細は、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。

2. JIS2004基準フォントをPDFフォント登録します。

キーワードとPDFフォント登録の設定による出力結果の関係は、以下のとおりです。

PDFフォント登録あり

PDFJIS2004MODE	字形変更文字	サロゲートペア文字
Y	○	○
N	○	×

PDFフォント登録なし

PDFJIS2004MODE	字形変更文字	サロゲートペア文字
Y	○	○
N	×	×

○:出力可能

×:出力不可

3. 出力時にエンベッド指定を行います

詳細は、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。

⇒ “2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明”

エンベッド指定を行わなかった場合には、正しく出力できないことがあります。

Windowsの場合には“帳票出力サーバがWindowsの場合”も参照してください。

注意

帳票設計時に使用したIVS文字に対応したフォントを、そのままPDFファイル上で使用することができます。その際の注意事項は以下の通りです。

- ・ ビューア上でIVS文字を正しく表示させるには、以下の条件を満たす必要があります。
 - － PDFファイル上で使用するIVS文字に対応したフォントを、PDFフォント登録しておくこと。
 - － フォントをエンベッドしていないPDFの場合は、表示を行う環境においても、IVS文字がサポートされた環境である必要があります（IVS文字に対応したフォントがインストールされている）。
- ・ Adobe AcrobatおよびAdobe Readerにおいて、IVS文字を用いた検索は未サポートです。
ただし基底文字を入力して検索することによって、その基底文字を含む全てのIVS文字を検索結果にヒットさせることができます。
- ・ Adobe AcrobatおよびAdobe ReaderでIVS文字のコピー&ペーストを行った場合、異体字セレクタの情報はコピーされず基底文字として扱われます。
- ・ IVS文字をサポートするOSのバージョン等の情報は、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。

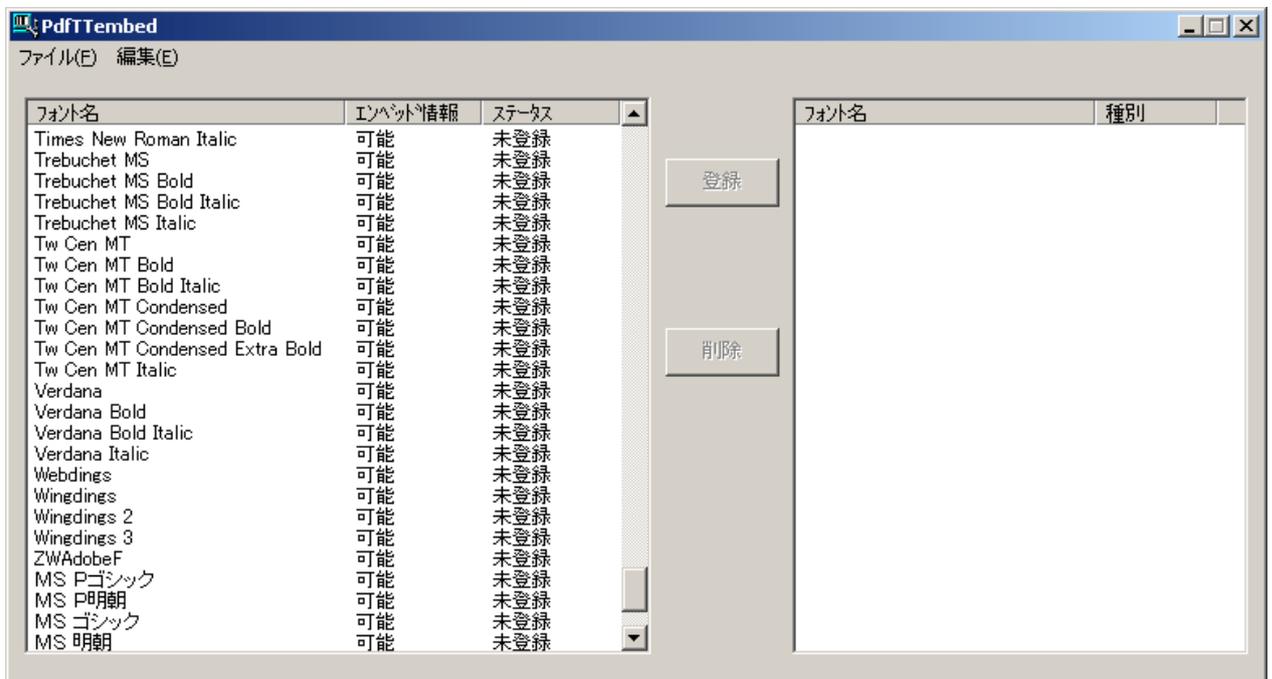
以下の手順にしたがって、List Creatorにフォントの登録を行ってください。

帳票出力サーバがWindowsの場合

【GUIでPDFフォント登録を行う場合】

=操作手順=

1. 帳票設計時に使用したフォントを、List Creatorが動作しているシステムにインストールします（C:\WINDOWS\FONTSなど）。
2. Administrators権限をもつユーザでログオンし、PDF変換機能が使用されていないことを確認後、[スタート]－[プログラム]－[List Creator]－[環境設定]－[PDF・TIFFファイル フォント登録]を選択してください。以下のようなウィンドウが表示されます。



左側のウィンドウに、現在システムにインストールされているPDFで使用することが可能なフォントの一覧が表示されます。それぞれのフォント名に対してエンベッドの可否に関する情報と、List Creatorへの登録状況に関するステータスが表示されます。

エンベッド情報

フォント内に設定されているライセンス権に関する情報をもとに、エンベッドの可否を表示します。

可能:

エンベッドすることが可能なフォントです。List CreatorのPDFフォント登録後、List Creator デザインの帳票定義情報の設定による指定、帳票出力時の指定、PDF文書情報ファイルで指定されたフォントのエンベッド指定にしています。

PDFフォント登録を行ったフォントのエンベッドされる文字範囲の詳細は、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。
⇒ [“2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明”](#)

不可:

フォントの埋め込みが制限されているため、エンベッドすることができないフォントです。

ステータス

登録済:

List CreatorのPDFフォント登録処理が完了しているフォントです。

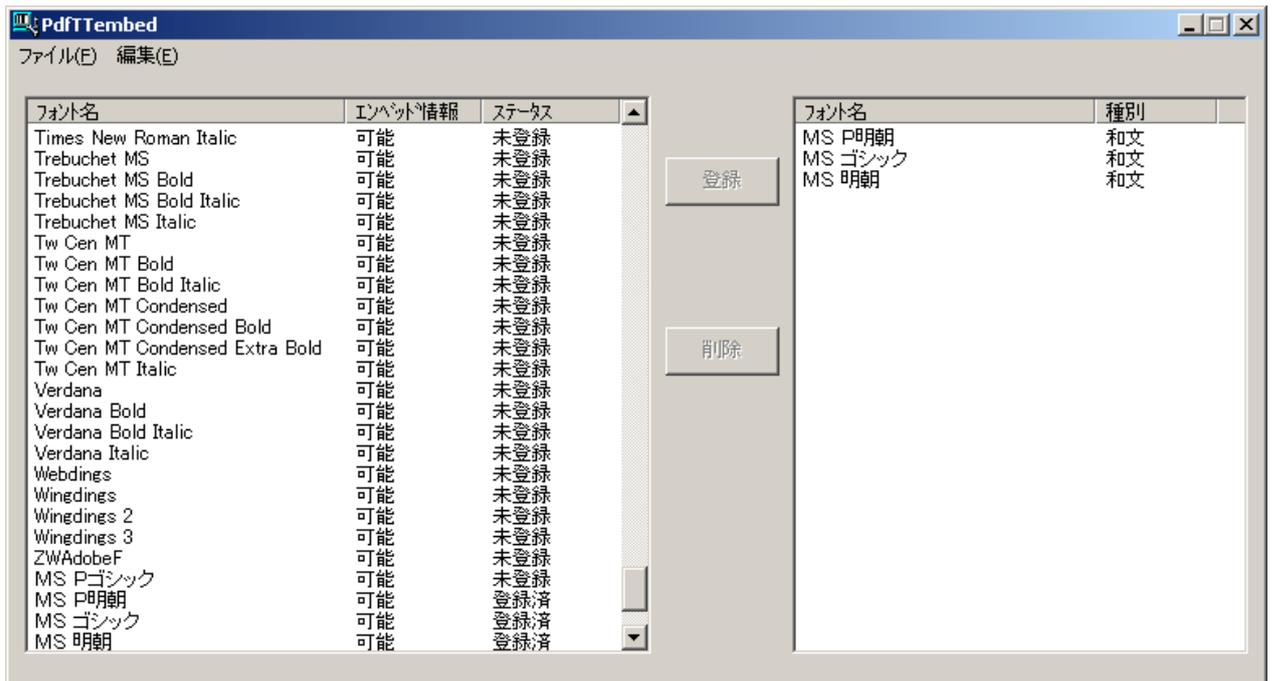
未登録:

List CreatorのPDFフォント登録処理が行われていないか、正しく登録が行われていません。

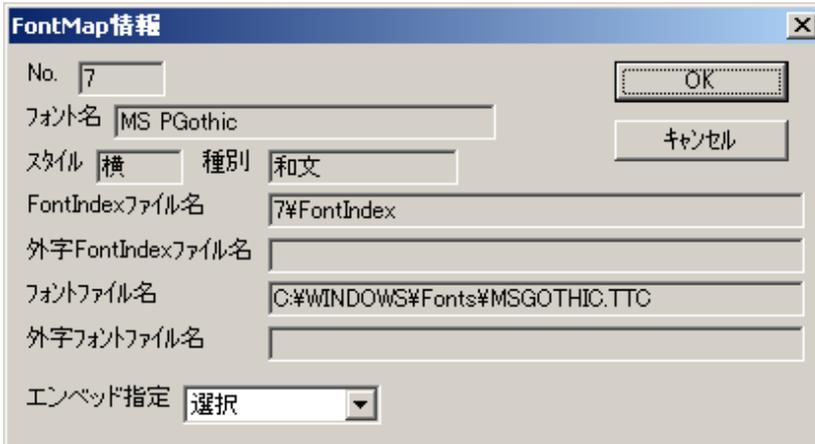
要再登録:

List CreatorのPDFフォント登録処理後に、フォントファイルの置き換えや外字データの作成が行われた可能性があります。フォントを選択し、再度登録処理を行ってください。

3. 帳票設計時に使用したフォントを選択し、「登録」ボタンをクリックしてください。登録が完了すると、右側のウィンドウに登録済みのフォント名とフォントの種別(欧文・和文など)の一覧が表示されます。



4. フォントに関する詳しい情報を知りたい場合は、右側のフォント一覧中で該当フォントをダブルクリックします。フォントの詳細情報が表示されます。



エンベッド指定

選択:

List Creator デザイナの設定や帳票出力時の指定 (PDF文書情報ファイルの指定、またはPDFファイルの文字埋め込み指定) にしたがいします。

詳しくは、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。

⇒ [“2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明”](#)

必須:

和文フォントの場合、使用された文字のエンベッドを行います。ただし、List Creator デザイナの設定や、帳票出力時の指定に NONE/FONT/JEF/FONT+JEFが指定されている場合は、外字はエンベッドされません。それ以外の場合は、使用されたすべての文字がエンベッドされます。

欧文フォントの場合は、List Creator デザイナの設定や、帳票出力時の指定にかかわらず、すべての文字がエンベッドされます。

詳しくは、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。

⇒ [“2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明”](#)

不可:

和文フォントの場合、指定した文字のエンベッドを行いません。ただし、List Creator デザイナの設定や、帳票出力時の指定に ALL/USER/FONT+USER/JEF+USERが指定されている場合は、外字のみエンベッドされます。それ以外の場合は、文字がエンベッドされません。

欧文フォントの場合は、List Creator デザイナの設定や、帳票出力時の指定にかかわらず、文字がエンベッドされません。

詳しくは、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。

⇒ [“2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明”](#)

なお、List Creator 帳票出力インタフェースを使用する場合、帳票出力時の指定 (文書情報ファイルの指定、またはPDFファイルの文字埋め込み指定)、およびList Creator デザイナの設定は、以下の優先順序で有効となります (1の優先順序が高く、3になるにしたがって優先順序が低くなります)。

1. 帳票出力時のPDF文書情報ファイルの指定 (prprintコマンドの場合は、-in5オプション)
2. 帳票出力時のPDFファイルの文字埋め込み指定 (prprintコマンドの場合は、-gpdfembedオプション)
3. List Creator デザイナでの設定

【List Creator デザイナ単独で使用する場合】、または【コマンドラインでPDFフォント登録を行う場合】

=操作手順=

1. 帳票設計時に使用したフォントファイル (**.tf、**.ttc、**.tte) を、List Creator が動作している環境へファイル転送します。

2. システム管理者権限でログオンし、PDF変換機能が使用されていないことを確認後、以下のコマンドで登録・登録削除・参照処理を行ってください。

<フォントを登録するとき>

以下のコマンドを実行します。

```
<List Creator インストールディレクトリ>\bin\entt -f ttfpath [-x N] [-e ttepath] [-v] [-o S]
```

-f ttfpath:

「*.ttf」または「*.ttc」ファイルへのフルパスを指定します。

-x N:

「*.ttc」ファイルを指定したとき、ttcファイル内の何番目の書体を登録するかを指定します(先頭:N=1)。

「*.ttc」を登録するときには必ず、指定してください(必須)。

なお、このオプションを指定しなかった場合は、エラーメッセージとともに「*.ttc」ファイル内のすべての書体名と番号が表示されます。再度、いずれかの番号を指定して登録してください。

-e ttepath:

対応する「*.tte」ファイルへのフルパスを指定します。

-v:

和文フォントを縦書き書体として登録するときに指定します。

-o S:

フォントごとに、エンベットの設定を行うときに指定します(S=0 | 1 | 2)。フォントごとに、エンベットの有無を変更できます。

0(不可):

和文フォントの場合、指定した文字のエンベッドは行いません。ただし、List Creator デザイナの設定や、帳票出力時の指定にALL/USER/FONT+USER/JEF+USERを指定した場合、外字のみエンベッドされます。それ以外の場合は、文字がエンベッドされません。

欧文フォントの場合、List Creator デザイナの設定や、帳票出力時の指定にかかわらず、文字がエンベッドされません。

詳しくは、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。

⇒ [“2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明”](#)

1(選択):

List Creator デザイナの設定や、帳票出力時の指定(PDF文書情報ファイルの指定、またはPDFファイルの文字埋め込み指定)にしたがいます(デフォルト)。

詳しくは、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。

⇒ [“2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明”](#)

2(必須):

和文フォントの場合、使用された文字のエンベッドを行います。ただし、List Creator デザイナの設定や、帳票出力時の指定にNONE/FONT/JEF/FONT+JEFを指定した場合、外字はエンベッドされません。それ以外の場合は、使用したすべての文字がエンベッドされます。

欧文フォントの場合、List Creator デザイナの設定や、帳票出力時のオプションの指定にかかわらず、使用された文字がエンベッドされます。

詳しくは、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。

⇒ [“2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明”](#)

なお、List Creator帳票出力インタフェースを使用する場合、帳票出力時の指定(PDF文書情報ファイルの指定、またはPDFファイルの文字埋め込み指定)、およびList Creator デザイナの設定は、以下の優先順序で有効となります(1の優先順序が一番高く、3になるにしたがって優先順序が低くなります)。

1. 帳票出力時のPDF文書情報ファイルの指定(prprintコマンドの場合は、-in5オプション)
2. 帳票出力時のPDFファイルの文字埋め込み指定(prprintコマンドの場合、-gpdfembedオプション)
3. List Creator デザイナでの設定

以下の場合の、コマンド記述例を示します。

- List Creatorインストール先ディレクトリが「C:\¥ListCREATOR」

- 帳票設計時に使用したフォントファイルへのフルパスが「C:\WINDOWS\Fonts\msgothic.ttc」
- msgothic.ttcの1番目の書体を登録する。
- msgothic.ttcに対応するtteファイルへのフルパスが「C:\WINDOWS\Fonts\EUDC.tte」
- 和文フォントを縦書き書体として登録する。
- フォントのエンベッドの設定を不可として登録する。

```
# C:\ListCREATOR\bin\entt -f C:\WINDOWS\Fonts\msgothic.ttc -x 1 -e C:\WINDOWS\Fonts\EUDC.tte -v -o 0
```

<フォントの登録状態を表示するとき>

以下のコマンドを実行します。

```
<List Creatorインストールディレクトリ>\bin\lstt
```

画面上には、フォントごとに以下の情報が出力されます。

フォント番号:言語:PDFフォント名:エンベッド方針(*1):フォント名:外字フォント名

*1:PDFフォント登録時に、-oオプションに指定した値が表示されます。

以下に、表示例を示します。

```
# C:\ListCREATOR\bin\lstt
4:jp:FUJ-MinchoTai:1:\tmp\3baujm3.ttf:
5:jp:FUJ-GothicTai:1:\tmp\3baujg4.ttf:
```

<フォントの登録を削除するとき>

以下のコマンドを実行します。

```
<List Creatorインストールディレクトリ>\bin\rmtt fontIndex
```

fontIndex:

登録を削除するフォント番号を指定します。フォント番号はlsttコマンドによって、行の先頭に表示される番号です。

ポイント

- Windowsシステム上で該当のフォントに外字が関連づけられている場合、自動的に外字フォントファイルも登録されます。登録された外字フォントはFontMap情報画面の「外字フォントファイル名」で参照可能です。
- 「MS 明朝」「@MS 明朝」「MS ゴシック」「@MS ゴシック」をPDFフォント登録して帳票出力する場合、置換フォントの設定が必要となります。

帳票設計時に設定する場合:

List Creator デザイナの「帳票業務情報のプロパティ」の[印刷]タブの「置換フォント設定」にて、「定義フォント」名と「置換フォント」名に(全角/半角文字の違いに注意し)同じフォント名を設定してください。置換フォントの設定は、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。

帳票出力時に設定する場合:

置換フォント情報ファイルを帳票出力インタフェースで指定します。

置換フォント情報ファイルについては、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”の置換フォント情報ファイルについての記載を参照してください。

- List Creator デザイナで指定したフォント名と、PDFフォント登録で登録したフォント名に相違がある場合、置換フォントの設定が必要となります。

帳票設計時に設定する場合:

List Creator デザイナの「帳票業務情報のプロパティ」の[印刷]タブの「置換フォント設定」にて、以下のように設定してください。置換フォントの設定は、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。

「定義フォント」名：List Creator デザイナで指定したフォント名
「置換フォント」名：PDFフォント登録で登録したフォント名

例)

「定義フォント」名：游明朝 または 游ゴシック
「置換フォント」名：游明朝 Regular または 游ゴシック Regular

帳票出力時に設定する場合：

置換フォント情報ファイルを帳票出力インタフェースで指定します。

置換フォント情報ファイルについては、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”の置換フォント情報ファイルについての記載を参照してください。

帳票出力サーバがUNIX系OSの場合

=操作手順=

1. 帳票設計時に使用したフォントファイル(**.ttf、**.ttc、**.tte)を、List Creatorが動作している環境へファイル転送します。
2. システム管理者権限でログオンし、PDF変換機能が使用されていないことを確認後、以下のコマンドで登録・登録削除・参照処理を行ってください。

<フォントを登録するとき>

以下のコマンドを実行します。

```
/opt/FJSVedoc/bin/entt -f ttfpath [-x N] [-e ttepath] [-v] [-o S]
```

-f ttfpath:

「**.ttf」または「**.ttc」ファイルへのフルパスを指定します。

-x N:

「**.ttc」ファイルを指定したとき、ttcファイル内の何番目の書体を登録するかを指定します(先頭:N=1)。

「**.ttc」を登録するときには必ず、指定してください(必須)。

なお、このオプションを指定しなかった場合は、エラーメッセージとともに「**.ttc」ファイル内のすべての書体名と番号が表示されます。再度、いずれかの番号を指定して登録してください。

-e ttepath:

対応する「**.tte」ファイルへのフルパスを指定します。

-v:

和文フォントを縦書き書体として登録するときに指定します。

-o S:

フォントごとに、エンベッドの設定を行うときに指定します(S=0|1|2)。フォントごとに、エンベッドの有無を変更できます。

0(不可):

和文フォントの場合、指定した文字のエンベッドは行いません。ただし、List Creator デザイナの設定や、帳票出力時の指定にALL/USER/FONT+USER/JEF+USERを指定した場合、外字のみエンベッドされます。それ以外の場合は、文字がエンベッドされません。

欧文フォントの場合、List Creator デザイナの設定や、帳票出力時の指定にかかわらず、文字がエンベッドされません。

詳しくは、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。

⇒ “2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明”

1(選択):

List Creator デザイナの設定や、帳票出力時の指定(PDF文書情報ファイルの指定、またはPDFファイルの文字埋め込み指定)にしたがいます(デフォルト)。

詳しくは、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。

⇒ “2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明”

2(必須):

和文フォントの場合、使用された文字のエンベッドを行います。ただし、List Creator デザイナの設定や、帳票出力時の指定に NONE/FONT/JEF/FONT+JEFを指定した場合、外字はエンベッドされません。それ以外の場合は、使用したすべての文字がエンベッドされます。

欧文フォントの場合、List Creator デザイナの設定や、帳票出力時のオプションの指定にかかわらず、使用された文字がエンベッドされます。

詳しくは、以下の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。

⇒ “2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明”

なお、List Creator 帳票出力インタフェースを使用する場合、帳票出力時の指定(PDF文書情報ファイルの指定、またはPDFファイルの文字埋め込み指定)、およびList Creator デザイナの設定は、以下の優先順序で有効となります(1の優先順序が一番高く、3になるにしたがって優先順序が低くなります)。

1. 帳票出力時のPDF文書情報ファイルの指定 (prprintコマンドの場合は、-in5オプション)
2. 帳票出力時のPDFファイルの文字埋め込み指定 (prprintコマンドの場合、-gpdfembedオプション)
3. List Creator デザイナでの設定

<フォントの登録状態を表示するとき>

以下のコマンドを実行します。

```
/opt/FJSVedoc/bin/lstt
```

画面上には、フォントごとに以下の情報が出力されます。

フォント番号:言語:PDFフォント名:エンベッド方針(*1):フォント名:外字フォント名

*1:PDFフォント登録時に、-oオプションに指定した値が表示されます。

以下に、表示例を示します。

```
# /opt/FJSVedoc/bin/lstt
4: jp:FUJ-MinchoTai:1:/tmp/f3baujm3.ttf:
5: jp:FUJ-GothicTai:1:/tmp/f3baujg4.ttf:
```

<フォントの登録を削除するとき>

以下のコマンドを実行します。

```
/opt/FJSVedoc/bin/rmtt fontIndex
```

fontIndex:

登録を削除するフォント番号を指定します。フォント番号はlsttコマンドによって、行の先頭に表示される番号です。

注意

- 帳票に縦書きフォントを使用したときには、フォント名に「@****」となっているフォントを登録してください。
- フォントを多く登録するとPDF変換性能が劣化する場合があります。帳票中に使用したフォントのみ登録してください。
- Windowsシステムの外字エディタなどによって作成された外字を使用する場合は、List Creatorの動作システムにも外字フォントファイル(**.tte)をインストールしてください。ただし、FUJ明朝体、およびFUJゴシック体を使用してCharset Manager連携による外字連携機能を使用する場合には、外字フォントファイルのインストールの必要はありません(“2.1.9 外字を使用したPDFの出力方法”の外字の登録処理を行ってください)。
- PDFファイルで使用するフォントに文字が収録されていない場合、文字が出力されない場合があります。詳しくは、オンラインマニュアル“トラブルシューティング集”を参照してください。
- 帳票出力中、または帳票定義一覧か帳票様式定義のプレビューを表示中にPDFフォント登録の追加を行った場合、追加したフォントがPDFファイルに反映されません。あらかじめ使用するフォントをPDFフォント登録で追加してください。
- 帳票出力中、または帳票定義一覧か帳票様式定義のプレビューを表示中にPDFフォント登録の削除を行わないでください。

- 登録したフォントファイルの移動や削除(アンインストール)は、List CreatorのPDFフォント登録機能における削除処理を実行後に行ってください。
- フォント自体にエンベットの許可がされていないフォントに関しては、PDFファイル上にフォントをエンベットすることができません。
- SymbolやWingdingsなどの欧文記号フォントを使用した場合には、エンベットを行わないと文字ピッチなどがずれる場合があります。
- 太字や斜体などの文字修飾を行った場合、固定リテラル、テキスト項目の文字デザインが、プレビュー画面と異なる場合があります。
- フォント登録を行った場合、List Creator デザイナの「帳票業務情報のプロパティ」の「文書情報設定画面」で、フォントのエンベットの指定が「文字の埋め込み:埋め込まない」以外の場合は、使用された文字がエンベットされます。
- PDFファイルへのフォントのご利用条件については、お使いのフォントの使用許諾にしてください。
- 置換フォントの設定を行わずに、List Creatorの帳票出力コマンド(prprintコマンドなど)や各種インタフェース(Javaインタフェースなど)から帳票出力を行う場合、MS 明朝やMS ゴシックのフォント登録の有無にかかわらず、以下のようにマッピングして出力されます。

MS 明朝:

MS 明朝(エンベット時: FUJ明朝体)

MS ゴシック:

MS ゴシック(エンベット時: FUJゴシック体)

@MS 明朝:

@MS 明朝(エンベット時: @FUJ明朝体)

@MS ゴシック:

@MS ゴシック(エンベット時: @FUJゴシック)

登録されていないフォントを使用した場合、以下のように出力されます。

日本語文字:

MS 明朝(エンベット時: FUJ明朝体)

日本語文字(縦書き):

MS 明朝(エンベット時: @FUJ明朝体)

ただし、オーバーレイ文字は、@MS 明朝(エンベット時: @FUJ明朝体)

半角英数字:

帳票出力サーバがWindowsの場合

MS 明朝(エンベット時: FUJ明朝体)

帳票出力サーバがUNIX系OSの場合

MS ゴシック(エンベット時: FUJゴシック体)

- PDFフォント登録を行ったサーバ上で、List Creatorを再インストールまたはアップグレードする場合は、旧製品をアンインストールする前にPDFフォント登録機能を使用してPDFフォントを削除し、List Creatorを再インストールまたはアップグレードした後に、再度PDFフォント登録を行ってください。

PDFフォント登録情報の移行

PDFフォント登録情報を他の環境に移行することが可能です。

=操作手順=

1. 移行元でPDFフォント登録情報のエクスポートを行ってください。
2. 移行先でPDFフォント登録情報のインポートを行ってください。

【コマンドラインでPDFフォント登録情報の移行を行う場合】

PDFフォント登録情報のエクスポート

=操作手順=

1. 移行元の帳票出力サーバで、以下のコマンドを実行します。

- Windowsの場合

```
<List Creatorインストールディレクトリ>%bin%lstt -e exportpath
```

- UNIX系OSの場合

```
/opt/FJSVedoc/bin/lstt -e exportpath
```

-e exportpath:

フォントリストファイルの出力ファイル名を指定します。ファイル拡張子は任意で指定してください。指定ファイルがすでに存在する場合は上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

ポイント

- -eオプションを指定すると、登録状態の表示は行われません。
- 出力されたファイルは、編集しないでください。

PDFフォント登録情報のインポート

=操作手順=

1. PDFフォント登録情報のエクスポートで出力したフォントリストファイルを、移行先の帳票出力サーバの任意のフォルダに配置します。
2. Windowsの場合、帳票設計時に使用したフォントファイル(**.ttf、**.ttc)をシステムにインストールします。(C:\WINDOWS\FONTSなど)
UNIX系OSの場合、帳票設計時に使用したフォントファイル(**.ttf、**.ttc)を任意のフォルダに配置します。
3. 移行先の帳票出力サーバで以下のコマンドを実行し、フォントリストファイルにあるフォントの一括登録を行います。

- Windowsの場合

```
<List Creatorインストールディレクトリ>%bin%entt -i importpath
```

- UNIX系OSの場合

```
/opt/FJSVedoc/bin/entt -i importpath -d directory
```

-i importpath:

lsttコマンドによってエクスポートしたフォントリストファイルを指定します。

-d directory:

2でフォントファイルを配置したフォルダのフルパスを指定します。(UNIX系OSの場合のみ)
ディレクトリ指定時は、末尾に「スラッシュ(/)」を記述しないでください。

ポイント

- -i指定時は「-d」以外のオプションと同時に指定することはできません。
- 出力されたファイルは、編集しないでください。
- -iに指定するフォントリストファイルはGUI操作により出力したのも指定可能です。

【GUIでPDFフォント登録情報の移行を行う場合】(Windowsのみ)

PDFフォント登録情報のエクスポート

=操作手順=

1. Administrators権限をもつユーザでログオンし、PDF変換機能が使用されていないことを確認後、[スタート]—[プログラム]—[List Creator]—[環境設定]—[PDF・TIFFファイル フォント登録]を選択してください。

2. 「ファイル」メニューから「PDFフォント登録情報のエクスポート」を選択します。
3. 続いて表示される「ファイル保存」ダイアログボックスで、フォントリストファイルの出力パス、およびファイル名を指定し「保存」をクリックします。

ポイント

出力されたファイルは、編集しないでください。

PDFフォント登録情報のインポート

=操作手順=

1. PDFフォント登録情報のエクスポートで出力したフォントリストファイルを移行先の帳票出力サーバの任意のフォルダに配置します。
2. 帳票設計時に使用したフォントファイル (**.ttf、**.ttc) をシステムにインストールします。(C:\WINDOWS\FONTSなど)
3. 移行先の帳票出力サーバでPDF・TIFFファイル フォント登録を起動し、「ファイル」メニューから「PDFフォント登録情報のインポート」を選択します。
4. 続いて表示される「ファイルを開く」ダイアログボックスで、PDFフォント登録情報のエクスポートで出力したフォントリストファイルを選択し「開く」をクリックします。

ポイント

- 出力されたファイルは、編集しないでください。
- 「ファイルを開く」ダイアログボックスで選択するフォントリストファイルは、lstdコマンドにより出力したのもも指定可能です。
- Windowsシステム上、外字と紐付けされているフォントがインポートによって登録された場合、そのフォントの左リストのステータスは「要再登録」になります。

注意

- PDFフォント登録情報の移行では、外字の対応付けは移行しません。
- 移行の際、移行対象のフォントが移行先にすでにPDFフォント登録されている場合、そのフォントの登録は行いません。
- インポート時、フォントの登録でエラーが発生した場合、エラーとなったフォントの登録はせずに、フォントリストファイルの次のフォントの登録に移ります。

2.1.3 PDF手元非表示印刷を行う

PDF変換機能を使って出力したPDFファイルを、Webクライアントで自動的に印刷することが可能です。次の2種類の印刷を行うことができます。

- サイレント印刷

Webクライアントで通常使うプリンタとして定義されたプリンタに非表示で印刷します。

- プリンタ選択ダイアログ表示印刷

印刷実行前にプリンタ選択ダイアログボックスを表示し、ユーザが出力先プリンタを選択してから印刷を実行します。

以下の手順でPDF手元非表示印刷の設定を行います。

1. Webサーバの環境設定

- MIMEタイプの関連付けを行います。

設定の詳細については、以下を参照してください。

⇒ [“2.5.2 Webサーバの環境設定”](#)

2. Webクライアントの環境設定

- PDF手元非表示印刷の環境設定を行います。
設定の詳細については、以下を参照してください。
⇒ [“2.5.3 Webクライアントの環境設定”](#)

2.1.4 PDFリモート印刷を行う

PDF変換機能を使って出力したPDFファイルを、遠隔拠点のクライアントで自動的に印刷することが可能です。

PDFリモート印刷を行うには、あらかじめ遠隔拠点のクライアントにてPDFファイルを格納するフォルダを設定する必要があります。このフォルダは複数設定することができます。各フォルダごとにPDFファイルを印刷するプリンタを指定することができるので、PDFファイルを格納するフォルダを使い分けることでPDFファイルを印刷するプリンタを切り替えることができます。

以下の手順でPDFリモート印刷の設定を行います。

1. 遠隔拠点のクライアントにPDFリモート印刷の環境設定を行います。
設定の詳細については、以下を参照してください。
⇒ [“2.6 PDFリモート印刷の環境設定”](#)
2. PDFリモート印刷の環境設定を行ったフォルダを共有する設定を行います。
共有する方法の例として次の2種類があります。
 - Windowsによるフォルダ共有
 - FTPによるフォルダ共有設定方法については、Windowsのマニュアル、または、FTPサーバのマニュアルなどを参照してください。

2.1.5 セキュアなメール配信を行う

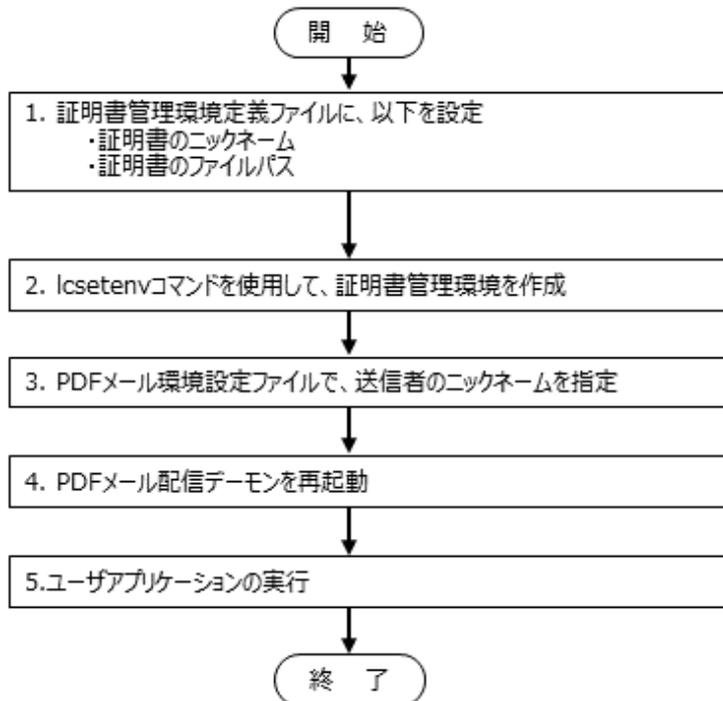
PDF変換機能を使用して出力したPDFファイルを、S/MIME、または認証が必要なSMTPサーバを使用することで、セキュアにメール配信できます。

セキュアにPDFファイルをメール配信する場合のそれぞれの手順を、以下に示します。

2.1.5.1 S/MIMEを使用した署名付き暗号化メール配信を行う(【Solaris版】)

以下に、S/MIMEを使用した署名付き暗号化メール配信を行う場合の基本的な手順を示します。

図2.2 S/MIMEを使用した署名付き暗号化メール配信を行う基本的な手順



1. 証明書管理環境定義ファイルに、証明書のニックネーム、および証明書ファイルパスを設定します。テキストエディタで編集してください。

証明書管理環境定義ファイルは、以下に格納されています。

/etc/opt/FJSVedoc/lcrtmgr.def

以下の項目を設定します。

a. 送信者の証明書設定

- 送信者の証明書がPKCS#12の場合

[ENV]セクション—OWN-CERTTYPE=1を指定します。

[OWN-CERTFILE]セクション—FILETYPE=1を指定します。

- 送信者の証明書のニックネーム

[OWN-CERTFILE]セクション—NICKNAME=(送信者の証明書ニックネーム)で指定します。

なお、暗号化メールの場合、この指定は不要です。

- 証明書ファイルパス

[OWN-CERTFILE]セクション—FILENAME=(送信者の証明書ファイルパス)で指定します。

なお、暗号化メールの場合、この指定は不要です。

b. CA局の証明書設定

- CA局の証明書のニックネーム

[CA-CERTFILE-0001]セクション—NICKNAME=(CA局の証明書ニックネーム)で指定します。

- 証明書ファイルパス

[CA-CERTFILE-0001]セクション—FILENAME=(CA局の証明書ファイルパス)で指定します。

c. 受信者(宛先)の証明書設定

- 受信者(宛先)の証明書のニックネーム

[CERTFILE-0001]セクション—NICKNAME=(受信者の証明書ニックネーム)で指定します。

なお、署名付きメールの場合、この指定は不要です。

- 証明書ファイルパス

[CERTFILE-0001]セクション—FILENAME=(受信者の証明書ファイルパス)で指定します。

なお、署名付きメールの場合、この指定は不要です。

ポイント

宛先を複数設定する場合は、セクション名[CERTFILE-XXXX]のXXXX4桁が一意となるよう設定します。詳細については、以下を参照してください。

⇒ “2.4.1 証明書管理環境定義ファイルのキーワード一覧”

証明書管理環境定義ファイルの設定例を以下に示します。

例)

```
[ENV]
OWN-CERTTYPE=1
[OWN-CERTFILE]
NICKNAME=lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=/home/user/own.pfx
FILETYPE=1
[CA-CERTFILE-0001]
NICKNAME=ca@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=/home/user/ca.cer
[CERTFILE-0001]
NICKNAME=luser@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=/home/user/other1.cer
```

その他、詳細な設定については以下を参照してください。

⇒ “2.4.1 証明書管理環境定義ファイルのキーワード一覧”

2. `lcsetenv`コマンドを使用して証明書管理環境を作成します。

```
/opt/FJSVedoc/bin/lcsetenv -s -f /etc/opt/FJSVedoc/lcrtmgr.def
```

注意

-fオプションでは、証明書管理環境定義ファイルのフルパスを指定してください。

その他の証明書管理コマンドについては、以下を参照してください。

⇒ “2.4.2 証明書管理コマンドの一覧”

3. PDFメール環境設定ファイルで送信者のニックネームを指定します。テキストエディタで編集してください。

PDFメール環境設定ファイルは、以下に格納されています。

```
/etc/opt/FJSVedoc/swmailenv.dat
```

以下の項目を設定します。

- 送信者のニックネーム

[MLF_Default]セクション—MLF_FromNickname(設定項目名)で指定します。

例)

```
.....
[MLF_Default]
.....
```

```
MLF_FromNickname=lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp
.....
```

4. PDFメール配信デーモンを再起動します。

設定したPDFメール環境設定ファイルの内容をPDFメール配信デーモンに反映させるため、PDFメール配信デーモンの再起動を行います。

以下のスクリプトを実行します。

```
/opt/FJSVedoc/etc/SKFJSVedocmail restart
```

ポイント

List Creatorのインストール後に、PDFメール配信デーモンが自動起動します。

- PDFメール配信デーモン

```
/opt/FJSVedoc/bin/swmaild
```

- 起動/停止スクリプト

```
起動スクリプト : /etc/rc2.d/S88FJSVedocmail
```

```
停止スクリプト : /etc/rc0.d/K55FJSVedocmail
```

```
                  /etc/rc1.d/K55FJSVedocmail
```

5. ユーザアプリケーションを実行します。

- List Creator 帳票出力インタフェースを使用する場合

帳票出力時に帳票出力(`prprint`コマンドの場合は`-gpdfmailtoaddr`オプション)で送信先のアドレス指定項目にニックネームを追加すると、PDFメール配信が行えます。

例)

```
prprint
-assetsdir "/home/user/data/sample"..... 1)
-atdirect file..... 2)
-f "/home/user/data/sample/LC.dat"..... 3)
"LC"..... 4)
-keeppdf "/home/user/tmp/LC.pdf"..... 5)
-gpdfmailtoaddr "lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp <lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp>"... 6)
-gpdfmailconf file "/home/user/tmp/LCmail.conf"..... 7)
```

- 1): 帳票格納ディレクトリを指定
- 2): 出力方法を指定
- 3): 入力データを指定
- 4): 帳票名を指定
- 5): PDFファイルの格納先を指定
- 6): メールの送信先アドレスと証明書のニックネームを指定
- 7): PDFメール配信情報ファイルを指定

アプリケーションの作成方法の詳細については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

- COBOLアプリケーション連携機能を使用する場合

署名付きの暗号化したメールでPDFファイルを配信するには、PDF変換をする指定に加え、PDF文書情報ファイルの([MLF_Mail]セクション)にMLF_ToAddress(送信先メールアドレス)で、送信先メールアドレスと証明書のニックネームを指定することで行えます。

例) PDF文書情報ファイルの記述例

```
[MF-PDF]
.....
[MLF-Mail]
```

```
.....  
MLF_ToAddress=louser@xxx.yyy.zzz.co.jp<louser@xxx.yyy.zzz.co.jp>  
.....
```

PDF変換の指定方法の詳細については、オンラインマニュアル“COBOLアプリケーション連携機能編”を参照してください。

注意

上書きインストールした場合は、証明書環境を再構築してください。

2.1.5.2 SMTPサーバを使用したPDFメール配信を行う

認証が必要なSMTPサーバを使用したPDFメール配信により、セキュアな配信をすることができます。

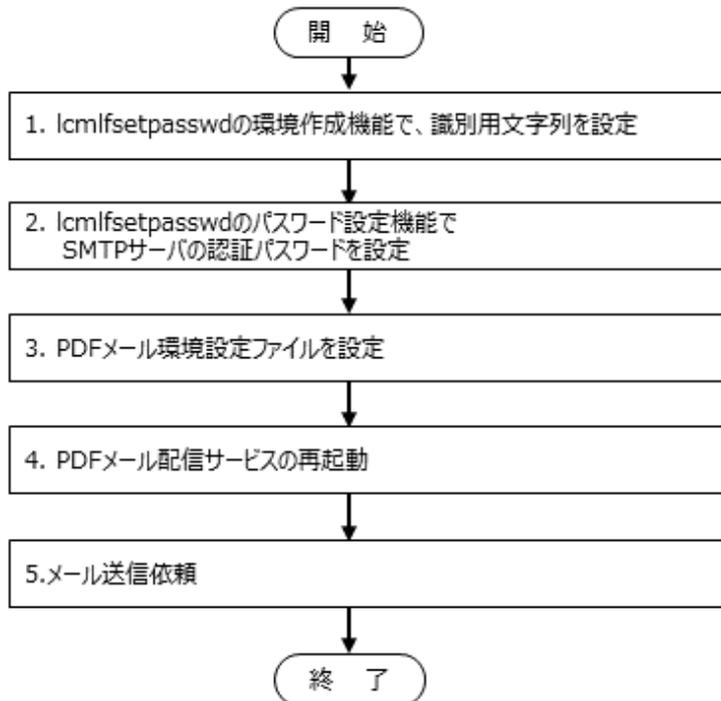
認証に使用するパスワードは、SMTP認証パスワード設定コマンド(lcmfsetpasswd)を使用することでパスワードを暗号化してファイルに保管します。

ポイント

- SMTP認証パスワード暗号化で使用する暗号化アルゴリズムは、AES (CBC mode)です。
- 暗号鍵は、帳票出力サーバごとに異なる暗号鍵 (SHA-256bit) を生成します。

以下に、認証が必要なSMTPサーバを使用したPDFメール配信を行う場合の基本的な手順を記述します。

図2.3 認証が必要なSMTPサーバを使用したPDFメール配信を行う場合の基本的な手順



[設定する場合]

1. lcmfsetpasswdの環境作成機能で、識別用文字列を設定します。

SMTPサーバの認証パスワードを暗号化する際に使用する識別用文字列を設定します。この時、識別用文字列ファイルが作成されます。

例) 識別用文字列(identifier_123)を設定する場合

```
lcmfsetpasswd -i identifier_123
```

lcmfsetpasswdの環境作成機能については以下を参照してください。
⇒ “2.7.2 環境作成機能”

2. lcmfsetpasswdのパスワード設定機能で、SMTPサーバセクション設定名、SMTP認証パスワードを設定します。

lcmfsetpasswdは、環境作成機能で作成した識別用文字列を使用して、暗号鍵を生成します。この暗号鍵により、SMTPサーバセクション設定名とSMTP認証パスワードを暗号化して、SMTP認証パスワードファイルが作成されます。パスワードの設定は、対話形式となります。

例) SMTPサーバセクション設定名 (server1) のパスワード設定する場合

```
lcmfsetpasswd -s server1
```

lcmfsetpasswdのパスワード設定機能については以下を参照してください。
⇒ “2.7.3 パスワード設定機能”

3. PDFメール環境設定ファイルを設定します。

例) SMTPサーバセクション設定名 (server1) にユーザー名 (userA) で認証接続する場合

```
[MLF_SMTPServer-server1]
MLF_SMTPAuth=ON
MLF_SMTPAuthUser=userA
```

4. 設定を有効にするために、PDFメール配信サービスを再起動します。

PDFメール配信サービスは、起動時に識別用文字列ファイルおよびSMTP認証パスワードファイルを読み込み、暗号化したまま情報を保持します。

5. メール送信依頼を実行すると、SMTP認証を行うタイミングで、保持していた識別用文字列から暗号鍵を生成し、SMTP認証パスワードを暗号鍵で復号化して、SMTP認証のメール送信を実施します。

パスワードは、PDFメール環境設定ファイルのSMTPサーバセクション設定名と一致するものを使用します。

[削除する場合]

作成した識別用文字列ファイルとSMTP認証パスワードファイルは、lcmfsetpasswdの環境削除機能で削除できます。
内容の変更や未使用になったファイルを削除する場合などに使用します。

例)

```
lcmfsetpasswd -d
```

lcmfsetpasswdの環境削除機能については以下を参照してください。
⇒ “2.7.4 環境削除機能”

2.1.6 MeFtと連携したPDFファイルの出力

MeFtで作成した帳票データをPDF変換する場合、“1.1.12 MeFtとの連携”の図1.7に示す構成でPDFファイルを生成できます。

外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)をPDFファイルに埋め込む場合については、以下を参照してください。
⇒ “2.1.9 外字を使用したPDFの出力方法”

必要な製品

- ・【Windows(x64)版】を利用してPDF出力する場合
 - NetCOBOL Enterprise Edition (64bit) V11.0.1 以降のMeFtコンポーネント
 - NetCOBOL Standard Edition (64bit) V11.0.1 以降のMeFtコンポーネント
 - MeFt V10.0.0

- **【Solaris版】**を利用してPDF出力する場合
 - MeFt 6.0以降
- **【Linux for Intel64版】**を利用してPDF出力する場合
 - Linux for Intel64版NetCOBOL Enterprise Edition V10.1.0以降のMeFtコンポーネント

MeFtの設定

以下の指定を行うことによって、PDFファイルを生成することができます。

詳細については、プラットフォーム別にMeFtのオンラインマニュアル“MeFt説明書”を参照してください。

帳票のPDF変換

MeFtのプリンタ情報ファイルのストリーム種別に「PDF」を定義すると、PDF変換機能が呼び出され、PDF変換が行われます。

PDFファイルの属性設定

MeFtのプリンタ情報ファイルに指定するPDF変換機能のPDF文書情報ファイルに、以下のパラメタを指定することができます。

— 文書情報の設定

PDF文書に書き込む作成者、タイトル名、サブタイトル名、およびコメントを設定することができます。

— フォントのエンベッド(貼り付け)

外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)のエンベッド(貼り付け)を“する”、“しない”という設定を行います。

— 暗号パスワード

作成されたPDFファイルを開く際に必要となるパスワードとセキュリティレベルを設定するパスワードを記述します。

— セキュリティレベル

印刷の可否、文書変更の可否、テキストとグラフィックスの選択の可否を設定できます。

暗号化には、従来の40bit暗号化と強度の高い128bit暗号化を選択することができます。128bit暗号化では、MeFtのSTREAMENV(管理情報ファイル名指定)にPDF文書情報ファイルとして以下のキーワードを設定することによって細かなセキュリティオプションを設定することができます。

- PDF-KEY128
- PDF-PRINT
- PDF-MODIFY
- PDF-SELECT

PDF文書情報ファイルの設定内容については、以下を参照してください。

⇒ [“2.2.2 PDF文書情報ファイルの書式”](#)

MeFtのプリンタ情報ファイルの指定方法については、MeFtのオンラインマニュアル“MeFt説明書”の“管理情報ファイル(STREAMENV)”を参照してください。

2.1.7 ホスト連携プレミアムと連携したPDFファイルの出力

メインフレームの帳票データをPDF変換する場合、“[1.1.13 メインフレーム帳票データのPDF変換](#)”の図1.8に示す構成でPDFファイルを生成できます。

外字やオーバーレイを利用する場合については、以下を参照してください。

⇒ [“2.1.9 外字を使用したPDFの出力方法”](#)

必要な製品

ホスト-サーバ間の通信プロトコル(TCP/IP、FNA)によって、以下のソフトウェアが必要です。

必要なソフトウェア		ホスト側	サーバ側
連携情報付加用ソフト		<ul style="list-style-type: none"> SystemWalker/ PrintASSORT(*1) 	<ul style="list-style-type: none"> List Works Enterprise Edition 帳票仕分け管理(*1)
データ転送ソフト	TCP/IPを使用する場合	<ul style="list-style-type: none"> APS/NP DTS(*2) 	<ul style="list-style-type: none"> Linkexpress 帳票配信サービス(*3)(*4)
	FNAを使用する場合	<ul style="list-style-type: none"> APS/NP(*5) VTAM-G(*6) 	<ul style="list-style-type: none"> 通信制御サービス(*3) FNA Server(*7) PCプリントサービス(*4) 帳票管理サービス(*3)(*4) 帳票配信サービス(*3)(*4)

*1:

ホスト側にOSIV SystemWalker/PrintASSORT、またはサーバ側にList Works Enterprise Edition 帳票仕分け管理のどちらかが必要です。

*2:

DTSを導入した場合に必要なソフトウェア構成の詳細については、OSIV DTSのマニュアルを参照してください。

*3:

Solarisの場合、Server2000ホスト連携プレミアムに包含されています。

*4:

Windowsの場合、HOST PRINTに包含されています。

*5:

Windowsの場合のみ。

Solaris版Server2000ホスト連携プレミアムと連携する場合は、AIM出力のみとなります。

*6:

VTAM-Gを導入した場合に必要なソフトウェア構成の詳細については、OSIV VTAM-Gマニュアルを参照してください。

*7:

Windowsの場合に必要です。

ホストの印刷アプリケーションからの印刷指示で、PDFファイルが作成されます(List Creatorは直接実行する必要はありません)。したがって、上記連携によって作成されたPDFをWebで閲覧したい場合は、お客様の方でWebサーバに登録し、運用することになります。

データ転送ソフト、PrintASSORTの設定

以下の指定を行うことによって、PDFファイルを生成することができます。

詳細については、以下を参照してください。

- OSIV SystemWalker/PrintASSORTに添付のマニュアル
- Server2000ホスト連携プレミアムまたはHOST PRINTの帳票配信サービスの説明書
- オンラインマニュアル“解説編”の「帳票データのPDF変換」についての記載を参照してください。

帳票のPDF変換

Server2000ホスト連携プレミアムまたはHOST PRINTの、配信環境定義ファイルのノードに固定文字列“!PDF”を指定することによって、PDF変換機能が呼び出され、メインフレーム帳票データのPDF変換が行われます。

PDFファイルの属性設定

ホスト側PrintASSORTのASSORT仕分け定義体に帳票情報を設定することによって、PDFファイルの属性設定が行われます。

2.1.8 List Worksと連携したPDFファイルの出力

List Worksの電子帳票データをPDF変換する場合、“1.1.14 List Worksとの連携”の図1.9に示す構成でPDFファイルを生成できます。

必要な製品

Windows版List Worksの場合:

List Works V10.3.2以降

Solaris版List Worksの場合:

List Works 6.0以降

Linux for Itanium版List Worksの場合:

List Works 9.0.0以降

Linux for Intel64版List Worksの場合:

List Works 9.0.1以降

2.1.9 外字を使用したPDFの出力方法

外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)をPDFに出力することができます。

外字を出力するための設定は、運用形態により異なります。

- 帳票設計時に使用したフォントの利用者定義文字を出力する運用
帳票設計時に使用したフォントを使用する場合、PDFフォント登録の設定が必要です。
詳細は、“[2.1.2 帳票設計時のフォントをPDF/TIFF中に使用する](#)”を参照してください。

ポイント

.....

帳票出力サーバがWindowsの場合、使用するフォントにリンクされている外字ファイルを使用することができます。

リンク方法は、マイクロソフト社の技術情報を参照してください。

.....

- 外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)を同時に使用する運用
外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)としてシステムに定義された外字をPDFにエンベッドするためには、Charset Managerと連携する必要があります。
[図2.5](#)および[図2.4](#)のような手順で、Charset Manager連携による外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)を利用できるようになります。

注意

.....

利用者定義文字またはJEF拡張文字をPDF変換する場合は、必ずフォントのエンベッドを行ってください。

.....

必要な製品

以下に、外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)としてシステムに定義された外字をPDFにエンベッドするために必要な製品を示します。

Windows版Charset Managerの場合、以下の製品が必要です。

- Charset Manager Standard Edition V9.5.1以降

Windows(x64)版Charset Managerの場合、以下の製品が必要です。

- Charset Manager Standard Edition Agent V9.5.1以降

Solaris版Charset Managerの場合、以下の製品が必要です。

- CharsetMGR-A V5.1以降、またはCharset Manager Standard Edition Agent V6.0以降

Linux for Intel64版Charset Managerの場合、以下の製品が必要です。

- Charset Manager Standard Edition Agent V9.1.1以降

また、Charset Managerで外字を作成する際に、Charset Manager Standard Editionがインストールされる資源管理サーバー上に下記製品が必要となります

- ・ JEF拡張漢字サポート V4.1L40以降(明朝体の外字作成時に必要となります)
- ・ JEFゴシックフォント V2.1L10以降(ゴシック体の外字作成時に必要となります)

設定

Charset Manager連携で外字を利用するには、以下の2種類の運用があります。

- ・ 日本語資源管理から直接登録する運用
- ・ 印刷資源管理での運用

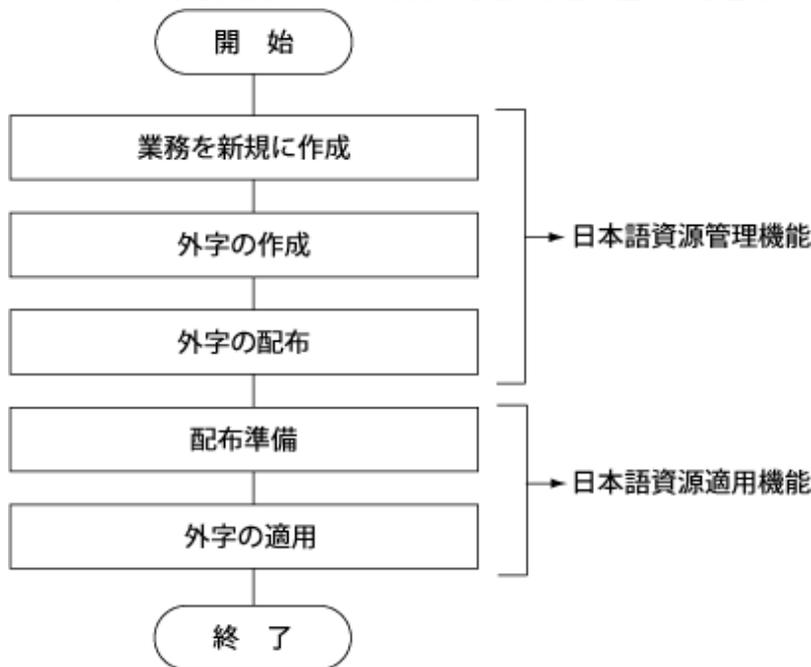
ポイント

印刷資源管理での運用は、帳票出力サーバがLinux for Intel64の場合は未サポートです。

【日本語資源管理から直接登録する運用(Charset Manager Standard Edition V7.0以降の場合)】

Charset Manager Standard Edition V7.0以降を使った場合、日本語資源管理から自動的に外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)をList Creatorに登録することができます。

図2.4 外字を利用する手順(日本語資源管理から直接登録する運用)



外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)の作成

業務を新規に作成し、外字を作成します。Charset Manager Standard EditionからCharset Manager Standard Edition Agentへ外字を配布してください。

詳細については、“Charset Managerオンラインマニュアル”の外字の配布に関する記述を参照してください。

日本語資源適用機能での操作

作成した外字の配布方法によって設定方法が異なります。

以下に、作成した外字の配布方法を示します。

- Charset Managerの資源配布機能で配布する場合
- Centric Managerで配布する場合

- オフラインで配布する場合

設定手順の詳細については、“Charset Managerオンラインマニュアル”の配布された外字の取り出しに関する記述を参照してください。

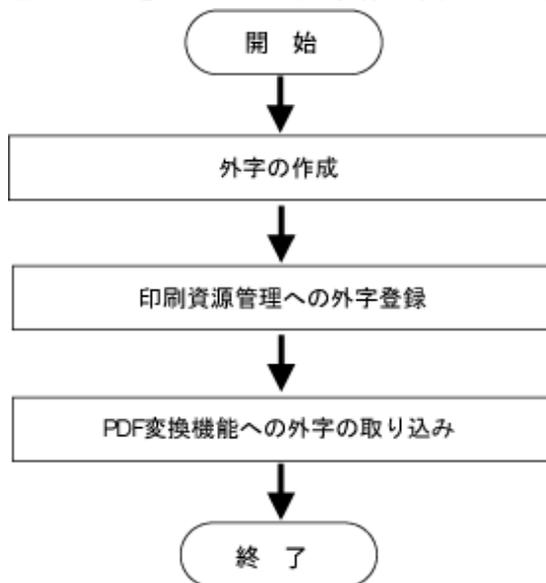
日本語資源運用では、List Creatorでの外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)登録のための操作はありません。

操作中にPDF変換機能が動作していると、その文書中に文字が正しくエンベッドされない場合があります。操作完了後、再度PDF変換操作を実行してください。

【印刷資源管理での運用】

外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)の作成や登録手順の詳細については、“Charset Managerオンラインマニュアル”の外字の作成と登録に関する記述を参照してください。

図2.5 外字を利用する手順(印刷資源管理での運用)



Charset Manager 日本語資源管理機能によって作成された外字をエンベッドするために、PDF変換機能の外字フォントファイルに登録する手順を以下に示します。

外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)の作成

外字を作成し、Charset Manager Standard EditionからCharset Manager Standard Edition Agentへ外字を転送してください。

詳細については、“Charset Managerオンラインマニュアル”の外字のセットアップに関する記述を参照してください。

ポイント

.....
 帳票出力サーバがWindowsの場合、さらにWindowsファイアウォールの設定変更が必要です。以下の手順で設定を行ってください

1. 「コントロールパネル」→「Windowsファイアウォールによるアプリケーションの許可」を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行い、追加するプログラムを登録します。
 - 「例外」タブ欄で「プログラムの追加」を選択
 - 「設定の変更」を選択して設定の変更操作を有効にし、「別のアプリの許可」を選択
3. 「参照」ボタンを押下し、以下を入力します。

[Windowsシステムディレクトリ]¥System32¥ftp.exe
 (例: C:¥Windows¥System32¥ftp.exe)

4. 「OK」にて設定を完了します。
-

印刷資源への外字の登録

1. [スタート]—[プログラム]—[Charset Manager]—[印刷資源管理]を起動します。
2. “PATTERN”フォルダを選択し、[ファイル]メニューから[登録]を選択します。
3. 「登録フォントの選択」ダイアログボックスで、“Windows TrueTypeフォント”をチェックして、[OK]ボタンをクリックします。

以上の操作によって、登録資源一覧に“Windows TrueTypeフォント”が表示されます。

PDF変換機能への外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)の取り込み

帳票出力サーバがWindowsの場合

- Administrators権限をもつユーザでログオンし、PDF変換機能が使用されていないことを確認後、コマンドプロンプト画面上で以下のコマンドを実行してください。

```
(List Creatorインストールディレクトリ) %bin%edocudc
```

- 操作中に「PDF変換機能」が動作していると、その文書中に文字が正しくエンベッドされない場合があります。操作完了後、再度PDF変換操作を実行してください。外字を登録する場合は、あらかじめCharset Manager Standard Editionで操作が必要となります。

Charset Manager Standard Editionの操作方法については、“Charset Manager使用手引書 印刷資源運用編”を参照してください。

帳票出力サーバがUNIX系OSの場合

- システム管理者権限でログインし、PDF変換機能が使用されていないことを確認後、以下のコマンドを実行してください。

```
/opt/FJSVedoc/bin/edocudc
```

- 操作中にPDF変換機能が動作していると、その文書中に文字が正しくエンベッドされない場合があります。操作完了後、再度PDF変換操作を実行してください。

2.2 細かなPDFの設定が必要な運用形態

PDF文書情報ファイル(帳票出力時)

PDFファイルに対して細かな設定を行う場合、PDF文書情報ファイルに必要な定義を行うことで、多彩な機能をPDFファイルに持たせることができます。

PDF文書情報ファイルは、PDFファイルの描画オブジェクトに関係しない、コメント、タイトル、作成者、および作成日付といったテキスト情報、パスワードキーや各種初期設定を、それぞれキーワードとしてPDF文書情報ファイルに定義することができます。

PDF文書情報ファイルは、PDF環境設定ファイルの設定値よりも優先順序が高く、同一のキーワードを設定した場合、PDF文書情報ファイルの設定値が有効になります。

PDFメール配信情報ファイル

PDFメール配信情報ファイルに必要な定義を行うことで、PDFメール配信に対して細かな設定が行えます。

PDFメール配信情報ファイルの設定は、宛先、メールメッセージ、添付ファイルなどをメールごとに変更することができます。

PDFメール配信情報ファイルは、PDFメール環境設定ファイルの設定値よりも優先順序が高く、同一のキーワードを設定した場合、PDFメール配信情報ファイルの設定値が有効になります。

COBOL アプリケーション連携機能を使用する場合には、PDFメール配信情報ファイルの内容はPDF文書情報ファイルに記述します。

ポイント

COBOLアプリケーション連携機能を使用する場合、PDFメール配信情報ファイルの内容をPDF文書情報ファイルに、[MF-PDF]セクションの定義以降に[MLF_Message]セクションを定義します。

PDFメール環境設定ファイル

PDFメール環境設定ファイルに必要な定義を行うことで、PDFメール配信に必要な基本設定が行えます。

PDFメール環境設定ファイルの設定変更後は、PDFメール配信 (UNIX系OSの場合はデーモン) の再起動が必要になります。

PDFメール配信情報ファイル (COBOLアプリケーション連携機能を使用する場合はPDF文書情報ファイル) で同一のキーワードを指定した場合、PDFメール配信情報ファイル (PDF文書情報ファイル) の設定値が有効になります。

PDF環境設定ファイル

PDF環境設定ファイルに必要な定義を行うことで、全てのPDFファイル出力に共通する設定を行うことができます。

PDF文書情報ファイルのキーワードの中でも、暗号化やイメージに対する挙動など、全ての帳票に適用したい設定を、それぞれキーワードとして定義することができます。

PDF文書情報ファイルで同一のキーワードを指定した場合、PDF文書情報ファイルの設定値が有効になります。

また、帳票出力時のコマンドのオプションで同機能の指定を行った場合、帳票出力時のコマンドのオプションの指定値が有効になります。

2.2.1 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルの指定方法

List Creatorでの指定方法

List Creatorの各インタフェースとして多くの機能が指定可能ですが、一部機能はPDF文書情報ファイルを記述して、出力時にPDF文書情報ファイルを指定する必要があります。

- List Creator帳票出力インタフェースごとの指定方法は、以下のとおりです。
 - コマンドの場合 (prprint/prprintx)
 - in5オプションでPDF文書情報ファイルパスを指定します。
 - Javaインタフェースの場合
 - PrintPropertiesクラスのsetPropertyメソッドで、定数ID_PDF_DOCENVPFILEの値にPDF文書情報ファイルパスを指定します。
 - .NETインタフェースの場合
 - PrintPropertiesクラスのPdfDocEnvFileプロパティで、PDF文書情報ファイルパスを指定します。
 - カスタムコントロールの場合
 - カスタムコントロールPrctrlExControlのPdfDocEnvFileに、PDF文書情報ファイルパスを指定します。
 - CFXカスタムタグインタフェース (ColdFusion MX) の場合
 - CFX_OAST_OUTPUTQUERYタグ、またはCFX_OAST_CONNECTタグのPDF_DOC_ENV_FILEの値に、PDF文書情報ファイルパスを指定します。

なお、帳票出力インタフェースとの対応については、以下を参照してください。

⇒ [“2.2.3 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード一覧”](#)

- COBOLアプリケーション連携機能を利用する場合の指定方法は、以下のとおりです。
 - PDF文書情報ファイルは、ユーザアプリケーション実行時の環境変数などで指定します。
 - 指定方法の詳細については、オンラインマニュアル“[COBOLアプリケーション連携機能編](#)”を参照してください。

MeFtでの指定方法

MeFtでは、PDF出力時にプリンタ情報ファイルとして出力先の情報を指定しますが、このプリンタ情報ファイルにPDF文書情報ファイルの記述を設定します。

ホスト連携プレミアムでの指定方法

PrintASSORTの仕分け情報定義体に、PDF文書情報ファイルの記述を設定します。

2.2.2 PDF文書情報ファイルの書式

PDF文書情報ファイルの書式は、以下のとおりです。

- PDF文書情報ファイルに記述する文字コードは、以下のとおりです。
 - 帳票出力サーバがWindowsの場合
Shift-JISコードで、改行コードはCR+LF(0x0d+0x0a)
 - 帳票出力サーバがSolarisの場合
Shift-JISコード、EUCコード、またはUNICODE(UTF8)コードで、改行コードはLF(0x0a)
ユーザアプリケーション実行時の文字コード系に合わせて以下のように記述します。

プラットフォーム	ロケール名	コード種別
Solaris	ja_JP.PCK	Shift-JIS
	ja/japanese/ja_JP.eucJP	EUC
	ja_JP.UTF-8	UNICODE(UTF8)

- 帳票出力サーバがLinuxの場合
EUCコードまたはUNICODE(UTF8)コードで、改行コードはLF(0x0a)
ユーザアプリケーション実行時の文字コード系に合わせて以下のように記述します。

プラットフォーム	ロケール名	コード種別
Linux	ja_JP.eucJP	EUC
	ja_JP.UTF-8	UNICODE(UTF8)

- [キーワード]=[=]+[値]+[改行コード]の順で、1つのコマンドを記述してください。使用できるキーワードについては、以下を参照してください。
⇒“2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明”
- 値は、「=」文字の次から改行コードまでを指します。さらに使用できる文字種は全角/半角、日本語(JIS第一水準/第二水準)と英数字です。外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)を使用した場合、PDF変換機能がエラーとなることがあります。
- 値の指定がない場合、エラーとなります。
- キーワードにない文字列は、コメントとみなします。
- 複数回指定できないキーワードを複数回設定すると、最後に指定したキーワード名=設定値が有効になります。
- 帳票出力時に指定する場合には、[MF-PDF]キーワード以外は、省略が可能です。
- PDF操作コマンドで指定する場合には、[PM-PDF]キーワード以外は、省略が可能です。
- 「#」を記述すると、以降の文字列はコメントとなります。
- 「=」以前の空白やタブは、キーワードが無効になります。「=」以降の空白やタブは、文字として扱います。
- キーワードは、大文字、小文字を区別して正しく記述してください。
- キーワードにファイルのパス名を指定する場合、半角数字、半角英字、半角記号とJIS第一/第二水準漢字で255バイトまでです。

2.2.3 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード一覧

以下に、PDF文書情報ファイルの各キーワードとList Creatorの帳票出力インタフェースで指定可能なパラメタとの対応について示します。

ポイント

COBOLアプリケーション連携機能使用時に指定可能なキーワードについては、オンラインマニュアル“COBOLアプリケーション連携機能編”を参照してください。

表2.1 帳票出力時のPDF文書情報ファイルのキーワード一覧

キーワード名	説明	帳票出力インタフェースでの指定	PDF環境設定ファイルでの指定
[MF-PDF]	PDF変換機能用PDF文書情報ファイルの宣言です。	—	○
PDF-AES	値にONを指定した場合、PDFをAES暗号で暗号化します。	—	○
PDF-ANOTATE	PDFファイルのセキュリティオプションとして、注釈、フォームフィールドの追加、変更の許可/不許可を設定します。	○(*1)	—
PDF-AUTHOR	PDFファイルの文書情報の作成者を記述します。	○(*1)	—
PDF-AUTOPRINT	PDFファイルに自動印刷方式を設定します。	○(*1)	—
PDF-BARBOX	バーコード項目のサイズがデフォルトのバーコード幅より小さい場合、収まるように縮小して出力します。	—(*1)	—
PDF-CENTERWINDOW	値にONを指定した場合、文書ウィンドウを画面の中央に表示します。	—	—
PDF-DATADIR	PDFファイルにファイルを埋め込むときに、そのファイルが存在するべきフォルダのパスを指定することができます。	—	—
PDF-DATAFILE	PDFファイルに埋め込む任意のデータファイルのパス名を指定します。	○(*1)	—
PDF-DIRCREATE	PDFファイルを生成するファイルパスに記述されたディレクトリが存在しないときは、ONの場合にディレクトリ生成を行います。OFFの場合は、“PDF作成エラー”となります。	—	—
PDF-DOCTITLE	値にONを指定した場合、PDF-TITLEで指定されている文字列をAdobe Readerのタイトルバーに表示します。OFFを指定するとPDFファイル名が表示されます。	—	—
PDF-EMBED	PDFファイルのエンベッドする文字範囲を設定します。	○(*1)	—
PDF-ENCCHANGE	PDFファイル中で使用される欧文のフォントのエンベッドを行わなくても、出力したPDFファイルが英語版のAdobe Readerで閲覧可能になります。	—	○
PDF-FITWINDOW	値にONを指定した場合、最初に表示されるページのサイズに適合するように文書ウィンドウのサイズを変更します。	—	—
PDF-FULLSCREEN	ファイルオープン時にAdobe Readerの表示をフルスクリーンモードにすることができます。	○(*1)	—
PDF-GDIR	Charset Managerの日本語資源管理で設定した業務名の利用者定義文字を使ってPDF出力を行います。	—	—
PDF-HIDEMENUBAR	ファイルオープン時にAdobe Readerのメニューバーの表示/非表示を設定できます。	○(*1)	—
PDF-HIDETOOLBAR	ファイルオープン時にAdobe Readerのツールバーの表示/非表示を設定できます。	○(*1)	—
PDF-HIDEWINDOWUI	値にONを指定した場合、文書ウィンドウのユーザインタフェース要素(スクロールバーやナビゲーション用コントロールなど)を隠し、文書の内容だけが表示されます。	—	—
PDF-INITLAYOUT	PDFファイルを開いたときのページレイアウトを設定します。	—	—
PDF-INITPAGE	PDFファイルを開いたときに表示されるページを指定します。	—	—
PDF-INITZOOM	PDFファイルを開いたときの表示倍率を指定します。	—	—
PDF-JFONTTTE	PDFフォント登録を行ったフォントに対して使用する利用者定義文字を設定します。	—	○
PDF-JPEGCHECKMODE	PDFファイルにJPEG画像を埋め込む際のJPEG画像にエラーがあった場合の挙動についての設定を行います。	—	○

キーワード名	説明	帳票出力インタフェースでの指定	PDF環境設定ファイルでの指定
PDF-JPEGMODE	JPEGデータの変換方法を設定します。	—	○
PDF-JPEGQUALITY	JPEG圧縮時の品質を設定します。	○(*1)	—
PDF-KEY128	暗号化キー長を128bitとしてPDF変換を行います。	—	—
PDF-LAYOUT	PDFファイルのページレイアウトを設定します。	—(*2)	○
PDF-LIMITURI	List Creator デザインでURI閲覧制限機能を設定したPDFファイルの閲覧を許可するURIを設定します。	○(*1)	—
PDF-LIMITURICANCEL	List Creator デザインで設定したURI閲覧制限機能を無効にします。	○	—
PDF-META	値にONを指定した場合、文書情報からメタデータを生成してPDFファイルに埋め込みます。OFFを指定した場合はメタデータを埋め込みません。	—	○
PDF-MMR	2値データをMMRで圧縮します。	—	○
PDF-MODIFY	PDFファイルのセキュリティオプションとして文書の変更の許可/不許可を設定します。	○(*1)	—
PDF-NOENCMETA	値にONを指定した場合、PDFファイルに埋め込むメタデータを暗号化しません。OFFを指定した場合は埋め込むメタデータを暗号化します。	—	○
PDF-NOOCR	値にONを指定した場合、PDFファイル中で使用されるOCR-Bフォントのエンベッドを行いません。OFFを指定した場合はOCR-Bフォントの埋め込みが行われます。	—	○
PDF-NOPRTSCALE	値にONを指定した場合、文書の印刷時、ページの拡大/縮小をなしに設定します。OFFを指定した場合は、ビューアアプリケーションの印刷設定に従います。	—	○
PDF-OPENPWD	Adobe ReaderでPDFファイルを開く際に必要なパスワードを記述します。	○	—
PDF-OVDCHARPOSITION	値にONを指定した場合、オーバーレイ文字の文字配置を計算して出力します。OFFを指定した場合は計算せず、オーバーレイデータの値で出力します。	—	○
PDF-PAGEMODE	PDFファイルを開く際のしおりやサムネイルイメージの表示方法を設定することができます。	—	—
PDF-PRINT	PDFファイルのセキュリティ情報として印刷の許可/不許可を設定します。	○(*1)	—
PDF-RESOURCEPERPAGE	PDFファイルのResource辞書をページごとに作成します。	—	○
PDF-SECUPWD	AcrobatでPDFファイルのセキュリティオプションを変更する際に必要なパスワード(セキュリティオプション変更パスワード)を記述します。	○	—
PDF-SELECT	PDFファイルのセキュリティオプションとしてテキストとグラフィックスの選択の許可/不許可を設定します。	○(*1)	—
PDF-SUBTITLE	PDFファイルの文書情報のサブタイトルを記述します。	○(*1)	—
PDF-TITLE	PDFファイルの文書情報のタイトルを記述します。	—	—
PDF-YENNONADJUST	値にONを指定した場合、PDFファイル中で使用される文字コード(Unicode)「0x005C」を「0x00A5」に変換しません。OFFを指定した場合は変換します。	—	○

○:指定可能

ー:指定不可

*1:

List Creator デザイナの「文書情報設定画面」で指定可能です。
文書情報設定画面は、帳票業務情報のプロパティ画面の[ファイル]タブ内にある「文書情報」から表示されます。

*2:

List Creator デザイナの[拡大/縮小印刷]タブで指定可能です。
[拡大/縮小印刷]タブは、帳票様式定義のプロパティ画面で表示されます。

2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明

[MF-PDF]

書式

[MF-PDF]

説明

PDF変換機能用PDF文書情報ファイルの宣言です。

この宣言以降のキーワードとその定義が有効になります。したがって、PDF変換時に使用するいずれのキーワードよりも先に宣言してください。

省略時

省略できません。

特記事項

このキーワードを複数回使用した場合は、最初の宣言以外は無効となります。

PDF-AES

書式

PDF-AES=ON | OFF

説明

PDFをAES暗号で暗号化します。

ON:

AES暗号で暗号化します。

OFF:

RC4暗号で暗号化します。

ただし、PDF-KEY128=ONを設定していない場合、このキーワードは無効になります。

例) PDF-AES=ON

省略時

OFF

特記事項

- ー ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- ー Adobe Acrobat 6.0以前およびAdobe Reader 6.0以前では機能しません。Adobe Acrobat 7.0以降またはAdobe Reader 7.0以降をお使いください。

PDF-ANOTATE

書式

PDF-ANOTATE=ON | OFF

説明

PDFのセキュリティ情報として、注釈、フォームフィールドの追加、変更の許可/不許可を設定します。

ON:

注釈、フォームフィールドの追加、変更を不許可とします。

OFF:

注釈、フォームフィールドの追加、変更を許可とします。

ただし、PDF-KEY128=ONを設定している場合、このキーワードは無効になります。注釈およびフォームフィールドのセキュリティ設定を行うには、PDF-MODIFY=ADDANNOTを設定してください。

例) PDF-ANOTATE=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- ONを指定するときは、必ずPDF-SECUPWDでセキュリティ情報の変更に必要なパスワードを設定してください。パスワードの設定を行わない場合、指定したセキュリティが有効にならないことがあります。

PDF-AUTHOR

書式

PDF-AUTHOR=<改行コードを含む256バイト以内の文字列>

説明

PDFの文書情報の作成者を記述します。

Acrobat Reader 4.0の[ファイル]—[文書情報]—[一般](Acrobat Reader 5.0またはAdobe Reader 6.0以降の場合は、[ファイル]—[文書のプロパティ]—[概要]、Adobe Reader 8.0以降の場合は、[ファイル]—[プロパティ]—[概要])で参照が可能です。256バイト以上の文字列を記述した場合、Adobe Readerでファイルが正しく開かない場合があります。

例) PDF-AUTHOR=〇〇株式会社

省略時

作成者情報が空欄となります。

PDF-AUTOPRINT

書式

PDF-AUTOPRINT=OPN | OPN+CLS | OFF

説明

PDFファイルに自動印刷方式を設定します。

OPN:

文書を開くと同時に印刷ダイアログボックスを表示して印刷を行うことができます。

OPN+CLS:

文書を開くと同時に自動印刷を行います(デフォルトプリンタに印刷されます)。

OFF:

自動印刷を行いません。

例) PDF-AUTOPRINT=OPN

省略時

OFF

特記事項

- OPN、OPN+CLS、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- JavaScriptが実行不能の場合など、Adobe Readerの環境によっては機能しないことがあります。

PDF-BARBOX

書式

PDF-BARBOX=ON | OFF

説明

デフォルトのバーコード幅よりバーコード項目のサイズが小さい場合、バーコード項目のサイズに収まるように縮小して出力します。

ON:

バーコード項目のサイズに収まるように縮小して、バーコードを描画します。

OFF:

デフォルトのバーコード幅で、バーコードを描画します。

例) PDF-BARBOX=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- 以下のバーコードの場合、この機能は使用できません。
 - Code 3 of 9 (EIAJ 準拠)
 - カスタマバーコード
 - EAN-128 (コンビニエンスストア向け)
 - U.S. POSTNET (Delivery Point Code)、U.S. POSTNET (ZIP+4 Code)、U.S. POSTNET (5-Digit ZIP Code)
 - FIM A (U.S. Postal FIM)、FIM B (U.S. Postal FIM)、FIM C (U.S. Postal FIM)
 - Intelligent Mail Barcode
- 最小モジュール幅を設定した場合、バーコード項目のサイズに収まらない場合があります。

PDF-CENTERWINDOW

書式

PDF-CENTERWINDOW=ON | OFF

説明

ON:

文書ウィンドウを画面の中央に表示します。

OFF:

文書ウィンドウの画面表示位置は、Adobe Readerの環境設定にしたがいます。

例) PDF-CENTERWINDOW=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。

- Webブラウザ上で表示している場合など、Adobe Readerの環境によっては正しく機能しない場合があります。

PDF-DATADIR

書式

PDF-DATADIR=<埋め込みファイル検索フォルダパス名>

説明

PDFにファイルを埋め込むときに、そのファイルが存在するべきフォルダのパスを指定することができます。

検索したいフォルダが複数個(最大10個)ある場合、当キーワードを複数回使用することができます。その場合、ファイル検索は発行されたフォルダ順に行われます。

例)

- 帳票出力サーバがWindowsの場合

PDF-DATADIR=c:¥data

- 帳票出力サーバがUNIX系OSの場合

PDF-DATADIR=/data

省略時

ファイル埋め込みのためのフォルダ検索は行われません。

特記事項

- 「PDF-DATAFILE」との順序関係は問いません。
- 当キーワードを誤って11回以上使用しても、10個以上のフォルダ検索は行われません。

PDF-DATAFILE

書式

PDF-DATAFILE=<埋め込みファイルパス名>

説明

PDFファイルに埋め込む任意のデータファイルのパス名を指定します。複数個のデータファイルを埋め込みたい場合は、当キーワードを複数回(最大99個)使用します。

例)

- 帳票出力サーバがWindowsの場合

PDF-DATAFILE=c:¥data¥sample.doc

- 帳票出力サーバがUNIX系OSの場合

PDF-DATAFILE=/data/sample.doc

省略時

データファイルは埋め込まれません。

特記事項

- 同一データファイルを複数回指定してもエラーにならず、指定回数分の埋め込みが行われます。
- Acrobat 4.0、Acrobat Reader 4.0、およびAcrobat Reader 5.0では、埋め込みデータオブジェクトを抽出することはできません。Acrobat 5.0以降またはAdobe Reader 6.0以降をお使いください。
- Acrobat 5.0では、セキュリティオプションの設定や暗号化を使用した場合、埋め込みデータオブジェクトを抽出することはできません。
- 添付したファイルを抽出する方法については、以下を参照してください。
⇒ [“3.3.8 ファイル添付機能”](#)

PDF-DIRCREATE

書式

PDF-DIRCREATE=ON | OFF

説明

PDF生成時に指定するディレクトリが存在しない場合、ディレクトリの作成を行うことができます。

ON:

ファイルを生成するファイルパスに記述されたディレクトリが存在しないときは、ディレクトリ生成を行います。

OFF:

ディレクトリの生成は行いません。指定されたディレクトリパスが存在しないときは、ファイルアクセスエラーとなります。

例) PDF-DIRCREATE=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- 作成するディレクトリの権限は、親ディレクトリの権限を引き継ぎます。

PDF-DOCTITLE

書式

PDF-DOCTITLE=ON | OFF

説明

Adobe Readerのタイトルバーに表示する内容を指定することができます。

ON:

PDF-TITLEで指定されている文字列をAdobe Readerのタイトルバーに表示します。

OFF:

PDFのファイル名がAdobe Readerのタイトルバーに表示されます。

例) PDF-DOCTITLE=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- Acrobat 4.0およびAcrobat Reader 4.0では機能しません。Acrobat 5.0以降またはAcrobat Reader 5.0以降をお使いください。
- Webブラウザ上で表示している場合などAdobe Readerの環境や、他のオプションの指定状況によっては機能しない場合があります。

PDF-EMBED

書式

PDF-EMBED=FONT | JEF | USER | FONT+JEF | FONT+USER | JEF+USER | ALL | NONE

説明

PDFファイルのエンベッドする文字範囲を設定します。

和文書体においてPDFファイル内にエンベッドされる対象となる文字は、そのファイル内で使用された文字のみです。

欧文書体は使用された文字に関係なくフォントすべてをエンベッドします。

フォントをエンベッドすると、生成されるPDFファイルのサイズが大きくなります。

オペランド	意味
FONT	JIS第一水準/第二水準の範囲内でエンベッドを行います。(*1)
JEF	富士通JEF拡張文字の範囲内でエンベッドを行います。(*2)
USER	利用者定義文字のエンベッドを行います。(*2)
FONT+JEF	JIS第一水準/第二水準とJEF拡張文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
FONT+USER	JIS第一水準/第二水準と利用者定義文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
JEF+USER	利用者定義文字とJEF拡張文字のエンベッドを行います。(*2)
ALL	文書内で使用しているすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
NONE	エンベッドを行いません。

*1:

生成されたPDFファイルを日本語環境ではないクライアントに配信する場合に使用します。

*2:

JEF拡張文字や利用者定義文字などを文書中に使用した場合は、必須です。

例) PDF-EMBED=FONT+JEF

省略時

NONE

特記事項

- FONT、JEF、USER、FONT+JEF、FONT+USER、JEF+USER、ALL、NONE以外を指定した場合、エラーとなります。
- List Creator デザイナーの帳票業務情報の編集画面では以下のエンベッド指定ができます。「すべてを埋め込む」を選択した場合は「ALL」、「利用者定義文字とJEF拡張文字」を選択した場合は「JEF+USER」、「埋め込まない」を選択した場合は、「NONE」と同様のエンベッドを行います。帳票定義体の新規作成時は「利用者定義文字とJEF拡張文字」が指定されています。

帳票業務情報設定方法については、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。

- 帳票設計時に選択したフォントをPDF出力する場合、PDF文書情報ファイルのPDF-EMBEDのオペランドの値が、以下のとおりフォント登録時のエンベッド情報により変わります。

PDFフォント登録に関する詳細は以下を参照してください。

⇒ [“2.1.2 帳票設計時のフォントをPDF/TIFF中に使用する”](#)

1. PDFフォント登録時のエンベッド情報を「必須」にしたフォントの場合

エンベッドする文字の範囲は、和文の場合下記の表になります。

欧文の場合は、オペランドの値にかかわらず、必ずフォントをエンベッドします。

オペランド	意味
FONT	JIS第一水準/第二水準とJEF拡張文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
JEF	JIS第一水準/第二水準とJEF拡張文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
USER	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
FONT+JEF	JIS第一水準/第二水準とJEF拡張文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
FONT+USER	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
JEF+USER	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
ALL	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
NONE	JIS第一水準/第二水準とJEF拡張文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)

*1:
生成されたPDFファイルを日本語環境ではないクライアントに配信する場合に使用します。

*2:
JEF拡張文字や利用者定義文字などを文書中に使用した場合は、必須です。

2. PDFフォント登録時のエンベッド情報を「選択」にしたフォントの場合

エンベッドする文字の範囲は、和文の場合下記の表になります。

欧文の場合は、「NONE」と「USER」を指定した場合を除き、フォントをすべてエンベッドします。

オペランド	意味
FONT	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
JEF	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
USER	利用者定義文字のエンベッドを行います。(*2)
FONT+JEF	JIS第一水準/第二水準とJEF拡張文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
FONT+USER	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
JEF+USER	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
ALL	文書内で使用している対象フォントについてすべての文字のエンベッドを行います。(*1)(*2)
NONE	エンベッドを行いません。

*1:
生成されたPDFファイルを日本語環境ではないクライアントに配信する場合に使用します。

*2:
JEF拡張文字や利用者定義文字などを文書中に使用した場合は、必須です。

3. PDFフォント登録時のエンベッド情報を「不可」にしたフォントの場合

エンベッドする文字の範囲は、和文の場合下記の表になります。

欧文の場合、フォントのエンベッドは行いません。

オペランド	意味
FONT	エンベッドを行いません。
JEF	エンベッドを行いません。
USER	利用者定義文字のエンベッドを行います。(*2)
FONT+JEF	エンベッドを行いません。
FONT+USER	利用者定義文字のエンベッドを行います。(*2)
JEF+USER	利用者定義文字のエンベッドを行います。(*2)
ALL	利用者定義文字のエンベッドを行います。(*2)
NONE	エンベッドを行いません。

*1:
生成されたPDFファイルを日本語環境ではないクライアントに配信する場合に使用します。

*2:
JEF拡張文字や利用者定義文字などを文書中に使用した場合は、必須です。

PDF-ENCCHANGE

書式

PDF-ENCCHANGE=ON | OFF

説明

ON:

PDFファイル中で使用する欧文のフォントのエンベッドを行わなくても、出力したPDFファイルが英語版のAdobe Readerで閲覧可能になります。

OFF:

PDFファイル中で使用する欧文のフォントのエンベッドを行っていない場合、出力したPDFファイルを英語版のAdobe Readerで閲覧する際に、日本語フォントのインストールを促すメッセージが出力されます。日本語フォントのインストールを行わない場合、PDFファイルを開覧する事はできません。

例) PDF-ENCCHANGE=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- 環境に依存せず全ての文字表示を保証したい場合は、PDFファイルにフォントをエンベッドする設定でPDF生成を行ってください。
- 本キーワードは、以下のいずれかの場合に有効となります。
 - PDFファイルで使用する欧文のフォントをPDFフォント登録した際に、エンベッド情報に「選択」を指定している、かつ、以下のいずれかの指定を行っている。
 - ・ PDF文書情報ファイルのキーワードで、「PDF-EMBED=NONE」または「PDF-EMBED=USER」を指定。
 - ・ List Creator デザイナの「帳票業務情報のプロパティ」の「文書情報設定画面」で、フォントのエンベッドの設定に「文字の埋め込み:埋め込まない」を指定。
 - PDFファイルで使用する欧文のフォントをPDFフォント登録した際に、エンベッド情報に「不可」を指定している。
- PDFフォント登録したフォントが欧文のフォントかどうかは、PDFフォントの登録状態を表示することで確認できます。
 - PDFフォントの登録状態を表示する方法は、以下を参照してください。
⇒ [“2.1.2 帳票設計時のフォントをPDF/TIFF中に使用する”](#)
 - PDFフォントの登録状態が以下のようにになっているフォントが、欧文のフォントとなります。
 - ・ GUIで確認する場合
種別が「欧文」と表示されているフォント
 - ・ コマンドラインで確認する場合
言語が「 」(空白)と表示されているフォント
 - PDFフォントの登録状態が以下のようにになっているフォントに対しては、本キーワードは無効になります。
 - ・ GUIで確認する場合
種別が「和文」、「韓国語」、「中国語(簡体)」、または「中国語(繁体)」と表示されているフォント
 - ・ コマンドラインで確認する場合
言語が「jp」、「kr」、「sc」、または「tc」と表示されるフォント

PDF-FITWINDOW

書式

PDF-FITWINDOW=ON | OFF

説明

ON:

最初に表示されるページのサイズに適合するように文書ウィンドウのサイズを変更します。

OFF:

Adobe Readerの環境設定にしたがいます。

例) PDF-FITWINDOW=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- Webブラウザ上で表示している場合など、AcrobatやAdobe Readerの環境によっては正しく機能しないことがあります。

PDF-FULLSCREEN

書式

PDF-FULLSCREEN=ON | OFF

説明

ファイルオープン時にAdobe Readerの表示をフルスクリーンモードにすることができます。

ON:

文書を開いたときに、Adobe Readerの表示をフルスクリーンモードにします。

OFF:

文書を開いたときに、Adobe Readerの環境設定で指定されている倍率で表示されます。

例) PDF-FULLSCREEN=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- Webブラウザ上で表示している場合など、AcrobatやAdobe Readerの環境によっては機能しないことがあります。

PDF-GDIR

書式

PDF-GDIR=<業務名の文字列>

説明

Charset Managerの日本語資源管理で設定した業務名の利用者定義文字を使ってPDF出力を行います。当キーワードを使用した場合は、指定された業務の外字ファイルが利用されます。

省略時

デフォルトの外字ファイルが使用されます。

特記事項

- このキーワードの指定を有効にするには、事前に利用者定義文字を配布しておく必要があります。
- 業務名の指定が誤っている場合、エラーとなります。

PDF-HIDEMENUBAR

書式

PDF-HIDEMENUBAR=ON | OFF

説明

ファイルオープン時にAdobe Readerのメニューバーの表示/非表示を設定できます。

ON:

文書がアクティブなときにAdobe Readerのメニューバーを隠します。

OFF:

文書がアクティブなときにAdobe Readerのメニューバーを隠しません。

例) PDF-HIDEMENUBAR=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- Webブラウザ上で表示している場合など、AcrobatやAdobe Readerの環境によっては、機能しないことがあります。

PDF-HIDETOOLBAR

書式

PDF-HIDETOOLBAR=ON | OFF

説明

ファイルオープン時にAdobe Readerのツールバーの表示/非表示を設定できます。

ON:

文書がアクティブなときにAdobe Readerのツールバーを隠します。

OFF:

文書がアクティブなときにAdobe Readerのツールバーを隠しません。

例) PDF-HIDETOOLBAR=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- Webブラウザ上で表示した場合やAcrobatやAdobe Readerの環境などによって、正しく機能しない場合があります。

PDF-HIDEWINDOWUI

書式

PDF-HIDEWINDOWUI=ON | OFF

説明

ON:

文書ウィンドウのユーザインタフェース要素(スクロールバーやナビゲーション用コントロールなど)を隠し、文書の内容だけが表示されます。

OFF:

文書ウィンドウのユーザインタフェース要素を表示します。

例) PDF-HIDEWINDOWUI=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- Webブラウザ上で表示した場合やAcrobatやAdobe Readerの環境などによって、正しく機能しない場合があります。

PDF-INITLAYOUT

書式

PDF-INITLAYOUT=SINGLE | ONECOLUMN | TWOCOLUMN | DEFAULT

説明

PDF文書を開いたときのページレイアウトを設定します。

SINGLE:

単一でページを表示します。

ONECOLUMN:

連続でページを表示します。

TWOCOLUMN:

見開きでページを表示します。

DEFAULT:

Adobe Reader環境設定のデフォルトで設定されたレイアウトで表示します。

例) PDF-INITLAYOUT=SINGLE

省略時

DEFAULT

特記事項

SINGLE、ONECOLUMN、TWOCOLUMN、DEFAULT以外を指定した場合、エラーとなります。

PDF-INITPAGE

書式

PDF-INITPAGE=<<ページ番号>

説明

PDF文書を開いたときに表示されるページを指定します。

10進の正値を半角の数字で指定します。

最終ページよりも大きい値が指定されたときには、1ページ目が表示されます。

例) PDF-INITPAGE=5

省略時

1ページ目

PDF-INITZOOM

書式

PDF-INITZOOM=表示倍率 | FIT | FITH | FITBH | DEFAULT

説明

PDF文書を開いたときの表示倍率を指定します。

8～1600までの10進の数値を半角で指定してください。

上記範囲外の数値が指定された場合は、エラーとなります。

倍率を数値で指定する以外に、以下の値を指定することもできます。

FIT:

ページ全体が水平方向と垂直方向の両方ともウィンドウ内に収まる倍率で表示します。必要な水平倍率と垂直倍率が異なる場合は、小さい方を採用し、もう一方の方向についてはウィンドウ内でページをセンタリングします。

FITH:

ページの幅全体がウィンドウ内に収まる倍率で表示します。

FITBH:

ページの境界ボックスの幅全体がウィンドウ内にちょうど収まる倍率で表示します。

DEFAULT:

Adobe Reader環境設定のデフォルトとして設定された倍率で表示します。

例) PDF-INITZOOM=150.5、PDF-INITZOOM=FIT

省略時

DEFAULT

特記事項

表示倍率を表す数値、FIT、FITH、FITBH、DEFAULT以外を指定した場合、エラーとなります。

PDF-JFONTTTE

書式

PDF-JFONTTTE=FUJMIN | FUJGOT | DEFAULT

説明

PDFフォント登録を行ったフォントに対して、使用する利用者定義文字を設定します。

FUJMIN:

Charset Managerで配布された明朝用の外字ファイルを使用します。

FUJGOT:

Charset Managerで配布されたゴシック用の外字ファイルを使用します。

DEFAULT:

PDFフォント登録を行ったフォントに紐付けられたファイルを使用します。

例) PDF-JFONTTTE=FUJMIN

省略時

DEFAULT

特記事項

- このキーワードの指定を有効にするには、Charset Managerから事前に利用者定義文字を配布しておく必要があります。
詳細については「[2.1.9 外字を使用したPDFの出力方法](#)」、またはCharset Managerオンラインマニュアルを参照してください。
- 利用者定義文字の表示を行うためには、エンベッド指定が必須となります。
詳細については、「PDF-EMBED」の項目を参照してください。
- このキーワード指定は、すべての和文フォントに対して有効になります。

PDF-JPEGCHECKMODE

書式

PDF-JPEGCHECKMODE=WARNING | ERROR

説明

PDFファイルにJPEG画像を埋め込む際のJPEG画像にエラーがあった場合の挙動についての設定を行います。

WARNING:

指定されたJPEG画像ファイルが破損している等、画像ファイルの形式に異常があった場合でも、処理が継続可能な場合はメッセージを出力してPDF出力を行います。

ERROR:

指定された画像ファイルの形式に異常があった場合、エラーメッセージを出力して異常終了します。

例) PDF-JPEGCHECKMODE=WARNING

[出力されるエラーメッセージの例]

- WARNING設定時

Error:M2P:0000002:Data Error:Invalid image.(JPEG:%1):aico ana jpg.c(異常発生行数)

- ERROR設定時

Error:M2P:0000002:Data Error:Invalid image.(JPEG:%1):aico ana jpg.c(異常発生行数)

Error:M2P:0000002:Data Error::aico ana jpg.c(異常発生行)

[※] %1 にはエラー原因のメッセージが入ります。詳細は特記事項を参照してください。

省略時

ERROR

特記事項

- WARNING、ERROR以外を指定した場合、エラーとなります。
- 値にWARNINGを指定した時も、下記メッセージ以外のエラーは処理が継続不可能であるため異常終了となります。

[WARNINGで処理継続可能なエラー原因]

- Unknown Adobe color transform code %2
- Inconsistent progression sequence for component %2 coefficient %2
- Corrupt JPEG data: %2 extraneous bytes before marker %2
- Corrupt JPEG data: premature end of data segment
- Corrupt JPEG data: bad Huffman code
- Warning: unknown JFIF revision number %2
- Premature end of JPEG file
- Corrupt JPEG data: found marker %2 instead of RST%2
- Invalid SOS parameters for sequential JPEG
- Application transferred too many scanlines

[※] %2 には関連する数字情報が入ります。

PDF-JPEGMODE

書式

PDF-JPEGMODE=CONVERT | LEAVE | PROGRCNV

説明

JPEGデータの変換方法を設定します

本設定により、JPEGデータが入力された時の圧縮時の品質を設定することが可能です。

CONVERT:

PDF-JPEGQUALITYキーワードに従って、入力されたJPEGデータを内部変換してPDFに出力します。

LEAVE:

入力されたJPEGデータを内部変換せず、そのままPDFに出力します。

PROGRECNV:

プログレッシブJPEGデータの場合、非プログレッシブ形式に変換を行いません。

それ以外のJPEGデータは、内部変換せず、そのままPDFに出力します。

例) PDF-JPEGMODE=LEAVE

省略時

CONVERT

特記事項

- CONVERT、LEAVE、PROGRECNV以外を指定した場合、エラーとなります。
- LEAVEを指定しプログレッシブJPEGデータを使用した場合、Acrobat Reader 4.0では参照できない場合があります。
- プログレッシブJPEGデータを使用し、長期保存によるAcrobat/Adobe Readerの互換性が求められる場合、CONVERT または PROGRECNVを指定して非プログレッシブ形式に変換してください。

PDF-JPEGQUALITY

書式

PDF-JPEGQUALITY=HIGH | MID | LOW | NONE

説明

JPEG圧縮時の品質を設定します。

HIGH:

高画質ですが圧縮率は低くなります。

MID:

HIGHとLOWの中間の設定となります。

LOW:

画質の劣化は大きくなりますが、圧縮率は高くなります。

NONE:

画質劣化のない標準の圧縮方式となります。

例) PDF-JPEGQUALITY=MID

省略時

HIGH

特記事項

HIGH、MID、LOW、NONE以外を指定した場合、エラーとなります。

PDF-KEY128

書式

PDF-KEY128=ON | OFF

説明

ON:

暗号化キー長を128bitとしてPDF変換を行います。

128bitでは、「PDF-PRINT」、「PDF-MODIFY」、「PDF-SELECT」の拡張機能を使用することができます。

OFF:

暗号化キー長を40bitとしてPDF変換を行います。

例) PDF-KEY128=ON

省略時

OFF(40bit暗号化)

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- Acrobat 4.0およびAcrobat Reader 4.0では機能しません。Acrobat 5.0以降またはAcrobat Reader 5.0以降をお使いください。
- 40bit暗号化、128bit暗号化のいずれの場合でも、ユーザーが指定するパスワード文字列の長さは、32バイト以内となります。

PDF-LAYOUT

書式

PDF-LAYOUT=1 | 2 | 4 | 9

説明

PDFファイルのページレイアウトを設定します。

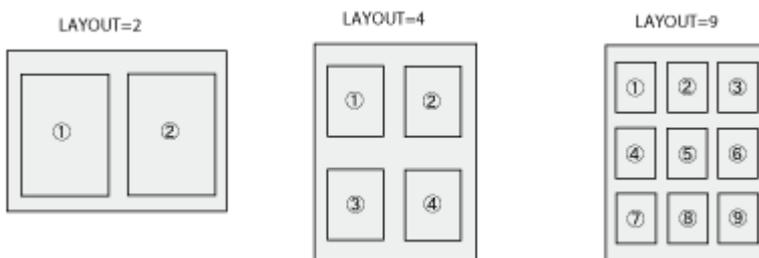
1:

レイアウトは行いません。

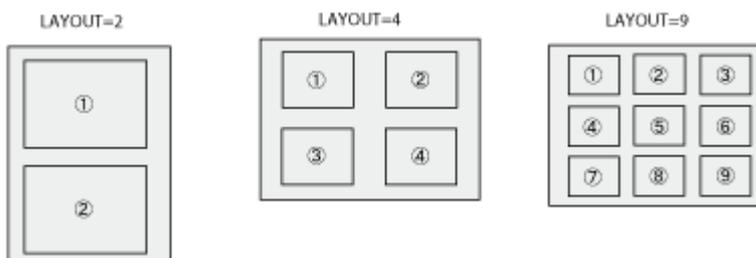
2、4、9:

1ページ内にそれぞれのページ数が配置されます。

縦



横



例) PDF-LAYOUT=4

省略時

1

特記事項

1、2、4、9以外を指定した場合、エラーとなります。

PDF-LIMITURI

書式

PDF-LIMITURI=<<改行コードを含む512バイト以内の文字列>

説明

List Creator デザイナーによってURI閲覧制限機能を設定したPDFファイルの、閲覧を許可するURIを追加します。

設定した値がPDF参照元のURIと前方一致で合致する場合に、PDFファイルの閲覧が許可されます。

また、複数のURIを許可することができます。

例)

ー フルパスでのURI指定の例

PDF-LIMITURI=http://www.xxx.yyy.zzz.co.jp/sample.pdf

ー ドメインまでのURI指定の例

PDF-LIMITURI=http://www.xxx.yyy.zzz.co.jp/

省略時

List Creator デザインで閲覧を許可したURIが有効となります。

特記事項

ー このキーワードの指定を有効にするには、List Creator デザインで必ずURI閲覧制限機能を設定しておく必要があります。URI閲覧制限機能の設定は、List Creator デザインの帳票業務情報のプロパティ画面の「ファイル」タブの文書情報設定画面で指定した閲覧制限の「URIによる閲覧制限を行う」チェックボックスをチェックします。

List Creator デザインでURI閲覧制限機能を設定せず、PDF文書情報ファイルの記述だけを設定した場合、閲覧制限機能は有効となりません。

ー PDFファイルを開いたURIが閲覧可能なサイトかどうかの識別は、先頭からの文字列比較によって行われます。なお、アルファベットの大文字、小文字は区別されません。

ー List Creator デザイン、およびPDF文書情報ファイルの両方で、閲覧可能なサイト(URI)を設定した場合、PDF文書情報ファイルで指定したURIのみが有効となります。

ー 複数のURIを許可する場合、このキーワードを複数回使用します。キーワードを複数回使用した場合、指定したすべてのURIが有効となります。

なお、このキーワードは最大99個まで使用できます。

ー 値にワイルドカード、および正規表現は指定できません。

ー 値に使用できる文字は、半角英数字、記号、および半角空白です。なお、半角空白は「%20」と指定してください。以下に半角空白の使用例を示します。

- PDF-LIMITURI=http://www.xxx.yyy.zzz/xxxx dir/ と指定する場合

PDF-LIMITURI=http://www.xxx.yyy.zzz/xxxx%20dir/

PDF-LIMITURICANCEL

書式

PDF-LIMITURICANCEL=ON | OFF

説明

List Creator デザインによって設定したURI閲覧制限機能を無効にします。

ON:

URI閲覧制限機能の設定を無効にします。

OFF:

URI閲覧制限機能の設定を無効にしません。

例) PDF-LIMITURICANCEL=ON

省略時

OFF

特記事項

ー ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。

ー このキーワードを複数回指定した場合、最後の指定のみ有効となります。

PDF-META

書式

PDF-META=ON | OFF

説明

文書情報からメタデータを生成して、PDFファイルに埋め込みます。

ON:

PDFファイルにメタデータを埋め込みます。

OFF:

PDFファイルにメタデータを埋め込みません。

例) PDF-META=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- このキーワードを複数回指定した場合、最後の指定のみ有効となります。

PDF-MMR

書式

PDF-MMR=ON | OFF

説明

2値データをMMRで圧縮します。

ON:

2値データをMMRで圧縮します。

OFF:

標準の圧縮方式となります。

例) PDF-MMR=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- データによって標準の圧縮方式の方が、圧縮率が良くなる場合があります。

PDF-MODIFY

書式

PDF-MODIFY=ON | OFF | ASMONLY | FFFILL | ADDANNOT

説明

Acrobatのセキュリティ情報として文書の変更の許可/不許可を設定します。

ON:

文書の変更を不許可とします。

OFF:

文書の変更を許可とします。

PDF-KEY128=ON 設定時はさらに以下の設定が有効になります。

ASMONLY:

文書アセンブリのみ許可します。

FFFILL:

フォームフィールドの入力または署名を許可します。

ADDANNOT:

注釈作成、フォームフィールドの入力または署名を許可します。

設定の様式は下表のようになります。

	文書の変更	注釈とフォームフィールドの作成	フォームフィールドの入力または署名	文書アセンブリ
ON	×	×	×	×
OFF	○	○	○	○
ASMONLY	×	×	×	○
FFFILL	×	×	○	×
ADDANNOT	×	○	○	×

○:変更可

×:変更不可

例) PDF-MODIFY=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF、ASMONLY、FFFILL、ADDANNOT以外を指定した場合、エラーとなります。さらに、PDF-KEY128=ONを設定していないときに、ASMONLY、FFFILL、ADDANNOTを指定するとエラーとなります。
- OFF以外を指定するときは、必ずPDF-SECUPWDでセキュリティ情報の変更に必要なパスワードを設定してください。パスワードの設定を行わない場合、指定したセキュリティが有効にならないことがあります。
- Acrobat 4.0およびAcrobat Reader 4.0では機能しません。Acrobat 5.0以降またはAcrobat Reader 5.0以降をお使いください。

PDF-NOENCMETA

書式

PDF-NOENCMETA=ON | OFF

説明

PDFファイルに文書情報から生成したメタデータを埋め込むときに、メタデータを暗号化するかどうかを指定します。

ON:

メタデータを暗号化しません。

OFF:

メタデータを暗号化します。

例) PDF-NOENCMETA=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。

- PDF-AES=ONを設定している、かつ、PDF-META=ONを設定している場合のみ有効となります。
- PDF-AES=ONが設定されていない、または、PDF-META=ONが設定されていない場合、このキーワードの指定は無視されます。

PDF-NOOCRБ

書式

PDF-NOOCRБ=ON | OFF

説明

ON:

PDF中で使用されるOCR-Bフォントのエンベッドを行いません。

OFF:

OCR-Bフォントが埋め込まれます。

例) PDF-NOOCRБ=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- クライアント環境にOCR-B書体が存在する場合には、ONを指定してファイルサイズを削減することができます。
- ONを指定して、クライアントにOCR-B書体が存在しない場合、フォントが代替されます。また、クライアントにインストールされているOCR-B書体または代替書体によっては、文字が正しく表示されない場合があります。

PDF-NOPRTSCALE

書式

PDF-NOPRTSCALE=ON | OFF

説明

文書の印刷時、ページの拡大/縮小を行うか否かを設定します。

ON:

ビューアアプリケーションの、印刷時の「ページの拡大/縮小」をなしに設定します。

OFF:

ビューアアプリケーションの、印刷時の「ページの拡大/縮小」のデフォルト設定に従います。

例) PDF-NOPRTSCALE=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- 印刷時に印刷設定ダイアログにおいて変更が行われた場合は、そちらが優先されます。
- ビューアアプリケーションの環境によっては機能しないことがあることにご注意ください。
- Adobe Acrobat 6.0以前およびAdobe Reader 6.0以前では機能しません。Adobe Acrobat 7.0以降またはAdobe Reader 7.0以降をお使いください。
- 本機能は「PDF自動印刷機能 (PDF-AUTOPRINT)」は未サポートです。

PDF-OPENPWD

書式

PDF-OPENPWD=<32バイト以内の文字列>

説明

Adobe ReaderでPDFファイルを開く際に必要なパスワードを記述します。

半角の英数字/記号以外を記述した場合Adobe Readerでファイルが正しく開かない場合があります。

例) PDF-OPENPWD=abcdefg&12345

省略時

オープンパスワードが設定されません。

特記事項

- このキーワードとPDF-SECUPWDに同じパスワードを指定しないでください。同じパスワードを指定すると、セキュリティオプションの設定が変更される場合があります。
- PDF文書情報ファイル上にパスワードがテキスト形式で可視化されてしまいますので、取り扱いには十分注意してください。

PDF-OVDCHARPOSITION

書式

PDF-OVDCHARPOSITION=ON | OFF

説明

KOL6形式のオーバーレイ文字の文字配置に「両端揃え」、「中央配置」、「右揃え」、または「文字幅の自動調整」が指定されている場合のオーバーレイ文字出力時の文字配置の計算方法を指定します。

ON:

オーバーレイ文字の文字配置を以下のように計算して出力します。出力方法「印刷」と同じ計算方法です。

両端揃え

字間(文字間隔)を再計算します。

中央配置

文字の開始位置を再計算します。

右揃え

文字の開始位置を再計算します。

文字幅の自動調整

文字幅比を再計算します。

OFF:

計算は行いません。オーバーレイデータの値で出力します。

例) PDF-OVDCHARPOSITION=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。

PDF-PAGEMODE

書式

PDF-PAGEMODE=NONE | OUTLINES | THUMBS | AUTO

説明

PDF文書を開くときのしおりやサムネールイメージの表示方法を設定することができます。

NONE:

しおりもサムネールイメージも表示しません。ナビゲーションパネルウィンドウは閉じた状態で表示されます。

OUTLINES:

しおりの有無にかかわらず、ナビゲーションパネルウィンドウの「しおり」タブが開いた状態で表示されます。

THUMBS:

ナビゲーションパネルウィンドウの「ページ」タブが開いた状態で表示されます。

AUTO:

しおりを作成した場合:ナビゲーションパネルウィンドウの「しおり」タブが開いた状態で表示されます。

しおりを作成しない場合:ナビゲーションパネルウィンドウは閉じた状態で表示されます。

例) PDF-PAGEMODE=NONE

省略時

AUTO

特記事項

- NONE、OUTLINES、THUMBS、AUTO以外を指定した場合、エラーとなります。
- Webブラウザ上で表示している場合など、Adobe Readerの環境によっては正しく機能しない場合があります。

PDF-PRINT

書式

PDF-PRINT=ON | OFF | LOWRESO

説明

PDFのセキュリティ情報としてプリントの許可/不許可を設定します。

ON:

プリントを不許可とします。

OFF:

プリントを許可とします。

LOWRESO:

低解像度のみのプリントが許可されます (PDF-KEY128=ON 設定時のみ有効)。

例) PDF-PRINT=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF、LOWRESO以外を指定した場合、エラーとなります。
PDF-KEY128=ONを設定していないときに、LOWRESOを指定すると、エラーとなります。
- OFF以外を指定するときは、必ずPDF-SECUPWDでセキュリティ情報の変更に必要なパスワードを設定してください。パスワードの設定を行わない場合、指定したセキュリティが有効にならないことがあります。
- Acrobat 4.0およびAcrobat Reader 4.0では機能しません。Acrobat 5.0以降またはAcrobat Reader 5.0以降をお使いください。

PDF-RESOURCEPERPAGE

書式

PDF-RESOURCEPERPAGE=ON | OFF

説明

Resource辞書の作成方法を設定します。

Resource辞書にはPDFファイルで使用される組込みメディアやバーコードの情報が格納されています。PDFファイルの各ページで多くの組込みメディアやバーコードを使用している場合、PDFファイルを表示・印刷するアプリケーションやプリンタによっては表示・印刷に時間がかかる場合があります。Resource辞書をページごとに作成することで、このようなPDFファイルの表示・印刷の性能が向上します。ただし、PDFファイルのサイズが1ページあたり100～200バイト増加します。

ON:

PDFファイルのResource辞書をページごとに作成します。

OFF:

Resource辞書はPDFファイルで1つのみ作成します。

例) PDF-RESOURCEPERPAGE=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- ONを指定した場合、PDFファイルのサイズは増加します。
- 出力したPDFファイルに組込みメディアやバーコードを多く使用していて、アプリケーションでの表示・印刷に時間がかかる場合のみ、ONを指定してください。

PDF-SECUPWD

書式

PDF-SECUPWD=<32バイト以内の文字列>

説明

Acrobatでセキュリティ情報を変更する際に必要なパスワードを記述します。

半角の英数字/記号以外を記述した場合、Adobe Readerでファイルが正しく開かない場合があります。

アルファベットの大文字/小文字は区別されます。

例) PDF-SECUPWD=ABCDEFGH#67890

省略時

セキュリティ情報パスワードが設定されません。

特記事項

- このキーワードとPDF-OPENPWDに同じパスワードを指定しないでください。同じパスワードを指定すると、セキュリティオプションの設定が変更される場合があります。
- PDF文書情報ファイル上にパスワードがテキスト形式で可視化されてしまいますので、取り扱いには十分注意してください。

PDF-SELECT

書式

PDF-SELECT=ON | OFF | ACCESSIBILITY | COPY+EXTRACT

説明

PDFのセキュリティ情報としてテキストとグラフィックスの選択の許可/不許可を設定します。

ON:

テキストとグラフィックスの選択を不許可とします。

OFF:

テキストとグラフィックスの選択を許可とします。

PDF-KEY128=ON 設定時はさらに以下の設定が有効になります。

ACCESSIBILITY:

アクセシビリティを許可します。

COPY+EXTRACT:

内容のコピー・抽出を許可します。

例) PDF-SELECT=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF、ACCESSIBILITY、COPY+EXTRACT以外を指定した場合、エラーとなります。
さらに、PDF-KEY128=ONを設定していない場合、ACCESSIBILITY、COPY+EXTRACTを指定するとエラーとなります。
- OFF以外を指定するときは、必ずPDF-SECUPWDでセキュリティ情報の変更に必要なパスワードを設定してください。パスワードの設定を行わない場合、指定したセキュリティが有効にならないことがあります。
- Acrobat 4.0およびAcrobat Reader 4.0では機能しません。Acrobat 5.0以降またはAcrobat Reader 5.0以降をお使いください。

PDF-SUBTITLE

書式

PDF-SUBTITLE=<改行コードを含む256バイト以内の文字列>

説明

PDFの文書情報のサブタイトルを記述します。

Acrobat Reader 4.0の[ファイル]－[文書情報]－[一般] (Acrobat Reader 5.0またはAdobe Reader 6.0以降の場合は、[ファイル]－[文書のプロパティ]－[概要]、Adobe Reader 8.0以降の場合は、[ファイル]－[プロパティ]－[概要])で参照が可能です。

256バイト以上の文字列を記述した場合、Adobe Readerでファイルが正しく開かない場合があります。

例) PDF-SUBTITLE=この文書はインストールに必要な情報です。

省略時

サブタイトル情報が空欄となります。

PDF-TITLE

書式

PDF-TITLE=<改行コードを含む256バイト以内の文字列>

説明

PDFの文書情報のタイトルを記述します。

Acrobat Reader 4.0の[ファイル]－[文書情報]－[一般] (Acrobat Reader 5.0またはAdobe Reader 6.0以降の場合は、[ファイル]－[文書のプロパティ]－[概要]、Adobe Reader 8.0以降の場合は、[ファイル]－[プロパティ]－[概要])で参照が可能です。

256バイト以上の文字列を記述した場合、Adobe Readerでファイルが正しく開かない場合があります。

例) PDF-TITLE=PDF変換機能インストールガイド

省略時

タイトル情報が空欄となります。

PDF-YENNONADJUST

書式

PDF-YENNONADJUST=ON | OFF

説明

PDFファイル中で使用される文字コード(Unicode)「0x005C」の変換方法を指定します。

ON:

「0x005C」を「0x00A5」に変換しません。

OFF:

「0x005C」を「0x00A5」に変換します。

Unicodeでは円記号(¥)は「0x00A5」に割り当てられており、「0x005C」にはバックスラッシュ(¥)が割り当てられています。しかし、日本語のOS環境ではバックスラッシュの代わりに円記号が指定されているため、「0x005C」でも円記号を出力したい場合があります。

そこで、List Creatorでは「0x005C」で指定された文字についても「0x00A5」に変換して、「0x005C」「0x00A5」とも円記号が出力されるようにしています。

「0x005C」でバックスラッシュを出力したい場合など、本来の文字コードで出力したい場合にはONを指定します。ONを指定した場合、「0x00A5」への変換を行いません。

例) PDF-YENNONADJUST=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- 使用するフォントによっては「0x005C」「0x00A5」とも円記号が割り当てられている場合があります。その場合、ONを指定してもバックスラッシュは出力されません。

2.2.5 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルの記述例

帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルの記述例を説明します。

設定項目

PDF文書情報ファイルに対して、以下のように定義します

- 1) PDFの作成者名 : PDF Author
- 2) PDFのタイトル名 : List Creator
- 3) PDFのサブタイトル名 : PDF変換機能
- 4) 印刷 : 許可
- 5) フォントのエンベッド : 外字 (利用者定義文字とJEF拡張文字) をエンベッド

記述例

以下に、記述例を示します。

```
[MF-PDF]
PDF-AUTHOR=PDF Author ..... 1)
PDF-TITLE=List Creator ..... 2)
PDF-SUBTITLE=PDF変換機能 ..... 3)
PDF-PRINT=OFF ..... 4)
PDF-EMBED=JEF+USER ..... 5)
```

2.2.6 PDFメール配信情報ファイル/PDFメール環境設定ファイルの指定方法

List Creatorでの指定方法

List Creatorの各インタフェースとして多くの機能が指定可能ですが、一部の機能はPDFメール配信情報ファイルに記述して、出力時に指定する必要があります。

また、PDFメール環境設定ファイルの必須設定項目も設定する必要があります。

“[2.2.8 PDFメール配信情報ファイルのキーワード一覧](#)”に、帳票出力インタフェースとの対応についても併記してあります。

MeFtでの指定方法

MeFtでは、PDF出力時にプリンタ情報ファイルとして出力先の情報を指定しますが、このプリンタ情報ファイルにPDFメール配信情報ファイルの記述を設定します。

また、PDFメール環境設定ファイルの必須設定項目も設定する必要があります。

ホスト連携プレミアムでの指定方法

PrintASSORTの仕分け情報定義体に、PDFメール配信情報ファイルの記述を設定します。

また、PDFメール環境設定ファイルの必須設定項目も設定する必要があります。

2.2.7 PDFメール配信情報ファイル/PDFメール環境設定ファイルの書式

PDFメール配信情報ファイル/PDFメール環境設定ファイルの書式は、以下のとおりです。

- PDFメール環境設定ファイルでは、半角英数字、および半角記号が使用できます。
なお、「MLF_FromFullName」のみ、上記に加えて、全角文字、および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_）」、「ハイフン(-)」、「半角空白」が使用できます。
- PDFメール配信情報ファイル/PDFメール環境設定ファイルに記述する文字コードは、以下のとおりです。
 - 帳票出力サーバがWindowsの場合
Shift-JISコードで、改行コードはCR+LF(0x0d+0x0a)
 - 帳票出力サーバがSolarisの場合
Shift-JISコード、EUCコード、またはUNICODE(UTF8)コードで、改行コードはLF(0x0a)
ユーザアプリケーション実行時の文字コード系に合わせて以下のように記述します。

プラットフォーム	ロケール名	コード種別
Solaris	ja_JP.PCK	Shift-JIS
	ja/ja_JP.eucJP	EUC
	ja_JP.UTF-8	UNICODE(UTF8)

- 帳票出力サーバがLinuxの場合
EUCコードまたはUNICODE(UTF8)コードで、改行コードはLF(0x0a)
ユーザアプリケーション実行時の文字コード系に合わせて以下のように記述します。

プラットフォーム	ロケール名	コード種別
Linux	ja_JP.eucJP	EUC
	ja_JP.UTF-8	UNICODE(UTF8)

- [キーワード]+[=]+[値]+[改行コード]の順で、1つのコマンドを記述してください。使用できるキーワードについては、以下を参照してください。
⇒ “[2.2.9 PDFメール配信情報ファイルのキーワード説明](#)”
⇒ “[2.2.10 PDFメール環境設定ファイルのキーワード一覧](#)”
- 値は、「=」文字の次から改行コードまでを指します。さらに使用できる文字種は全角/半角、日本語(JIS第一水準/第二水準)と英数字です。外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)を使用した場合、PDFメール配信機能がエラーとなることがあります。

- キーワードにない文字列は、コメントとみなします。
- 複数回指定できないキーワードを複数回設定すると、最後に指定したキーワード名=設定値が有効になります。
- 「#」を記述すると、以降の文字列はコメントとなります。
- 空白やタブは、無視されます。ファイルパス中の空白のみ有効になります。
- キーワード名は、大文字、小文字を区別しません。設定値は大文字、小文字を区別します。
- 設定値を空にするとデフォルト値となります。デフォルト値を用いる場合は設定を省略できます。
- 必須のキーワード名と値が設定されていない場合エラーとなります。
- PDFメール環境設定ファイルの変更は、PDFメール配信サービスまたはPDFメール配信デーモンの再起動後に有効になります。
- PDFメール配信サービス、およびPDFメール配信デーモンの再起動/起動/停止の各操作方法は以下のとおりです。

[PDFメール配信サービスの再起動方法]

一 帳票出力サーバがWindowsの場合

「ListCREATOR SendMaild Service」を起動します。

- Administrators権限を持つユーザでログオンし、[コントロールパネル]—[管理ツール]—[サービス]を選択します。
サービス一覧画面が表示されます。
- 「ListCREATOR SendMaild Service」を選択します。
- 「再起動」を選択してサービスを再起動します。

一 帳票出力サーバがUNIX系OSの場合

システム管理者権限でログオンし、以下のコマンドを実行して、PDFメール配信デーモンを再起動します。

```
/opt/FJSVedoc/etc/SKFJSVedocmail restart
```

[PDFメール配信サービスの起動方法]

一 帳票出力サーバがWindowsの場合

「ListCREATOR SendMaild Service」を起動します。

- Administrators権限を持つユーザでログオンし、[コントロールパネル]—[管理ツール]—[サービス]を選択します。
サービス一覧画面が表示されます。
- 「ListCREATOR SendMaild Service」を選択します。
- 「起動」を選択してサービスを起動します。

一 帳票出力サーバがUNIX系OSの場合

システム管理者権限でログオンし、以下のコマンドを実行して、PDFメール配信デーモンを起動します。

```
/opt/FJSVedoc/etc/SKFJSVedocmail start
```

[PDFメール配信サービスの停止方法]

以下の手順でPDFメール配信サービスを停止します。

一 帳票出力サーバがWindowsの場合

「ListCREATOR SendMaild Service」を起動します。

- Administrators権限を持つユーザでログオンし、[コントロールパネル]—[管理ツール]—[サービス]を選択します。
サービス一覧画面が表示されます。
- 「ListCREATOR SendMaild Service」を選択します。
- 「停止」を選択してサービスを停止します。

一 帳票出力サーバがUNIX系OSの場合

システム管理者権限でログオンし、以下のコマンドを実行して、PDFメール配信デーモンを停止します。

```
/opt/FJSVedoc/etc/SKFJSVedocmail stop
```

 **ポイント**

【Solaris版】の場合、List Creatorのインストール後に、PDFメール配信デーモンが自動起動します。

- PDFメール配信デーモン

```
/opt/FJSVedoc/bin/swmaild
```

- 起動/停止スクリプト

```
起動スクリプト : /etc/rc2.d/S88FJSVedocmail
```

```
停止スクリプト : /etc/rc0.d/K55FJSVedocmail
```

```
                  /etc/rc1.d/K55FJSVedocmail
```

2.2.8 PDFメール配信情報ファイルのキーワード一覧

以下に、PDFメール配信情報ファイルの各キーワードとList Creatorの帳票出力インタフェースで指定可能なパラメタとの対応について示します。

表2.2 PDFメール配信情報ファイルのキーワード一覧

セクション名	キーワード	説明	帳票出力インタフェースでの指定
[MLF_Message]	—	List Creator メールテンプレート変数定義の宣言です。	—
[MLF_Mail]	—	PDFメール配信機能の宣言です。	—
	MLF_ToAddress	送信先メールアドレスを設定します。 S/MIME形式で暗号化メールを送信するためには「ニックネーム」を設定する必要があります。	○
	MLF_CCAddress	カーボンコピー(CC)の送信先メールアドレスを設定します。	—
	MLF_BCCAddress	ブラインドカーボンコピー(BCC)の送信先メールアドレスを設定します。	—
	MLF_Attachments	生成したPDFファイル以外に電子メールに添付するファイルのフルパスを設定します。	—
	MLF_SMTPServer	SMTPサーバセクション名を設定します。	○
	MLF_FromAddress	配信されるメールのFromヘッダに記載されるアドレス名を設定します。	○
	MLF_FromFullName	配信されるメールのFromヘッダに記載されるフルネームを設定します。	○
	MLF_EnvelopeFromAddress	メールの送信状況を通知するメールアドレスを設定します。	—
MLF_EnvelopeID	メールの送信状況として、 MLF_EnvelopeFromAddressあてに配信されるメールのヘッダ中に Original-Envelope-ID:<設定値>というフィールドが追加されます。	—	

セクション名	キーワード	説明	帳票出力インタフェースでの指定
	MLF_FromNickname (帳票出力サーバがSolarisの場合のみ)	署名機能を使用する際のユーザ認識情報です。	—
	MLF_TextTemplate	PDFメールテンプレートファイルのパスを設定します。	—
	MLF_DeleteFile	メール送信後、PDFファイル、PDF文書情報ファイルを削除するかどうか指定します。	—
	MLF_Encrypt_Level (帳票出力サーバがSolarisの場合のみ)	暗号化メール、署名付きメール送信時に使用される暗号の強度を指定します。	—

○:帳票出力インタフェースで指定可能

—:帳票出力インタフェースで指定不可

2.2.9 PDFメール配信情報ファイルのキーワード説明

[MLF_Message]

説明

List Creatorメールテンプレート変数定義の宣言です。

PDFメールテンプレートを使用して変数を設定する場合、このキーワード以降の変数設定が有効になります。

省略時

PDFメールテンプレートを使用したメール配信は行われません。

特記事項

- このキーワードを複数回使用した場合は、最初の宣言以外は無視されます。
- このキーワード以降に、変数名=値としてテンプレートで使用する変数を1変数1行(4000バイト以内)で設定してください。
- PDFメールテンプレートファイル中に定義していない変数名は無視されます。
- MLF_TextTemplateキーワードによって、PDFメールテンプレートファイルが設定されていないときには、変数設定は無視されます。
- PDFメールテンプレートファイル中に変数名を設定し、このキーワード以降に変数値を定義しなかった場合、送信されるメールの変数部分は文字列が挿入されません。

[MLF_Mail]

書式

[MLF_Mail]

説明

メール配信機能の宣言をします。

メール配信機能連携時は、このキーワード以降のコマンドが有効になります。メール配信機能のキーワードよりも先に宣言してください。

省略時

メール配信は行われません。

特記事項

- このキーワードを複数回使用した場合は、最初の宣言以外は無視されます。
- メール配信機能のキーワードは、「MLF_****」で始まるキーワードが対象です。

MLF_ToAddress

書式

MLF_ToAddress=メールアドレス[,...]またはメールアドレス<ニックネーム>

説明

送信先メールアドレスを設定します。

ニックネームを指定することで、メールをS/MIME形式にして暗号化することができます。なお、ニックネームは帳票出力サーバがSolarisの場合のみ使用できます。

メールを暗号化するためには、以下の設定を行う必要があります。

- 証明書運用管理環境へのメール受信者証明書の登録

設定の詳細については、以下を参照してください。

⇒ “2.1.5 セキュアなメール配信を行う”

⇒ “2.4 証明書管理環境定義ファイル/証明書管理コマンド(【Solaris版】)”

例) MLF_ToAddress=lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp<lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp>

省略時

エラーとなります。

特記事項

- すべてのメールアドレス、ニックネームを合わせて4000バイト以内で記述してください。ただし、ニックネーム部は半角英数字80バイト以内で記述してください。
- このコマンドが同一アドレスに対し複数定義された場合、宛先の重複が発生しないように送信されます。また、このコマンドを複数回指定すると「カンマ(,)」区切りで連結されます。
- メールアドレスは、「メールボックス名@ドメイン名」の形式で記述します。
使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_）」、「ハイフン(-)」です。
- ニックネームを指定した場合、メールアドレスを複数指定することはできません。この場合、MLF_CCAddress、MLF_BCCAddressを指定しないでください。指定した場合、帳票出力時にエラーとなります。
- ニックネームはメールのアドレスの形式で指定してください。
- ニックネームは、帳票出力サーバがSolarisの場合のみ使用できます。

MLF_CCAddress

書式

MLF_CCAddress=メールアドレス[,...]

説明

カーボンコピー(CC)の送信先メールアドレスを設定します。

例) MLF_CCAddress=lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp

省略時

カーボンコピー(CC)によるメール配信は行われません。

特記事項

- すべてのメールアドレスを4000バイト以内で記述してください。
- このコマンドが複数定義された場合、宛先の重複が発生しないようにすべての宛先に送信されます。また、このコマンドを複数回指定すると「カンマ(,)」区切りで連結されます。
- メールアドレスは、「メールボックス名@ドメイン名」の形式で記述します。
使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_）」、「ハイフン(-)」です。

MLF_BCCAddress

書式

MLF_BCCAddress=メールアドレス[,...]

説明

ブラインドカーボンコピー (BCC) の送信先メールアドレスを設定します。

例) MLF_BCCAddress=lcuser@xxx.yyy.zzz.co.jp

省略時

ブラインドカーボンコピー (BCC) によるメール配信は行われません。

特記事項

- すべてのメールアドレスを4000バイト以内で記述してください。
- このコマンドが複数定義された場合、宛先の重複が発生しないようにすべての宛先に送信されます。また、このコマンドを複数回指定すると「カンマ(,)」区切りで連結されます。
- メールアドレスは、「メールボックス名@ドメイン名」の形式で記述します。
使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_）」、「ハイフン(-)」です。

MLF_Attachments

書式

MLF_Attachments=<4000バイト以内の文字列>

説明

生成したPDFファイル以外に電子メールに添付するファイルのフルパスを設定します。

例)

- 帳票出力サーバがWindowsの場合

MLF_Attachments=C:¥sample.txt

- 帳票出力サーバがUNIX系OSの場合

MLF_Attachments=/home/user/sample.txt

省略時

生成したPDFファイルのみ添付されます。

特記事項

- 複数のファイルを同時に送信する場合「カンマ(,)」で区切って指定してください。
- このコマンドが複数定義された場合、ファイルの重複が発生しないようにすべてのファイルが送信されます。また、このコマンドを複数回指定すると「カンマ(,)」区切りで連結されます。
- ファイルパス名に「カンマ(,)」を含んでいる場合、正しく送信されません。

MLF_SMTPServer

書式

MLF_SMTPServer=<4000バイト以内の文字列>

説明

PDFメール環境設定ファイルの[MLF_SMTPServer-設定名]セクションで設定したSMTPサーバセクション名を指定します。

指定したSMTPサーバを使用してPDFメール配信が行われます。

例) PDFメール環境設定ファイルで[MLF_SMTPServer-設定名]セクションを、以下のように設定した場合

```
[MLF_SMTPServer-default]
MLF_SMTPServerAddress=LC_SMTPServer001.xxx.yyy.zzz.co.jp
[MLF_SMTPServer-LC_SMTPServer]
MLF_SMTPServerAddress=LC_SMTPServer.xxx.yyy.zzz.co.jp
```

[MLF_SMTPServer-LC_SMTPServer]セクションで指定したSMTPサーバを指定したい場合は、MLF_SMTPServerの設定は以下のようになります。

```
MLF_SMTPServer=LC_SMTPServer
```

省略時

PDFメール環境設定ファイルに設定したSMTPサーバとなります。

特記事項

使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_)」、「ハイフン(-)」です。

MLF_FromAddress

書式

```
MLF_FromAddress=<4000バイト以内の文字列>
```

説明

配信されるメールのFromヘッダに記載されるアドレス名を設定します。

例) MLF_FromAddress=lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp

省略時

キーワードを省略した場合、以下の優先順序でキーワードが使用されます。
1の優先順序が一番高く、3になるにしたがって優先順序が低くなります。

1. PDFメール配信情報ファイルに記述したMLF_EnvelopeFromAddress
2. PDFメール環境設定ファイルのMLF_FromAddress
3. PDFメール環境設定ファイルのMLF_EnvelopeFromAddress

特記事項

使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_)」、「ハイフン(-)」です。

MLF_FromFullName

書式

```
MLF_FromFullName=<4000バイト以内の文字列>
```

説明

配信されるメールのFromヘッダに記載されるフルネームを設定します。

例) MLF_FromFullName=Listcreator owner

省略時

キーワードを省略した場合、以下の優先順序でキーワードが使用されます。
1の優先順序が一番高く、5になるにしたがって優先順序が低くなります。

1. PDFメール環境設定ファイルのMLF_FromFullName
2. PDFメール配信情報ファイルに記述したMLF_FromAddress
3. PDFメール配信情報ファイルに記述したMLF_EnvelopeFromAddress
4. PDFメール環境設定ファイルのMLF_FromAddress
5. PDFメール環境設定ファイルのMLF_EnvelopeFromAddress

特記事項

使用できる文字種は、全角文字、半角英数字、および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_)」、「ハイフン(-)」、「半角空白」です。

MLF_EnvelopeFromAddress

書式

MLF_EnvelopeFromAddress=<4000バイト以内の文字列>

説明

メールの送信状況を通知するメールアドレスを設定します。

例) MLF_EnvelopeFromAddress=lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp

省略時

PDFメール環境設定ファイルに定義されたMLF_EnvelopeFromAddressが設定されます。

特記事項

— 以下のいずれかに必ず設定してください。

- PDFメール配信情報ファイル

帳票配信ごとにメールの配信状況の通知先を変更する運用の場合は、PDFメール配信情報ファイルに記述してください。

- PDFメール環境設定ファイル

メールの配信状況の通知先を帳票配信ごとに変える必要がない場合は、PDFメール環境設定ファイルに記述してください。

PDFメール環境設定ファイル、PDFメール配信情報ファイルともに設定がない場合は、エラーとなります。

— 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_)」、「ハイフン(-)」です。

MLF_EnvelopeID

書式

MLF_EnvelopeID=<4000バイト以内の文字列>

説明

配信状況が通知されたとき、どの送信メールに対する配信状況かを判断するためのIDを指定します。

例) MLF_EnvelopeID=ID0000123

省略時

PDFメール環境設定ファイルで設定されているMLF_EnvelopeIDが設定されます。

PDFメール環境設定ファイルでも設定されていない場合は、メールヘッダにEnvelope-IDフィールドは追加されません。

特記事項

— 配信状況が通知されたときに、送信時のオリジナルメッセージを特定するために使用します。

— 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_)」、「ハイフン(-)」です。

MLF_FromNickname(帳票出力サーバがSolarisの場合のみ)

書式

MLF_FromNickname=<4000バイト以内の文字列>

説明

署名機能を使用するときに登録した送信者の証明書のニックネームを設定します。MLF_FromNicknameを指定することで、署名付きメールを送信できます。

例) MLF_FromNickname=Listcreator_PKI

省略時

署名機能は使用できません。

特記事項

- あらかじめ証明書管理環境に登録済みニックネームを設定してください。設定されていないニックネームが使用された場合、エラーとなります。
- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号です。

MLF_TextTemplate

書式

MLF_TextTemplate=<256バイト以内の文字列>

説明

PDFメールテンプレートファイルのパスを設定します。

例)

- 帳票出力サーバがWindowsの場合
MLF_TextTemplate=c:¥Listcreator¥mail¥template.txt
- 帳票出力サーバがUNIX系OSの場合
MLF_TextTemplate=/home/user/mail/template.txt

省略時

PDFメールテンプレートファイルを使用したメール配信は行われません。

特記事項

- ファイルパスは、フルパスで指定してください。
- [MLF_Message]キーワードの宣言以降に、PDFメールテンプレートファイル中に使用されている変数値を定義してください。
PDFメールテンプレートファイルの書式については、以下を参照してください。
⇒ [“PDFメール配信のメールsubject、メール本文を作成する”](#)

MLF_DeleteFile

書式

MLF_DeleteFile=0 | 1 | 2 | 3

説明

送信後、PDFファイル、PDF文書情報ファイルを削除するかどうか指定します。

0:

メール送信後、PDFファイルを残します。

1:

メール送信後、PDF文書情報ファイルを削除します。

2:

メール送信後、PDFファイルを削除します。

3:

メール送信後、PDF文書情報ファイル、およびPDFファイルを削除します。

例) MLF_DeleteFile=3

省略時

0

特記事項

List Creatorの帳票出力インタフェースを使用した場合、本キーワードは無効となり、PDF文書情報ファイルは削除されません。

MLF_Encrypt_Level(帳票出力サーバがSolarisの場合のみ)

書式

MLF_Encrypt_Level=level1 | level2

説明

暗号化メール、署名付きメール送信時に使用される暗号の強度を指定します。

level1:

暗号化メール送信時に使用する共通鍵のアルゴリズム:RC2/40

署名付きメール送信時に使用するハッシュアルゴリズム:SHA-1

level2:

暗号化メール送信時に使用する共通鍵のアルゴリズム:AES-128

署名付きメール送信時に使用するハッシュアルゴリズム:SHA-256

省略時

level1

注意事項

- 使用できる証明書の鍵長は以下のとおりです。
512bit, 768bit, 1024bit, 2048bit, 3072bit, 4096bit

特記事項

- ありません。

2.2.10 PDFメール環境設定ファイルのキーワード一覧

PDFメール環境設定ファイルのキーワードは、以下のとおりです。

表2.3 PDFメール環境設定ファイルのキーワード一覧([MLF_FixedItem]セクション)

キーワード名	説明(設定値)
MLF_QueueSavePath	送信キューの内容を保存するファイルへのパスを指定します。 メールの添付ファイル(PDF)は、メールの送信が完了するまで、このパスに保存されます。

表2.4 PDFメール環境設定ファイルのキーワード一覧([MLF_Default]セクション)

キーワード名	説明(設定値)
MLF_FromAddress	From:ヘッダに記載されるアドレスを指定します。
MLF_FromFullName	ヘッダのFrom:フィールドに記載される名前を指定します。
MLF_EnvelopeFromAddress	メールの送信状況を通知するメールアドレスを指定します。
MLF_EnvelopeID	DSN配信状況通知機能を利用する場合に、どの送信メールに対する配信状況かを判断するためにIDを指定します。
MLF_FromNickname(帳票出力サーバがSolarisの場合のみ)	署名機能で用いられるユーザ認識情報です。MLF_FromNicknameは省略可能ですが、省略すると署名機能を利用することができなくなります。
MLF_ReturnAddressFormat	送信メッセージ内のFrom:フィールドのフォームを指定します。
MLF_TextTemplate	PDFメールテンプレートファイルをフルパスで指定します。
MLF_DeleteFile	情報連携ファイル、添付ファイルを、メール送信後に削除するかどうか指定します。

キーワード名	説明(設定値)
MLF_DSNOption	DSN配送状況の通知条件をDSNに設定します。
MLF_UseRFC2231	添付ファイル名の送信形式を指定します。
MLF_UseMDNotifications	配達証明を要求するかどうか指定します。このオプションを設定すると、RFC2298に基づいたヘッダが付加されます。
MLF_SendPartialSize	メールを分割して送信する場合の、分割単位をキロバイト単位で指定します。
MLF_Encrypt_Level(帳票出力サーバがSolarisの場合のみ)	暗号化メール、署名付きメール送信時に使用される暗号の強度を指定します。

表2.5 PDFメール環境設定ファイルのキーワード一覧([MLF_SMTPServer-設定名]セクション)

キーワード名	説明(設定値)
MLF_SMTPServerAddress	SMTPサーバのアドレスを指定します。
MLF_SMTPPort	SMTPサービス(smtp)用のポート番号を指定します。
MLF_SMTPTimeout	SMTPサーバのタイムアウト秒数を指定します。
MLF_SMTPRetryCnt	メール送信エラー発生時の再送回数を指定します。
MLF_ConnectionCacheNum	同時に開くことのできる接続数の最大値を指定します。
MLF_MDNSendAddress	配達証明を要求する場合に、アドレスがMAIL FROMコマンドに使用されるかどうかを指定します。
MLF_SMTPAuth	SMTPサーバに接続する際の認証方式を設定します。
MLF_SMTPAuthUser	SMTP認証に使用するユーザIDを指定します。

2.2.11 PDFメール環境設定ファイルの説明

PDFメール環境設定ファイルは、PDFメール送信時の基本設定を行うファイルです。このファイルでは半角英数字、および記号が使用できます。

ポイント

PDFメール環境設定ファイルを変更した場合、PDFメール配信サービスおよびPDFメール配信デーモンを再起動する必要があります。再起動の方法は、以下を参照してください。

⇒ “2.2.7 PDFメール配信情報ファイル/PDFメール環境設定ファイルの書式”

[MLF_FixedItem]

書式

[MLF_FixedItem]

説明

PDFメール配信機能のサーバ資源の設定を行うためのセクションの宣言です。

省略時

サーバ資源の設定が有効になりません。

特記事項

- PDFメール送信時の一時データを格納するディレクトリを設定するキーワード「MLF_QueueSavePath」は、[MLF_FixedItem]セクションの後に設定してください。

MLF_QueueSavePath

書式

MLF_QueueSavePath=<220バイト以内の文字列>

説明

PDFメール送信時の一時データを格納するディレクトリをフルパスで指定します。

省略時

- 帳票出力サーバがWindowsの場合
List Creatorインストールディレクトリ¥mailqueue
- 帳票出力サーバがUNIX系OSの場合
/var/opt/FJSVedoc/mailqueue

特記事項

使用できる文字種は、半角英数字および半角記号です。

[MLF_Default]

書式

[MLF_Default]

説明

PDFメール配信の基本設定を行うセクションの宣言です。

[MLF_Default]セクションのキーワードを使用する場合は、必ず[MLF_Default]の後に設定してください。

省略時

[MLF_Default]セクション内のキーワードが無効となります。

特記事項

このセクションで設定したコマンドより、PDFメール配信情報ファイル[MLF_Mail]セクションで設定されたコマンドが優先されます。

MLF_FromAddress

書式

MLF_FromAddress=<4000バイト以内の文字列>

説明

配信されるメールのヘッダフィールドFromに記載されるメールアドレスを指定します。

例) MLF_FromAddress=listCreator@xxx.yyy.zzz.co.jp

省略時

MLF_EnvelopeFromAddressの設定値がヘッダに記載されるメールアドレスになります。

特記事項

- 複数のメールアドレスを指定しないでください。
- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_）」、「ハイフン(-)」です。

MLF_FromFullName

書式

MLF_FromFullName=<4000バイト以内の文字列>

説明

配信されるメールのヘッダフィールドFromに記載される名前を指定します。

省略時

Fromフィールドに名前は表示されません。

特記事項

- 使用できる文字種は、全角文字、半角英数字、および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_)」、「ハイフン(-)」、「半角空白」です。
- 複数の名前を指定しないでください。

MLF_EnvelopeFromAddress

書式

MLF_EnvelopeFromAddress=<4000バイト以内の文字列>

説明

メールの送信状況を通知するメールアドレスを指定します。

メールアドレスは、SMTPのmailコマンドで示されるデータで指定します。From:ヘッダが失われている場合、このメールアドレスはFrom:ヘッダでも用いられます。エンベロープ中の送り手アドレスは、メッセージ伝送状況の通知(DSN)の受け手として用いられ、また、Return-Path:ヘッダにも用いられます。

複数のメールアドレスを指定しないでください。

省略時

PDF文書情報ファイル、またはPDFメール配信情報ファイルで指定したMLF_EnvelopeFromAddressの値が設定されます。

特記事項

- 以下のいずれかに必ず設定してください。
 - PDF文書情報ファイル、またはPDFメール配信情報ファイル
帳票配信ごとにメールの配信状況の通知先を変更する運用の場合は、PDF文書情報ファイル、またはPDFメール配信情報ファイルに記述してください。
 - PDFメール環境設定ファイル
メールの配信状況の通知先を帳票配信ごとに変える必要がない場合は、PDFメール環境設定ファイルに記述してください。
- PDFメール環境設定ファイル、PDF文書情報ファイル、またはPDFメール配信情報ファイルともに設定がない場合は、エラーとなります。
- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_)」、「ハイフン(-)」です。

MLF_EnvelopeID

書式

MLF_EnvelopeID=<4000バイト以内の文字列>

説明

配信状況が通知されたとき、どの送信メールに対する配信状況かを判断するためのIDを指定します。

この項目を設定するとDSN配送状況通知機能を利用する場合に、配送報告の中にOriginal-Envelope-ID:<設定値>フィールドが含まれます。メッセージごとにMLF_EnvelopeIDを設定することによって、配送報告とオリジナルメッセージを結びつけることができるので、メッセージの再送信の自動化を行う場合などに利用できます。

例) MLF_EnvelopeID=ID0000123

省略時

配信されるメールヘッダにOriginal-Envelope-IDフィールドは追加されません。

特記事項

- 配信状況が通知された場合に、送信時のオリジナルメッセージを特定するために使用します。
- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_)」、「ハイフン(-)」です。

MLF_FromNickname(帳票出力サーバがSolarisの場合のみ)

書式

MLF_FromNickname=<4000バイト以内の文字列>

説明

署名機能を使用する場合に、証明書のニックネームを指定します。

例) MLF_FromNickname=ListCreator@xxx.yyy.zzz.co.jp

省略時

署名機能は使用できません。

特記事項

- 証明書管理環境に登録したニックネームを指定してください。設定されていないニックネームが指定された場合、エラーとなります。
- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_）」、「ハイフン(-)」です。

MLF_ReturnAddressFormat

書式

MLF_ReturnAddressFormat=%1<%2>

説明

配信されるメールのヘッダフィールドFromの書式を設定します。%1、%2はそれぞれ以下の値になります。

%1:

ヘッダフィールドFromの名前で設定した値です。

%2:

ヘッダフィールドFromのメールアドレスで設定した値です。

省略時

デフォルト値、%1<%2>が適用されます。

特記事項

使用できる文字種は、半角英数字および半角記号です。

MLF_TextTemplate

書式

MLF_TextTemplate=<256バイト以内の文字列>

説明

PDFメールテンプレートのパスをフルパスで指定します。

例) MLF_TextTemplate=C:\¥ListCreator¥mail¥template.txt

省略時

以下の値が設定され、デフォルトのテンプレートが使用されます。

- 帳票出力サーバがWindowsの場合
List Creatorインストールディレクトリ¥mail_template.txt
- 帳票出力サーバがSolarisの場合
/etc/opt/FJSVedoc/mail_template.txt

特記事項

- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号です。

- PDFメールテンプレートのパスには、PDF文書情報ファイル、またはPDFメール配信情報ファイルの[MLF_Message]セクションで指定したPDFメールテンプレートファイル中に使用されている変数値を設定してください。

PDFメールテンプレートファイルの書式については、以下を参照してください。

⇒ [“PDFメール配信のメールsubject、メール本文を作成する”](#)

MLF_DeleteFile

書式

MLF_DeleteFile=0 | 1 | 2 | 3

説明

PDFメール配信後、添付ファイル、PDF文書情報ファイルを削除するか指定します。

0:

そのまま残します。

1:

PDFメール配信後、PDF文書情報ファイルを削除します。

2:

PDFメール配信後、添付ファイルを削除します。

3:

PDFメール配信後、添付ファイル、およびPDF文書情報ファイルを削除します。

省略時

0

MLF_DSNOption

書式

MLF_DSNOption=never,failure,success,delay

説明

DSN配信状況の通知条件を設定します。MLF_EnvelopeFromAddressに設定したメールアドレスに通知されます。

各設定値は以下の意味を持ちます。

never:

何も通知しません。

failure:

PDFメール配信が失敗した場合に通知します。

success:

PDFメール配信が正常に行われた場合に通知します。

delay:

PDFメール配信に失敗したが、試行を継続する場合に通知します。

設定値を組み合わせを複数指定すると、複数の条件でDSN配送状況の通知を設定することができます。

設定値を複数指定する場合は、「カンマ(,)」で区切ります。

例) MLF_DSNOption=failure,delay

省略時

DSNを使用したメール配信は行われません。

特記事項

- DSN未対応のSMTPサーバを中継した場合、途中のSMTPサーバからの配送状況については、DSN対応/未対応にかかわらず、配送状況は通知されません。
- neverを他の設定値と組み合わせると、エラーとなります。
- never、failure、success、delay以外の値を指定すると、エラーとなります。

MLF_UseRFC2231

書式

MLF_UseRFC2231=0 | 1

説明

添付ファイル名の送信形式を指定します。

0:

添付ファイル名をRFC2231形式で送信しません。

1:

添付ファイル名をRFC2231形式で送信します。

省略時

0

MLF_UseMDNotifications

書式

MLF_UseMDNotifications=0 | 1

説明

配達証明を要求するか設定します。

0:

配達証明を無効にします。

1:

配達証明を有効にします。

省略時

0

特記事項

配達証明を有効にした場合、RFC2298に基づいたヘッダが付加されます。

MLF_SendPartialSize

書式

MLF_SendPartialSize=0 - 1024

説明

メールを分割して送信する場合の、分割単位をキロバイトで指定します。0～1024の範囲で指定します。

省略時

0(分割されません)

MLF_Encrypt_Level(帳票出力サーバがSolarisの場合のみ)

書式

MLF_Encrypt_Level=level1 | level2

説明

暗号化メール、署名付きメール送信時に使用される暗号の強度を指定します。

level1:

暗号化メール送信時に使用する共通鍵のアルゴリズム:RC2/40

署名付きメール送信時に使用するハッシュアルゴリズム:SHA-1

level2:

暗号化メール送信時に使用する共通鍵のアルゴリズム:AES-128

署名付きメール送信時に使用するハッシュアルゴリズム:SHA-256

省略時

level1

注意事項

- 使用できる証明書の鍵長は以下のとおりです。
512bit, 768bit, 1024bit, 2048bit, 3072bit, 4096bit

特記事項

ありません。

[MLF_SMTPServer-設定名]

書式

[MLF_SMTPServer-<設定値>]

説明

使用するSMTPサーバの宣言を行います。

異なる設定値を指定することで複数のSMTPサーバを指定することができます。

例) [MLF_SMTPServer-default]
MLF_SMTPServerAddress=LC_SMTPServer.xxx.yyy.zzz.co.jp
[MLF_SMTPServer-LCSMTPServer001]
MLF_SMTPServerAddress=LC_SMTPServer001.xxx.yyy.zzz.co.jp
[MLF_SMTPServer-LCSMTPServer002]
MLF_SMTPServerAddress=LC_SMTPServer002.xxx.yyy.zzz.co.jp

省略時

PDFメール配信時にエラーとなります。

特記事項

- 使用できる文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_）」、「ハイフン(-)」です。
- 複数のSMTPサーバを指定した場合のSMTPサーバの切り分けについては、以下を参照してください。
⇒ [“2.2.9 PDFメール配信情報ファイルのキーワード説明”のMLF_SMTPServer](#)

MLF_SMTPServerAddress

書式

MLF_SMTPServerAddress=FQDN名 | IPアドレス

説明

PDFメール配信時に使用するSMTPサーバを、FQDN名またはIPアドレスで指定します。

省略時

PDFメール配信時にエラーとなります。

特記事項

設定値が誤っている場合、ネットワークエラーとなり、再送処理が行われます。

MLF_SMTTPort

書式

MLF_SMTTPort=0-65535

説明

PDFメール配信で使用するSMTPサーバのSMTPサービスポート番号を、0～65535の間で指定します。

省略時

25

特記事項

設定値が誤っている場合、ネットワークエラーとなり、再送処理が行われます。

MLF_SMTPTimeout

書式

MLF_SMTPTimeout=30-1800

説明

SMTPサーバとのタイムアウト時間(秒)を、30～1800の間で設定します。

省略時

60

MLF_SMTPRetryCnt

書式

MLF_SMTPRetryCnt=-1 | 0-60(10進の整数)

例)

MLF_SMTPRetryCnt=-1

説明

メール送信に失敗し、かつその原因がリトライ可能なエラーであった場合の動作を指定します。

0:

メール送信のリトライを行いません。

1-60:

30秒ごとに指定回数、メール送信のリトライを行います。

-1:

30秒ごとに回数制限無しで、メール送信のリトライを行います。

文字など、数値以外の記述がされた場合、または範囲外の数値であった場合はパラメタエラーとなり、メールサービス起動に失敗します。

省略時

60

注意事項

- -1を指定した場合、作業ファイルが残る場合があります。
以下を参照してください。
⇒ [“3.6.1 作業ファイルの作成について”](#)

MLF_ConnectionCacheNum

書式

MLF_ConnectionCacheNum=1-10

説明

「MLF_SMTPServerAddress」で指定したSMTPサーバとの、同時に開くことのできる接続数の最大値を、1～10の間で設定します。1より大きい値を設定した場合、そのSMTPサーバに対して設定した値でメールを同時に送信します。

省略時

1

特記事項

[MLF_SMTPServer-設定名]セクションを複数記述することで、異なる複数のSMTPサーバに同時にメールを送信することができます。「MLF_ConnectionCacheNum」は、[MLF_SMTPServer-設定名]セクション内に同時に記述された「MLF_SMTPServerAddress」で設定されたSMTPサーバの最大の接続数を設定します。

MLF_MDNSendAddress

書式

MLF_MDNSendAddress=0 | 1

説明

配達証明を要求する場合に、メールアドレスをMAIL FROMコマンドに使用するかどうかを指定します。

0:

メールアドレスをMAIL FROMコマンドに使用しません。

1:

メールアドレスをMAIL FROMコマンドに使用します。

省略時

0

特記事項

- メールループを防ぐために、RFC2298では空白にしておくことを推奨しています。
- いくつかのSMTPサーバではスパム対策のために、MAIL FROMコマンドが空白である場合、送信を拒否します。

MLF_SMTPAuth

書式:

MLF_SMTPAuth=OFF | ON

説明:

SMTPサーバに接続する際の認証方式を設定します。

OFF:

認証なし

ON:

自動認証

ONを指定した場合、サポートする以下の認証方式の中から、優先度が高い順で認証方式を決定します。

決定した認証方式での認証に失敗した場合はその時点でエラーとなり、次の認証方式での認証は行いません。優先順位とサポートする認証方法は以下になります。

1. CRAM-MD5
2. LOGIN
3. PLAIN

対象のSMTPサーバが上記3つの認証方式のいずれもサポートしていない場合、または対象のSMTPサーバが認証なしの場合は、エラーになります。

ON指定時は、後述のキーワード「MLF_SMTPAuthUser」および、SMTP認証パスワード(lcmlfsetpasswdコマンドで指定)を指定する必要があります。

省略時:

OFF

特記事項:

- 当キーワードは、PDFメール環境設定ファイルの「[MLF_SMTPServer-設定名]セクション」に記述してください。
- 1つのセクション内に当キーワードを複数回指定した場合は、最後に指定したキーワードの値が有効となります。
- 当キーワードの設定は、同一セクション内に記述されたSMTPサーバに対して有効となります。
- 認証に失敗した場合、SMTPサーバからの応答コードによって、以下のとおりリトライの動作が異なります。
 - 応答コードが400番台:メール送信のリトライを行います。
 - 応答コードが500番台:リトライを行わず、エラーとなります。(注1)

リトライを行う回数および間隔については、キーワード「MLF_SMTPRetryCnt」の指定に従います。

注1:

- 400番台はサーバ不良による認証失敗など一時的な失敗を示すコードのため、再実行することで成功する可能性があります。
- 500番台はユーザー名・パスワードが間違っているなどの恒久的な失敗を示すコードのため、リトライは行いません。

MLF_SMTPAuthUser

書式:

MLF_SMTPAuthUser=<100バイト以内の文字列>

説明:

SMTP認証に使用するユーザIDを指定します。

指定可能な文字種は、半角英数字および半角記号(Unicodeで0020~007E)です。

文字列が100バイトを超過している場合、または指定不可能な文字種が指定されている場合はエラーとなります。

省略時:

「MLF_SMTPAuth=ON」が設定されている場合、エラーとなります。

「MLF_SMTPAuth=ON」が設定されていない場合、無効となります。

特記事項:

- 当キーワードは、PDFメール環境設定ファイルの「[MLF_SMTPServer-設定名]セクション」に記述してください。
- 1つのセクション内に当キーワードを複数回指定した場合は、最後に指定したキーワードの値が有効となります。
- 当キーワードの設定は、同一セクション内に記述されたSMTPサーバに対して有効となります。
- 「MLF_SMTPAuth=ON」が設定されていない場合、当キーワードは無効となります。

2.2.12 PDFメール配信情報ファイル/PDFメール環境設定ファイルの記述例

PDFメール配信情報ファイル

PDFメール配信情報ファイルの記述例について説明します。

設定項目

PDFメール配信情報ファイルに対して、以下の定義を行います。

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1) PDFメール配信の宛先 | : ListCreator-Receiver001@xxx.yyy.zzz.co.jp |
| 2) PDFメール配信のカーボンコピー (CC) の宛先 | : ListCreator-Receiver002@xxx.yyy.zzz.co.jp |
| 3) PDFメール配信のブラインドカーボンコピー (BCC) の宛先 | : ListCreator-Receiver003@xxx.yyy.zzz.co.jp |
| 4) PDFメール配信の送信者のメールアドレス | : ListCreator@xxx.yyy.zzz.co.jp |

記述例

以下に、記述例を示します。

```
[MLF_Mail]
MLF_ToAddress=ListCreator-Receiver001@xxx.yyy.zzz.co.jp..... 1)
MLF_CCAddress=ListCreator-Receiver002@xxx.yyy.zzz.co.jp..... 2)
MLF_BCCAddress=ListCreator-Receiver003@xxx.yyy.zzz.co.jp..... 3)
MLF_EnvelopeFromAddress=ListCreator@xxx.yyy.zzz.co.jp..... 4)
```

PDFメール環境設定ファイル

PDFメール環境設定ファイルの記述例について説明します。

設定項目

PDFメール環境設定ファイルに対して、以下の定義を行います。

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1) PDFメール配信の送信者のメールアドレス | : lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp |
| 2) PDFメール配信時に使用するSMTPサーバのFQDN名 | : lserver.xxx.yyy.zzz.co.jp |

記述例

以下に、記述例を示します。

```
[MLF_Default]
MLF_EnvelopeFromAddress=loowner@xxx.yyy.zzz.co.jp..... 1)
[MLF_SMTPServer-default]
MLF_SMTPServerAddress=lserver.xxx.yyy.zzz.co.jp..... 2)
```

2.2.13 PDF環境設定ファイルの概要

PDF環境設定ファイルとは、すべてのPDFファイル出力で共通な設定を行うファイルです。

PDFファイル出力で共通な設定はPDF環境設定ファイルに指定し、PDFファイル出力ごとの設定はPDF文書情報ファイルに指定することで、運用に合わせた機能の設定管理を容易に行えます。

PDF環境設定ファイルは、以下の場所に配置されます。

ファイルの格納先

【Windows版】

List Creatorインストールディレクトリ¥conf¥lc_pdf_env.conf

【UNIX系OS版】

/etc/opt/FJISVedoc/conf/lc_pdf_env.conf

PDF環境設定ファイルには、実行ユーザーの読み取り権限が必要です。

PDF環境設定ファイルの記述形式に誤りがある場合は、エラーとなります。

PDF環境設定ファイルの指定は、デザイナーでのプレビュー(プレビュー形式がPDFファイルの場合)でも有効となります。

2.2.14 PDF環境設定ファイルの書式

PDF環境設定ファイルの書式は、以下のとおりです。

- PDF環境設定ファイルに記述する文字コードは、以下のとおりです。
 - 帳票出力サーバがWindowsの場合
Shift-JISコードで、改行コードはCR+LF(0x0d+0x0a)
 - 帳票出力サーバがUNIX系OSの場合
文字コードは環境変数LANGの値に従い、改行コードはLF(0x0a)
- [キーワード]+[=]+[値]+[改行コード]の順で、1つのコマンドを記述してください。
使用できるキーワードについては、以下を参照してください。
⇒“2.2.16 PDF環境設定ファイルのキーワード説明”
- 値は、「=」文字の次から改行コードまでを指します。さらに使用できる文字種は全角/半角、日本語(JIS第一水準/第二水準)と英数字です。
外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)を使用した場合、PDF変換機能がエラーとなることがあります。
- キーワードにない文字列は、コメントとみなします。
- 複数回指定できないキーワードを複数回設定すると、最後に指定したキーワード名=設定値が有効になります。
- [MF-PDF]キーワード以外は、省略が可能です。
- 「#」を記述すると、以降の文字列はコメントとなります。
- 「=」以前の空白やタブは、キーワードが無効になります。「=」以降の空白やタブは、文字として扱います。
- キーワードは、大文字、小文字を区別して正しく記述してください。

2.2.15 PDF環境設定ファイルのキーワード一覧

キーワード名	説明
[MF-PDF]	PDF変換機能用PDF環境設定ファイルの宣言です。
PDF-AES	値にONを指定した場合、PDFをAES暗号で暗号化します。
PDF-ENCCHANGE	PDFファイル中で使用される欧文のフォントのエンベッドを行わなくても、出力したPDFファイルが英語版のAdobe Readerで閲覧可能になります。
PDF-JFONTTTE	PDFフォント登録を行ったフォントに対して使用する利用者定義文字を設定します。
PDF-JPEGCHECKMODE	PDFファイルにJPEG画像を埋め込む際のJPEG画像にエラーがあった場合の挙動についての設定を行います。
PDF-JPEGMODE	JPEGデータの変換方法を設定します。
PDF-LAYOUT	PDFファイルのページレイアウトを設定します。
PDF-META	値にONを指定した場合、文書情報からメタデータを生成してPDFファイルに埋め込みます。OFFを指定した場合はメタデータを埋め込みません。
PDF-MMR	2値データをMMRで圧縮します。
PDF-NOENCMETA	値にONを指定した場合、PDFファイルに埋め込むメタデータを暗号化しません。OFFを指定した場合は埋め込むメタデータを暗号化します。
PDF-NOOCRБ	値にONを指定した場合、PDFファイル中で使用されるOCR-Bフォントのエンベッドを行いません。OFFを指定した場合はOCR-Bフォントの埋め込みが行われます。
PDF-NOPRTSCALE	値にONを指定した場合、文書の印刷時、ページの拡大/縮小をなしに設定します。OFFを指定した場合は、ビューアアプリケーションの印刷設定に従います。

キーワード名	説明
PDF-OVDCHARPOSITION	値にONを指定した場合、オーバーレイ文字の文字配置を計算して出力します。OFFを指定した場合は計算せず、オーバーレイデータの値で出力します。
PDF-RESOURCEPERPAGE	PDFファイルのResource辞書をページごとに作成します。
PDF-YENNONADJUST	値にONを指定した場合、PDFファイル中で使用される文字コード(Unicode)「0x005C」を「0x00A5」に変換しません。OFFを指定した場合は変換します。

2.2.16 PDF環境設定ファイルのキーワード説明

[MF-PDF]

書式

[MF-PDF]

説明

PDF変換機能用PDF文書情報ファイルの宣言です。

この宣言以降のキーワードとその定義が有効になります。したがって、PDF変換時に使用するいずれのキーワードよりも先に宣言してください。

省略時

省略できません。

特記事項

このキーワードを複数回使用した場合は、最初の宣言以外は無効となります。

PDF-AES

書式

PDF-AES=ON | OFF

説明

PDFをAES暗号で暗号化します。

ON:

AES暗号で暗号化します。

OFF:

RC4暗号で暗号化します。

ただし、PDF 文書情報ファイル、または帳票出力時のコマンドのオプションでPDF-KEY128=ONを設定していない場合、このキーワードは無効になります。

例) PDF-AES=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- Adobe Acrobat 6.0以前およびAdobe Reader 6.0以前では機能しません。
Adobe Acrobat 7.0以降またはAdobe Reader 7.0以降をお使いください。

PDF-ENCCHANGE

書式

PDF-ENCCHANGE=ON | OFF

説明

ON:

PDFファイル中で使用する欧文のフォントのエンベッドを行わなくても、出力したPDFファイルが英語版のAdobe Readerで閲覧可能になります。

OFF:

PDFファイル中で使用する欧文のフォントのエンベッドを行っていない場合、出力したPDFファイルを英語版のAdobe Readerで閲覧する際に、日本語フォントのインストールを促すメッセージが出力されます。日本語フォントのインストールを行わない場合、PDFファイルを開覧する事はできません。

例) PDF-ENCCHANGE=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- 環境に依存せず全ての文字表示を保証したい場合は、PDFファイルにフォントをエンベッドする設定でPDF生成を行ってください。
- 本キーワードは、以下のいずれかの場合に有効となります。
 - PDFファイルで使用する欧文のフォントをPDFフォント登録した際に、エンベッド情報に「選択」を指定している、かつ、以下のいずれかの指定を行っている。
 - ・ PDF文書情報ファイルのキーワードで、「PDF-EMBED=NONE」または「PDF-EMBED=USER」を指定。
 - ・ List Creator デザイナの「帳票業務情報のプロパティ」の「文書情報設定画面」で、フォントのエンベッドの設定に「文字の埋め込み:埋め込まない」を指定。
 - PDFファイルで使用する欧文のフォントをPDFフォント登録した際に、エンベッド情報に「不可」を指定している。
- PDFフォント登録したフォントが欧文のフォントかどうかは、PDFフォントの登録状態を表示することで確認できます。
 - PDFフォントの登録状態を表示する方法は、以下を参照してください。
⇒ [“2.1.2 帳票設計時のフォントをPDF/TIFF中に使用する”](#)
 - PDFフォントの登録状態が以下のようにになっているフォントが、欧文のフォントとなります。
 - ・ GUIで確認する場合
種別が「欧文」と表示されているフォント
 - ・ コマンドラインで確認する場合
言語が「 」(空白)と表示されているフォント
 - PDFフォントの登録状態が以下のようにになっているフォントに対しては、本キーワードは無効になります。
 - ・ GUIで確認する場合
種別が「和文」、「韓国語」、「中国語 (簡体)」、または「中国語 (繁体)」と表示されているフォント
 - ・ コマンドラインで確認する場合
言語が「jp」、「kr」、「sc」、または「tc」と表示されるフォント

PDF-JFONTTTE

書式

PDF-JFONTTTE=FUJMIN | FUJGOT | DEFAULT

説明

PDFフォント登録を行ったフォントに対して、使用する利用者定義文字を設定します。

FUJMIN:

Charset Managerで配布された明朝用の外字ファイルを使用します。

FUJGOT:

Charset Managerで配布されたゴシック用の外字ファイルを使用します。

DEFAULT:

PDFフォント登録を行ったフォントに紐付けられたファイルを使用します。

例) PDF-JFONTTTE=FUJMIN

省略時

DEFAULT

特記事項

- このキーワードの指定を有効にするには、Charset Managerから事前に利用者定義文字を配布しておく必要があります。
詳細については“[2.1.9 外字を使用したPDFの出力方法](#)”、またはCharset Managerオンラインマニュアルを参照してください。
- 利用者定義文字の表示を行うためには、エンベッド指定が必須となります。
詳細については、“[2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明](#)”の「PDF-EMBED」の項目を参照してください。
- このキーワード指定は、すべての和文フォントに対して有効になります。

PDF-JPEGCHECKMODE

書式

PDF-JPEGCHECKMODE=WARNING | ERROR

説明

PDFファイルにJPEG 画像を埋め込む際のJPEG画像にエラーがあった場合の挙動についての設定を行います。

WARNING:

指定されたJPEG 画像ファイルが破損している等、画像ファイルの形式に異常があった場合でも、処理が継続可能な場合はメッセージを出力してPDF出力を行います。

ERROR:

指定された画像ファイルの形式に異常があった場合、エラーメッセージを出力して異常終了します。

例) PDF-JPEGCHECKMODE=WARNING

[出力されるエラーメッセージの例]

- WARNING設定時
Error:M2P:00000002:Data Error:Invalid image.(JPEG:%1):aico ana jpg.c(異常発生行数)
- ERROR設定時
Error:M2P:00000002:Data Error:Invalid image.(JPEG:%1):aico ana jpg.c(異常発生行数)
Error:M2P:00000002:Data Error::aico ana jpg.c(異常発生行)

[※] %1 にはエラー原因のメッセージが入ります。詳細は特記事項を参照してください。

省略時

ERROR

特記事項

- WARNING、ERROR以外を指定した場合、エラーとなります。

- 値にWARNINGを指定した時も、下記メッセージ以外のエラーは処理が継続不可能であるため異常終了となります。

[WARNINGで処理継続可能なエラー原因]

- Unknown Adobe color transform code %2
- Inconsistent progression sequence for component %2 coefficient %2
- Corrupt JPEG data: %2 extraneous bytes before marker %2
- Corrupt JPEG data: premature end of data segment
- Corrupt JPEG data: bad Huffman code
- Warning: unknown JFIF revision number %2
- Premature end of JPEG file
- Corrupt JPEG data: found marker %2 instead of RST%2
- Invalid SOS parameters for sequential JPEG
- Application transferred too many scanlines

[※] %2 には関連する数字情報が入ります。

PDF-JPEGMODE

書式

PDF-JPEGMODE=CONVERT | LEAVE | PROGRCNV

説明

JPEGデータの変換方法を設定します

本設定により、JPEGデータが入力された時の圧縮時の品質を設定することが可能です。

CONVERT:

PDF文書情報ファイルのPDF-JPEGQUALITYキーワードに従って、入力されたJPEGデータを内部変換してPDFに出力します。

LEAVE:

入力されたJPEGデータを内部変換せず、そのままPDFに出力します。

PROGRCNV:

プログレッシブJPEGデータの場合、非プログレッシブ形式に変換を行いません。

それ以外のJPEGデータは、内部変換せず、そのままPDFに出力します。

例) PDF-JPEGMODE=LEAVE

省略時

CONVERT

特記事項

- CONVERT、LEAVE、PROGRCNV以外を指定した場合、エラーとなります。
- LEAVEを指定しプログレッシブJPEGデータを使用した場合、Acrobat Reader 4.0では参照できない場合があります。
- プログレッシブJPEGデータを使用し、長期保存によるAcrobat/Adobe Readerの互換性が求められる場合、CONVERT または PROGRCNVを指定して非プログレッシブ形式に変換してください。

PDF-LAYOUT

書式

PDF-LAYOUT=1 | 2 | 4 | 9

説明

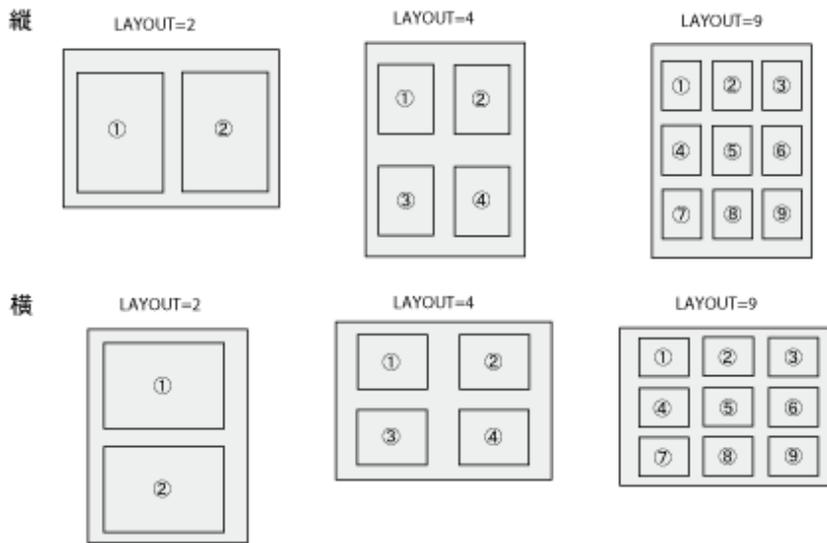
PDFファイルのページレイアウトを設定します。

1:

レイアウトは行いません。

2、4、9:

1ページ内にそれぞれのページ数が配置されます。



例) PDF-LAYOUT=4

省略時

1

特記事項

- 1、2、4、9以外を指定した場合、エラーとなります。
- List Creator デザイナの「帳票のプロパティ」にて「段組み印刷」を指定している場合、当キーワードの値は有効にはなりません。

PDF-META

書式

PDF-META=ON | OFF

説明

文書情報からメタデータを生成して、PDFファイルに埋め込みます。

ON:

PDFファイルにメタデータを埋め込みます。

OFF:

PDFファイルにメタデータを埋め込みません。

例) PDF-META=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- このキーワードを複数回指定した場合、最後の指定のみ有効となります。

PDF-MMR

書式

PDF-MMR=ON | OFF

説明

2値データをMMRで圧縮します。

ON:

2値データをMMRで圧縮します。

OFF:

標準の圧縮方式となります。

例) PDF-MMR=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- データによって標準の圧縮方式の方が、圧縮率が良くなる場合があります。

PDF-NOENCMETA

書式

PDF-NOENCMETA=ON | OFF

説明

PDFファイルに文書情報から生成したメタデータを埋め込むときに、メタデータを暗号化するかどうかを指定します。

ON:

メタデータを暗号化しません。

OFF:

メタデータを暗号化します。

例) PDF-NOENCMETA=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- PDF-AES=ONを設定している、かつ、PDF-META=ONを設定している場合のみ有効となります。
- PDF-AES=ONが設定されていない、または、PDF-META=ONが設定されていない場合、このキーワードの指定は無視されます。

PDF-NOOCRБ

書式

PDF-NOOCRБ=ON | OFF

説明

ON:

PDF中で使用されるOCR-Bフォントのエンベッドを行いません。

OFF:

OCR-Bフォントが埋め込まれます。

例) PDF-NOOCRБ=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- クライアント環境にOCR-B書体が存在する場合には、ONを指定してファイルサイズを削減することができます。
- ONを指定して、クライアントにOCR-B書体が存在しない場合、フォントが代替されます。また、クライアントにインストールされているOCR-B書体または代替書体によっては、文字が正しく表示されない場合があります。

PDF-NOPRTSCALE

書式

PDF-NOPRTSCALE=ON | OFF

説明

文書の印刷時、ページの拡大/縮小を行うか否かを設定します。

ON:

ビューアアプリケーションの、印刷時の「ページの拡大/縮小」をなしに設定します。

OFF:

ビューアアプリケーションの、印刷時の「ページの拡大/縮小」のデフォルト設定に従います。

例) PDF-NOPRTSCALE=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- 印刷時に印刷設定ダイアログにおいて変更が行われた場合は、そちらが優先されます。
- ビューアアプリケーションの環境によっては機能しないことがあることにご注意ください。
- Adobe Acrobat 6.0以前およびAdobe Reader 6.0以前では機能しません。Adobe Acrobat 7.0以降またはAdobe Reader 7.0以降をお使いください。
- 本機能は「PDF自動印刷機能(PDF-AUTOPRINT)」は未サポートです。
-

PDF-OVDCHARPOSITION

書式

PDF-OVDCHARPOSITION=ON | OFF

説明

KOL6形式のオーバーレイ文字の文字配置に「両端揃え」、「中央配置」、「右揃え」、または「文字幅の自動調整」が指定されている場合のオーバーレイ文字出力時の文字配置の計算方法を指定します。

ON:

オーバーレイ文字の文字配置を以下のように計算して出力します。出力方法「印刷」と同じ計算方法です。

両端揃え

字間(文字間隔)を再計算します。

中央配置

文字の開始位置を再計算します。

右揃え

文字の開始位置を再計算します。

文字幅の自動調整

文字幅比を再計算します。

OFF:

計算は行いません。オーバーレイデータの値で出力します。

例) PDF-OVDCHARPOSITION=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。

PDF-RESOURCEPERPAGE

書式

PDF-RESOURCEPERPAGE=ON | OFF

説明

Resource辞書の作成方法を設定します。

Resource辞書にはPDFファイルで使用される組込みメディアやバーコードの情報が格納されています。PDFファイルの各ページで多くの組込みメディアやバーコードを使用している場合、PDFファイルを表示・印刷するアプリケーションやプリンタによっては表示・印刷に時間がかかる場合があります。Resource辞書をページごとに作成することで、このようなPDFファイルの表示・印刷の性能が向上します。ただし、PDFファイルのサイズが1ページあたり100～200バイト増加します。

ON:

PDFファイルのResource辞書をページごとに作成します。

OFF:

Resource辞書はPDFファイルで1つのみ作成します。

例) PDF-RESOURCEPERPAGE=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- ONを指定した場合、PDFファイルのサイズは増加します。
- 出力したPDFファイルに組込みメディアやバーコードを多く使用していて、アプリケーションでの表示・印刷に時間がかかる場合のみ、ONを指定してください。

PDF-YENNONADJUST

書式

PDF-YENNONADJUST=ON | OFF

説明

PDFファイル中で使用される文字コード(Unicode)「0x005C」の変換方法を指定します。

ON:

「0x005C」を「0x00A5」に変換しません。

OFF:

「0x005C」を「0x00A5」に変換します。

Unicodeでは円記号(¥)は「0x00A5」に割り当てられており、「0x005C」にはバックスラッシュ(¥)が割り当てられています。しかし、日本語のOS環境ではバックスラッシュの代わりに円記号が指定されているため、「0x005C」でも円記号を出力したい場合があります。

そこで、List Creatorでは「0x005C」で指定された文字についても「0x00A5」に変換して、「0x005C」「0x00A5」とも円記号が出力されるようにしています。

「0x005C」でバックスラッシュを出力したい場合など、本来の文字コードで出力したい場合にはONを指定します。ONを指定した場合、「0x00A5」への変換を行いません。

例) PDF-YENNONADJUST=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- 使用するフォントによっては「0x005C」「0x00A5」とも円記号が割り当てられている場合があります。その場合、ONを指定してもバックスラッシュは出力されません。

2.2.17 PDF環境設定ファイルの記述例

PDF環境設定ファイルの記述例を説明します。

設定項目

PDF環境設定ファイルに対して、以下のように定義します

- 1) JPEG 画像を埋め込む際の動作 : 無変換で埋め込む
- 2) JPEG 画像にエラーがあった場合の挙動 : 可能な限りPDFを出力する

記述例

以下に、記述例を示します。

```
[MF-PDF]
PDF-JPEGMODE=LEAVE..... 1)
PDF-JPEGCHECKMODE=WARNING..... 2)
```

2.3 PDFファイル操作コマンド

List Creatorで生成したPDFファイルに対し、ファイルの結合やページ抽出などの操作が行えるコマンドです。

以下の操作が可能です

- 複数のPDFファイルを結合し1つのPDFファイルを生成する
- PDFファイルから指定したページを抽出し、新たなPDFファイルを生成する
- PDFファイルの文書情報(タイトル等)を取得したり、文書情報の設定をする
- PDFファイルに設定されているセキュリティ情報を取得したり、新たにセキュリティ情報を設定する
- PDFファイルの総ページ数を取得する
- PDFファイルの添付ファイルを抽出したり、添付ファイルの一覧を取得する

PDF操作コマンドで取得/設定する情報をPDF文書情報ファイルの形式で記述します。書式については、以下を参照してください。

⇒ “2.2.2 PDF文書情報ファイルの書式”

PDF操作コマンドで記述可能なキーワードについては、以下を参照してください。

⇒ “2.3.8 PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイルのキーワード一覧”

PDFファイル操作コマンドの一覧

PDFファイル操作コマンドの一覧を以下に示します。

表2.6 PDFファイル操作コマンドの一覧

種類	コマンド名	用途
PDFファイル結合 コマンド	pmfmerge	複数のPDFファイルを1つのPDFファイルに結合します。
ページ抽出 コマンド	pmfsplit	複数ページのPDFファイルから所定のページを抽出し新たなPDFファイルを生成します。
文書情報操作 コマンド	pmdocinf	既存のPDFファイルの文書情報(タイトル/サブタイトル/作成日付等)の取得/設定を行います。
セキュリティ情報操作 コマンド	pmsecinf	既存のPDFファイルに対してセキュリティオプションの取得/設定を行います。
ページ数取得 コマンド	pmpagcnt	既存のPDFファイルの総ページ数を取得します。
添付ファイル操作 コマンド	pmxteff	既存のPDFファイルの添付ファイルの抽出や添付ファイル一覧の取得を行います。



注意

List Creatorで生成したPDFファイルのみサポートしています。

PDFファイル操作コマンドの格納場所

PDFファイル操作コマンドの格納場所は以下のとおりです。

Windows

List Creatorインストールディレクトリ

UNIX系OS

/opt/FJSVedoc/bin

PDFファイル操作コマンドの記述について

- 本コマンドで指定されるオプションとパラメタ全体の最大文字列長は以下のようになります。
 - Windows:8,191文字以内
 - UNIX系OS:シェルによって最大文字列長が異なりますので、使用するシェルのマニュアルを参照してください。
- 本コマンドで指定可能なファイル名は以下のとおりです。

これ以外の文字を使用した場合、正しくファイルが読み込めなかったり、正しくファイルが生成できない可能性があります。

 - 半角数字、半角英字、半角記号

ただし、下記記号そのものをファイル名、ディレクトリ名として使用することはできません。

Windows:¥、/、:、?、*、”、<、>、|、(NULL)、(制御記号)

UNIX系OS:”、’、|、¥、:、\$、*、?、など。シェルによって異なりますので、詳細は使用するシェルのマニュアルを参照してください。
 - JIS第一/第二水準漢字

2.3.1 pmfmerge(PDFファイルの結合)

機能説明

pmfmergeコマンドは、List Creatorで生成した複数のPDFファイルを一つのPDFファイルに結合することができるコマンドです。

- パスワードによって保護されているPDFファイルも結合可能です。

- 既存のPDFファイルに、別の複数のPDFファイルを結合することや、新たなPDFファイルを生成して、複数のPDFファイルを結合することも可能です。
- 結合するPDFファイルは、ファイル単位で指定し全ページ結合されます。

記述形式

コマンド	オプション
pmfmerge 既存のPDFファイルに <input type="text"/> PDFファイルを結合する場合	-i 結合先PDFファイル [-o 結合先PDFファイル] [[-w パスワード]....] 入力PDFファイル1 [入力PDFファイル2....] ([]は省略することができます)
pmfmerge 新たなPDFファイルに <input type="text"/> PDFファイルを結合する場合	-o 結合先PDFファイル [[-w パスワード]....] 入力PDFファイル1 [入力PDFファイル2....] ([]は省略することができます)

オプション

-i 結合先(既存PDF)ファイル:

本オプションで指定した既存のPDFファイルの最終ページ以降にPDFファイルを指定した順番に結合します。PDFファイルはPDFファイル名の記述順に結合されます。

結合されたPDFファイルのセキュリティオプションと文書情報は、本オプションで指定した既存のPDFファイルの情報が引き継がれます。

-oオプションを併用した場合、-iで指定したPDFファイルのセキュリティオプションと文書情報を引き継いだ、新たなPDFファイルをおオプションで指定した新規PDFファイル名で生成します。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

本オプションで指定した結合先PDFファイルに以下のセキュリティオプションが設定されている場合、-wオプションで指定するパスワードにセキュリティオプション変更パスワードを指定してください。

- PDF文書情報キーワード「PDF-MODIFY=ON」または帳票定義情報の設定で「文書変更の許可:許可しない」
- PDF文書情報キーワード「PDF-MODIFY=ASMONLY」または帳票定義情報の設定で「文書変更の許可:文書アセンブリのみ許可する」
- PDF文書情報キーワード「PDF-MODIFY=FFFILL」または帳票定義情報の設定で「文書変更の許可:フォームフィールドの入力と署名を許可する」
- PDF文書情報キーワード「PDF-MODIFY=ADDANNOT」または帳票定義情報の設定で「文書変更の許可:注釈作成、フォームフィールドの入力と署名を許可する」

-o 結合先(新規PDF)ファイル:

本オプションで指定した新たなPDFファイルに、PDFファイルを指定した順番に結合します。PDFファイルはPDFファイルの記述順に結合されます。

-iオプションが併用されていない場合、結合されたPDFファイルのセキュリティオプションと文書情報は、設定されません。セキュリティオプションや文書情報の設定が必要な場合には、本コマンド終了後、pmsecinfまたはpmdocinfコマンドにて設定してください。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

指定した結合先ファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

-w パスワード:

PDFファイルや-iオプションで指定する結合先ファイルにパスワードが設定されている場合、本オプションによりパスワードを記述してください。PDFファイルごとに異なるパスワードが設定されている場合は、順不同でパスワードの種類分記述してください。

入力PDFファイルや-iオプションで指定する結合先ファイルに設定されているセキュリティオプションの種類に応じて、権限の高いセキュリティオプション変更パスワードを指定してください。

指定されたパスワードが合致せずPDFファイルを開くことができなかった場合、その他のエラー(invalid password.)となります。

入力PDFファイル:【必須】

結合を行うPDFファイルを結合する順番に指定します。

入力PDFファイルが1つも存在しない場合、または指定したファイルが存在しない場合には、パラメタエラーとなります。

入力PDFファイルに以下のセキュリティオプションが設定されている場合、-wオプションで指定するパスワードに、セキュリティオプション変更パスワードを指定してください。

- PDF文書情報キーワード「PDF-SELECT=ON」または
帳票定義情報の設定で「テキストとグラフィックスの選択:不許可」
- PDF文書情報キーワード「PDF-SELECT=ACCESSIBILITY」または
帳票定義情報の設定で「テキストとグラフィックスの選択:アクセシビリティを許可する」

復帰値

0:

正常終了

1:

異常終了(パラメタエラー)

標準エラー出力に下記エラーメッセージが出力されます。

```
Usage: pmfmerge -i basePDF [-o outputPDF] [[-w password]...] inputPDF1 [inputPDF2 ...]
       pmfmerge -o outputPDF [[-w password]...] inputPDF1 [inputPDF2 ...]
```

2:

異常終了(その他のエラー)

標準エラー出力に出力されるエラーメッセージは、以下を参照してください。

⇒ “表2.8 PDF操作コマンド共通エラーメッセージ”

⇒ “表2.9 PDF操作コマンド(pmfmerge)エラーメッセージ”

参照

pmsecinf、pmdocinf

実行に必要な権限

コマンド実行ユーザーには、PDFファイルまたはPDF文書情報ファイルの読み取り/書き込み権限が必要です。

注意事項

- -iオプションで結合先ファイルを指定した場合、“結合先ファイル名”+“.bak”という名称でバックアップファイルが-iオプションで指定したファイルと同一ディレクトリに作成されます。

本バックアップファイルは、正常終了時に削除されますが、PDFファイルの書き出し中にエラーが発生したときには残存します。エラー発生時には、“結合先ファイル”+“.bak”ファイルの名前を変更するか、削除してください。

- すべてのファイル単位(全ページ)で結合されます。



注意

-iオプションで“結合先ファイル”を指定した場合、“結合先ファイル”+“.bak”というファイルが-iオプションで指定したファイルと同一ディレクトリに既に存在していると、エラーとなります。

使用例1

既存のPDFファイル“original.pdf”に2つのPDFファイル(mydata1.pdf, mydata2.pdf)を順番に結合する場合。

```
pmfmerge -i original.pdf mydata1.pdf mydata2.pdf
```

使用例2

2つのPDFファイル(mydata1.pdf, mydata2.pdf)を順番に結合し、新たな“newfile.pdf”を作成する。さらに入力PDFファイル(mydata2.pdf)にはパスワード“abcd”が設定されている場合

```
pmfmerge -o newfile.pdf -w abcd mydata1.pdf mydata2.pdf
```

実行結果/出力形式

異常終了時には、コマンドエラーメッセージとイベントログまたはシステムログに異常終了に関する情報を出力します。コマンドエラーメッセージについては、以下を参照してください。

→ “2.3.11 PDF操作コマンドエラーメッセージ一覧”

イベントログまたはシステムログに出力されるメッセージについては、オンラインマニュアル“メッセージ集”を参照してください。

2.3.2 pmfsplit(PDFファイルからページの抽出)

機能説明

pmfsplitコマンドは、List Creatorで生成したPDFファイルから指定したページを抽出し、新たなPDFファイルを生成することができるコマンドです。

- パスワードによって保護されているPDFファイルからページの抽出が可能です。
- 抽出するページの範囲指定や単一ページを複数指定することが可能です。

記述形式

コマンド	オプション
pmfsplit 指定した抽出ページをまとめて複数ページのPDFファイルを1つ生成	-i 入力PDFファイル [-w パスワード] -r 抽出ページ指定 -o 出力PDFファイル ([]は省略することができます)
pmfsplit 指定した抽出ページごとに1ページのPDFファイルを生成	-i 入力PDFファイル [-w パスワード] -g 抽出ページ指定 -n 出力PDFファイル名プレフィックス ([]は省略することができます)
pmfsplit 既定の規則に従って、1ページのPDFファイルを生成	-i 入力PDFファイル [-w パスワード] -x 抽出ページ規則指定 -n 出力PDFファイル名プレフィックス ([]は省略することができます)

オプション

-i 入力PDFファイル:【必須】

ページを抽出するPDFファイルを指定します。

本オプションを複数指定した場合や省略した場合は、パラメタエラーとなります。

入力PDFファイルに以下のセキュリティオプションが設定されている場合、-wオプションで指定するパスワードに、セキュリティオプション変更パスワードを指定してください。

- PDF文書情報キーワード「PDF-SELECT=ON」または帳票定義情報の設定で「テキストとグラフィックスの選択:不許可」
- PDF文書情報キーワード「PDF-SELECT=ACCESSIBILITY」または帳票定義情報の設定で「テキストとグラフィックスの選択:アクセシビリティを許可する」

-o 出力PDFファイル:

出力先のPDFファイルを指定します。-rオプション指定時は必須です。

本オプションを複数指定した場合や-rオプション指定時に省略した場合は、パラメタエラーとなります。

指定したPDFファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

-w パスワード:

入力PDFファイルにパスワードが設定されている場合、本オプションを使用してパスワードを記述してください。

-iオプションで指定する入力PDFファイルに設定されているセキュリティオプションの種類に応じて、権限の高いセキュリティオプション変更パスワードを指定してください。

指定されたパスワードが合致せずPDFファイルを開くことができなかった場合、その他のエラー(invalid password.)となります。

本オプションを複数使用した場合エラーとなります。

-n 出力PDFファイル名プレフィックス:

出力先のディレクトリパスを含めたファイル名のプレフィックスを指定します。

-gおよび-xオプション指定時は必須です。

以下の規則で出力PDFファイル名が設定されます。

- “出力PDFファイル名プレフィックス”+“ページ番号”+“.pdf”

ページ番号部は、入力PDFファイルの総ページ数の桁数で、0補完されます。

例) 100ページのPDFファイルを抽出し、出力PDFファイル名プレフィックスを“C:¥User¥mydocument”とした場合、3ページ目のファイル名は以下の通りになります。

C:¥User¥mydocument003.pdf

セキュリティオプションや文書情報の設定が必要な場合には、本コマンド終了後、pmsecinfまたはpmdocinfコマンドにて設定してください。

本オプションを複数指定した場合や-gおよび-xオプション指定時に省略した場合は、パラメタエラーとなります。

指定したPDFファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

-r 抽出ページ指定:

抽出するページをひとつにまとめて1つのPDFファイルを生成する場合に指定します。

抽出するページの指定方法は、カンマ区切りによるページ番号の列挙とコロンを使用したページ範囲指定が可能です。ページは、1以上で入力PDFファイルの最大ページ数以下の数値を指定します。

- 単一ページ指定方法 : n1,n2,n3,....

例) 1,5,3 (1ページ目、5ページ目、3ページ目の順で抽出)

- ページ範囲指定方法 : x:y

例) 6:10 (6ページ目~10ページ目の範囲を抽出)

- 単一ページ指定とページ範囲指定を併用した指定方法 : n1,n2,...,z:y,m1,..m2

例) 1,3,5,8:10,12 (1,3,5ページ目,8~10ページ目,12ページ目を抽出)

ページ範囲指定の場合、コロンの前に指定するページ数は、コロンの後に指定するページ数より小さくなくてはなりません(x:yの場合、x>yとなる場合パラメタエラーとなります)。

抽出するページが重複した場合、エラーとなります。

指定したページが入力PDFに存在しない場合、エラーとなります。入力PDFファイルの総ページ数が不明な場合、あらかじめpmpagcntコマンドにて総ページ数を取得してください。

指定したPDFファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

-g 抽出ページ指定:

抽出するページを単一ページのPDFファイルとして生成する場合に指定します。

抽出するページの指定方法は、カンマ区切りによるページ番号の列挙とコロンを使用したページ範囲指定が可能です。ページは、1以上で入力PDFファイルの最大ページ数以下の数値を指定します。

- 単一ページ指定方法 : n1,n2,n3,....

例) 1,5,3 (1ページ目、5ページ目、3ページ目の順で抽出)

- ページ範囲指定方法 : x:y

例) 6:10 (6ページ目～10ページ目の範囲を抽出)

- 単一ページ指定とページ範囲指定を併用した指定方法 : n1,n2,...,z:y,m1,..m2

例) 1,3,5,8:10,12 (1,3,5ページ目,8～10ページ目,12ページ目を抽出)

ページ範囲指定の場合、コロンの前に指定するページ数は、コロンの後に指定するページ数より小さくなくてはなりません。(x:yの場合、x>yとなる場合パラメタエラーとなります)

抽出するページが重複した場合、エラーとなります。

指定したページが入力PDFに存在しない場合、エラーとなります。入力PDFファイルの総ページ数が不明な場合、あらかじめ `mpagcmt` コマンドにて総ページ数を取得してください。

指定したPDFファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

-x 抽出ページ規則指定:

抽出するページを別々の単一ページのPDFファイルとして生成する場合に指定します。

抽出するページの指定方法は、以下の規則が指定可能です。

- 全ページを抽出 : -x all
- 最終ページのみ抽出 : -x last
- 偶数ページのみ抽出 : -x even
- 奇数ページのみ抽出 : -x odd

本オプションを複数使用した場合エラーとなります。

指定したPDFファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

復帰値

0:

正常終了

1:

異常終了(パラメタエラー)

標準エラー出力に下記エラーメッセージが出力されます。

```
Usage: pmfsplit -i inputPDF [-w openpwd] -r pagenostr -o outputPDF
       pmfsplit -i inputPDF [-w openpwd] -g pagenostr -n outputPDFprefix
       pmfsplit -i inputPDF [-w openpwd] -x defstr -n outputPDFprefix
```

2:

異常終了(その他のエラー)

標準エラー出力に出力されるエラーメッセージは、以下を参照してください。

⇒ “表2.8 PDF操作コマンド共通エラーメッセージ”

⇒ “表2.10 PDF操作コマンド(`pmfsplit`)エラーメッセージ”

参照

`pmsecinf`, `pmdocinf`, `mpagcmt`

実行に必要な権限

コマンド実行ユーザーには、PDFファイルまたはPDF文書情報ファイルの読み取り/書き込み権限が必要です。

使用例1

既存のPDFファイル“original.pdf”から5～9ページ目を抽出し、ひとまとめにして“result.pdf”を生成する場合。

```
pmfsplit -i original.pdf -r 5:9 -o result.pdf
```

使用例2

既存のPDFファイル“original.pdf”(全10ページ)から2ページ目と5～9ページ目を抽出し1ページずつ別々のファイルに分割し、ファイル名のプレフィックスをresultとしてファイルを生成する場合。

```
pmfsplit -i original.pdf -g 2,5:9 -n result
出力されるPDFファイル名:result02.pdf, result05.pdf, ..., result09.pdf
```

使用例3

既存のPDFファイル“original.pdf”(全100ページ)を1ページずつ別々のファイルに分割し、ファイル名のプレフィックスをresultとしてファイルを生成します。さらに入力PDFファイル(original.pdf)にはパスワード“abcd”が設定されている場合。

```
pmfsplit -i original.pdf -w abcd -x all -n result
出力されるPDFファイル名:result001.pdf, result002.pdf, ..., result100.pdf
```

実行結果/出力形式

異常終了時には、コマンドエラーメッセージとイベントログまたはシステムログに異常終了に関する情報を出力します。コマンドエラーメッセージについては、以下を参照してください。

⇒ [“2.3.11 PDF操作コマンドエラーメッセージ一覧”](#)

イベントログまたはシステムログに出力されるメッセージについては、オンラインマニュアル“メッセージ集”を参照してください。

2.3.3 pmdocinf(PDFファイルの文書情報操作)

機能説明

pmdocinfコマンドは、List Creatorで生成したPDFファイルの文書情報(タイトル、サブタイトル、作成者、作成日付など)を取得したり、設定/変更することができるコマンドです。

- パスワードによって保護されているPDFファイルも操作可能です。
- 操作対象の文書情報は以下のとおりです。
 - タイトル(PDF-TITLE)
 - サブタイトル(PDF-SUBTITLE)
 - 作成者(PDF-AUTHOR)
 - 文書作成アプリケーション名(PDF-CREATOR)[取得のみ]
 - PDF作成アプリケーション名(PDF-PRODUCER)[取得のみ]
 - PDF作成日付(PDF-CREATIONDATE)[取得のみ]
 - PDF更新日付(PDF-MODDATE)[取得のみ]
- 文書情報の取得/設定は、“[2.2.2 PDF文書情報ファイルの書式](#)”の形式で行います。

記述形式

コマンド	オプション
pmdocinf PDFファイルの文書情報を取得する	-i 入力PDFファイル [-w パスワード] -O 出力PDF文書情報ファイル ([]は省略することができます)

コマンド	オプション
pmdocinf PDFファイルに文書情報を設定/変更する	-i 入力PDFファイル [-w パスワード] -I 入力PDF文書情報ファイル [-o 出力PDFファイル] [-m] ([]は省略することができます)

オプション

-i 入力PDFファイル:【必須】

文書情報を取得もしくは設定を行う入力PDFファイルを指定します。

本オプションで指定した入力PDFファイルに以下のセキュリティオプションが設定されており、-Iオプションで文書情報を設定/変更を行う場合、-wオプションで指定するパスワードにセキュリティオプション変更パスワードを指定してください。

- PDF文書情報キーワード「PDF-MODIFY=ON」または
帳票定義情報の設定で「文書変更の許可:許可しない」
- PDF文書情報キーワード「PDF-MODIFY=ASMONLY」または
帳票定義情報の設定で「文書変更の許可:文書アセンブリのみ許可する」
- PDF文書情報キーワード「PDF-MODIFY=FFFILL」または
帳票定義情報の設定で「文書変更の許可:フォームフィールドの入力と署名を許可する」
- PDF文書情報キーワード「PDF-MODIFY=ADDANNOT」または
帳票定義情報の設定で「文書変更の許可:注釈作成、フォームフィールドの入力と署名を許可する」

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-o 出力PDFファイル:

文書情報を設定/変更を行い、新しいファイルとして保存する場合にPDFファイル名を指定します。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

指定したPDFファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

本オプションを省略した場合、-iで指定した入力PDFファイルを上書き保存します。この際、“入力PDFファイル”+“.bak”という名称でバックアップファイルが-iオプションで指定したファイルと同一ディレクトリに作成されます。

本バックアップファイルは、正常終了時に削除されますが、PDFファイルの書き出し中にエラーが発生したときには残存します。エラー発生時には、“入力PDFファイル”+“.bak”ファイルの名前を変更するか、削除してください。



-oオプションを指定せず、入力PDFファイルを上書き保存する場合、“入力PDFファイル”+“.bak”というファイルが-iオプションで指定したファイルと同一ディレクトリに存在する場合、エラーとなります。

-O 出力PDF文書情報ファイル:

入力PDFファイルに設定されている文書情報を、本オプションで指定したPDF文書情報ファイルとして出力します。PDF文書情報ファイルの書式やキーワードについては、以下を参照してください。

⇒ [“2.2.2 PDF文書情報ファイルの書式”](#)

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

指定したPDF文書情報ファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

-I 入力PDF文書情報ファイル:

設定/変更する文書情報を、本オプションで指定したPDF文書情報ファイル形式で指定します。PDF文書情報ファイルの書式やキーワードについては、以下を参照してください。

⇒ [“2.2.2 PDF文書情報ファイルの書式”](#)

文書情報以外のPDF文書情報ファイルのキーワードは無視されます。

PDF文書情報ファイルの記述に誤りがある場合や、指定されたPDF文書情報ファイルが存在しない場合はエラーとなります。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-w パスワード:

入力PDFファイルにパスワードが設定されている場合、本オプションによりパスワードを記述してください。

-iオプションで指定する入力PDFファイルに設定されているセキュリティオプションの種類に応じて、権限の高いセキュリティオプション変更パスワードを指定してください。

指定されたパスワードが合致せずPDFファイルを開くことができなかった場合、その他のエラー(*invalid password*.)となります。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-m:

文書情報のメタデータを生成してPDFファイルに追加する場合に指定してください。PDFファイルにセキュリティ情報が設定されている場合、メタデータは暗号化されます。

入力PDFファイルが文書情報のメタデータを含む場合、-mオプションの指定に関わらず、メタデータは更新されます。この際、入力PDFファイルにセキュリティ情報が設定されている場合、メタデータは暗号化されます。

-mオプションが指定されない場合、メタデータはPDFファイルに追加されません。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

復帰値

0:

正常終了

1:

異常終了(パラメタエラー)

標準エラー出力に下記エラーメッセージが出力されます。

```
Usage: pmdocinf -i inputPDF [-w openpwd] -O inffile
pmdocinf -i inputPDF [-w openpwd] -I inffile [-o outputPDF] [-m]
```

2:

異常終了(その他のエラー)

標準エラー出力に出力されるエラーメッセージは、以下を参照してください。

⇒ [“表2.8 PDF操作コマンド共通エラーメッセージ”](#)

実行に必要な権限

コマンド実行ユーザーには、PDFファイルまたはPDF文書情報ファイルの読み取り/書き込み権限が必要です。

使用例1

既存のPDFファイル“original.pdf”に設定されている文書情報をPDF文書情報ファイル“docout.inf”へ出力する場合

```
pmdocinf -i original.pdf -O docout.inf
```

使用例2

既存のPDFファイル“original.pdf”に設定されている文書情報をPDF文書情報ファイル“docsetting.inf”で指定した文書情報に変更し、新たな“newdoc.pdf”を出力する場合。入力PDFファイル“original.pdf”にはパスワード“abcd”が設定されている

```
pmdocinf -i original.pdf -w abcd -I docsetting.inf -o newdoc.pdf
```

実行結果/出力形式

異常終了時には、コマンドエラーメッセージとイベントログまたはシステムログに異常終了に関する情報を出力します。コマンドエラーメッセージについては、以下を参照してください。

⇒ [“2.3.11 PDF操作コマンドエラーメッセージ一覧”](#)

イベントログまたはシステムログに出力されるメッセージについては、オンラインマニュアル“メッセージ集”を参照してください。

2.3.4 pmsecinf(PDFファイルのセキュリティ操作)

機能説明

pmsecinfコマンドは、既存のPDFファイルのセキュリティ情報を取得したり、新たにセキュリティ情報を付加したり、セキュリティ情報を解除することが可能です。

- ー 操作対象のセキュリティ情報は以下のとおりです。
 - オープンパスワード(PDF-OPENPWD)[設定のみ]
 - セキュリティオプション変更パスワード(PDF-SECUPWD)[設定のみ]
 - 注釈、フォームフィールドの追加、変更の許可/不許可(PDF-ANOTATE)
 - 文書の変更の許可/不許可(PDF-MODIFY)
 - 印刷の許可/不許可(PDF-PRINT)
 - テキストとグラフィックスの選択の許可/不許可(PDF-SELECT)
 - 128bit暗号化の設定 (PDF-KEY128)
 - AES暗号化の設定 (PDF-AES)
 - メタデータの暗号化/非暗号化の設定 (PDF-NOENCMETA)
- ー セキュリティ情報の取得/設定は、“[2.2.2 PDF文書情報ファイルの書式](#)”の形式で行います。

記述形式

コマンド	オプション
pmsecinf PDFファイルのセキュリティ情報を取得する	-i 入力PDFファイル [-w パスワード] -O 出力PDF文書情報ファイル ([]は省略することができます)
pmsecinf PDFファイルにセキュリティ情報を設定/変更する	-i 入力PDFファイル [-w パスワード] -I 入力PDF文書情報ファイル [-o 出力PDFファイル] ([]は省略することができます)
pmsecinf PDFファイルのセキュリティ情報を解除する	-i 入力PDFファイル [-w パスワード] -D [-o 出力PDFファイル] ([]は省略することができます)

オプション

-i 入力PDFファイル:【必須】

セキュリティ情報を取得/設定/解除を行う入力PDFファイルを指定します。

本オプションを省略した場合や、複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-o 出力PDFファイル:

セキュリティ情報を設定/変更/解除を行い新しいファイルとして保存する場合にPDFファイル名を指定します。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

指定したPDFファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

本オプションを省略した場合、-iで指定した入力PDFファイルを上書き保存します。この際、“入力PDFファイル”+“.bak”という名称でバックアップファイルが-iオプションで指定したファイルと同一ディレクトリに作成されます。

本バックアップファイルは、正常終了時に削除されますが、PDFファイルの書き出し中にエラーが発生したときには残存します。エラー発生時には、“入力PDFファイル”+“.bak”ファイルの名前を変更するか、削除してください。

注意

-o オプションを指定せず、入力PDFファイルを上書き保存する場合、“入力PDFファイル”+“.bak”というファイルが-iオプションで指定したファイルと同一ディレクトリに存在する場合、エラーとなります。

-O 出力PDF文書情報ファイル:

入力PDFファイルに設定されているセキュリティ情報を、本オプションで指定したPDF文書情報ファイルとして出力します。PDF文書情報ファイルの書式やキーワードについては、以下を参照してください。

⇒ “2.2.2 PDF文書情報ファイルの書式”

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

指定したPDF文書情報ファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

-I 入力PDF文書情報ファイル:

設定/変更するセキュリティ情報を、本オプションで指定したPDF文書情報ファイル形式で指定します。PDF文書情報ファイルの書式やキーワードについては、以下を参照してください。

⇒ “2.2.2 PDF文書情報ファイルの書式”

セキュリティ情報以外のPDF文書情報ファイルのキーワードは無視されます。

PDF文書情報ファイルの記述に誤りがある場合や、指定されたPDF文書情報ファイルが存在しない場合はエラーとなります。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-w パスワード:

入力PDFファイルにパスワードが設定されている場合、本オプションによりパスワードを記述してください。

セキュリティ情報を付加する際に指定するパスワードは、“セキュリティオプション変更パスワード”を指定してください。入力PDFファイルにセキュリティオプション変更パスワードが設定されていない場合には、“PDFファイルを開くパスワード”を指定してください。

指定されたパスワードが合致せずPDFファイルを開くことができなかつた場合、その他のエラー(invalid password.)となります。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-D:

入力PDFファイルのセキュリティ情報を解除する場合に指定します。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

復帰値

0:

正常終了

1:

異常終了(パラメタエラー)

標準エラー出力に下記エラーメッセージが出力されます。

```
Usage: pmsecinf -i inputPDF [-w openpwd] -O inffile
       pmsecinf -i inputPDF [-w openpwd] -I inffile [-o outputPDF]
       pmsecinf -i inputPDF [-w openpwd] -D [-o outputPDF]
```

2:

異常終了(その他のエラー)

標準エラー出力に出力されるエラーメッセージは、以下を参照してください。

⇒ “表2.8 PDF操作コマンド共通エラーメッセージ”

⇒ “表2.11 PDF操作コマンド(pmsecinf)エラーメッセージ”

実行に必要な権限

コマンド実行ユーザーには、PDFファイルまたはPDF文書情報ファイルの読み取り/書き込み権限が必要です。

使用例1

既存のPDFファイル“original.pdf”に設定されているセキュリティ情報をPDF文書情報ファイル“secout.inf”へ出力する場合

```
pmsecinf -i original.pdf -O secout.inf
```

使用例2

既存のPDFファイル“original.pdf”に設定されているセキュリティ情報をPDF文書情報ファイル“secsetting.inf”で指定したセキュリティ情報に変更し、新たな“newsec.pdf”を出力する場合。入力PDFファイル“original.pdf”にはパスワード“abcd”が設定されている

```
pmsecinf -i original.pdf -w abcd -I secsetting.inf -o newsec.pdf
```

使用例3

既存のPDFファイル“original.pdf”に設定されているセキュリティ情報を解除し、新たな“newsec.pdf”を出力する場合。入力PDFファイル“original.pdf”にはパスワード“abcd”が設定されている

```
pmsecinf -i original.pdf -w abcd -D -o newsec.pdf
```

実行結果/出力形式

異常終了時には、コマンドエラーメッセージとイベントログまたはシステムログに異常終了に関する情報を出力します。コマンドエラーメッセージについては、以下を参照してください。

⇒ [“2.3.11 PDF操作コマンドエラーメッセージ一覧”](#)

イベントログまたはシステムログに出力されるメッセージについては、オンラインマニュアル“メッセージ集”を参照してください。

2.3.5 pmpagcnt (PDFファイルのページ数取得)

機能説明

pmpagcntコマンドは、List Creatorで生成したPDFファイルの総ページ数を取得することができるコマンドです。

- パスワードによって保護されているPDFファイルも取得可能です。
- ページ数の取得結果は、PDF文書情報ファイル形式で出力、もしくは標準出力に出力します。

記述形式

コマンド	オプション
pmpagcnt 既存のPDFファイルの総ページ数を取得する	-i 入力PDFファイル [-w パスワード] [-O 出力PDF文書情報ファイル] ([]は省略することができます)

オプション

-i 入力PDFファイル:【必須】

ページ数の取得を行う入力PDFファイルを指定します。

本オプションを省略した場合や、複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-w パスワード:

入力PDFファイルにパスワードが設定されている場合、本オプションによりパスワードを記述してください。指定するパスワードは、“PDFファイルを開くパスワード”、“セキュリティオプション変更パスワード”どちらのパスワードでも使用可能です。

指定されたパスワードが合致せずPDFファイルを開くことができなかった場合、その他のエラー (invalid password.) となります。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-O 出力PDF文書情報ファイル:

入力PDFファイルの総ページ数を、本オプションで指定したPDF文書情報ファイルとして出力します。出力されるPDF文書情報ファイルのキーワードは「PDF-PAGECNT」のみです。PDF文書情報ファイルの書式やキーワードについては、以下を参照してください。

⇒ [“2.2.2 PDF文書情報ファイルの書式”](#)

本オプションを省略した場合、標準出力に総ページ数のみ10進数で出力されます。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

指定したPDF文書情報ファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

復帰値

0:

正常終了

1:

異常終了(パラメタエラー)

標準エラー出力に下記エラーメッセージが出力されます。

```
Usage: pmpagcnt -i inputPDF [-w openpwd] [-O outinfile]
```

2:

異常終了(その他のエラー)

標準エラー出力に出力されるエラーメッセージは、以下を参照してください。

⇒ “表2.8 PDF操作コマンド共通エラーメッセージ”

実行に必要な権限

コマンド実行ユーザーには、PDFファイルまたはPDF文書情報ファイルの読み取り/書き込み権限が必要です。

使用例1

既存のPDFファイル“original.pdf”から総ページ数を取得し、結果をPDF文書情報ファイル“paginf.inf”に出力する場合。

```
pmpagcnt -i original.pdf -O paginf.inf
```

PDF文書情報ファイル“paginf.inf”の出力例

```
[PM-PDF]
PDF-PAGECNT=10
```

使用例2

既存のPDFファイル“original.pdf”から総ページ数を取得し、結果を標準出力に出力する場合。

```
pmpagcnt -i original.pdf
> 10
```

実行結果/出力形式

異常終了時には、コマンドエラーメッセージとイベントログまたはシステムログに異常終了に関する情報を出力します。コマンドエラーメッセージについては、以下を参照してください。

⇒ “2.3.11 PDF操作コマンドエラーメッセージ一覧”

イベントログまたはシステムログに出力されるメッセージについては、オンラインマニュアル“メッセージ集”を参照してください。

2.3.6 pmxteff(PDFファイルの添付ファイル操作)

機能説明

pmxteffコマンドは、List Creatorで生成したPDFファイルにファイル添付機能にて添付されたファイルの一覧を取得したり、抽出することができるコマンドです。

- パスワードによって保護されているPDFファイルも操作可能です。
- 添付されているファイルの一覧を取得できます。
- 添付されているファイルを全て抽出できます。
- 添付されているファイルを一覧に表示された名前、または、番号で取得できます。

記述形式

コマンド	オプション
pmxteff 添付ファイルの一覧を取得する	-i 入力PDFファイル [-w パスワード] -L [-v] ([]は省略することができます)
pmxteff 添付ファイルを全て抽出する	-i 入力PDFファイル [-w パスワード] -A -d 出力先ディレクトリ [-R] [-v] ([]は省略することができます)
pmxteff 添付ファイルをインデックス番号で抽出する	-i 入力PDFファイル [-w パスワード] -X インデックス番号 [-o 出力PDFファイル] [-d 出力先ディレクトリ] ([]は省略することができます)
pmxteff 添付ファイルをファイル名で抽出	-i 入力PDFファイル [-w パスワード] -F 添付ファイル名 [-o 出力PDFファイル] [-d 出力先ディレクトリ] ([]は省略することができます)

オプション

-i 入力PDFファイル:【必須】

添付ファイルの一覧を取得もしくは抽出を行う入力PDFファイルを指定します。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-w パスワード:

入力PDFファイルにパスワードが設定されている場合、本オプションによりパスワードを記述してください。

-iオプションで指定する入力PDFファイルに設定されているセキュリティオプションの種類に応じて、権限の高いセキュリティオプション変更パスワードを指定してください。

指定されたパスワードが合致せずPDFファイルを開くことができなかつた場合、その他のエラー(invalid password.)となります。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-L:

添付ファイルの一覧を表示する場合に指定してください。

同一のファイル名の添付ファイルが複数存在する場合、一覧にはファイル名が複数回表示されます。

システムにおいて利用できないファイル名の添付ファイルが存在する場合、一覧にはファイル名が表示されません。後述の-vオプションを同時に指定して、詳細な一覧を表示してください。

-Lオプションは、-A、-X、-Fオプションと同時に指定できません。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-v:

添付ファイルの詳細な一覧を表示する場合に指定してください。

-Lオプションと同時に指定した場合、詳細な一覧では、インデックス番号、ファイル名、サイズ、更新日時、埋め込み種別、ファイルの種類順で、カンマ区切りで表示します。先頭行には固定で見出しを出力します。

-Rオプションと同時に指定した場合、詳細な一覧では、埋め込み(元)ファイル名、出力ファイル名、サイズ、更新日時、埋め込み種別、結果の順で、カンマ区切りで表示します。先頭行には固定で見出しを出力します。

ファイル名はダブルクォーテーションで囲んで表示されます。

埋め込み種別は埋め込みデータオブジェクトの場合は「EF」、注釈ファイルの場合は「PP」で表示されます。

-vオプションは、必ず-Lオプション、または、-Rオプションと同時に指定してください。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-A:

添付ファイルを全て抽出する場合に指定してください。

抽出できない添付ファイルがあった場合、そのファイルはスキップされます。抽出するファイル名にシステムにおいて利用できないファイル名が使用されていた場合、以下のようにファイル名が変更されます。

ファイル名:effを使用します。

拡張子:ファイルの種類に合わせた拡張子を使用します。

なお、ファイル名を変更した結果、同じファイル名の抽出した他のファイルが存在する場合は、ファイル名の拡張子を除いた部分に「_(連番)」を付加した形式でファイル名が重ならないように変更します。

-Aオプションは、必ず-dオプションと同時に指定してください。

-Aオプションは、-L、-X、-Fオプションと同時に指定できません。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-d 出力先ディレクトリ:

添付ファイルを出力する先のディレクトリを指定します。

指定されたディレクトリが存在しない場合、新規に作成します。なお、添付ファイルを抽出する際にエラーが発生した場合でも、作成したディレクトリは削除されません。

出力先ディレクトリにすでに抽出するファイル名と同じファイル名が存在する場合、上書きされます。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-R:

添付ファイルを全て抽出した際、抽出した結果のファイル名の一覧を表示する場合に指定してください。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-X インデックス番号:

添付ファイルをインデックス番号を指定して抽出する場合に指定してください。

抽出できない添付ファイルであった場合、エラーとなります。抽出するファイル名にシステムにおいて利用できないファイル名が使用されていた場合、以下のようにファイル名が変更されます。

ファイル名:effを使用します。

拡張子:ファイルの種類に合わせた拡張子を使用します。

存在しないインデックス番号を指定した場合はエラーとなります。

-Xオプションは、必ず-dオプション、または、-oオプションと同時に指定してください。

-Xオプションは、-L、-A、-Fオプションと同時に指定できません。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

-o 出力PDFファイル:

抽出する添付ファイルを、新しいファイルとして保存する場合にファイル名を指定します。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

指定したファイル名と同一名ファイルが存在している場合、上書き保存されます。ただし、ファイルを上書きする権限がない場合には、エラーとなります。

-F 添付ファイル名:

添付ファイルをファイル名を指定して抽出する場合に指定してください。

同一のファイル名の添付ファイルが複数存在する場合、インデックス番号の小さい方のファイルが抽出されます。

存在しない添付ファイル名を指定した場合はエラーとなります。

-Fオプションは、必ず-dオプション、または、-oオプションと同時に指定してください。

-Fオプションは、-L、-A、-Xオプションと同時に指定できません。

本オプションを複数指定した場合は、パラメタエラーとなります。

復帰値

0:

正常終了

1:

異常終了(パラメタエラー)

標準エラー出力に下記エラーメッセージが出力されます。

```
Usage: pmexteff -i inputPDF [-w openpwd] -L[-v]
       pmexteff -i inputPDF [-w openpwd] -A -d outputdirname [-R[-v]]
       pmexteff -i inputPDF [-w openpwd] -X index [-o outputfilename] | [-d outputdirname]
       pmexteff -i inputPDF [-w openpwd] -F orgname [-o outputfilename] | [-d outputdirname]
```

2:

異常終了(その他のエラー)

標準エラー出力に出力されるエラーメッセージは、以下を参照してください。

⇒ [“表2.8 PDF操作コマンド共通エラーメッセージ”](#)

⇒ [“表2.12 PDF操作コマンド\(pmexteff\)エラーメッセージ”](#)

実行に必要な権限

コマンド実行ユーザーには、PDFファイルの読み取り権限が必要です。

使用例1

PDFファイル“original.pdf”の添付ファイルの一覧をファイル名のみ表示する場合

```
pmexteff -i original.pdf -L
```

使用例2

PDFファイル“original.pdf”の添付ファイルの一覧を詳細に表示する場合

```
pmexteff -i original.pdf -L -v
```

使用例3

PDFファイル“original.pdf”の添付ファイルを全てカレントディレクトリに出力し、抽出した結果を表示する場合

```
pmexteff -i original.pdf -A -d . -R
```

使用例4

PDFファイル“original.pdf”のインデックス番号1の添付ファイルを「attach.txt」として抽出する場合

```
pmexteff -i original.pdf -X 1 -o attach.txt
```

使用例5

PDFファイル“original.pdf”の添付ファイル「abc.xml」を「output」ディレクトリに出力する場合

```
pmexteff -i original.pdf -F abc.xml -d output
```

実行結果/出力形式

異常終了時には、コマンドエラーメッセージとイベントログまたはシステムログに異常終了に関する情報を出力します。コマンドエラーメッセージについては、以下を参照してください。

⇒ [“2.3.11 PDF操作コマンドエラーメッセージ一覧”](#)

イベントログまたはシステムログに出力されるメッセージについては、オンラインマニュアル“メッセージ集”を参照してください。

2.3.7 PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイル

PDF操作コマンドを使用して、文書情報(タイトル/サブタイトル等)やセキュリティオプションの設定などを、PDF文書情報ファイルの形式で定義することができます。

さらに、既存のPDFファイルの文書情報(タイトル/サブタイトル等)やページ数の取得を行うことができます。

PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイルの書式は、以下を参照してください。

⇒ “2.2.2 PDF文書情報ファイルの書式”

PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイルのキーワードの一覧は、以下を参照してください。

⇒ “2.3.8 PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイルのキーワード一覧”

PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイルのキーワードの説明は、以下を参照してください。

⇒ “2.3.9 PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明”

2.3.8 PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイルのキーワード一覧

以下に、PDF操作コマンドのパラメタとして設定/取得が可能なPDF文書情報ファイルの各キーワードと関連するPDF操作コマンドでの設定/取得種別の対応について示します。

表2.7 PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイルのキーワード一覧

分類	キーワード名	説明	設定/取得
宣言	[PM-PDF]	PDF操作コマンド用PDF文書情報ファイルの宣言です。	
文書情報 (*1)	PDF-AUTHOR	PDFファイルの文書情報の作成者の設定と取得が行えます。	設定と取得が可能
	PDF-CREATIONDATE	PDFファイルを作成した日時を取得します。	取得のみ可能
	PDF-CREATOR	ドキュメントを作成したアプリケーション名を取得します。	取得のみ可能
	PDF-MODDATE	PDFファイルを更新した日時を取得します。	取得のみ可能
	PDF-PRODUCER	PDFファイルを変換したアプリケーション名を取得します。	取得のみ可能
	PDF-SUBTITLE	PDFファイルの文書情報のサブタイトルの設定と取得が行えます。	設定と取得が可能
	PDF-TITLE	PDFファイルの文書情報のタイトルの設定と取得が行えます。	設定と取得が可能
セキュリティ情報 (*2)	PDF-AES	PDFファイルをAES暗号で暗号化します。	設定と取得が可能
	PDF-ANOTATE	PDFファイルのセキュリティオプションとして、注釈、フォームフィールドの追加、変更の許可/不許可を設定します。	設定と取得が可能
	PDF-KEY128	暗号化キー長を128bitとしてPDF変換を行います。	設定と取得が可能
	PDF-MODIFY	PDFファイルのセキュリティオプションとして文書の変更の許可/不許可を設定します。	設定と取得が可能
	PDF-NOENCMETA	PDFファイルに埋め込むメタデータを、暗号化せずに埋め込みます。	設定と取得が可能
	PDF-OPENPWD	Adobe ReaderでPDFファイルを開く際に必要なパスワードを記述します。	設定のみ可能
	PDF-PRINT	PDFファイルのセキュリティ情報として印刷の許可/不許可を設定します。	設定と取得が可能
	PDF-SECUPWD	AcrobatでPDFファイルのセキュリティオプションを変更する際に必要なパスワード(セキュリティオプション変更パスワード)を記述します。	設定のみ可能

分類	キーワード名	説明	設定/取得
	PDF-SELECT	PDFファイルのセキュリティオプションとしてテキストとグラフィックスの選択の許可/不許可を設定します。	設定と取得が可能
ページ数 (*3)	PDF-PAGECNT	PDFファイルの総ページ数を取得します。	取得のみ可能

*1:
pmdocinfコマンドで使用可能なキーワードです。

*2:
pmsecinfコマンドで使用可能なキーワードです。

*3:
pmpagcntコマンドで使用可能なキーワードです。

2.3.9 PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明

[PM-PDF]

書式

[PM-PDF]

説明

PDF操作コマンド用PDF文書情報ファイルの宣言です。

この宣言以降のキーワードとその定義が有効になります。したがって、PDF操作を行ういずれのキーワードよりも先に宣言してください。

省略時

省略できません。

特記事項

このキーワードを複数回使用した場合は、最初の宣言以外は無効となります。

このキーワードはPDF操作コマンドでのみ使用可能です。

このキーワードを帳票出力用時に使用するPDF文書情報ファイルに使用しても無効となります。

PDF-AES

書式

PDF-AES=ON | OFF

説明

PDFをAES暗号で暗号化します。

ON:

AES暗号で暗号化します。

OFF:

RC4暗号で暗号化します。

ただし、PDF-KEY128=ONを設定していない場合、このキーワードは無効になります。

例) PDF-AES=ON

省略時

OFF

特記事項

— ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。

- Adobe Acrobat 6.0以前およびAdobe Reader 6.0以前では機能しません。Adobe Acrobat 7.0以降またはAdobe Reader 7.0以降をお使いください。

PDF-ANOTATE

書式

PDF-ANOTATE=ON | OFF

説明

PDFのセキュリティ情報として、注釈、フォームフィールドの追加、変更の許可/不許可を設定/取得します。

ON:

注釈、フォームフィールドの追加、変更を不許可とします。

OFF:

注釈、フォームフィールドの追加、変更を許可とします。

ただし、PDF-KEY128=ONを設定している場合、このキーワードは無効になります。注釈およびフォームフィールドのセキュリティ設定を行うには、PDF-MODIFY=ADDANNOTを設定してください。

例) PDF-ANOTATE=ON

省略時

設定時:セキュリティ情報設定時に本キーワードを省略した場合、元のPDFファイルと同じ設定となります。

取得時:PDFファイルにセキュリティが設定されていない場合、PDF-ANOTATE=OFFと出力されます。

特記事項

- 本キーワードは設定と取得が可能です。
- セキュリティ情報設定時にON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- ONを指定するときは、必ずPDF-SECUPWDでセキュリティ情報の変更に必要なパスワードを設定してください。パスワードの設定を行わない場合、指定したセキュリティが有効にならないことがあります。

PDF-AUTHOR

書式

PDF-AUTHOR=<改行コードを含む256バイト以内の文字列>

説明

PDFの文書情報の作成者を記述します。

PDF操作コマンドで本キーワードを使用した場合、作成者の設定と取得が行えます。

Acrobat Reader 4.0の[ファイル]—[文書情報]—[一般](Acrobat Reader 5.0またはAdobe Reader 6.0以降の場合は、[ファイル]—[文書のプロパティ]—[概要]、Adobe Reader 8.0以降の場合は、[ファイル]—[プロパティ]—[概要])で参照が可能です。256バイト以上の文字列を記述した場合、Adobe Readerでファイルが正しく開かない場合があります。

例) PDF-AUTHOR=〇〇株式会社

省略時

設定時:文書情報設定時に本キーワードを省略した場合、元のPDFファイルと同じ設定となります。

取得時:PDFファイルに作成者が設定されていない場合、[値]が設定されません。

例) PDF-AUTHOR=

特記事項

- 本キーワードは設定と取得が可能です。

PDF-CREATIONDATE

書式

PDF-CREATIONDATE=D:YYYYMMDDHHmmSSOHH'mm'

説明

YYYY:年

PDF作成環境のローカル時間で、作成“年”を出力します。

MM:月

PDF作成環境のローカル時間で、作成“月”を出力します。

DD:日

PDF作成環境のローカル時間で、作成“日”を出力します。

HH:時

PDF作成環境のローカル時間で、作成“時”を出力します。

mm:分

PDF作成環境のローカル時間で、作成“分”を出力します。

SS:秒

PDF作成環境のローカル時間で、作成“秒”を出力します。

O:世界時(UT:Universal Time)に対する関係

+ : PDF作成環境のローカル時間が世界時に対して+の時差であることを示します。

- : PDF作成環境のローカル時間が世界時に対して-の時差であることを示します。

Z : PDF作成環境のローカル時間と世界時との時差がないことを示します。

HH'mm':UTから時差の絶対値

PDF作成環境のローカル時間とUTとの時差の絶対値を“時間”と“分”で出力します。

例) 作成日時が日本時間の2008年3月21日の正午の場合

PDF-CREATIONDATE=D:20080321120000+09'00'

特記事項

- 本キーワードは取得のみで設定は行えません。文書情報設定時に本キーワードが使用されていても無効となります。
- PDFファイルが新規に生成された時間が設定されます。

pmfmergeコマンドの-oオプション、pmsecinfコマンドの-oオプション、pmdocinfコマンドの-oオプション、pmfsplitコマンド使用時に設定した出力PDFファイルに対しても、各コマンドでPDFファイルが新規に生成された時間が設定されます。

PDF-CREATOR

書式

PDF-CREATOR=<改行コードを含む256バイト以内の文字列>

説明

PDFファイルを作成した文書作成アプリケーション名を出力します。

例) PDF-CREATOR=List Designer

特記事項

- 本キーワードは取得のみで設定は行えません。文書情報設定時に本キーワードが使用されていても無効となります。

- 入力したPDFに文書作成アプリケーション名が設定されていない場合、[値]が設定されません。

例) PDF-CREATOR=

- List Creatorの帳票出力インタフェースを使用して作成したPDFファイルには、文書作成アプリケーション名は設定されていません。

PDF-KEY128

書式

PDF-KEY128=ON | OFF

説明

ON:

暗号化キー長を128bitとして暗号化を行います。

128bitでは、「PDF-PRINT」、「PDF-MODIFY」、「PDF-SELECT」の拡張機能を使用することができます。

OFF:

暗号化キー長を40bitとして暗号化を行います。

例) PDF-KEY128=ON

省略時

設定時:セキュリティ情報設定時には省略できません。

取得時:セキュリティが設定されていない場合、本キーワードは出力されません。

特記事項

- 本キーワードは設定と取得が可能です。
- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- Acrobat 4.0およびAcrobat Reader 4.0では機能しません。Acrobat 5.0以降またはAcrobat Reader 5.0以降をお使いください。
- 40bit暗号化、128bit暗号化のいずれの場合でも、ユーザーが指定するパスワード文字列の長さは、32バイト以内となります。

PDF-MODDATE

書式

PDF-MODDATE=D:YYYYMMDDHHmmSSOHH'mm'

説明

YYYY:年

PDF操作環境のローカル時間で、更新“年”を出力します。

MM:月

PDF操作環境のローカル時間で、更新“月”を出力します。

DD:日

PDF操作環境のローカル時間で、更新“日”を出力します。

HH:時

PDF操作環境のローカル時間で、更新“時”を出力します。

mm:分

PDF操作環境のローカル時間で、更新“分”を出力します。

SS:秒

PDF操作環境のローカル時間で、更新“秒”を出力します。

O:世界時(UT:Universal Time)に対する関係

+ : PDF操作環境のローカル時間が世界時に対して+の時差であることを示します。

- : PDF操作環境のローカル時間が世界時に対して-の時差であることを示します。

Z : PDF操作環境のローカル時間と世界時との時差がないことを示します。

HH:mm':UTから時差の絶対値

PDF操作環境のローカル時間とUTとの時差の絶対値を“時間”と“分”で出力します。

例) 更新日時が日本時間の2008年3月21日の正午の場合

PDF-MODDATE=D:20080321120000+09' 00'

特記事項

- 本キーワードは取得のみで設定は行えません。文書情報設定時に本キーワードが使用されていても無効となります。
- 入力したPDFに更新日付が設定されていない場合、[値]が設定されません。

例) PDF-MODDATE=

- List Creatorの帳票出力インタフェースとPDF操作コマンドを使用して作成したPDFファイルには、更新日時は設定されていません。

PDF-MODIFY

書式

PDF-MODIFY=ON | OFF | ASMONLY | FFFILL | ADDANNOT

説明

Acrobatのセキュリティ情報として文書の変更の許可/不許可を設定/取得します。

ON:

文書の変更を不許可とします。

OFF:

文書の変更を許可とします。

PDF-KEY128=ON 設定時はさらに以下の設定が有効になります。

ASMONLY:

文書アセンブリのみ許可します。

FFFILL:

フォームフィールドの入力または署名を許可します。

ADDANNOT:

注釈作成、フォームフィールドの入力または署名を許可します。

設定の様式は下表のようになります。

	文書の変更	注釈とフォームフィールドの作成	フォームフィールドの入力または署名	文書アセンブリ
ON	×	×	×	×
OFF	○	○	○	○
ASMONLY	×	×	×	○
FFFILL	×	×	○	×
ADDANNOT	×	○	○	×

○:変更可

×:変更不可

例) PDF-MODIFY=ON

省略時

設定時:セキュリティ情報設定時に本キーワードを省略した場合、元のPDFファイルと同じ設定となります。

取得時:PDFファイルにセキュリティが設定されていない場合、PDF-MODIFY=OFFと出力されます。

特記事項

- 本キーワードは設定と取得が可能です。
- ON、OFF、ASMONLY、FFFILL、ADDANNOT以外を指定した場合、エラーとなります。さらに、PDF-KEY128=ONを設定していないときに、ASMONLY、FFFILL、ADDANNOTを指定するとエラーとなります。
- OFF以外を指定するときは、必ずPDF-SECUPWDでセキュリティ情報の変更に必要なパスワードを設定してください。パスワードの設定を行わない場合、指定したセキュリティが有効にならないことがあります。
- Acrobat 4.0およびAcrobat Reader 4.0では機能しません。Acrobat 5.0以降またはAcrobat Reader 5.0以降をお使いください。

PDF-NOENCMETA

書式

PDF-NOENCMETA=ON | OFF

説明

PDFファイルに文書情報から生成したメタデータを埋め込むときに、メタデータを暗号化するかどうかを指定します。

ON:

メタデータを暗号化しません。

OFF:

メタデータを暗号化します。

例) PDF-NOENCMETA=ON

省略時

OFF

特記事項

- ON、OFF以外を指定した場合、エラーとなります。
- PDF-KEY128=ONを設定している、かつ、PDFファイルがメタデータを含む場合のみ有効となります。
- PDF-KEY128=ONが設定されていない、または、PDFファイルがメタデータを含まない場合、このキーワードの指定は無視されます。

PDF-OPENPWD

書式

PDF-OPENPWD=<32バイト以内の文字列>

説明

Adobe ReaderでPDFファイルを開く際に必要なパスワードを記述します。

半角の英数字/記号以外を記述した場合Adobe Readerでファイルが正しく開かない場合があります。

例) PDF-OPENPWD=abcdefg&12345

省略時

オープンパスワードが設定されません。

特記事項

- 本キーワードは設定のみで取得は行えません。セキュリティ情報取得時には、本キーワードは出力されません。
- セキュリティ情報設定時に、このキーワードとPDF-SECUPWDに同じパスワードを指定しないでください。同じパスワードを指定すると、セキュリティオプションの設定が変更される場合があります。

- セキュリティ情報設定時に[値]を省略した場合、エラーとなります。

PDF-PAGECNT

書式

PDF-PAGECNT=<総ページ数>

説明

PDF文書の総ページ数を出力します。

10進の正値を半角の数字で出力します。

例) PDF-PAGECNT=5

特記事項

- 本キーワードは取得のみで設定は行えません。文書情報設定時に本キーワードが使用されていても無効となります。

PDF-PRINT

書式

PDF-PRINT=ON | OFF | LOWRESO

説明

PDFのセキュリティ情報としてプリントの許可/不許可を設定/取得します。

ON:

プリントを不許可とします。

OFF:

プリントを許可とします。

LOWRESO:

低解像度のみのプリントが許可されます(PDF-KEY128=ON 設定時のみ有効)。

例) PDF-PRINT=ON

省略時

設定時:セキュリティ情報設定時に本キーワードを省略した場合、元のPDFファイルと同じ設定となります。

取得時:PDFファイルにセキュリティが設定されていない場合、PDF-PRINT=OFFと出力されます。

特記事項

- 本キーワードは設定と取得が可能です。
- ON、OFF、LOWRESO以外を指定した場合、エラーとなります。
PDF-KEY128=ONを設定していないときに、LOWRESOを指定すると、エラーとなります。
- OFF以外を指定するときは、必ずPDF-SECUPWDでセキュリティ情報の変更に必要なパスワードを設定してください。パスワードの設定を行わない場合、指定したセキュリティが有効にならないことがあります。
- Acrobat 4.0およびAcrobat Reader 4.0では機能しません。Acrobat 5.0以降またはAcrobat Reader 5.0以降をお使いください。

PDF-PRODUCER

書式

PDF-PRODUCER=<改行コードを含む256バイト以内の文字列>

説明

PDFファイルを変換したアプリケーション名を出力します。

例) PDF-PRODUCER=List Creator

特記事項

- 本キーワードは取得のみで設定は行えません。文書情報設定時に本キーワードが使用されていても無効となります。
- List Creatorの帳票出力インターフェースを使用して作成したPDFファイルを参照した場合、PDF-PRODUCER=List Creatorと出力されます。
- PDF操作コマンドにて新たに生成したPDFファイルを参照した場合、PDF-PRODUCER=PDFManipulatorと出力されます。

PDF-SECUPWD

書式

PDF-SECUPWD=<32バイト以内の文字列>

説明

Acrobatでセキュリティ情報を変更する際に必要なパスワードを記述します。

半角の英数字/記号以外を記述した場合、Adobe Readerでファイルが正しく開かない場合があります。

アルファベットの太文字/小文字は区別されます。

例) PDF-SECUPWD=ABCDEFGH#67890

省略時

セキュリティ情報パスワードが設定されません。

特記事項

- 本キーワードは設定のみで取得は行えません。セキュリティ情報取得時には、本キーワードは出力されません。
- セキュリティ情報設定時に、このキーワードとPDF-OPENPWDに同じパスワードを指定しないでください。同じパスワードを指定すると、セキュリティオプションの設定が変更される場合があります。
- セキュリティ情報設定時に[値]を省略した場合、エラーとなります。

PDF-SELECT

書式

PDF-SELECT=ON | OFF | ACCESSIBILITY | COPY+EXTRACT

説明

PDFのセキュリティ情報としてテキストとグラフィックスの選択の許可/不許可を設定します。

ON:

テキストとグラフィックスの選択を不許可とします。

OFF:

テキストとグラフィックスの選択を許可とします。

PDF-KEY128=ON 設定時はさらに以下の設定が有効になります。

ACCESSIBILITY:

アクセシビリティを許可します。

COPY+EXTRACT:

内容のコピー・抽出を許可します。

例) PDF-SELECT=ON

省略時

設定時:セキュリティ情報設定時に本キーワードを省略した場合、元のPDFファイルと同じ設定となります。

取得時:PDFファイルにセキュリティが設定されていない場合、PDF-SELECT=OFFと出力されます。

特記事項

- 本キーワードは設定と取得が可能です。
- ON、OFF、ACCESSIBILITY、COPY+EXTRACT以外を指定した場合、エラーとなります。
さらに、PDF-KEY128=ONを設定していない場合、ACCESSIBILITY、COPY+EXTRACTを指定するとエラーとなります。
- OFF以外を指定するときは、必ずPDF-SECUPWDでセキュリティ情報の変更に必要なパスワードを設定してください。パスワードの設定を行わない場合、指定したセキュリティが有効にならないことがあります。
- Acrobat 4.0およびAcrobat Reader 4.0では機能しません。Acrobat 5.0以降またはAcrobat Reader 5.0以降をお使いください。

PDF-SUBTITLE

書式

PDF-SUBTITLE=<改行コードを含む256バイト以内の文字列>

説明

PDFの文書情報のサブタイトルを記述します。

PDF操作コマンドで本キーワードを使用した場合、サブタイトルの設定と取得が行えます。

Acrobat Reader 4.0の[ファイル]－[文書情報]－[一般] (Acrobat Reader 5.0またはAdobe Reader 6.0以降の場合は、[ファイル]－[文書のプロパティ]－[概要]、Adobe Reader 8.0以降の場合は、[ファイル]－[プロパティ]－[概要])で参照が可能です。

256バイト以上の文字列を記述した場合、Adobe Readerでファイルが正しく開かない場合があります。

例) PDF-SUBTITLE=この文書はインストールに必要な情報です。

省略時

文書情報設定時に本キーワードを省略した場合、元のPDFファイルと同じ設定となります。

特記事項

- 本キーワードは設定と取得が可能です。
- 入力したPDFにサブタイトルが設定されていない場合、[値]が設定されません。
例) PDF-SUBTITLE=

PDF-TITLE

書式

PDF-TITLE=<改行コードを含む256バイト以内の文字列>

説明

PDFの文書情報のタイトルを記述します。

PDF操作コマンドで本キーワードを使用した場合、タイトルの設定と取得が行えます。

Acrobat Reader 4.0の[ファイル]－[文書情報]－[一般] (Acrobat Reader 5.0またはAdobe Reader 6.0以降の場合は、[ファイル]－[文書のプロパティ]－[概要]、Adobe Reader 8.0以降の場合は、[ファイル]－[プロパティ]－[概要])で参照が可能です。

256バイト以上の文字列を記述した場合、Adobe Readerでファイルが正しく開かない場合があります。

例) PDF-TITLE=PDF変換機能インストールガイド

省略時

文書情報設定時に本キーワードを省略した場合、元のPDFファイルと同じ設定となります。

特記事項

- 本キーワードは設定と取得が可能です。

- 入力したPDFにタイトルが設定されていない場合、[値]が設定されません。

例) PDF-TITLE=

2.3.10 PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイルの記述例

PDF操作コマンドを使用して、PDFファイルに所定の文書情報(タイトル/サブタイトル等)を設定するためのPDF文書情報ファイルの記述例と、PDFファイルから文書情報を取得した際に出力されるPDF文書情報ファイル形式の出力例を示します。

2.3.10.1 PDF操作コマンドで設定を行うPDF文書情報ファイルの記述例

PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイルの記述例を説明します。

設定項目

PDF文書情報ファイルに対して、以下のように定義します

- | | |
|----------------|----------------|
| 1) PDFの作成者名 | : PDF Author |
| 2) PDFのタイトル名 | : List Creator |
| 3) PDFのサブタイトル名 | : PDF操作コマンド |
| 4) 印刷 | : 許可 |
| 5) 128bit暗号化 | : 40bit暗号化 |

記述例

以下に、記述例を示します。

```
[PM-PDF]
PDF-AUTHOR=PDF Author ..... 1)
PDF-TITLE=List Creator ..... 2)
PDF-SUBTITLE=PDF操作コマンド ..... 3)
PDF-PRINT=OFF ..... 4)
PDF-KEY128=OFF ..... 5)
```

2.3.10.2 PDF操作コマンドで取得したPDF文書情報ファイルの出力例

取得項目

PDF操作コマンドにて、文書情報の取得(pmdocinfコマンド)を行った例を示します。

出力例

以下に、出力例を示します。

```
[PM-PDF]
PDF-TITLE=PDF sample ..... 1)
PDF-SUBTITLE=PDF 操作サンプル ..... 2)
PDF-AUTHOR= ..... 3)
PDF-CREATOR= ..... 4)
PDF-PRODUCER=List Creator ..... 5)
PDF-CREATIONDATE=D:20080317161429+09' 00' ..... 6)
PDF-MODDATE= ..... 7)
```

- | | |
|---------------------|------------------------------------|
| 1) PDFのタイトル名 | : PDF sample |
| 2) PDFのサブタイトル名 | : PDF 操作サンプル |
| 3) PDFの作成者名 | : 設定されていません |
| 4) ドキュメント作成アプリケーション | : 設定されていません |
| 5) PDF変換アプリケーション | : List Creator |
| 6) PDF作成日時 | : 2008年3月17日16時14分29秒 (UTとの時差+9時間) |
| 7) PDF更新日時 | : 設定されていません |

2.3.11 PDF操作コマンドエラーメッセージ一覧

以下に、PDF操作コマンドを使用した際に標準エラー出力に表示されるエラーメッセージを示します。

PDF操作コマンド共通エラーメッセージ

表2.8は、全てのPDF操作コマンド共通に出力されるエラーメッセージです。

表2.8 PDF操作コマンド共通エラーメッセージ

メッセージ本文	意味	原因と対処方法
data error. for details see system log.	入力ファイルに誤りがあります。	入力ファイルとして指定した、PDFファイルまたは、PDF文書情報ファイルに誤りがあります。入力ファイルの内容を確認してください。エラーの詳細についてはイベントログまたはシステムログに出力されています。
not enough memory. for details see system log.	メモリ資源の確保に失敗しました。	メモリ資源が枯渇したと考えられます。他のアプリケーションを終了させ、再度実行してください。エラーの詳細についてはイベントログまたはシステムログに出力されています。
file access error. for details see system log.	入出力ファイルの操作に失敗しました。	<p>入出力ファイルとして指定した、PDFファイルへアクセスすることができません。以下の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入力ファイルに、存在しないファイル名が指定された。 ・ ファイル/ディレクトリへのアクセス権限がない。 ・ 別のプロセスまたは他のユーザーが同名のファイルを排他使用中である ・ ディスク装置の異常によって、出力先のPDFファイルの出力に失敗した。 ・ ディスク装置の異常によって、作業ファイル領域への出力に失敗した。 ・ ネットワーク共有されているファイルへのアクセスが中断された。 ・ ファイル名が長すぎる。 <p>エラーの詳細についてはイベントログまたはシステムログに出力されている場合があります。</p>
argument error. for details see system log.	プログラムの内部異常が発生しました。	当メッセージとイベントログまたはシステムログに出力されているメッセージ、操作内容を記録し当社技術員まで連絡してください。
disk full error. for details see system log.	ファイル出力時、ディスクに空き容量がありません。	<p>ディスクの空き容量が不足してファイルが出力できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出力先のPDFファイルまたは、PDF文書情報ファイルの出力先の容量が不足している。 ・ 作業ファイル領域の容量が不足している。 <p>十分なディスク容量を確保してください。エラーの詳細についてはイベントログまたはシステムログに出力されています。</p>
invalid password.	指定した入力PDFファイルのパスワードが正しくありません。	指定したパスワードに誤りがあることが考えられます。正しい“PDFファイルを開くパスワード”または、“セキュリティオプション変更パスワード”を指定してくだ

メッセージ本文	意味	原因と対処方法
		さい パスワードを確認し、再度指定しなおしてください。
memory allocation error.	メモリ資源の確保に失敗しました。	メモリ資源が枯渇したと考えられます。 他のアプリケーションを終了させ、再度実行してください。 それでも同様のエラーが発生する場合は、システム資源の再見積りを行ってください。
operation is not permitted. specify security password.	セキュリティにより操作が許可されないパスワードです。	“セキュリティオプション変更パスワード”ではなく、“PDFファイルを開くパスワード”が指定されている可能性が考えられます。 “セキュリティオプション変更パスワード”を指定してください。
file open error :%1 :%2	ファイルのオープンに失敗しました。 (%1にはシステムエラーメッセージ、%2にはファイル名が表示されます。)	入出力ファイルとして指定した、PDF文書情報ファイルのオープンに失敗したことが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンしようとしたファイルが存在しなかった ・ オープンしようとしたファイルにアクセス権がなかった ・ 別のプロセスまたは他のユーザーが同名のファイルを排他使用中である ・ ファイル名が長すぎる 以下の対処を行ってください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ PDFファイルまたは、PDF文書情報ファイルが存在しているかを確認する ・ PDFファイルまたは、PDF文書情報ファイルが存在するディレクトリのアクセス権を確認する
file read error :%1 :%2	ファイルの読み込みに失敗しました。 (%1にはシステムエラーメッセージ、%2にはファイル名が表示されます。)	入力ファイルとして指定した、PDF文書情報ファイルの読み込みに失敗したことが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワーク共有されているファイルへのアクセスが中断された。 PDF文書情報ファイルがネットワーク共有されている場合、アクセスが可能か確認してください。
file write error :%1 :%2	ファイルの書き込みに失敗しました。 (%1にはシステムエラーメッセージ、%2にはファイル名が表示されます。)	出力ファイルとして指定した、PDF文書情報ファイルの書き込みに失敗したことが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ディスク容量不足 ・ ネットワークで共有されているディスクへのアクセスが中断された 以下の対処を行ってください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ディスクへのアクセスが可能かを確認する
file close error :%1 :%2	ファイルのクローズに失敗しました。 (%1にはシステムエラーメッセージ、%2にはファイル名が表示されます。)	入出力ファイルとして指定した、PDF文書情報ファイルの書き込みに失敗したことが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ディスク容量不足 ・ ネットワークで共有されているディスクへのアクセスが中断された 以下の対処を行ってください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ディスクへのアクセスが可能かを確認する

メッセージ本文	意味	原因と対処方法
operation was successful, but backup file removal failed.	PDF操作処理は正常に終了しましたが、バックアップファイルの削除に失敗しました。	PDF操作処理を正常に終了したのち、“出力先ファイル”+“.bak”というバックアップファイルが、別のプロセスまたは他のユーザーが同名のファイルを排他使用中であったり、アクセス権が変更されていないか確認してください。
backup file creation error. (already exists)	バックアップファイルが既に存在しているため、バックアップファイルの作成に失敗しました。	“出力先ファイル”+“.bak”というバックアップファイルが既に存在していることが考えられます。上記ファイルを削除もしくは変名してください。
backup file creation error. (Permission denied)	別のプロセスまたは他のユーザーが同名のファイルを出力しているため、バックアップファイルの作成に失敗しました。	バックアップファイルの作成に失敗したことが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> 別のプロセスまたは他のユーザーが同名のファイルを排他使用中である 出力先ディレクトリ、ファイルのアクセス権がない 以下の対処を行ってください。 <ul style="list-style-type: none"> 出力先ディレクトリ、ファイルのアクセス権を確認する
backup file creation error. (No such file or directory)	“出力先ファイル”+“.bak”というバックアップファイルの作成に失敗しました。	“出力先ファイル”+“.bak”というバックアップファイルの作成に失敗したことが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> バックアップファイル名が長すぎる 出力先ファイルが他者によって移動または削除されてしまった 以下の対処を行ってください。 <ul style="list-style-type: none"> 出力ファイル名/ファイルパスを確認する 出力先ファイルが他者によって移動または削除されていないかを確認する
invalid PDF info file ([PM-PDF])	PDF文書情報ファイルの宣言が正しくありません。	指定されたPDF文書情報ファイル内に宣言“[PM-PDF]”が記述されていないことが考えられます。PDF操作コマンドで使用可能なPDF文書情報ファイルを確認してください。
invalid PDF info file (%1)	PDF文書情報ファイルの記述に誤りがあります。 (%1には該当のキーワード名が表示されます。)	指定されたPDF文書情報ファイル記述に誤りがあることが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> キーワードの形式が誤っている。 キーワードの値に、不正なものが指定されている 文字コードが正しくない PDF操作コマンドで使用可能なPDF文書情報ファイルを確認してください。

PDF操作コマンド(pmfmerge)エラーメッセージ

表2.9にpmfmergeコマンドを使用した時に出力される固有のエラーメッセージを示します。

表2.8のPDF操作コマンド共通エラーメッセージと併せて確認してください。

表2.9 PDF操作コマンド(pmfmerge)エラーメッセージ

メッセージ本文	意味	原因と対処方法
invalid file name :%1 :%2	PDFファイル結合時に指定したファイルに誤りがあります。 (%1にはシステムエラーメッセージ、%2にはファイル名が表示されます。)	指定されたファイルもしくはディレクトリが参照できませんでした。以下の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> 結合先PDFファイルまたは、入力PDFファイルが存在していない ディレクトリへのアクセス権限がない ファイル名が長すぎる 以下の対処を行ってください。 <ul style="list-style-type: none"> 入出力ファイル名/ファイルパスを確認する。 ディレクトリへのアクセス権を確認する。

PDF操作コマンド(pmfsplit)エラーメッセージ

表2.10にpmfsplitコマンドを使用した時に出力される固有のエラーメッセージを示します。

表2.8のPDF操作コマンド共通エラーメッセージと併せて確認してください。

表2.10 PDF操作コマンド(pmfsplit)エラーメッセージ

メッセージ本文	意味	原因と対処方法
page number %1 is not exist.	入力PDFファイルには存在しないページが指定されました。 (%1にはページ番号が表示されます。)	入力PDFファイルの総ページ数を超えた数値を指定した場合に表示されます。 pmfsplitコマンドに指定したページ範囲を見直してください。
invalid extraction page.	抽出ページ範囲に重複したページが指定されました。	-gまたは-r指定時、重複するページを指定したことが考えられます。抽出ページ範囲が重複しないようpmfsplitコマンドのパラメタを見直してください。

PDF操作コマンド(pmsecinf)エラーメッセージ

表2.11にpmsecinfコマンドを使用した時に出力される固有のエラーメッセージを示します。

表2.8のPDF操作コマンド共通エラーメッセージと併せて確認してください。

表2.11 PDF操作コマンド(pmsecinf)エラーメッセージ

メッセージ本文	意味	原因と対処方法
PDF file without security cannot be made.	セキュリティが設定されないPDFを出力しようとした。	暗号化処理が施されないPDFファイルを出力する指定となっています。 PDF文書情報ファイルの内容を見直してください。
It is necessary to specify the keyword PDF-KEY128.	セキュリティオプション設定で必要なキーワードが指定されていません。	PDF文書情報ファイル内にセキュリティオプション設定で必要なキーワード“PDF-KEY128”が記述されていないことが考えられます。 “PDF-KEY128=ON”または“PDF-KEY128=OFF”を追加してください。

PDF操作コマンド(pmexteff)エラーメッセージ

表2.12にpmexteffコマンドを使用した時に出力される固有のエラーメッセージを示します。

表2.8のPDF操作コマンド共通エラーメッセージと併せて確認してください。

表2.12 PDF操作コマンド(pmexteff)エラーメッセージ

メッセージ本文	意味	原因と対処方法
directory creation error.	ディレクトリの作成に失敗しました。	指定されたディレクトリ名とファイル名を合わせた絶対パスが長すぎるのが考えられます。指定されたディレクトリのドライブが無効、または、存在しないのが考えられます。ディレクトリ名を見直してください。
output file removal failed.	異常が発生した抽出ファイルの削除に失敗しました。	抽出した添付ファイルを別のプロセス、または、他のユーザが参照しているのが考えられます。添付ファイルの抽出を行っている間は、指定した出力ディレクトリ、または、出力ファイルを他のプロセスやユーザで参照しないようにしてください。
update date of attached file is abnormal.	抽出する添付ファイルの更新日時に異常があります。	更新日時が、1970年1月1日の0時以前、または、世界協定時刻(UTC)の2038年1月19日03時14分07秒以降であるのが考えられます。
file #%1 has no available name, saved as "%2"	抽出する添付ファイル(%1)が、利用できないファイル名のため、%2に変名します。 (%1にはインデックス番号、%2には変名後のファイル名が表示されます)	抽出する添付ファイルが、利用できないファイル名だったため、出力ファイル名が変更します。 (全抽出、または、番号指定抽出時)

2.4 証明書管理環境定義ファイル/証明書管理コマンド(【Solaris版】)

ここでは、証明書管理環境作成時に使用する、証明書管理環境定義ファイル、および証明書管理コマンドについて説明します。

2.4.1 証明書管理環境定義ファイルのキーワード一覧

ファイル名

任意(*.*)

使用用途

証明書管理環境作成コマンド(lcsetenvコマンド)の-fオプションで指定する証明書管理環境の定義ファイルです。

格納場所

/etc/opt/FJSVedoc

ファイル形式

表2.13 証明書管理環境定義ファイルのキーワード一覧

セクション名	キー名	属性	説明
ENV	OWN-CERTTYPE	任意(ただし、自分自身の証明書としてPKCS#12形式のファイルを使用する場合は必須)	自分自身の証明書としてPKCS#12形式のファイルを使用する場合に1を指定します。
	PATH	任意	証明書運用管理ディレクトリ名を指定します。クラスタシステム上で設定する場合は、共用ディスク上のディレクトリを指定してください。指定がない場合は以下のディレクトリとなります。 /var/opt/FJSVedoc/cmidir
	CERT	任意	有効証明書ディレクトリ名を指定します。クラスタシステム上で設定する場合は、共用ディスク上のディレクトリを指定してください。指定がない場合は、以下のディレクトリとなります。

セクション名	キー名	属性	説明
			証明書運用管理ディレクトリ/certdir
	CRL	任意	CRLディレクトリ名を指定します(CRLとは、有効期間が切れた証明書の一覧のことです)。クラスタシステム上で設定する場合は、共用ディスク上のディレクトリを指定してください。指定がない場合は、以下のディレクトリとなります。 証明書運用管理ディレクトリ/crlidir
	SLOT	任意	スロット情報ディレクトリ名を指定します(スロットとは、暗号装置を装着する物理的な口をソフトウェアで抽象化したものです)。クラスタシステム上で設定する場合は、共用ディスク上のディレクトリを指定してください。指定がない場合は、以下のディレクトリとなります。 /var/opt/FJSVedoc/slotdir
	TOKENLABEL	任意	トークンラベルを指定します(トークンとは、スロットに装着する暗号装置をソフトウェアで抽象化したものです)。指定がない場合、または空文字列が指定された場合は、デフォルト値(lccrtmgr)となります。
	KEYLABEL	任意	鍵ラベルを指定します。指定がない場合、または空文字列が指定された場合は、デフォルト値(lccrtmgr)となります。PRIVATE-KEYセクションのFILENAME指定がある場合にのみ有効です。
PRIVATE-KEY	FILENAME	任意	秘密鍵のファイル名を指定します。 [ENVセクションのOWN-CERTTYPEキーに1を指定した場合] 指定する必要はありません。 [ENVセクションのOWN-CERTTYPEキーを指定していない場合] lcsetenvコマンドで、-sオプションを指定した場合は必須です。-sオプションを指定しない場合は必要ありません。逆に、この指定をした場合、lcsetenvコマンドでは、-sオプションが必須となります。
PASSWORD	SLOTPASS	任意	スロットを作成するときに使用するパスワードを指定します(*1)。セキュリティ上、パスワードをファイルに書いたまま保存しておくことは好ましくないため、設定が終了したらこのキーは削除してください。指定がない場合、または空文字列が指定された場合は、デフォルトのパスワードを使用します。
	SOPIN	任意	トークン情報を変更するときに使用するパスワードを指定します(*1)。セキュリティ上、パスワードをファイルに書いたまま保存しておくことは好ましくないため、設定が終了したらこのキーは削除してください。指定がない場合、または空文字列が指定された場合は、デフォルトのパスワードを使用します。
	USERPIN	任意	トークン自身を変更するときに使用するパスワードを指定します(*1)。セキュリティ上、パスワード

セクション名	キー名	属性	説明
			をファイルに書いたまま保存しておくことは好ましくないため、設定が終了したらこのキーは削除してください。指定がない場合、または空文字列が指定された場合は、デフォルトのパスワードを使用します。
OWN-CERTFILE	NICKNAME	必須	自分自身の証明書のニックネームをメールアドレスで指定します。
	FILENAME	必須	自分自身の証明書のファイル名を指定します。
	FILETYPE	任意(ただし、自分自身の証明書としてPKCS#12形式のファイルを使用する場合は必須)	自分自身の証明書としてPKCS#12形式のファイルを使用する場合には1を指定します。DER形式の証明書を使用する場合は、このキーを指定する必要はありません。この指定をした場合、 <code>lcsetenv</code> コマンドでは、 <code>-s</code> オプションが必須となります。
CA-CERTFILE-XXXX	NICKNAME	必須	CA局証明書のニックネームをメールアドレスで指定します。
	FILENAME	必須	CA局証明書のファイル名を指定します。
CERTFILE-XXXX	NICKNAME	任意(ただし、「暗号化メール」、または「署名付き暗号化メール」の場合は必須)	相手の証明書のニックネームをメールアドレスで指定します。
	FILENAME	任意(ただし、「暗号化メール」、または「署名付き暗号化メール」の場合は必須)	相手の証明書のファイル名を指定します。

*1:

パスワードは6～63文字で指定してください。
ディレクトリ名、ファイル名はフルパスで指定してください。
使用できる文字は、英数字、空白と以下の記号のみです。
!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?[¥]^_`{|}~

参照

`lcsetenv`

注意事項

行の先頭に“#”を指定した場合は、コメント行とみなします。CA-CERTFILEセクション、CERTFILEセクションのXXXXには一意となるよう数字を指定してください。同じセクション名、キー名が2つある場合は、それぞれ先に記述した方が有効となります。

使用例1:メール送信者の証明書を添付しない設定例

```
[ENV]
#PATH=
#CERT=
#SLOT=
#CRL=
#TOKENLABEL=xxxxxxxxx
#KEYLABEL=xxxxxxxxx
[PRIVATE-KEY]
FILENAME=/home/user/aaa/pkcskey
[OWN-CERTFILE]
NICKNAME=lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=/home/user/aaa/lowner.cer
[CA-CERTFILE-0001]
NICKNAME=ca-cert0001@xxx.yyy.zzz.co.jp
```

```

FILENAME=/home/user/aaa/ca-cert0001.cer
[CA-CERTFILE-0002]
NICKNAME=ca-cert0002@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=/home/user/aaa/ca-cert0002.cer
[CERTFILE-0001]
NICKNAME=lcreceiver-0001@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=/home/user/aaa/lcreceiver-0001.cer
[CERTFILE-0002]
NICKNAME=lcreceiver-0002@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=/home/user/aaa/lcreceiver-0002.cer

```

使用例2:メール送信者の証明書ファイル(PKCS#12形式)を添付する設定例

```

[ENV]
OWN-CERTTYPE=1
[OWN-CERTFILE]
NICKNAME=lowner@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=/home/user/bbb/lowner.pfx
FILETYPE=1
[CA-CERTFILE-0001]
NICKNAME=ca-cert0001@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=/home/user/bbb/ca-cert0001.cer
[CERTFILE-0001]
NICKNAME=lcreceiver-0001@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=/home/user/bbb/lcreceiver-0001.cer
[CERTFILE-0002]
NICKNAME=lcreceiver-0002@xxx.yyy.zzz.co.jp
FILENAME=/home/user/bbb/lcreceiver-0002.cer

```

2.4.2 証明書管理コマンドの一覧

証明書管理のコマンド一覧を以下に示します。

表2.14 証明書管理コマンドの一覧

種類	コマンド名	用途
証明書管理環境作成コマンド	<code>lcsetenv</code>	List Creatorで、S/MIMEを使用するための証明書の管理環境を作成します。
証明書管理環境削除コマンド	<code>lcrmenv</code>	S/MIMEで使用している証明書の管理環境を削除します。
証明書追加コマンド	<code>lcaddcert</code>	S/MIMEで使用する証明書を管理環境に追加登録します。
証明書削除コマンド	<code>lcrmcert</code>	S/MIMEで使用する証明書を管理環境から削除します。
CA局証明書一覧表示コマンド	<code>lclistacert</code>	登録した証明書の一覧を表示します。
証明書パスワード変更コマンド	<code>lchgpasswd</code>	パスワード(トークンパスワード、トークン情報操作パスワード)を変更します。



注意

システム管理者権限で実行してください。

2.4.3 証明書管理コマンドの説明

2.4.3.1 lcsetenv(証明書管理環境作成コマンド)

機能説明

lcsetenvコマンドは、“証明書管理環境定義ファイル(lccrtmgr.def)”の情報をもとに、List Creatorで、S/MIMEを使用するための証明書の管理環境を作成します。作成する環境について説明します。

- 証明書運用管理環境を作成します。
- 証明書運用管理情報を設定します。
- 鍵環境にスロットを作成します。
- 鍵環境にトークンを作成します。
- 証明書運用管理環境に証明書を登録します。
- トークンに秘密鍵を登録します。
- List Creator用の環境を設定します。
- List Creator用に証明書を登録します。

記述形式

コマンド	オプション
lcsetenv	[-s [password]] [-f filename] ([]は省略することができます。)

オプション

-s [password]:

通常は指定します。秘密鍵が不要な場合のみ、指定する必要はありません。passwordには、秘密鍵のパスワードを指定します。パスワードを画面に表示したくない場合は、passwordの指定を省略します。この場合、コマンド実行後、秘密鍵のパスワードを問い合わせます。

-f filename:

定義ファイル名を指定します。指定がない場合は、カレントディレクトリにあるlccrtmgr.defを定義ファイルとして使用します。

復帰値

0:

正常終了

0以外:

異常終了

参照

lccrtmgr.def、lcchgpasswd、lcaddcert、lcrmcert、lcrmenv

コマンド格納場所

/opt/FJSVedoc/bin

実行に必要な権限

システム管理者権限が必要です。

注意事項

- 証明書管理環境定義ファイル(lccrtmgr.def)に、以下の情報を入力してから実行してください。
 - 自分の証明書のニックネームとファイル名
 - CA局証明書のニックネームとファイル名(複数ある場合は複数)

- 相手の証明書のニックネームとファイル名 (複数ある場合は複数) (任意)
- 秘密鍵のファイル名 (-s指定時のみ)
- 自分や相手の証明書を登録する場合は、証明書の発行元のCA局証明書も合わせて登録する必要があります。CA局証明書として指定した証明書と同一の証明書を自分の証明書として指定することはできません。
- 証明書運用管理ディレクトリ、有効証明書ディレクトリ、スロット情報ディレクトリ、CRLディレクトリの作成先は、以下のとおりです。
 - 定義ファイル(lccrtmgr.def)に指定がない場合は、それぞれデフォルトのディレクトリとなります。lccrtmgr.defのファイル形式を参照してください。
 - 証明書の管理環境の作成先を変更したい場合は、lccrtmgr.defに指定してください。詳細については、以下を参照してください。
⇒ [“2.4.1 証明書管理環境定義ファイルのキーワード一覧”](#)
 - lccrtmgr.defにディレクトリを指定する場合は、存在しないディレクトリ(同名のディレクトリ、ファイルが存在しない)を指定してください。

使用例1

証明書管理環境を作成します。定義ファイルは、カレントディレクトリにある“lccrtmgr.def”ファイルを使用します。

```
lcsetenv -s password
```

使用例2

秘密鍵のパスワードは、コマンド実行後、問い合わせてきます。定義ファイルは、“/home/userディレクトリにあるlccrtmgr.def”ファイルを使用します。

```
lcsetenv -s -f /home/user/lccrtmgr.def
```

実行結果/出力形式

標準出力に、メッセージが出力されます。

正常終了時、異常終了時によって、それぞれ以下のようにログファイルに結果を出力します。

正常終了時:

証明書管理環境の作成が終了した旨のメッセージとともに、作成環境の情報を表示します。また、以下のファイルに、作成環境についての情報が上書きされます。

```
/var/opt/FSVedoc/data/lccrtmgr.dat
```

異常終了時:

異常終了した場合は、以下のファイルに、異常終了に関する情報が上書きされます。

```
/var/opt/FJSVedoc/log/mpcrtsetenv.log
```

2.4.3.2 lcrmenv(証明書管理環境削除コマンド)

機能説明

作成してある証明書管理環境をいったん削除して、新しく証明書管理環境を作成し直したい場合に使用します。

記述形式

コマンド	オプション
lcrmenv	なし

復帰値

0:

正常終了

0以外:

異常終了

参照

lcsetenv

コマンド格納場所

/opt/FJSVedoc/bin

実行に必要な権限

システム管理者権限が必要です。

使用例

現在使用している証明書管理環境を削除します。

```
lcrmenv
```

実行結果/出力形式

標準出力に、メッセージが出力されます。

正常終了時:

以下のメッセージが表示されます。

```
lcrmenv
Directory '/var/opt/FJSVedoc/slotdir'
Directory '/var/opt/FJSVedoc/cmudir/crldir'
Directory '/var/opt/FJSVedoc/cmudir/certdir'
Directory '/var/opt/FJSVedoc/crtmgr/cmudir'
will be deleted. OK? y(yes) | n(no) > y
Certificate management environment was deleted.
```

異常終了時:

証明書管理環境の削除が失敗した旨のメッセージが表示されます。

2.4.3.3 lcaddcert(証明書追加コマンド)

機能説明

lcaddcertコマンドは、S/MIMEで使用する証明書を管理環境に追加登録します。

証明書の管理環境がすでに作成しており、使用したい証明書が増えたため、証明書を追加登録したい場合にこのコマンドを使用します。

記述形式

コマンド	オプション
lcaddcert	-c -u -o -n nickname -f filename

オプション

-c:

CA局証明書を登録する場合に指定します。

-u:

送信者の証明書を登録する場合に指定します。

-o:

受信者の証明書を登録する場合に指定します。

-n nickname:

証明書のニックネームをメールアドレスで指定します。

-f filename:

証明書のファイル名を指定します。

復帰値

0:

正常終了

0以外:

異常終了

参照

lcsetenv、lcrmcert

コマンド格納場所

/opt/FJSVedoc/bin

実行に必要な権限

システム管理者権限で実行してください。

使用例

“lccert@xxx.yyy.zzz.co.jp”というニックネームのCA局証明書ファイル“/home/user/cert/lccert.der”を追加登録します。

```
lcaddcert -c -n lccert@xxx.yyy.zzz.co.jp -f /home/user/cert/lccert.der
```

実行結果/出力形式

標準出力に、メッセージが出力されます。

正常終了時:

証明書の登録が終了した旨のメッセージが表示されます。

異常終了時:

証明書の登録が失敗した旨のメッセージが表示されます。

2.4.3.4 lcrmcert(証明書削除コマンド)

機能説明

使用していた証明書が必要なくなったため、証明書を管理環境から削除したい場合にこのコマンドを使用します。

記述形式

コマンド	オプション
lcrmcert	nickname [nickname…] ([]は省略することができます。)

オプション

nickname:

証明書のニックネームをメールアドレスで指定します。

復帰値

0:

正常終了

0以外:

異常終了

参照

lcsetenv、lcaddcert

コマンド格納場所

/opt/FJSVedoc/bin

実行に必要な権限

システム管理者権限で実行してください。

使用例

“lccert@xxx.yyy.zzz.co.jp”というニックネームの証明書を管理環境から削除します。

```
lcrmcert lccert@xxx.yyy.zzz.co.jp
```

実行結果/出力形式

標準出力に、メッセージが出力されます。

正常終了時:

証明書の削除が終了した旨のメッセージが表示されます。

異常終了時:

証明書の削除が失敗した旨のメッセージが表示されます。

2.4.3.5 lclistcacert (CA局証明書一覧表示コマンド)

機能説明

登録されているCA局証明書を確認するときに、このコマンドを使用します。

記述形式

コマンド	オプション
lclistcacert	なし

復帰値

0:

正常終了

0以外:

異常終了

参照

lcsetenv、lcaddcert、lcrmcert、lcrmenv

コマンド格納場所

/opt/FJSVedoc/bin

実行に必要な権限

システム管理者権限で実行してください。

使用例

CA局証明書の一覧を表示します。

```
lclistcacert
```

実行結果/出力形式

正常終了時:

登録されたCA局証明書の一覧が表示されます。

異常終了時:

CA局証明書の情報取得に失敗した旨のメッセージが表示されます。

2.4.3.6 lcchgpaswd(証明書パスワード変更コマンド)

機能説明

証明書の管理環境作成時に使用しているトークンパスワード、トークン情報操作パスワードを変更したい場合に使用します。

記述形式

コマンド	オプション
lcchgpaswd	-u -s [-o [old-password]] -n [new-password] ([]は省略することができます。)

オプション

-u:

トークンのパスワードを変更します。環境作成時(lcsetenvコマンド実行時)にトークンのパスワードを明に指定したり(ファイルlcrtmgr.defの説明参照)、すでにこのコマンドで変更したことがある場合は、その際に指定したパスワードを-oオプションで指定する必要があります(パラメタnew-passwordは省略可)。

-s:

トークン情報操作パスワードを変更します。環境作成時(lcsetenvコマンド実行時)にトークン情報操作のパスワードを明に指定したり(ファイルlcrtmgr.defの説明参照)、すでにこのコマンドで変更したことがある場合は、その際に指定したパスワードを-oオプションで指定する必要があります(パラメタold-passwordは省略可)。

-o [old-password]:

定義ファイル(lcrtmgr.def)のPASSWORDセクションで、USERPINやSOPINキーに文字列を明に設定した場合は、その文字列を指定しなければなりません。また、すでにこのコマンドでパスワードを変更したことがある場合も、その際に変更したパスワードを指定してください。パラメタ(old-password)を省略した場合は、パスワードを問い合わせます。パスワードは下記の“注意事項”の条件を満たすものでなければなりません。なお、このパラメタは必要がないとき(このコマンド実行前に、明にパスワードを指定したことがない場合)に指定されても無視されます。

-n [new-password]:

変更後のパスワードを指定します。パラメタ(new-password)を省略した場合は、パスワードを問い合わせます。パスワードは下記の“注意事項”の条件を満たすものでなければなりません。

復帰値

0:

正常終了

0以外:

異常終了

参照

lcsetenv、lcrtmgr.def

コマンド格納場所

/opt/FJSVedoc/bin

実行に必要な権限

システム管理者権限で実行してください。

注意事項

パスワードとして設定できるのは、6～63文字で、使用できる文字は、以下に示すものだけです。なお、記号の“¥”は、コード0x5cに該当する文字であり、表示する環境によっては「バックスラッシュ(\)」となります。

カテゴリ	文字
英字	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
数字	0123456789
記号	!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?[¥]^_`{ }~
空白	' '(半角)

使用例1

トークンパスワードを“userpinpasswd”に変更します。トークンパスワードを明に指定したことは一度もありません。入力するパスワードを画面に表示しません。

```
lcchgpaswd -u -n
New UserPIN: ← userpinpasswdと入力します (エコーバックされません)
Retype:      ← userpinpasswdと入力します (エコーバックされません)
```

使用例2

トークンパスワードを“newuserpinpasswd”に変更します。lcsetenvコマンド実行時に、定義ファイルでトークンパスワードを“userpinpasswd”と指定しました。

```
lcchgpaswd -u -n
Old UserPIN: ← userpinpasswdと入力します (エコーバックされません)
New UserPIN: ← newuserpinpasswdと入力します (エコーバックされません)
Retype:      ← newuserpinpasswdと入力します (エコーバックされません)
```

使用例3

トークン情報操作パスワードを“newsopinpasswd”に変更します。トークン情報操作パスワードを明に指定したことは一度もありません。

```
lcchgpaswd -s -n newsopinpasswd
```

使用例4

トークン情報操作パスワードを“newsopinpasswd”に変更します。以前、lcchgpaswdコマンドを使って、トークン情報操作パスワードを“sopinpasswd”に変更しました。新しいパスワードを表示しません。

```
lcchgpaswd -s -o sopinpasswd -n
New SO-PIN: ← newsopinpasswdと入力します (エコーバックされません)
Retype:      ← newsopinpasswdと入力します (エコーバックされません)
```

実行結果/出力形式

標準出力に、メッセージが出力されます。

正常終了時:

メッセージは表示されません。

異常終了時:

パスワードの設定が失敗した旨のメッセージが表示されます。

2.5 PDF手元非表示印刷の環境設定

ここでは、PDF手元非表示印刷を行うためのWebサーバとWebクライアントの環境設定と、WebブラウザにPDFファイルをダウンロードさせるしくみについて説明します。

2.5.1 PDF手元非表示印刷の環境設定概要

PDF手元非表示印刷を行うための、環境設定の概要について説明します。

PDF手元非表示印刷は、WebブラウザがWebサーバからダウンロードしたPDFファイルを、ファイル名の拡張子(MIMEタイプ)に基づき、印刷方法に対応した方法で、Adobe AcrobatまたはAdobe Readerを起動することによって実行されます。これを実現させるためには、WebサーバとWebクライアントに環境設定する必要があります。

Webサーバ、およびWebクライアントに設定する項目は、以下のとおりです。

- Webサーバ
ファイルの拡張子と、対応するMIMEタイプの関連付けの定義
- Webクライアント
ファイルの拡張子に対応する、拡張子のファイルを開くときのコマンドライン定義

環境設定の詳細については、以下を参照してください。

⇒ “2.5.2 Webサーバの環境設定”

⇒ “2.5.3 Webクライアントの環境設定”

なお、これらの節では、以下を前提として説明しています。

- ファイルの拡張子
印刷方法と、対応するPDFファイル名の拡張子の対応が以下であるとしします。

印刷方法	拡張子
サイレント印刷	.pd1
プリンタ選択ダイアログ表示印刷	.pd2

注意

ファイル名の拡張子については、ここで説明した値をそのまま使用してください。

2.5.2 Webサーバの環境設定

ここでは、Webサーバに設定する項目について説明します。

ポイント

ここで設定する内容は、“2.5.1 PDF手元非表示印刷の環境設定概要”で説明したことを前提としています。

Webサーバには、ファイルの拡張子と、対応するMIMEタイプの関連付けを設定する必要があります。設定が必要な、拡張子と対応するMIMEタイプは、以下のとおりです。

拡張子	MIMEタイプ	備考
.pd1	application/x-f3happ-f3s	サイレント印刷用定義
.pd2	application/x-f3happ-f3d	プリンタ選択ダイアログ表示印刷用定義

設定方法については、ご使用のWebサーバのマニュアルなどを参照してください。

2.5.3 Webクライアントの環境設定

ここでは、Webクライアントの環境設定手順を説明します。

ポイント

ここで設定する内容は、“2.5.1 PDF手元非表示印刷の環境設定概要”で説明したことを前提としています。

環境設定プログラムを使用して、Webクライアントの環境設定を行う場合の詳細については、以下を参照してください。
⇒ “2.5.3.3 PDF手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムの設定”

2.5.3.1 PDF手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムのインストール

PDF手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムは、ファイルの拡張子と対応するコマンドライン定義設定を行うプログラムです。このツールをWebクライアントに適用すると、PDF手元非表示印刷に必要な情報を、オペレーティングシステムに登録します。

このプログラムはインストーラ(setup.exe)として提供されており、このプログラムをインストールし、環境設定することによって、クライアントの環境設定を行います。

このプログラムは、List Creatorの製品媒体内の¥Japanese¥acroloフォルダに、setup.exeとして収められています。

注意

インストールにはAdministrators権限が必要です。

[機能]

このプログラムをWebクライアントにインストールすることによって、PDFファイルをWebブラウザから非表示で印刷するための、Webクライアントの環境設定を行います。

印刷方法と、対応するPDFファイル名の拡張子の対応が、以下の対応となるように設定します。

印刷方法	拡張子
サイレント印刷	.pd1
プリンタ選択ダイアログ表示印刷	.pd2

2.5.3.2 PDF手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムのインストール後の作業

インストール資源のセキュリティ強化

一般ユーザによる資源の改ざんなどを防ぐために、PDF手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムのインストールフォルダ配下のフォルダおよびファイルに対して、必要に応じてアクセス権を変更することを推奨します。

Authenticated UsersやEveryoneを削除して、特定のユーザだけにアクセス権を付与するなどの対処をしてください。

アクセス権設定の詳細は、OSが提供しているマニュアルを参照してください。

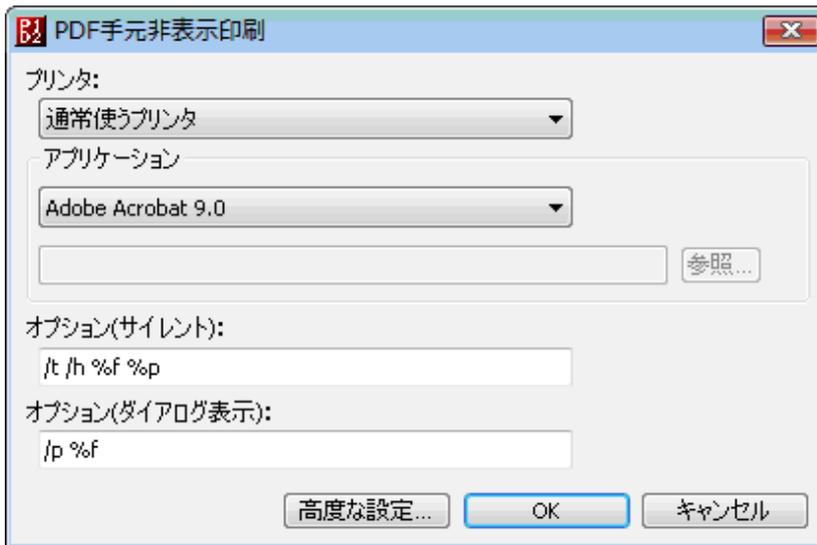
2.5.3.3 PDF手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムの設定

PDF手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムでは、サイレント印刷のときに使用されるプリンタの指定や、PDFの印刷に使用するアプリケーションの選択を行うことができます。

このツールで環境設定を変更する場合は、「スタートメニュー」→「すべてのプログラム」→「PDF手元非表示印刷」から行います。

注意

この操作にはAdministrators権限が必要です。



プリンタ

サイレント印刷で使用するプリンタを選択します。「通常使うプリンタ」を選択した場合は、クライアントで通常使うプリンタに設定されているプリンタで出力されます。

インストール時の設定は「通常使うプリンタ」です。

アプリケーション

印刷で使用するAdobe AcrobatまたはAdobe Readerを選択します。それ以外のアプリケーションを使用する場合は、「その他」を選択し、アプリケーションのフルパスを入力してください。

インストール時の設定は、Adobe Acrobatがインストールされている場合は「Acrobat」、Adobe Readerがインストールされている場合は「Adobe Reader」、どちらもインストールされていない場合は「その他」となります。

注意

Adobe Acrobat 7.0以降またはAdobe Reader 7.0以降がインストールされていない場合は、リストボックスに表示されません。

オプション

指定したアプリケーションを実行する際のオプションを指定します。

インストール時の設定は、[アプリケーション]で選択されたアプリケーションに従って自動的に設定されます。

アプリケーション	サイレント印刷	ダイアログ表示
Adobe Acrobat	/t /h %f %p	/p %f
Adobe Reader	/t /h %f %p	/p %f
その他	なし	なし

置き換え文字列	対象
%f	印刷するPDFファイル
%p	プリンタ

注意

Adobe AcrobatまたはAdobe Readerの場合、オプションの指定は変更しないでください。

高度な設定

手元非表示印刷の詳細な設定を行います。

ー 印刷後の待機時間

印刷終了後、次の印刷までの待機時間を設定する場合に指定してください。単位はミリ秒で、0～600000の間で指定してください。インストール時の設定は0です。

ー アプリケーションの事前起動

指定したアプリケーションを、印刷開始前にあらかじめ起動しておく場合に指定してください。なお、Adobe AcrobatまたはAdobe Readerの場合は必ず指定してください。インストール時の設定はチェックありです。

2.5.4 WebブラウザにPDFファイルをダウンロードさせるしくみ

PDF手元非表示印刷を使用するとき、Webブラウザに手元非表示印刷対象のPDFファイルをダウンロードさせるしくみを検討する必要があります。

しくみとして、以下の2方式を説明します。

- ・ PDF手元非表示印刷するPDFファイルへのリンクを持ったHTMLファイルを作成する
- ・ Webサーバ上のアプリケーションがWebブラウザにPDFファイルのURLを復帰する

PDF手元非表示印刷するPDFファイルへのリンクを持ったHTMLファイルを作成する

手元非表示印刷の対象となるPDFファイルへのリンクを持ったHTMLファイルを作成し、そのHTMLファイルをWebブラウザで開き、ユーザがリンクをクリックすることでPDF手元非表示印刷を実行します。

以下のサンプルHTMLをWebブラウザで開き、画面に表示されるリンクをクリックすると、リンク先ファイル名の拡張子に対応したPDF手元非表示印刷が実行されます。

```
<HTML>
<BODY>
<A HREF="http://somehost/report. pd1">サイレント印刷</A><BR>
<A HREF="http://somehost/report. pd2">プリンタ選択ダイアログ表示印刷</A><BR>
</BODY>
</HTML>
```

PDFファイルのURLは、システムに応じた値に変更してください。

Webサーバ上のアプリケーションがWebブラウザにPDFファイルのURLを復帰する

Webブラウザで、表示しているHTML中に定義された<FORM>タグ内のボタンをクリックすることでWebサーバ上のアプリケーションを呼び出し、Webサーバ上のアプリケーションがWebブラウザに手元非表示印刷対象のPDFファイルのURLを復帰する方式です。

具体的には、HTTPプロトコルの“Locationヘッダ”を、手元非表示印刷対象のPDFファイルのURLと共にブラウザに復帰します。Locationヘッダを受け取ったWebブラウザは、その中で指定されたURLのPDFファイルをWebサーバからダウンロードします。PDFファイルをダウンロードすると、ファイル名の拡張子によって指定された方式で、PDF手元非表示印刷を実行します。

Locationヘッダの復帰方法は、Webアプリケーションサーバの環境、および使用するプログラミング言語によって異なります。具体的な方法については、Webアプリケーションサーバのマニュアルなどを参照してください。

以下に、Locationヘッダを復帰するサンプルを示します。

サンプルについて

- ・ このサンプルでは、List Creator Enterprise Editionを使用してPDFファイルを動的に生成し、サイレント印刷、プリンタ選択ダイアログ表示印刷、およびPDFのブラウザ画面表示を実行できます。

- サンプルは、HTMLサンプルと、プログラムソースの2つで構成されています。HTMLサンプルをWebブラウザで読み込むと、以下のような画面が表示されます。

サイレント印刷
 プリンタ選択ダイアログ表示印刷
 PDFを画面表示

上の3つの選択肢から、実行する処理を選び、下の[印刷]ボタンをクリックすると、Webサーバのプログラムが呼び出され、指定した処理が実行されます。

- Webサーバのサンプルがあります。サンプルは実行環境に合わせて修正して使用してください。
それぞれの方式の動作に必要なディレクトリ作成やファイル配置などの環境設定については、サンプルにコメントとして記載していますので、参照してください。

サンプルの詳細については、以下を参照してください。

⇒ [“付録B PDF手元非表示印刷機能Webサーバサンプルプログラム”](#)

なお、各方式で使用している、List Creatorが提供するインタフェースの意味については、オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”を参照してください。

注意

サンプルの動作には、それぞれのインタフェースに応じた実行環境が必要です。実行環境のセットアップについては、各実行環境のマニュアルなどを参照してください。

2.5.5 注意事項

PDF手元非表示印刷を使用する際に、PDF手元非表示印刷クライアント環境設定プログラム、Webブラウザ、Adobe AcrobatおよびAdobe Readerの仕様によって、以下の注意事項があります。

PDF手元非表示印刷クライアント環境設定プログラムの注意事項

- PDF手元非表示印刷クライアントの環境設定で指定した内容はユーザごとではなくシステム全体で共通になります。環境設定で指定したプリンタに対してPDF手元非表示印刷を行なうユーザが印刷する権限がない場合、印刷は失敗します。環境設定で「通常使うプリンタ」を指定することでPDF手元非表示印刷を行なうユーザごとに別のプリンタを使うことが可能です。
- 設定を行なうAdministrators権限を持つユーザが印刷する権限を持たないプリンタは、一覧に表示されません。

Webブラウザの注意事項

- Internet Explorerをお使いの場合、手元非表示印刷を行うために、Webクライアントの環境設定を行った後、手元非表示印刷用PDFファイルをダウンロードすると「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示される場合があります。この場合は、以下のようにダイアログボックスの値を設定後、[OK]ボタンをクリックしてください。
 - 「このファイルの処理方法」は「このファイルを上記の場所から開く」を選択する。
 - 「この種類のファイルであれば常に警告する」のチェックをオフにする。

Adobe Readerの仕様による注意事項

- a. Adobe Readerがすでに起動している場合の注意事項
 - PDF手元非表示印刷は、以下の状態での実行は推奨しません。
 - Adobe Readerアプリケーションが起動している

ー PDFファイルをブラウザウィンドウで表示している

これらの状態のとき、以下の現象が発生します。

Adobe Readerアプリケーションが起動している場合

- PDF手元非表示印刷を実行すると、Adobe Readerアプリケーションのウィンドウが最前面に表示されます (Adobe Readerアプリケーションのウィンドウが最小化されている場合を除く)。
- Adobe Readerアプリケーションで、ダイアログボックス (検索ダイアログを除く) を表示している、またはAdobe Readerアプリケーションが印刷を実行している場合は、PDF手元非表示印刷に失敗します。

PDFファイルをブラウザウィンドウで表示している場合

- PDF手元非表示印刷を実行中に、ブラウザウィンドウで表示しているPDFファイル进行操作 (スクロールさせるなど) すると、印刷中のPDF手元非表示印刷が中断します。
- プリント選択ダイアログ表示印刷を実行すると、印刷完了後にAdobe Readerアプリケーションのウィンドウが最前面に表示されます。
- PDFファイルを表示しているブラウザウィンドウで、ダイアログボックスを表示している、または印刷を実行している場合は、PDF手元非表示印刷に失敗します (Acrobat Reader 5.0、またはAdobe Reader 6.0以降の場合、プリント選択ダイアログボックスを表示している状態を除く)。

b. Acrobat Reader 4.0をご使用の場合の注意事項

Acrobat Reader 4.0をご使用の場合は、PDF手元非表示印刷を多重に実行すると、最初の印刷以外は実行されません。

c. Acrobat Reader 5.0、またはAdobe Reader 6.0以降をご使用の場合の注意事項

Acrobat Reader 5.0、またはAdobe Reader 6.0以降をご使用の場合は、PDF手元非表示印刷を実行後、Adobe Readerアプリケーションが終了しません。Adobe Readerアプリケーションの[ファイル]—[終了]を選択して、Adobe Readerアプリケーションを終了させてください。なお、PDFファイルをブラウザウィンドウで表示している場合は、Adobe Readerアプリケーションを終了させないでください。終了させると、PDFファイルを表示しているブラウザウィンドウがクリアされ、PDFファイルが表示されなくなります。

d. Acrobat Reader 5.0、Adobe Reader 6.0、Adobe Reader 7.0、またはAdobe Reader 8.0をご使用の場合の注意事項

Acrobat Reader 5.0、Adobe Reader 6.0、Adobe Reader 7.0、またはAdobe Reader 8.0をご使用の場合は、PDF手元非表示印刷を多重または連続で実行すると、正しく印刷が行われない場合があります。また、連続して印刷を実行する場合には、手元非表示印刷機能が呼び出し元のアプリケーションに復帰した直後でも、Adobe Readerが印刷処理を行っている場合があります。



連続してPDF手元非表示印刷を行う場合には、Adobe Readerの印刷処理が完了する十分な間隔をおいて次のPDF手元非表示印刷を実行してください。

2.6 PDFリモート印刷の環境設定

ここでは、PDFリモート印刷を行うための環境設定について説明します。

2.6.1 PDFリモート印刷の環境設定概要

PDFリモート印刷を行うための、環境設定の概要について説明します。

PDFリモート印刷では、クライアントにおいて帳票出力サーバから配信されるPDFファイルを格納するためのフォルダを設定します。このフォルダは、クライアント上に作成して帳票出力サーバから共有できるように設定する、または、帳票出力サーバ上に作成してPDFリモート印刷を行うクライアントから共有できるように設定します。

クライアントにインストールされたPDFリモート印刷プログラムでは、このPDFファイルが格納されるフォルダを監視し、PDFファイルが格納されると指定されたプリンタに対して印刷を行います。

フォルダごとに印刷するプリンタを変えることができるため、格納先を変更することで出力するプリンタを切り替えることができます。

なお、印刷するためにはクライアントにAdobe Acrobat9.0以降またはAdobe Reader9.0以降が必要です。

2.6.2 クライアントの環境設定

ここでは、クライアントの環境設定手順を説明します。

2.6.2.1 PDFリモート印刷プログラムのインストール

PDFリモート印刷プログラムはインストーラ(setup.exe)として提供されています。

このプログラムをインストールし、環境設定することによって、クライアントの環境設定を行います。

このプログラムは、以下のフォルダに、setup.exeとして収められています。

- 日本語環境にインストールする場合
List Creatorの製品媒体内の¥Japanese¥pdfmprtフォルダ
- 英語環境にインストールする場合
List Creatorの製品媒体内の¥English¥pdfmprtフォルダ



注意

インストールにはAdministrators権限が必要です。

2.6.2.2 PDFリモート印刷プログラムのインストール後の作業

インストール資源のセキュリティ強化

一般ユーザによる資源の改ざんなどを防ぐために、PDFリモート印刷プログラムのインストールフォルダ配下のフォルダおよびファイルに対して、必要に応じてアクセス権を変更することを推奨します。

Authenticated UsersやEveryoneを削除して、特定のユーザだけにアクセス権を付与するなどの対処をしてください。

アクセス権設定の詳細は、OSが提供しているマニュアルを参照してください。

2.6.2.3 PDFリモート印刷プログラムの設定手順

PDFリモート印刷プログラムでは、監視する対象となるPDFファイルが格納されるフォルダを設定します。

この設定は、「スタートメニュー」→「すべてのプログラム」→「PDFリモート印刷機能」から行います。

1. PDFリモート印刷プログラムを起動します。
2. メニューから[ファイル]→[監視設定の新規登録]を選択します。
3. 「監視フォルダ設定画面」で、各項目を設定します。
設定方法については、以下を参照してください。
⇒ [“2.6.2.6 PDFリモート印刷プログラムの監視フォルダ設定画面”](#)
4. 登録した監視設定を選択し、メニューから[ファイル]→[監視開始]を選択します。

2.6.2.4 PDFリモート印刷プログラムの監視フォルダ構成

PDFリモート印刷プログラムで監視する対象に登録したフォルダには、その配下に3つのフォルダが作成されます。

- Dropフォルダ(監視)
印刷を行うPDFファイルを格納するフォルダです。



ポイント

印刷指示を行う順序は以下のとおりです。

- NTFSの場合
ファイル名およびフォルダ名のアルファベット順。

— FAT/FAT32の場合

ファイルおよびフォルダを媒体に書き込んだ順。

注意

PDFの印刷の順序は保証されません。

- Printフォルダ (印刷)

印刷が完了したPDFファイルは、DropフォルダからPrintフォルダに移動されます。

- Errorフォルダ (エラー)

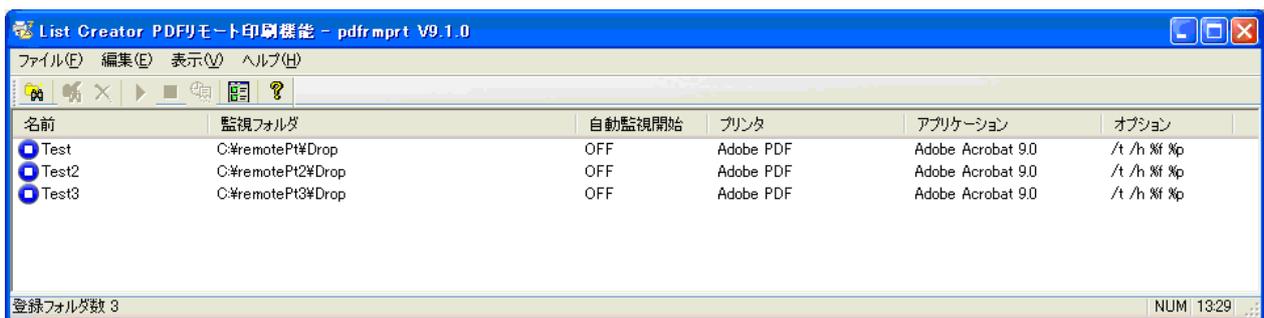
印刷時にエラーがあった場合、PDFファイルはDropフォルダからErrorフォルダに移動されます。

注意

印刷するPDFファイルは、監視する対象として登録したフォルダの直下に配置しても印刷されません。印刷するPDFファイルは、監視する対象として登録したフォルダの配下にあるDropフォルダに格納してください。

2.6.2.5 PDFリモート印刷プログラムの監視画面

PDFリモート印刷プログラムの監視画面について説明します。



PDFリモート印刷プログラムでは、メニューまたはツールバーより操作を行います。

表示項目

監視画面の一覧に表示される内容について説明します。

名前

「監視フォルダ設定画面」で指定した監視設定名が表示されます。

監視フォルダ

PDFを格納する監視フォルダのパスが表示されます。

自動監視開始

PDFリモート印刷を起動した際に、自動的に監視を開始するかどうかが表示されます。

「OFF」となっている場合、PDFリモート印刷を起動しても自動的に監視を開始しません。監視設定を選択して、監視開始を行う必要があります。

プリンタ

PDFファイルを印刷するプリンタが表示されます。

アプリケーション

PDFファイルを印刷する際に使用するアプリケーションが表示されます。

オプション

指定したアプリケーションを実行する際のオプションが表示されます。

メニュー

監視画面のメニューバーより実行できる機能について説明します。

[ファイル]メニューの一覧

監視設定の新規登録

「監視フォルダ設定画面」を呼び出し、新しい監視対象のフォルダを登録します。

監視開始

選択されている監視フォルダの監視を開始します。

監視終了

選択されている監視フォルダの監視を終了します。

保存期間を過ぎたファイルの削除

印刷が完了したPDFファイルは、監視フォルダ配下のPrintフォルダに保存されます。保存期間を設定している場合、このPrintフォルダにある保存期間を過ぎたPDFファイルを削除します。



監視設定において保存期間を「0」と指定した場合は無効となり、自動的に削除されません。正しく印刷されたことを確認した上で、削除してください。

アプリケーションの終了

PDFリモート印刷プログラムを終了します。

[編集]メニューの一覧

監視設定の編集

「監視フォルダ設定画面」を呼び出し、選択されている監視設定の変更ができます。

監視設定の削除

選択されている監視設定を削除します。

環境設定

「環境設定画面」を呼び出し、環境設定を行います。

[表示]メニューの一覧

ツールバー

ツールバーの表示/非表示を切り替えます。

ステータスバー

ステータスバーの表示/非表示を切り替えます。

[ヘルプ]メニューの一覧

PDFリモート印刷機能について

PDFリモート印刷機能のバージョン情報を表示します。

ツールバー

監視画面のツールバーより実行できる機能について説明します。

機能の内容については、メニューを参照してください。

[監視設定の新規登録](#)

[監視設定の編集](#)

[監視設定の削除](#)

[監視開始](#)

[監視終了](#)

[保存期間を過ぎたファイルの削除](#)

[環境設定](#)

[PDFリモート印刷機能について](#)

2.6.2.6 PDFリモート印刷プログラムの監視フォルダ設定画面

PDFリモート印刷プログラムの監視フォルダ設定画面について説明します。

名前

監視フォルダの設定名を指定します。他の設定で使用されている名前は指定できません。

設定名は半角数字、半角英字、半角記号とJIS第一/第二水準漢字で256文字までです。

フォルダ

ルートフォルダのパスを「参照」ボタンから指定します。他の設定で使用されているフォルダは指定できません。指定できるフォルダは、半角数字、半角英字、半角記号とJIS第一/第二水準漢字でフルパスが230文字までのフォルダです。ドライブのルートフォルダ(C:¥など)を指定することはできません。ネットワーク上のフォルダを指定することは推奨しません。注意事項については、以下を参照してください。

⇒ “2.6.2.8 PDFリモート印刷プログラムの注意事項”

ルートフォルダを指定すると、監視・印刷・エラーの各フォルダは自動的に決定されます。各フォルダの構成については、以下を参照してください。

⇒ “2.6.2.4 PDFリモート印刷プログラムの監視フォルダ構成”

自動監視開始

PDFリモート印刷プログラム起動時に、自動で監視を開始する場合に指定します。デフォルトはチェックなしです。

監視停止条件

印刷に失敗したPDFファイルが一定数を超えた場合に監視を停止することができます。

監視を停止する条件となる、「Error」フォルダに蓄積されたPDFファイル数を指定します。0～999の範囲で指定してください。なお、0を指定した場合は監視停止を行いません。デフォルトは0です。

プリンタ

印刷先のプリンタを指定します。



- PDFリモート印刷機能では、ネットワークプリンタを指定できません。
- オペレーティングシステムに登録されているプリンタに、実行するユーザが印刷するための権限がないと一覧に表示されません。

アプリケーション

印刷で使用するAdobe AcrobatまたはAdobe Readerを選択します。それ以外のアプリケーションを使用する場合は、「その他」を選択し、アプリケーションのフルパスを入力してください。

「その他」を選択した場合、アプリケーションのフルパスは半角数字、半角英字、半角記号とJIS第一/第二水準漢字で256文字までで指定してください。



Adobe Acrobat 9.0以降またはAdobe Reader 9.0以降がインストールされていない場合は、リストボックスに表示されません。

オプション

指定したアプリケーションを実行する際のオプションを指定します。

アプリケーション	オプション
Adobe Acrobat	/t /h %f %p
Adobe Reader	/t /h %f %p
その他	なし

置き換え文字列	対象
%f	印刷するPDFファイル
%p	プリンタ

注意

Adobe AcrobatまたはAdobe Readerの場合、オプションの指定は変更しないでください。

保存期間

印刷が終了したPDFファイルを「Print」フォルダに保存する日数を指定します。日数は0～365の範囲で指定してください。0を指定した場合には削除の対象となりません。

指定された保存期間を過ぎたファイルは、「保存期間を過ぎたファイルを削除」を実行することで削除されます。デフォルトは7です。

起動時刻

監視を実行している間に保存期間を過ぎたファイルの削除を開始する時刻を指定します。00:00～23:59の範囲で指定してください。

なお、監視が停止されている場合は、起動時刻となっても保存期間を過ぎたファイルの削除は実行されません。デフォルトは00:00です。

注意

PDFリモート印刷機能では、保存期間を設定しなかった場合は印刷が完了したPDFファイルは自動で削除しません。保存期間を設定して定期的に「保存期間を過ぎたファイルを削除」を実行するなどして、ディスク容量を圧迫することがないようにチェックしてください。

高度な設定

PDFリモート印刷プログラムの詳細な設定を行います。

— 監視間隔

フォルダを監視する監視間隔を指定します。即時の出力が求められない場合や、PDFファイルが格納される回数が少ない場合などに、大きい値を指定することでシステムの負荷を軽減できます。単位はミリ秒で、1～600000の間で指定してください。デフォルトは1000です。

— 印刷後の待機時間

印刷終了後、次の印刷までの待機時間を設定する場合に指定してください。単位はミリ秒で、0～600000の間で指定してください。デフォルトは0です。

— アプリケーションの事前起動

指定したアプリケーションを、印刷開始前にあらかじめ起動しておく場合に指定してください。なお、Adobe Acrobat または Adobe Readerの場合は必ず指定してください。デフォルトはチェックありです。

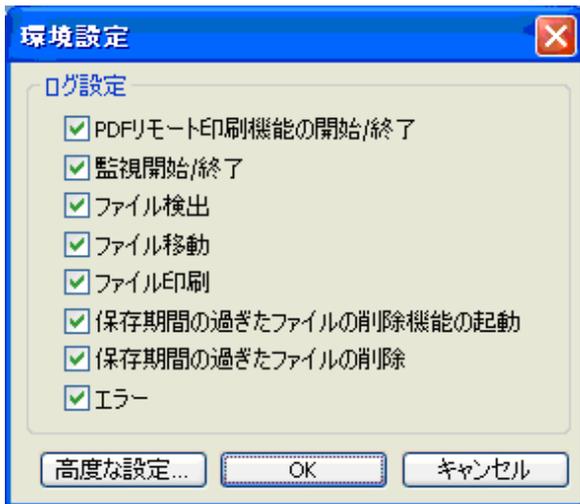
2.6.2.7 PDFリモート印刷プログラムの環境設定画面

PDFリモート印刷プログラムの環境設定画面について説明します。

この画面では、PDFリモート印刷プログラムがイベントログに出力するメッセージを選択します。運用目的に合わせて出力するメッセージを絞り込むことができます。

イベントログに出力するメッセージの詳細については、以下を参照してください。

⇒ [“2.6.2.9 PDFリモート印刷プログラムのエラーメッセージ”](#)



PDFリモート印刷機能の開始/終了

PDFリモート印刷プログラムの開始と終了をイベントログに出力する際にチェックします。デフォルトはチェックありです。

監視開始/終了

監視フォルダの開始と終了をイベントログに出力する際にチェックします。監視フォルダが複数存在する場合は、監視開始する監視フォルダの数だけメッセージが出力されます。デフォルトはチェックありです。

ファイル検出

監視フォルダでPDFファイルを検出した時にイベントログに出力する際にチェックします。監視フォルダに複数のPDFファイルが存在する場合は、PDFファイルを処理することにメッセージが出力されます。デフォルトはチェックありです。

ファイル移動

監視フォルダでPDFファイルを移動した時にイベントログに出力する際にチェックします。監視フォルダでは、印刷が完了した際のPrintフォルダへ、印刷がエラーとなった場合にはErrorフォルダへ移動します。監視フォルダに複数のPDFファイルが存在する場合は、PDFファイルを処理することにメッセージが出力されます。デフォルトはチェックありです。

ファイル印刷

監視フォルダでPDFファイルを印刷した時にイベントログに出力する際にチェックします。監視フォルダに複数のPDFファイルが存在する場合は、PDFファイルを処理することにメッセージが出力されます。デフォルトはチェックありです。

保存期間を過ぎたファイルの削除機能の起動

保存期間を過ぎたファイルの削除機能が起動された時にイベントログに出力する際にチェックします。保存期間を過ぎたファイルの削除機能は、それぞれの監視フォルダに設定した時刻や、メニューからの手動で実行されます。メッセージは、保存期間を過ぎたファイルの削除機能が起動した監視フォルダごとに出力されます。デフォルトはチェックありです。

保存期間を過ぎたファイルの削除

保存期間を過ぎたファイルが削除された時にイベントログに出力する際にチェックします。削除の対象となるPDFファイルが複数存在する場合は、PDFファイルを処理することにメッセージが出力されます。デフォルトはチェックありです。

エラー

エラーが発生した時にイベントログに出力する際にチェックします。デフォルトはチェックありです。

高度な設定

PDFリモート印刷プログラムの詳細な環境設定を行います。

ー ログ設定

デバッグメッセージをイベントログに出力する場合に指定します。トラブルが発生した場合など、特別な理由がない場合以外は指定しないでください。デフォルトはチェックなしです。

一 印刷の直列化

「全体」を指定した場合、それぞれの監視フォルダを順にチェックし、PDFファイルの印刷が完了してから次のチェックを行います。「監視フォルダ毎」を指定した場合、監視フォルダごとに独立してチェックを行います。そのため、複数の監視フォルダに同時にPDFファイルが格納された場合、PDFファイルの印刷が同時に実行されます。PDFファイルを印刷するアプリケーションによっては、同時に印刷が実行されると正常に印刷が行えない場合がありますので、特別な理由がない場合以外は「全体」を指定してください。デフォルトは「全体」です。

一 保存期間を過ぎたファイルの削除設定

「完全に削除」を選択した場合、保存期間を過ぎたファイルは完全に削除されます。保存期間を過ぎたファイルをごみ箱へ移動したい場合には「ごみ箱へ移動」を選択します。デフォルトは「完全に削除」です。

2.6.2.8 PDFリモート印刷プログラムの注意事項

PDFリモート印刷プログラムの注意事項について説明します。

- 印刷を実行するアプリケーションの起動に成功した時点で印刷成功と判断をするため、「Print」フォルダにファイルが残留していても、印刷が完了していない場合があります。印刷を完了するには、ファイルを再度「Drop」フォルダに移動するか、手動で再印刷を行ってください。
- PDFではないファイルを「Drop」フォルダに検出した場合、「Error」フォルダに移動します。
- 未完成のPDFと思われるファイルを「Drop」フォルダに検出した場合、印刷開始、あるいはエラー扱いとせず、残りの部分が送信されるまで待ちます。残りの部分の送信が再開される見込みがない場合は、手動で削除する必要があります。
- PDFリモート印刷機能を起動中は、監視設定で指定したアプリケーションの操作は行わないでください。
- Adobe AcrobatおよびAdobe Readerの自動アップデートや初回起動時のライセンス確認などでダイアログが自動表示されていると印刷に失敗するため、事前に表示されないように設定をしてください。
- 監視設定でアプリケーションを登録する際に、Adobe AcrobatとAdobe Readerを同時に指定することはできません。Adobe Acrobatを登録すると、他の監視設定で登録されているAdobe Readerは、全てAdobe Acrobatに変更されます。Adobe Readerを登録する場合も同様に、Adobe AcrobatはAdobe Readerに変更されます。
- 監視設定を複数登録する場合、同時に監視開始しているフォルダ数は20フォルダまでとすることを推奨します。20フォルダを超えるフォルダを同時に監視開始している場合、クライアントのシステムリソースの利用状況をチェックし、運用上問題ないことを確認した上で運用してください。
- 260文字を超えるパス名のファイルを「Drop」フォルダに検出した場合、該当フォルダの監視を停止します。削除または、変名を行い監視を再開してください。
- 「Print」または「Error」フォルダに投入ファイルの移動を行なう際に、既に移動先に同名ファイルが存在する場合は、上書きしないようにpdfmprt%d(%dは10桁以内の数字)という名前に変名を行ないます。「Drop」フォルダで検出したファイルのフルパスが258文字、または、259文字の場合も、そのままの名前では「Print」フォルダへの移動や削除ができないため同じ規則での変名を行ないます。
- ネットワーク上のフォルダを監視フォルダに指定した場合、監視開始を行なう際にネットワークの状況によっては監視開始に失敗することがあります。その際はネットワークの問題を解消した上で、監視開始を行なうようにしてください。監視中に切断、サーバダウン、ネットワーク障害などのネットワーク上のフォルダに問題が発生した場合は、監視停止せずに回復を待ち続けます。その際は、監視巡回ごとにエラーログを出力し続けますので、ネットワーク環境が良好でない環境では監視間隔を大きめにし、または、イベントログの最大ログサイズを大きくするなどしてログファイルが溢れないよう注意してください。
- PDFの印刷の順序は保証されません。

2.6.2.9 PDFリモート印刷プログラムのエラーメッセージ

PDFリモート印刷プログラムのエラーメッセージの原因と対処について説明します。

PDFリモート印刷プログラムでは、エラーが発生した場合にイベントログで通知します。イベントログのソースは「ListCREATOR pdfmprt」となります。

表2.15 ListCREATOR pdfmprtのイベントログ

イベントID	メッセージ本文	原因と対処
1	pdfmprt is started.	PDFリモート印刷プログラムが起動しました。

イベントID	メッセージ本文	原因と対処
2	pdfmprint is stopped.	PDFリモート印刷プログラムが終了しました。
3	[%1] Watch is started.(%4)	監視フォルダの監視を開始しました。 %1には、監視名が入ります。 %4には、自動起動の場合には「Auto」、メニューなどから実行した場合には「Manual」が入ります。
4	[%1] Watch is stopped.(%4)	監視フォルダの監視を終了しました。 %1には、監視名が入ります。 %4には、自動起動の場合には「Auto」、メニューなどから実行した場合には「Manual」が入ります。
5	[%1] File is detected.(%2)	PDFファイルが検出されました。 %1には、監視名が入ります。 %2には、PDFファイルのフルパスが入ります。
6	[%1] "%2" is moved to the %3 folder. [%1] "%2" is moved to the %3 folder.(as %4)	PDFファイルを移動しました。 %1には、監視名が入ります。 %2には、PDFファイル名が入ります。 %3には、移動先のフォルダが入ります。印刷の場合は「Print」、エラーの場合は「Error」となります。 %4には、移動の際にファイル名が変更された場合に、変更後のファイル名が入ります。
7	[%1] "%2" is printed.	PDFファイルが印刷されました。 %1には、監視名が入ります。 %2には、印刷されたPDFファイル名が入ります。
8	[%1] Deleting expired files is started.(%4)	保管期間を過ぎたファイルの削除が開始されました。 %1には、監視名が入ります。 %4には、監視設定による時刻で自動的に実行された場合は「Auto」、メニューなどから実行された場合は「Manual」が入ります。
9	[%1] "%2" is deleted.	保管期間を過ぎたファイルの削除により、ファイルが削除されました。 %1には、監視名が入ります。 %2には、PDFファイル名が入ります。
10	[%1] %2[FILE LINE]	PDFファイルをアプリケーションで印刷した際にエラーとなりました。 %1には、監視名が入ります。 %2には、詳細メッセージが入ります。 以下の詳細メッセージに応じて対処してください。 <ul style="list-style-type: none"> • “File access error.(%s)”：ファイルのアクセス権を確認してください。 • “Print error.(%s)”：プリンタでエラーが発生していないか、確認してください。 • “Folder is being watched.”：別のPDFリモート印刷プログラムによって監視されていないか、確認してください。 • “File is not PDF.(%s)”：格納されたファイルが正しいPDFファイルであるか、確認してください。 • “Too long file name.(%s)”：PDFファイルのパス名が長すぎます。削除または、変名を行い監視を再開してください。
11	Debug: %2	デバッグメッセージが出力されます。 %2には、詳細メッセージが入ります。

イベントID	メッセージ本文	原因と対処
		当メッセージと操作内容を記録し、当社技術員に連絡してください。

2.7 SMTP認証に使用するパスワード設定

ここでは、SMTP認証パスワード設定コマンド(lcmlfsetpasswd)の機能と、コマンドが作成するファイルについて説明します。

2.7.1 SMTP認証パスワード設定コマンド(lcmlfsetpasswd)

SMTP認証パスワード設定コマンドは、パスワードの管理環境の作成と削除、SMTPサーバごとのパスワードを設定します。

機能説明

SMTP認証パスワード設定コマンドの機能を以下に示します。

各機能はコマンドオプションで指定し、各オプションを同時に指定できません。

各オプションが同時に指定された場合、同じオプションが複数回指定された場合、またはオプションが指定されていない場合は、異常終了します。

— 環境作成機能

SMTP認証パスワードの管理環境を作成します。

— パスワード設定機能

SMTPサーバごとにSMTP認証パスワードを設定します。

— 環境削除機能

作成したSMTP認証パスワードの管理環境を削除します。

各機能の詳細は、“[2.7.2 環境作成機能](#)”“[2.7.3 パスワード設定機能](#)”“[2.7.4 環境削除機能](#)”を参照してください。

復帰値

0:

正常終了

1:

異常終了

コマンド格納場所

Windows

List Creatorインストールディレクトリ¥bin

Linux

/opt/FJSVedoc/bin

特記事項

— 実行に必要な権限

コマンド実行ユーザーは、Administrators権限・システム管理者権限が必要です。

— 実行時の排他制御

コマンドを同時に複数実行した場合は異常終了になります。

— 異常終了時

異常終了時には、標準エラー出力とログファイルに異常終了に関する情報を出力します。

エラーメッセージについては、以下を参照してください。

⇒“[2.7.6 SMTP認証パスワード設定コマンドエラーメッセージ一覧](#)”

一 運用例とその流れは以下のとおりです。

1. `lcmlfsetpasswd`の環境作成機能で、識別用文字列を設定します。
2. `lcmlfsetpasswd`のパスワード設定機能で、SMTPサーバセクション設定名、SMTP認証パスワードを設定します。
3. 設定を有効にするために、PDFメール配信サービスを起動します。
4. メール送信依頼を実行します。

2.7.2 環境作成機能

SMTP認証パスワードの管理環境を作成します。

入力された識別用文字列を変換して識別用文字列ファイルを作成します。

また、SMTP認証パスワードファイルを作成します。この時、SMTP認証パスワードおよびSMTPサーバセクション設定名の設定は行いません。

記述形式

コマンド	オプション
<code>lcmlfsetpasswd</code>	<code>-i</code> 識別用文字列

例) 識別用文字列 (`identifier_123`) を設定する場合

```
lcmlfsetpasswd -i identifier_123
```

オプション

`-i` 識別用文字列

識別用文字列の文字列長は8~20バイトです。

指定可能な文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_）」、「ハイフン(-)」です。

文字列長が8バイト未満または20バイトを超過している場合や、指定不可能な文字種が指定されている場合は異常終了になります。

注意事項

- 一 識別用文字列ファイルまたはSMTP認証パスワードファイルがすでに存在する場合は、異常終了になります。
- 一 識別用文字列を変更する場合は、作成したSMTP認証パスワードの管理環境を削除した後に、環境作成機能で再度指定してください。

実行結果

正常終了時に、識別用文字列ファイルとSMTP認証パスワードファイルを作成します。作成されたファイルの格納先については、以下を参照してください。

⇒ [“2.7.5 SMTP認証パスワード設定コマンドが作成するファイル”](#)

また、コマンド終了時には、以下のメッセージのどちらかが表示されます。

メッセージと意味

- 一 `The environment was created successfully.`
環境作成に成功しました。
- 一 `Failed to create environment.`
環境作成に失敗しました。

2.7.3 パスワード設定機能

SMTPサーバセクション設定名とSMTP認証パスワードを、SMTP認証パスワードファイルに格納します。

SMTPサーバセクション設定名をコマンドオプションで指定し、SMTP認証パスワードを対話形式で指定します。

指定したSMTPサーバセクション設定名がSMTP認証パスワードファイルに存在しない場合、新規にSMTPサーバセクション設定名とSMTP認証パスワードを追加します。この場合、対話形式で下記の入力を求めます。

- ・ 新しいSMTP認証パスワード
- ・ 新しいSMTP認証パスワード(再)

指定したSMTPサーバセクション設定名がSMTP認証パスワードファイルに存在する場合は、該当セクション設定名のパスワードを更新します。この場合、対話形式で以下の入力を求めます。

- ・ 設定済みSMTP認証パスワード
- ・ 新しいSMTP認証パスワード
- ・ 新しいSMTP認証パスワード(再)

記述形式

コマンド	オプション
lcmfsetpasswd	-s SMTPサーバセクション設定名

例) SMTPサーバセクション設定名(server1)のパスワードを設定する場合

```
lcmfsetpasswd -s server1
```

オプション

-s SMTPサーバセクション設定名

SMTPサーバセクション設定名の文字列長は1~4000バイトです。

指定可能な文字種は、半角英数字および半角記号「ピリオド(.)」、「アンダーバー(_）」、「ハイフン(-)」です。

文字列長が1バイト未満または4000バイトを超過している場合や、指定不可能な文字種が指定されている場合は異常終了になります。

SMTP認証パスワード(対話形式)

文字列長は1~100バイトです。入力可能な文字種は、半角英数字および半角記号(Unicodeで0020~007E)です。

文字列長が1バイト未満または100バイトを超過している場合や、指定不可能な文字種が指定されている場合は不正な値とみなされます。

注意事項

- 一 本機能を実行すると、SMTP認証パスワードファイルの格納先ディレクトリに、以下のファイル名でバックアップファイルが作成されます。

“SMTP認証パスワードファイル名”+.bak”

バックアップファイルは、正常終了時に削除されますが、SMTP認証パスワードファイルの書き出し中に異常終了したときには残存します。異常終了時には、バックアップファイルの名前を変更するか、削除してください。

SMTP認証パスワードファイルの格納先ディレクトリについては、以下を参照してください。

⇒“2.7.5 SMTP認証パスワード設定コマンドが作成するファイル”

- 一 以下のいずれかの場合、コマンドの実行結果が異常終了となります。
 - 識別用文字列ファイルまたはSMTP認証パスワードファイルの、どちらか一方のファイルのみ存在する場合
 - 識別用文字列ファイルおよびSMTP認証パスワードファイルが、両方とも存在しない場合
 - 「設定済みSMTP認証パスワード」の入力で、3回連続して誤った値を指定した場合
 - 「新しいSMTP認証パスワード」の入力で、3回連続して不正な値を指定した場合
 - 「新しいSMTP認証パスワード」の再入力で、3回連続して誤った値を指定した場合
 - 実行時にSMTP認証パスワードファイルと同一ディレクトリに、以下のバックアップファイルが存在する場合
"SMTP認証パスワードファイル名”+.bak”ファイル

— 特定のSMTP認証パスワードのみを削除することはできません。以下の手順で、必要なSMTP認証パスワードを再度設定してください。

1. 環境削除機能でファイルを削除する
2. 環境作成機能で環境を作成する
3. パスワード設定機能でSMTP認証パスワードを設定する

— 入力するSMTP認証パスワードは画面に表示されません。

実行結果

正常終了時に、暗号化されたSMTPサーバセクション設定名、およびSMTP認証パスワードを、SMTP認証パスワードファイルに設定します。

SMTP認証パスワードの対話形式での出力メッセージは、以下のとおりです。

メッセージと意味

- The specified section is already registered. The password will be updated.
Enter the old password:
指定されたSMTPサーバセクション設定名は既に登録されています。SMTP認証パスワードを更新します。
設定済みSMTP認証パスワードを入力してください。
- Enter the new password:
新しいSMTP認証パスワードを入力してください。
- Re-enter the new password:
新しいSMTP認証パスワードを再度入力してください。

コマンド終了時には、以下のメッセージのいずれかが表示されます。

メッセージと意味

- Password was set successfully.
SMTP認証パスワードの設定に成功しました。
- Failed to set password.
SMTP認証パスワードの設定に失敗しました。
- Password was set successfully, but backup file removal failed.
SMTP認証パスワードの設定に成功しましたが、バックアップファイルの削除に失敗しました。

2.7.4 環境削除機能

識別用文字列ファイルとSMTP認証パスワードファイルを削除します。削除確認は対話形式で実施します。

記述形式

コマンド	オプション
lcmfsetpasswd	-d

例)

```
lcmfsetpasswd -d
```

注意事項

- 削除対象の識別用文字列ファイルまたはSMTP認証パスワードファイルが、どちらも存在しない場合は異常終了します。
- 環境削除を実行することで、設定済の識別用文字列およびSMTP認証パスワードが削除されます。

- 本機能を実行時に、削除するかどうか確認するメッセージが表示されます。
削除する場合は「y」を、しない場合は「n」を入力してください。「y」と「n」以外が入力された場合は、再度確認メッセージが表示されます。

実行結果/出力形式

正常終了時に、識別用文字列ファイルとSMTP認証パスワードファイルを削除します。ファイル削除の対話形式での出力メッセージは、以下のとおりです。

メッセージと意味

```
File '%s '  
File '%s '  
will be deleted. OK? y(yes) | n(no) >
```

対象のファイルを削除して良いですか？(%sには削除対象のファイル名が表示されます)

削除する場合は「y」を、しない場合は「n」を入力してください。

コマンド終了時には、以下のメッセージのいずれかが表示されます。

メッセージと意味

- The environment was deleted successfully.
環境削除に成功しました。
- Failed to delete environment.
環境削除に失敗しました。
- This operation was canceled.
キャンセルされました。

2.7.5 SMTP認証パスワード設定コマンドが作成するファイル

SMTP認証パスワード設定コマンドは、以下のファイルを作成します。識別用文字列ファイルとSMTP認証パスワードファイルは、環境削除機能で削除できます。

識別用文字列ファイル

識別用文字列ファイルは、暗号化された識別用文字列を格納します。

ファイルの格納先

帳票出力サーバがWindowsの場合

List Creatorインストールディレクトリ¥mailenv_identifier

帳票出力サーバがLinuxの場合

/etc/opt/FJSVedoc/mailenv_identifier

SMTP認証パスワードファイル

SMTP認証パスワードファイルは、暗号化された以下の情報を格納します。

- SMTPサーバセクション設定名
- SMTP認証パスワード

ファイルの格納先

帳票出力サーバがWindowsの場合

List Creatorインストールディレクトリ¥mailenv_smtpauth

帳票出力サーバがLinuxの場合

/etc/opt/FJSVedoc/mailenv_smtpauth

ログファイル

SMTP認証パスワード設定コマンドのログ情報を出力します。文字コードは、帳票出力サーバがWindowsの場合はSJIS、Linuxの場合は実行環境のロケールに依存します。LinuxでサポートするロケールはEUCおよびUTF-8です。

ログサイズは「1000KB」を上限とし、上限を超える場合は同じファイルに上書きします。

ファイルの格納先

帳票出力サーバがWindowsの場合

コマンド実行ユーザーのテンポラリディレクトリ¥lcmfsetpasswd.log

帳票出力サーバがLinuxの場合

/var/opt/FJSVedoc/log/lcmfsetpasswd.log

2.7.6 SMTP認証パスワード設定コマンドエラーメッセージ一覧

以下に、SMTP認証パスワード設定コマンドを使用した際に、標準エラー出力とログファイルに出力されるエラーメッセージを示します。

メッセージ:

The command is already running.

原因:

コマンドが同時に複数実行されています。

対処:

実行中のコマンドを終了して、再実行してください。

メッセージ:

Insufficient privileges to execute this command. Execute with an administrator account.

原因:

コマンドがAdministrators権限・システム管理者権限で実行されていません。

対処:

コマンドをAdministrators権限・システム管理者権限で実行してください。

メッセージ:

Usage: lcmfsetpasswd -i identification_string

lcmfsetpasswd -s section_name

lcmfsetpasswd -d

原因:

オプションの指定方法に誤りがあります。

対処:

オプションの指定方法を確認し、正しく指定してください。

メッセージ:

Specify identification_string 8 to 20 bytes in length.

原因:

識別用文字列の長さに誤りがあります。

対処:

識別用文字列の長さが8～20バイトの間に収まるように、再度指定してください。

メッセージ:

Specified identification_string includes unusable characters.

原因:

識別用文字列の文字種に誤りがあります。

対処:

識別用文字列の設定値を確認し、再度指定してください。

メッセージ:

The environment is already created.

原因:

識別用文字列ファイル、SMTP認証パスワードファイルがすでに存在しています。

対処:

環境削除機能で識別用文字列ファイルとSMTP認証パスワードファイルを削除した後に再実行してください。

メッセージ:

Specify section_name 1 to 4000 bytes in length.

原因:

SMTPサーバセクション設定名の長さに誤りがあります。

対処:

SMTPサーバセクション設定名の長さが、1～4000バイトの間に収まるように、再度指定してください。

メッセージ:

Specified section_name includes unusable characters.

原因:

SMTPサーバセクション設定名の文字種に誤りがあります。

対処:

SMTPサーバセクション設定名の設定値を確認し、再度指定してください。

メッセージ:

The environment has been not created.

原因:

識別用文字列ファイルおよびSMTP認証パスワードファイルが存在していません。

対処:

環境作成機能で識別用文字列ファイルとSMTP認証パスワードファイルを作成した後、パスワード設定機能を再実行してください。

メッセージ:

The environment is incorrect.

原因:

識別用文字列ファイルまたはSMTP認証パスワードファイルが片方しか存在していません。

対処:

環境削除機能で識別用文字列ファイルまたはSMTP認証パスワードファイルを削除した後、環境作成機能およびパスワード設定機能を再実行してください。

メッセージ:

Backup file already exists.

原因:

バックアップファイルがすでに存在しています。

対処:

"SMTP認証パスワードファイル名+".bak"というファイルを削除または変名してください。

メッセージ:

Backup file creation error.

原因:

バックアップファイルの作成に失敗しました。

対処:

出力先ディレクトリ、ファイルのアクセス権を確認してください。

メッセージ:

Password does not match.

原因:

入力されたSMTP認証パスワードが、設定済みSMTP認証パスワードと一致しません。または、新しいSMTP認証パスワードと再入力した新しいSMTP認証パスワードが一致しません。

対処:

SMTP認証パスワードを正しく入力してください。

メッセージ:

Outside the range of 1 to 100 bytes.

原因:

SMTP認証パスワードの長さに誤りがあります。

対処:

SMTP認証パスワードの長さが、1～100バイトの間に収まるように、再度設定してください。

メッセージ:

Includes unusable characters.

原因:

SMTP認証パスワードの文字種に誤りがあります。

対処:

SMTP認証パスワードの設定値を確認し、再度指定してください。

メッセージ:

Environment to be deleted does not exist.

原因:

削除対象のファイルが存在しません。

対処:

対処は不要です。

メッセージ:

Failed to access file.(%1)

原因:

入出力ファイルの操作に失敗しました。%1には詳細メッセージが表示されます。

以下の原因が考えられます。

- ファイルが存在しない。
- ファイル/ディレクトリへのアクセス権限がない。
- 別のプロセスまたは他のユーザーが同名のファイルを使用中である。
- ディスク装置の異常によって、ファイルの出力に失敗した。
- ディスク装置の異常によって、ファイル領域への出力に失敗した。

対処:

ファイルの有無を確認してください。

ファイルが存在するディレクトリのアクセス権を確認してください。

メッセージ:

Insufficient memory.

原因:

メモリ資源の確保に失敗しました。メモリ資源が枯渇したと考えられます。

対処:

他のアプリケーションを終了させ、再度実行してください。

メッセージ:

Internal error.(%1)

原因:

内部エラーが発生しました。%1には詳細メッセージが表示されます。暗号化・復号化に失敗した場合等に出力されます。

対処:

当メッセージと操作内容を記録し、当社技術員まで連絡してください。

第3章 運用上の注意

ここでは、PDF変換機能の運用上の注意について説明します。

3.1 帳票設計時の注意事項

3.1.1 帳票様式情報設計時の注意事項

PDF変換機能を使用して帳票をPDFファイルに変換し、ファイル保存する場合は、以下の点に注意して帳票を設計してください。

- ・ 用紙サイズに「任意」を指定した場合、用紙名の指定の有無にかかわらず、指定した任意用紙サイズでPDFファイルに保存されます。
- ・ 印刷範囲は指定しても無効となります。
- ・ とじしろは指定しても無効となります。
- ・ 段組み印刷は、「2段」または「4段横」を指定した場合だけ有効になります。「4段縦」を指定した場合、帳票は元のサイズでPDFファイルに保存されます。
- ・ MS 明朝やMS ゴシックのフォントは、フォント登録の有無にかかわらず、List Creatorで以下のようにマッピングします。

MS 明朝:

MS 明朝(エンベッド時: FUJ明朝体)

MS ゴシック:

MS ゴシック(エンベッド時: FUJゴシック体)

@MS 明朝:

@MS 明朝(エンベッド時: @FUJ明朝体)

@MS ゴシック:

@MS ゴシック(エンベッド時: @FUJゴシック体)

上記以外のフォントを登録せずに使用した場合、以下のように出力されます。また、上記以外のフォントを登録してもPDFファイルに文字を埋め込まないと、帳票で定義した位置に正しく出力されません。

日本語文字:

MS 明朝(エンベッド時: FUJ明朝体)

日本語文字(縦書き):

MS 明朝(エンベッド時: FUJ明朝体)

ただし、オーバーレイ文字は、以下のとおりになります。

- フォント名称に「ゴシック」を含む場合
@MS ゴシック(エンベッド時: @FUJゴシック体)
- それ以外の場合
@MS 明朝(エンベッド時: @FUJ明朝体)

半角英数字文字:

帳票出力サーバがWindowsの場合

MS 明朝(エンベッド時: FUJ明朝体)

帳票出力サーバがUNIX系OSの場合

MS ゴシック(エンベッド時: FUJゴシック体)

フォントの登録方法や出力結果については、以下を参照してください。

→ [“2.1.2 帳票設計時のフォントをPDF/TIFF中に使用する”](#)

- ・ 縦書きフォント(@付きフォント)を指定する場合、半角文字は使用しないでください。使用した場合の文字の出力結果は保証されません。

- オーバレイ罫線・枠、パーティション罫線・枠の線種に実線以外が指定されている場合、間隔などのパターンが定義時と異なります。
- オーバレイ罫線・枠、パーティション罫線・枠の線種に二重線、波線が指定されている場合、実線になります。
- オーバレイ罫線、パーティション罫線の線端に平面を指定しても、PDFファイルでは四角になる場合があります。
- オーバレイ枠・パーティション枠に網がけを指定した場合、網がけではなく、領域が塗りつぶされます。複数の網がけを重ねる場合は、出力結果を確認してください。
- 「文字の向き」タブの「文字の向き」で文字列方向が右向き(左から右)以外を指定した場合、または縦書きフォント(@付きフォント)を指定した場合、下線を指定しても出力されません。
- 矩形オーバーレイ文字は使用できません。使用した場合、矩形オーバーレイ文字の領域には、何も出力されません。
- 帳票出力サーバがWindows/UNIX系OSの場合、組込みメディア項目は、以下のデータが出力できます。

- ビットマップデータ
- JPEGデータ
- TIFFデータ
- PNGデータ(V7.0L10以降)
- グラフデータ

なお、OLE2オブジェクトを指定した場合、エラーになります。

- 組込みメディア項目に「クリッピング」を指定した場合、メディアデータの解像度で出力するか、プリンタの解像度で出力するか選択できます。プリンタの解像度で出力する場合、印刷時と出力結果が異なります。必ず出力結果を確認してください。
- 以下の種別のバーコードが出力できます。右側は、指定可能なバーコードの項目長(入力データの長さ)です。
 - JAN標準 : 12
 - JAN短縮 : 7
 - Code 3 of 9 : 1~128の範囲
 - Code 3 of 9(EIAJ準拠) : 1~128の範囲
 - Industrial 2 of 5 : 1~128の範囲
 - Interleaved 2 of 5 : 1~128の範囲
 - NW-7 : 3~34の範囲
 - カスタマバーコード : 20
 - CODE128 : 1~127の範囲
 - EAN-128 : 1~127の範囲
 - EAN-128(コンビニエンスストア向け) : 44
 - EAN-13 : 12
 - UPCバージョンA : 11
 - UPCバージョンE : 6
 - U.S. POSTNET(Delivery Point Code) : 11
 - U.S. POSTNET(ZIP+4 Code) : 9
 - U.S. POSTNET(5-Digit ZIP Code) : 5
 - QR Code(モデル 1) : 1~1167の範囲
 - QR Code(モデル 2) : 1~7089の範囲
 - QR Code(マイクロQR) : 1 ~ 999の範囲
 - PDF417 : 1 ~ 9999の範囲

- MaxiCode : 1 ~ 999の範囲
- Intelligent Mail Barcode : 20、25、29、31
- GS1 DataBar Omnidirectional : 13
- GS1 DataBar Truncated : 13
- GS1 DataBar Stacked : 13
- GS1 DataBar Stacked Omnidirectional : 13
- GS1 DataBar Limited : 13
- GS1 DataBar Expanded : 数字のみ74、英数字41
- GS1 DataBar Expanded Stacked : 数字のみ74、英数字41

上記以外の種別のバーコードを指定した場合、および指定可能なバーコードの項目長を超えて指定した場合、帳票をPDFファイルに保存するときにエラーになります。

- 以下の種別のバーコードでは、分割数の指定を有効とするか無効とするかを、帳票出力環境設定ファイルまたは帳票出力情報ファイルで指定できます。有効とする場合は、帳票出力環境設定ファイルまたは帳票出力情報ファイルで、キーワード「PDFBARQRPART」に「Y」を指定してください。詳細は、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。

- QR Code (モデル1)
- QR Code (モデル2)

- バーコード項目の「印刷方向」に「90°」または「270°」を指定した場合、印刷時と出力結果が異なります。「90°」または「270°」を指定する場合は、帳票様式定義画面で領域を出力イメージと同じになるよう縦長で定義してください。また、必ず出力結果を確認してください。
- バーコード種別がカスタムバーコードで、「印刷方向」に「180°」を指定した場合、「0°」が指定されたものとして出力されます。また、「270°」を指定した場合、「90°」が指定されたものとして出力されます。
- バーコードは、JISやEANなどの規格にしたがったサイズで出力されます。そのため、指定された範囲よりも大きくまたは小さく出力される場合があります。
- 定義した矩形内に収めるためには、List Creator デザイナの帳票業務情報のプロパティ画面の[ファイル]タブの文書情報設定画面で指定した文書管理の「バーコード描画」で、「バーコードを項目のサイズに収まるように出力する」を指定してください。ただし、カスタムバーコードに対しては本機能は使用できません。

また、Code 3 of 9 (EIAJ準拠)の場合、バーコード項目の[バーコード種別]タブのEIAJ詳細設定画面で設定された細エレメント幅を使用してバーコード出力を行います。

- JAN標準バーコードおよびEAN-13は、「フラグキャラクタを下に印刷」を指定しない場合でも、バーコードの下にフラグキャラクタが出力されます。
- バーコード項目に「文字印刷」を指定した場合、バーコードの下に出力されるデータの位置は、印刷時と異なります。
- カスタムバーコード、U.S. POSTNETには、「文字印刷」を指定しないでください。指定しても文字は印刷されません。
- バーコードは、指定した範囲よりも大きく、または小さく出力される場合があります。

バーコードは、用紙、リーダ、出力装置の解像度、および状態で精度が変わるため、実際の運用を行う前に、バーコードを出力し、読み込めることを確認してから使用してください。

- 組合せフォーム出力時、以下の項目には組合せフォーム名が設定されます。なお、しおりは組合せフォーム名が切り替わったタイミングで挿入されます。
 - PDFのタイトル
 - PDFのしおりの名前
- 帳票出力サーバがUNIX系OSの場合、以下の点に注意して帳票を設計してください。
 - 「集団印刷」の印刷文字には、必ず1バイト文字を指定してください。
 - 数字項目の編集形式の「分類」に「日付」を指定する場合、「区切り」文字には、必ず1バイト文字を指定してください。また、必ず「年月日」以外を指定してください。

- 郵便番号項目は指定しないでください。指定した場合、正しく出力されません。

3.1.2 帳票業務情報設定時の注意事項

帳票をPDFファイル保存する場合、次の点に留意して、帳票業務情報を設定してください。

- タイトル(帳票の出力時にタイトルを省略した場合は帳票名)、サブタイトル、作成者は、日本語(JIS非漢字/第一水準漢字/第二水準漢字)または英数字で指定してください。その他の文字を指定した場合、PDFファイルの文書情報(一般)で正しく表示されないことがあります。
 - 帳票出力サーバがUNIX系OSの場合、帳票のプロパティで指定する格納先ファイル名の区切り文字には「円マーク(¥)」を入力してください。「円マーク(¥)」は、UNIX系OS上では「スラッシュ(/)」で解釈されます。なお、格納先ファイル名を帳票の出力時に指定する場合は、「スラッシュ(/)」で指定してください。
 - 指定されたフォルダが存在しない場合、フォルダが自動生成されます。フォルダには、親フォルダと同じアクセス権が設定されます。アクセス権がない場合は、エラーになります。
 - PDFファイルには、帳票を出力したユーザのアクセス権が設定されます。
 - 同一名ファイルがすでに存在する場合は、アクセス権があれば新しいファイルに置き換えられます。アクセス権がない場合は、エラーになります。
 - 同一名ファイルがすでに存在するときにPDFファイル保存に失敗した場合は、元のPDFファイルも削除されることがあります。
 - PDFファイルを開くときのパスワードは、半角の英数字または記号(ASCIIコードの文字範囲)で指定してください。その他の文字を指定した場合、PDFファイルを表示できない場合があります。
 - PDFファイルのセキュリティオプションを変更するときのパスワードは、半角の英数字または記号(ASCIIコードの文字範囲)で指定してください。その他の文字を指定した場合、PDFファイルを表示できない場合があります。
 - PDFファイルを開くときのパスワードとセキュリティオプションを変更するときのパスワードに同じパスワードを指定した場合、すべてのセキュリティが解除されます(PDFファイルのセキュリティオプションを変更するときのパスワードの指定が無効になります)。
 - 利用者定義文字を出力する場合は、以下を参照してください。
⇒ [“2.1.9 外字を使用したPDFの出力方法”](#)
 - 利用者定義文字やJEF拡張文字を使用する場合は、文字をPDFファイルに埋め込んでください。PDFファイルに埋め込まない場合、PDFファイルを表示するシステム的环境によっては、見え方が異なったり、正しく表示されなかったりすることがあります。
 - 縦書きフォント(@付きフォント)をPDFファイルに埋め込まない場合、一部出力される向きや位置が異なる文字があります。
 - テキスト項目、固定リテラル項目などの項目に、太字や斜体などの文字修飾を指定した場合、印刷時と比較して若干字形が異なる場合があります。
 - PDFフォント登録機能で登録されたフォントによっては、下線や文字の描画位置が印刷時と比較して若干ずれる場合があります。
 - PDFファイル生成時に作業ファイルを作成します。以下のディレクトリのディスク容量とアクセス権がない場合、正しくPDF生成されません。
 - 帳票出力サーバがWindowsの場合
(List Creatorインストールディレクトリ)¥Temp配下
 - 帳票出力サーバがUNIX系OSの場合
/var/tmp配下
 - PDFメール配信時に作業ファイルを作成します。以下のディレクトリのディスク容量とアクセス権がない場合、正しくPDFが生成されません。
 - 帳票出力サーバがWindowsの場合
(List Creatorインストールディレクトリ)¥mailqueue配下
 - 帳票出力サーバがUNIX系OSの場合
/var/opt/FJSVedoc/mailqueue配下
- 正常時は、一時ファイルは自動削除されますが、エラー発生時には作業ファイルが残ります。

リトライ可能なエラーの場合は30秒おきに再送信をMLF_SMTPRetryCntで指定した回数行い、エラー要因が解除された時点で作業ファイルは削除されます。

メールの宛先が誤っている場合は、作業ファイルが残るため、削除する必要があります。

MLF_SMTPRetryCntの設定方法は、以下を参照してください。

⇒“2.2.11 PDFメール環境設定ファイルの説明”

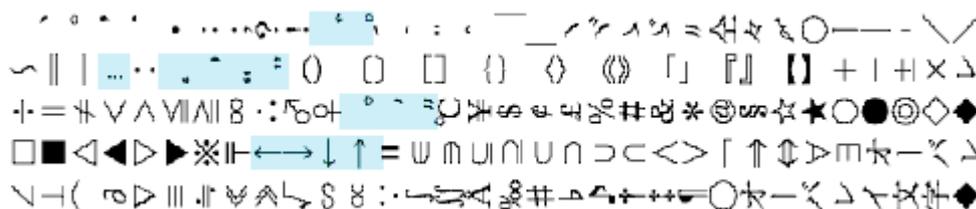
3.2 アプリケーション作成時の注意事項

3.2.1 文字の表示

- PDFにフォントをエンベッドしない場合には、クライアントシステム的环境によっては見え方が異なったり、または正しく表示されない場合があります。
- 太字の文字修飾を行った場合、Acrobat上での拡大表示や印刷時に文字がきれいに出力されない場合があります。この場合、フォントをエンベッドすることで正しく出力することができます。
- 外字(利用者定義文字とJEF拡張文字)を使用したPDFファイルを生成する場合、PDF文書情報ファイルの設定またはList Creator デザインの帳票業務情報、または帳票出力時にフォントのエンベッドを行わないと、PDFファイルが正しく表示されません。
- @文字(縦書き)を使用した場合、WindowsおよびMacintoshでそれぞれ、エンベッドしたときとしないときで、以下の網がけで示した文字に関して、向きや位置が横書きのフォントと異なります。

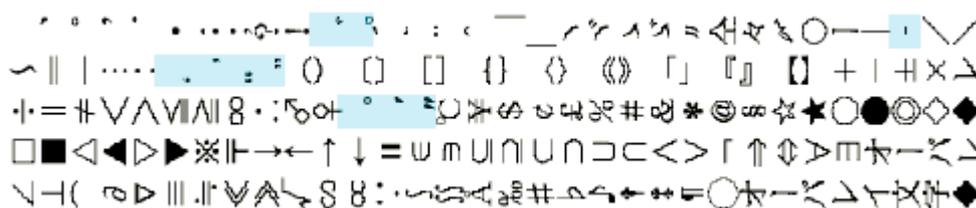
— エンベッドせずにWindowsで表示した場合

例)



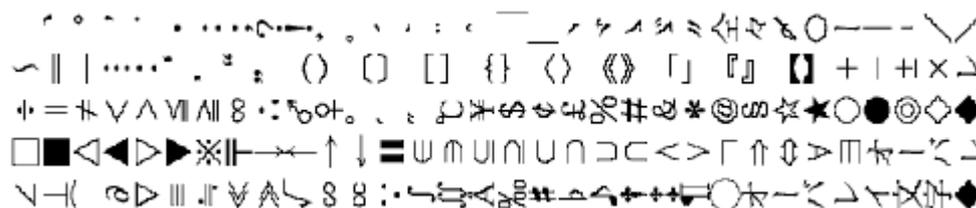
— エンベッドせずにMacintoshで表示した場合

例)



— エンベッドしてWindowsおよびMacintoshで表示した場合

例)



- フォントをエンベッドすることで、フォントデータをPDFファイルに埋め込むため、埋め込みを行った文字数分のファイルサイズが肥大化します。

- ・ 帳票出力サーバがSolarisで、入力データにEUC(U90)を使用して、83年度JISで字体変更された旧字体を新字体で出力する場合、Charset Managerの文字コード変換表カスタマイズ機能を使用することで新字体での文字出力が可能となります。

例えば、EUC(U90)の旧字体を83年度JISの新字体に対応付けすることにより、新字体を出力することができます。

3.2.2 作業ファイルの生成

PDF生成時に作業ファイルを作成します。作成する作業ファイルのサイズは、出力する帳票によって異なりますが、通常最終的に生成されるPDFファイルサイズの2~4倍の大きさとなります。作業ファイルは、PDF生成後に削除されます。以下のフォルダのディスク容量とアクセス権がない場合は、正しくPDFが生成されません。

- ・ List Creator 帳票出力インタフェースを使用する場合

帳票出力サーバがWindowsの場合:List Creatorインストールディレクトリ¥TEMP

帳票出力サーバがUNIX系OSの場合:/var/tmp

- ・ COBOLアプリケーション連携機能を使用する場合

帳票出力サーバがWindowsの場合:帳票出力サーバの環境変数TEMPに設定されているディレクトリ

PDFメール配信時は、以下を合わせて参照してください。

⇒ “3.6 PDFメール配信時の注意事項”

3.2.3 フルスクリーン表示

フルスクリーン表示を設定(PDF-FULLSCREEN=ON)した場合、ツールバー非表示機能(PDF-HIDETOOLBAR)およびメニューバー非表示機能(PDF-HIDEMENUBAR)の設定にかかわらず、ツールバー、メニューバーとも表示されません。

このため、フルスクリーン表示したPDFをAcrobatで閉じるためには、以下のいずれかで閉じることが可能になります。

- ・ Acrobat7.0の環境設定で[編集]－[環境設定]－[一般]－[全画面表示](Acrobat 8.0以降の場合、[編集]－[環境設定]－[フルスクリーンモード])の“Escキーで取り消し”になっていればESCキーを入力するとタイトルバーが表示されます。
- ・ Ctl+L (MacintoshではCommand+L)で、フルスクリーン表示を解除することができます。

3.3 Adobe Readerの注意事項

3.3.1 Adobe Readerの版数

- ・ PDF変換機能によって生成されるPDFファイルは、以下の仕様に基づいています。
 - － Portable Document Format Reference Manual Version 1.4(Adobe Systems Incorporated発行)
- ・ PDFファイルを表示するAdobe AcrobatまたはAdobe Readerの版数によって、PDF変換機能に制限がある場合があります。

表3.1 Adobe Readerの版数による制限(~ Acrobat XI以前)

制限のあるPDF変換機能	Acrobat4.0 または Acrobat Reader4.0	Acrobat5.0 または Acrobat Reader5.0	Adobe Acrobat6.0 または Adobe Reader6.0	Adobe Acrobat7.0 または Adobe Reader7.0	Adobe Acrobat8.0 または Adobe Reader8.0	Adobe Acrobat9.0、X、 XI または Adobe Reader9.0、X、 XI
128bit暗号化	×	○	○	○	○	○
AES暗号化	×	×	×	○	○	○
閲覧制限機能	△	△	○	○	○	○
PDF自動印刷機能	○	○	○	○	△	△

制限のあるPDF変換機能	Acrobat4.0 または Acrobat Reader4.0	Acrobat5.0 または Acrobat Reader5.0	Adobe Acrobat6.0 または Adobe Reader6.0	Adobe Acrobat7.0 または Adobe Reader7.0	Adobe Acrobat8.0 または Adobe Reader8.0	Adobe Acrobat9.0、X、 XI または Adobe Reader9.0、X、 XI
PDF手元非表示印刷機能	△	△	△	△	△	△
PDFリモート印刷機能	×	×	×	×	×	○
IVS文字	×	×	×	×	×	○

表3.2 Adobe Readerの版数による制限(Acrobat DC以降)

制限のあるPDF変換機能	Adobe Acrobat DC 2015 または Adobe Acrobat Reader DC 2015	Adobe Acrobat DC Continuous または Adobe Acrobat Reader DC Continuous	Adobe Acrobat 2017 または Adobe Acrobat Reader 2017
128bit暗号化	○	○	○
AES暗号化	○	○	○
閲覧制限機能	○	○	○
PDF自動印刷機能	○	○	○
PDF手元非表示印刷機能	△	△	△
PDFリモート印刷機能	○	○	○
IVS文字	○	○	○

- 128bit暗号化を行ったPDFファイルを表示する場合は、Acrobat 5.0またはAcrobat Reader 5.0以降を使用してください。それ以外(40bit暗号化)の場合、Acrobat 4.0またはAcrobat Reader 4.0以降を使用してください。
- Acrobat 5.0またはAcrobat Reader 5.0以降で大量ページの帳票を表示させる場合、表示性能が遅くなる場合があります。
- Acrobat 5.0またはAcrobat Reader 5.0以前では、閲覧制限を設定したPDFの制限を解除することができません。
- Adobe Acrobat 8.1.3またはAdobe Reader 8.1.3以降では、PDF自動印刷を実行する際に必ず印刷ダイアログが表示されます。
- Adobe Acrobat 8.1.3またはAdobe Reader 8.1.3以前では、同時にPDF手元非表示印刷を実行すると、PDFファイルが正しく印刷されない場合があります。
- Adobe Acrobat 7.0～Adobe Acrobat 7.0.4、Adobe Reader 7.0～Adobe Reader 7.0.4、Adobe Acrobat 8.1.3およびAdobe Reader 8.1.3以降では、PDF手元非表示印刷時にAdobe AcrobatやAdobe Readerのブラウザ画面が表示されてしまう場合があります。
- Adobe Reader 7.0～Adobe Reader 7.0.4では、セキュリティオプションが有効とならない場合があるため、Adobe Reader 7.0.5以降を使用するとともに、PDFファイルのセキュリティオプション変更パスワードを設定してください。

PDFファイルのセキュリティオプション変更パスワードの詳細については、以下を参照してください。

- [“2.2.3 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード一覧”](#)
- オンラインマニュアル“アプリケーション作成ガイド”

3.3.2 PDFファイルの制限

PDF言語仕様によって、以下を超えた場合、Acrobatで正しく表示されない可能性があります。

PDFファイルの最大ページ数

約8,000[ページ](オーバーレイなし)

座標値の有効範囲

約-32,000～+32,000[ポイント]

最大文字列長

約4,095[文字]

3.3.3 PDFファイルの検索

PDFファイルをAdobe Readerの検索機能で使用する場合、半角英数字の文字列が正しく検索できない場合があります。List CreatorのPDF変換機能やList Works連携機能で生成したPDFファイルを、Adobe AcrobatやAdobe ReaderなどのAdobe社製品のPDFビューアで表示させた場合、以下のような現象が発生する場合があります。

- ・ 検索時に、半角英数字の文字列が正しく検索できない。
(半角英数字の間に空白を挿入して検索すると、検索できる)
- ・ 文字列をコピーした場合、半角英数字の文字間に空白が挿入された状態でコピーされる

これは、Adobe Acrobat/Adobe Readerの内部処理による現象です。以下のような回避策が有効な場合があります。

- ・ 帳票定義情報の対象文字列の含まれる項目のプロパティで、[フォント]タブの「ピッチ」のチェックを外してPDFを生成する、または、半角文字を全角文字に変更してPDFを生成する
- ・ 他のPDFビューアや、Adobe社製以外のAcrobat用の全文検索プラグインを利用する

3.3.4 網がけパターン

図形描画に網がけパターンを使用した場合、Adobe Readerの表示倍率によって、モアレが発生する場合があります。

3.3.5 破線パターン

図形描画に破線パターンを使用した場合、Adobe Readerの表示倍率によって、パターンが不規則に表示される場合があります。

Acrobat Reader 5.0、またはAdobe Reader 6.0以降では、破線パターンの開始位置が不ぞろいとなる場合があります。

3.3.6 Acrobatによる文書情報の表示

- ・ Adobe Readerでは、「文書の変更」、「注釈とフォームフィールドの追加と変更」は、無条件に「許可しない」となります。
- ・ PDFファイルを開く際に使用するパスワードとPDFファイルのセキュリティレベルの変更を行うパスワードは、32バイトしか有効なりません。また、ASCIIの文字範囲以外を使用した場合、正しく機能しない場合があります。
- ・ PDFファイルの文書情報として設定できる以下の文字列に日本語(JIS第一水準/第二水準、JIS非漢字を含む)と英数字以外を使用した場合、正しく表示されない場合があります。
 - タイトル
 - サブタイトル
 - 作成者

3.3.7 PDFファイルの印刷

- ・ PDFファイルを印刷する場合、環境によっては、Acrobatで画面に表示されたイメージどおりに印刷されない場合があります。この場合、[ファイル]－[印刷]－[画像として印刷](Acrobat 8.0以降の場合、[ファイル]－[印刷]－[詳細設定]－[画像として印刷])を指定することで回避することができます。
- ・ Acrobatの[ファイル]－[印刷]－[用紙サイズに合わせる]が設定されている場合、描画結果が拡大/縮小されて、PDFファイル作成時のイメージどおりに印刷されない可能性があります。

- Adobe Readerからの印刷は、Adobe Readerの仕様にに基づき、[ファイル]－[ページの設定](Adobe Reader 8.0以降の場合、[ファイル]－[印刷設定])で設定されているプリンタ(デフォルトは、通常使うプリンタ)の用紙サイズで出力されます。

したがって、印刷時の用紙サイズを変更したい場合は、Adobe Readerの[ファイル]－[ページの設定](Adobe Reader8.0以降の場合、[ファイル]－[印刷設定])画面で用紙サイズを変更してください。

PDF手元非表示印刷を行う場合など、動的に用紙サイズ変更できない場合、Windowsのプリンタ設定画面にて印刷するプリンタを通常使うプリンタに設定し、そのプリンタの[印刷設定]メニューで用紙サイズを変更してください。

3.3.8 ファイル添付機能

ファイル添付機能を使用して作成したPDFファイルから添付されたファイルを抽出する場合、Acrobat 5.0以降を使用してください。Acrobat 4.0やAcrobat Reader 4.0、Acrobat Reader 5.0では、抽出は行えません。

添付したファイルの抽出は、以下の手順で行います。

Acrobat 5.0の場合

1. Acrobatのメニューから[ファイル]－[文書のプロパティ]－[埋め込みデータオブジェクト]を選択します。
2. 「文書埋め込みデータオブジェクト」ダイアログボックスで、抽出したいファイルを選択して、[書き出し]ボタンをクリックします。
3. 保存先を指定します。

Acrobat 6.0またはAdobe Reader 6.0の場合

1. Acrobatのメニューから[文書]－[添付ファイル]を選択します。
2. 「添付ファイル」ダイアログボックスで、抽出したいファイルを選択して、[書き出し]ボタンをクリックします。
3. 保存先を指定します。

Acrobat 7.0またはAdobe Reader 7.0の場合

1. Acrobatのメニューから[表示]－[ナビゲーションタブ]－[添付ファイル]を選択します。
2. 「添付ファイル」タブで、抽出したいファイルを選択して、[保存]ボタンをクリックします。
3. 保存先を指定します。

Acrobat 8.0以降またはAdobe Reader 8.0以降の場合

1. Acrobatのメニューから[表示]－[ナビゲーションパネル]－[添付ファイル]を選択します。
2. 「添付ファイルパネル」で、抽出したいファイルを選択して、[保存]ボタンをクリックします。
3. 保存先を指定します。



ファイル添付機能を使用するPDFファイルには、セキュリティの付加や暗号化を行わないでください。セキュリティの付加や暗号化を行うと、添付したファイルがAcrobatで抽出できない可能性があります。

3.3.9 イメージ透過機能

- モノクロ2値イメージデータをマスクする場合、正しいマスク結果が得られない場合があります。多値データとしてイメージデータを保存し直すことで回避できます。
- List Creator デザインで作成した帳票を出力する場合、組込みメディア項目の透過機能はRGBでカラーを表現している2色のビットマップデータ、TIFFデータ、またはPNGデータのみをサポートしています。未サポートのイメージを使用した場合は、以下のエラーが発生する、またはイメージの透過がされないという現象が発生します。

「PDF出力時にエラーが発生しました。PDF変換機能のログ情報でエラーの詳細を確認してください。詳細コード: [9M]」

3.3.10 Acrobat JavaScriptの設定

PDF自動印刷機能、およびPDF閲覧制限機能を使用する場合、AcrobatのAcrobat JavaScriptを有効にする設定をしておく必要があります。

Acrobat JavaScriptが有効になっているかの確認方法を、以下に示します。

1. Acrobatを起動します。
2. [編集]—[環境設定]を選択します。
⇒環境設定画面が表示されます。
3. 環境設定画面の左側の「分類」で「JavaScript」を選択します。
4. 環境設定画面の右側の「Acrobat JavaScriptを使用」チェックボックスがチェックされているかを確認します。
チェックがはずれている場合は、チェックボックスをチェックしてください。

3.3.11 帳票業務情報とAcrobat製品画面の対応

List Creatorで定義した帳票業務情報および帳票出力時に指定した情報は、関連ソフトウェア製品に引き継がれます。

ここでは、List Creatorで定義した帳票業務情報が、関連ソフトウェア製品のどの画面のどの項目として表示されるかを示します。

PDFファイル保存する場合は、以下を参照してください。

- ⇒ “表3.3 Acrobat/Adobe Readerの文書情報(一般)画面”
- ⇒ “表3.4 Acrobat/Adobe Readerの文書情報(セキュリティ)画面”
- ⇒ “表3.5 Acrobat 5.0の文書情報(埋め込みデータオブジェクト)画面”
- ⇒ “表3.6 Acrobat 6.0/7.0/8.0/9.0の文書情報(添付ファイル)画面”

表3.3 Acrobat/Adobe Readerの文書情報(一般)画面

ファイルの情報	List Creatorの帳票業務情報/帳票出力時の指定
タイトル	1. 帳票の出力時に指定した帳票のタイトル 2. 帳票名
サブタイトル	1. 帳票の出力時に指定したPDFファイルのサブタイトル 2. [ファイル]タブの文書情報設定画面で指定した概要の「サブタイトル」
作成者	1. 帳票の出力時に指定したPDFファイルの作成者 2. [ファイル]タブの文書情報設定画面で指定した概要の「作成者」

表3.4 Acrobat/Adobe Readerの文書情報(セキュリティ)画面

ファイルの情報	List Creatorの帳票業務情報/帳票出力時の指定
文書パスワード	帳票の出力時に指定したPDFファイルを開くパスワード
セキュリティパスワード	帳票の出力時に指定したセキュリティオプション変更パスワード
印刷	1. 帳票の出力時に指定したPDFファイルの印刷許可指定 2. 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「印刷の許可」設定
文書の変更	1. 帳票の出力時に指定したPDFファイルの変更許可指定 2. 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「文書変更の許可」設定
内容のコピーと抽出	1. 帳票の出力時に指定したPDFファイルのテキストとグラフィックスの選択許可指定 2. 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「互換性のある形式」で「Acrobat 5.0およびそれ以降」を選択した場合の「テキストとグラフィックスの選択の許可」設定
注釈	1. 帳票の出力時に指定したPDFファイルの変更許可指定 2. 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「互換性のある形式」で「Acrobat 5.0およびそれ以降」を選択した場合の「文書変更の許可」設定
フォームフィールドの入力と署名	1. 帳票の出力時に指定したPDFファイルの変更許可指定

ファイルの情報	List Creatorの帳票業務情報/帳票出力時の指定
	2. 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「互換性のある形式」で「Acrobat 5.0およびそれ以降」を選択した場合の「文書変更の許可」設定
アクセシビリティを有効にする	1. 帳票の出力時に指定したPDFファイルのテキストとグラフィックスの選択許可指定 2. 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「互換性のある形式」で「Acrobat 5.0およびそれ以降」を選択した場合の「テキストとグラフィックスの選択の許可」設定
文書アセンブリ	1. 帳票の出力時に指定したPDFファイルの変更許可指定 2. 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「互換性のある形式」で「Acrobat 5.0およびそれ以降」を選択した場合の「文書変更の許可」設定
テキストとグラフィックスの選択	1. 帳票の出力時に指定したPDFファイルのテキストとグラフィックスの選択許可指定 2. 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「互換性のある形式」で「Acrobat 4.0およびそれ以降」を選択した場合の「テキストとグラフィックスの選択の許可」設定
注釈とフォームフィールドの追加と変更	1. 帳票の出力時に指定したPDFファイルの注釈とフォームフィールドの追加と変更許可指定 2. 文書情報設定画面で指定したセキュリティの「互換性のある形式」で「Acrobat 4.0およびそれ以降」を選択した場合の「注釈とフォームフィールドの追加と変更の許可」設定

表3.5 Acrobat 5.0の文書情報(埋め込みデータオブジェクト)画面

ファイルの情報	List Creatorの帳票業務情報/帳票出力時の指定
埋め込みデータオブジェクト	1. 帳票の出力時に指定したPDFファイルに添付する任意のファイル 2. 文書情報設定画面で指定した文書管理の「PDFファイルに添付するファイル名」設定

表3.6 Acrobat 6.0/7.0/8.0/9.0の文書情報(添付ファイル)画面

ファイルの情報	List Creatorの帳票業務情報/帳票出力時の指定
添付ファイル	1. 帳票の出力時に指定したPDFファイルに添付する任意のファイル 2. 文書情報設定画面で指定した文書管理の「PDFファイルに添付するファイル名」設定

3.4 オーバレイに関する注意事項

- List Creator デザイナやMeFt連携時に使用するFORMで作成したKOL6形式オーバレイにおいて、斜線の端点が無条件に直角となります。



Acrobatでの表示/印刷結果



List Creator デザイナおよびFORMでの表示/印刷結果



List CreatorおよびMeFtでの印刷結果

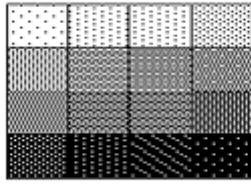
- List Creator デザイナやFORMで作成したKOL5/KOL6形式オーバレイにおいて、二値イメージデータは使用できません。Adobe Readerから印刷した場合、白黒が逆転する場合があります。

対処方法：Adobe Readerから印刷する場合は、多値イメージデータを使用する。

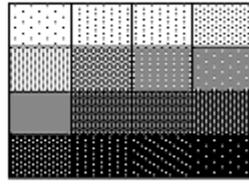
- List Creator デザイナやFORMで作成したKOL5/KOL6形式オーバーレイにおいて、網がけパターンが指定と異なります。ただし濃度値の指定は有効となります。



Acrobatでの表示/印刷結果



List Creator デザイナおよびFORMでの表示/印刷結果



List CreatorおよびMeFtでの印刷結果

- List Creator デザイナやFORMで作成したKOL5/KOL6形式オーバーレイにおいて、実線以外の線種を指定した場合、間隔などのパターンが異なります。



Acrobatでの表示/印刷結果

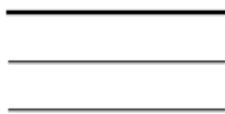


List Creator デザイナおよびFORMでの表示/印刷結果

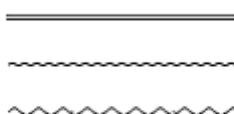


List CreatorおよびMeFtでの印刷結果

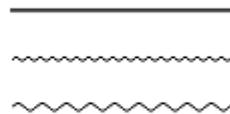
- List Creator デザイナやFORMで作成したKOL6形式オーバーレイにおいて、波線/二重線は未サポートのため、実線に置き換えられます。



Adobe Readerでの表示/印刷結果



List Creator デザイナおよびFORMでの表示/印刷結果



List CreatorおよびMeFtでの印刷結果

- List Creator デザイナやFORMで作成したKOL6形式オーバーレイにおいて、矩形オーバーレイ文字は未サポートのため、表示されません。
- List Creator デザイナやFORMで作成したKOL6形式オーバーレイにおいて、作成時に使用したフォントがList Creatorの動作環境にインストールされており、フォントの登録処理がなされていない場合、フォント名称に「ゴシック」を含まないフォントは、明朝体に代替されます。また、テキスト項目で使用したフォントがインストールされていない場合には、すべて明朝体に代替されます。
- List Creator デザイナやFORMで作成したKOL6形式オーバーレイにおいて、PDFフォント登録機能によって登録されたフォントによっては、下線の位置や文字の描画位置が印刷時と比較して若干ずれることがあります。

3.5 バーコードに関する注意事項

- カスタマバーコード、U.S. POSTNETには、バーコードの文字印刷を指定することはできません。帳票設計時にはバーコード項目の文字印刷を無効にしてください。
- QRコードの分割については、分割数の指定を有効とするか無効とするかを、帳票出力環境設定ファイルまたは帳票出力情報ファイルで指定できます。有効とする場合は、帳票出力環境設定ファイルまたは帳票出力情報ファイルで、キーワード「PDFBARQRPART」に「Y」を指定してください。
詳細は、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。
- バーコードを使用したPDFファイルを印刷する場合には600dpi以上の解像度のプリンタを使用してください。

- バーコードは、用紙、リーダ、出力装置の解像度、および状態で精度が変わるため、実際の運用を行う前にバーコードを印刷し、読み込めることを確認してから使用してください。
- Code 128を出力する場合、項目長は128以内としてください。128より大きい項目長を指定した場合は、帳票出力エラーとなります。
- PDF生成時、デフォルトでは、JISやEANなどの規格として定められている細エレメント幅で出力します。また、細エレメント幅が定められていないコード種では、細エレメント幅を0.264mmとしてバーコードを出力させるため、帳票設計時に指定したバーコード項目のサイズで出力されない場合があります。

指定したバーコード項目のサイズで出力するためには、PDF文書情報ファイル(“2.2.4 帳票出力時に使用するPDF文書情報ファイルのキーワード説明”)のPDF-BARBOX=ONと指定するか、またはList Creator デザイナの帳票業務情報のプロパティ画面の[ファイル]タブの文書情報設定画面で「バーコードを項目のサイズに収まるように出力する」の指定を行ってください。

上記操作によって、白バー/黒バーの幅、細エレメント幅、またはキャラクタ間ギャップなどがJIS規格で定められているサイズより小さくなっていく場合があります。お使いになるプリンタとバーコードリーダであらかじめ読み取り確認を行ってください。

なお、以下のバーコードの場合、「バーコードを項目のサイズに収まるように出力する」の指定は無効となります。

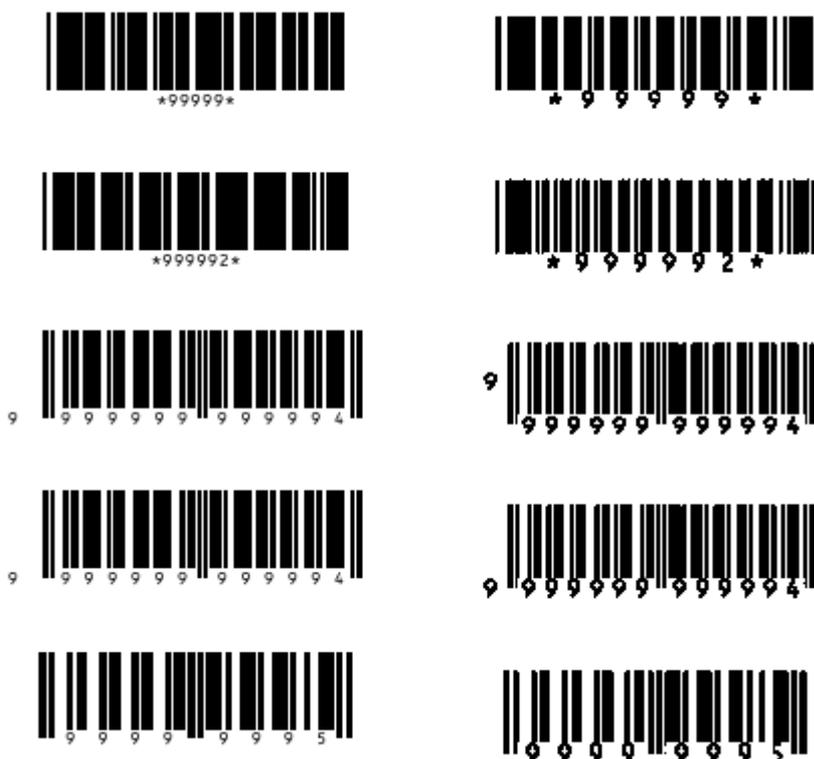
- Code 3 of 9 (EIAJ準拠)(*1)
- カスタマバーコード
- EAN-128 (コンビニエンスストア向け)
- U.S. POSTNET (Delivery Point Code)、U.S. POSTNET (ZIP+4 Code)、U.S. POSTNET (5-Digit ZIP Code)
- FIM A (U.S. Postal FIM)、FIM B (U.S. Postal FIM)、FIM C (U.S. Postal FIM)
- Intelligent Mail Barcode

*1:

Code 3 of 9 (EIAJ準拠)は、List Creator デザイナのバーコード項目のプロパティの「EIAJ詳細設定」画面上で指定する設定値が有効となります。

- バーコードの文字印刷部分の文字間隔は均等となりません。
- バーコードの文字印刷部分の文字サイズは、バーコードの幅に比例した大きさと描画されます。
- PDF417バーコードは、簡易PDF-417 (Truncated PDF417)、マイクロPDF417 (Micro PDF417) 形式には対応していません。

- ・ JAN標準バーコードのクワイエットゾーンは、左右同じ11モジュールで描画されます。



Acrobatでの表示/印刷結果

List CreatorおよびMeFTでの印刷結果

3.6 PDFメール配信時の注意事項

3.6.1 作業ファイルの作成について

メール配信時には、以下の作業ファイルが作成されます。

帳票出力サーバがWindowsの場合:

(List Creator インストールディレクトリ)\mailqueue配下

帳票出力サーバがUNIX系OSの場合:

/var/opt/FJSVedoc/mailqueue配下

正常時は、一時ファイルは自動削除されますが、エラー発生時には作業ファイルが残ります。

リトライ可能なエラーの場合は30秒おきに再送信をMLF_SMTPRetryCntで指定した回数行い、エラー要因が解除された時点で作業ファイルは削除されます。

メールの宛先が誤っている場合は、作業ファイルが残るため、削除する必要があります。

MLF_SMTPRetryCntの設定方法は、以下を参照してください。

⇒ [“2.2.11 PDFメール環境設定ファイルの説明”](#)

3.6.2 帳票業務情報と電子メールソフトウェア機能の対応

List Creatorで定義した帳票業務情報および帳票出力時に指定した情報は、関連ソフトウェア製品に引き継がれます。

ここでは、List Creatorで定義した帳票業務情報が、関連ソフトウェア製品のどの画面のどの項目として表示されるかを示します。

PDFメール配信する場合は、以下を参照してください。
 ⇒ “表3.7 電子メールソフトウェア”

表3.7 電子メールソフトウェア

メールの情報	List Creatorの帳票業務情報/帳票出力時の指定
メールの宛先	1. 帳票の出力時に指定したPDFメール配信時の送信先メールアドレス 2. 帳票の出力時に指定したPDFメール配信情報ファイルで指定した送信先メールアドレス
メールの送信者 (アドレス)	1. 帳票の出力時に指定したPDFメール配信時の送信元メールアドレス 2. 帳票の出力時に指定したPDFメール配信情報ファイルの送信元メールアドレス([MLF_Mail]セクション配下にあるMLF_FromAddressキーワード) 3. 帳票の出力時に指定したPDFメール配信情報ファイルの送信元メールアドレス([MLF_Mail]セクション配下にあるMLF_EnvelopeFromAddressキーワード) 4. PDFメール配信環境設定ファイルの送信元メールアドレス([MLF_Default]セクション配下にあるMLF_FromAddressキーワード) 5. PDFメール配信環境設定ファイルの送信元メールアドレス([MLF_Default]セクション配下にあるMLF_EnvelopeFromAddressキーワード)
メールの送信者 (名前)	1. PDFメール配信時の送信元名 2. 帳票の出力時に指定したPDFメール配信情報ファイルの送信元名([MLF_Mail]セクション配下にあるMLF_FromFullNameキーワード) 3. PDFメール配信環境設定ファイルの送信元名([MLF_Default]セクション配下にあるMLF_FromFullNameキーワード)

3.6.3 帳票出力インタフェースの復帰値とPDFメール配信機能のエラーについて

帳票出力インタフェースの復帰値が正常であっても、ネットワークエラーにより、PDFメール配信に失敗している場合があります。

この場合は、イベントログまたはシステムログに「メール送信処理中にネットワークエラーが発生しました。送信処理を再実行します。」という警告メッセージが出力されます。

PDFメール配信を行う場合は、イベントログまたはシステムログで、上記の警告メッセージの監視を行ってください。

付録A PDF変換機能一覧

ここでは、PDF変換を行う機能範囲について説明します。

A.1 List Creator デザイナによる帳票設計時のサポート一覧

A.1.1 帳票様式情報のサポート一覧

PDFファイル保存を行う場合の帳票様式情報のサポート状況を示します。

表A.1 帳票様式情報のサポート一覧

分類		対応	備考
用紙種別	連帳	×	
	単票	×	
用紙サイズ	A3	○	
	A4	○	
	A5	○	
	A6	○	
	B4	○	
	B5	○	
	はがき	○	
	Letter	○	
	Legal	○	
	任意	用紙名指定なし	○
用紙名指定あり		×	用紙名の指定の有無にかかわらず、帳票で指定した任意用紙サイズで出力されます。
用紙方向	縦	○	
	横	○	
行ピッチ	6LPI	○	
	8LPI	○	
	12LPI	○	
	任意	○	
区切り編集		○	
文字下線幅を自動調整する		○	
Unicodeの文字を使用する		○	
互換	LP縮刷	○	
印刷範囲		×	
拡大/縮小印刷	拡大/縮小指定	○	
段組み印刷	2段	○	
	4段横	○	
	4段縦	×	指定しても元のサイズで出力されます。
余白	とじしろ	左	×
		上	×

分類		対応	備考	
	用紙からの位置	○		
オーバーレイ	オーバーレイを印刷する	○		
バーコード情報	EAN-128バーコードのAIコード規格	1996年規格	○	
		2005年規格	○	
	キャラクタ間ギャップ幅		○	
	細太エレメント比		○	
	クワイエットゾーンの描画方法		○	
	ファンクションキャラクタ「FNC1」		×	
	制御コードの代替文字列指定		○	
	入力データ長が項目長に満たない場合、空白で埋める		○	
禁則処理	禁則文字を指定する	○		
テキスト項目	入力データにハイパーリンク情報を付加する	○		
数字項目 テキスト項目 矩形テキスト項目 OCR-B項目	集団印刷	△	数字項目の場合、集団印刷の印刷文字には、必ず1バイト文字を指定してください。	
固定リテラル項目 数字項目 テキスト項目 日付項目 時刻項目	フォント	日本語フォント	○	
		英文フォント	○	
		縦書きフォント	○	
		利用者定義文字	○	
	スタイル	標準	○	
		太字	○	
		斜体	○	
		太字斜体	○	
	サイズ	日本語フォント	○	
		英文フォント	○	
	横幅		○	
	ピッチ	日本語	○	
		英文	○	
	1.5ピッチ		○	数字項目では指定できません。
	文字を反時計回りに90°回転		○	
	下線		○	
抹消線		○		
色		○		
数字項目	編集形式	数値	○	
		通貨	○	
		区切り	○	
		日付	△	「区切り」文字には、必ず1バイト文字を指定してください。

分類		対応	備考	
テキスト項目		小数点抑止	○	
		小数部編集形式	○	
		最小出力桁数 (整数部、小数部)	○	
		標準	○	
		郵便	○	
固定リテラル項目 数字項目 テキスト項目 日付項目 時刻項目	文字配置	指定なし	○	
		両端揃え	○	
		均等配置	○	
		中央配置	○	
		圧縮	○	
		逆配置	○	
		前空白データを削除しない	○	
	領域内にデータ が収まらない場 合の対処	はみ出した部分は出力 しない	○	*1:数字項目、テキスト項目でのみ指定できます。
		文字などを詰めて全 データを出力する	○	
		代替文字で出力する	○ (*1)	
	文字の向き	左から右	○	
		右から左	○	
		上から下	○	
		下から上	○	
繰返し		○	日付項目、時刻項目では指定できません。	
数字項目 テキスト項目 矩形テキスト項目	条件指定	○		
矩形固定リテラル項目 矩形テキスト項目	フォント	日本語フォント	○	
		英文フォント	○	
		縦書きフォント	○	
		利用者定義文字	○	
	スタイル	標準	○	
		太字	○	
		斜体	○	
		太字斜体	○	
	サイズ	日本語フォント	○	
		英文フォント	○	
	横幅		○	
	ピッチ	日本語	○	
		英文	○	

分類		対応	備考	
	下線	○		
	抹消線	○		
	色	○		
	繰返し	○		
	行の高さ	○		
	余白	○		
矩形固定リテラル項目 矩形テキスト項目	配置	上揃え	○	
		下揃え	○	
	縦幅を拡張して出力		○	矩形テキスト項目でのみ指定できます。
	文字ピッチなどを縮小して出力	文字ピッチを先に縮小	○	
行の高さを先に縮小		○		
矩形テキスト項目	項目内の配置	縦方向の配置	○	
	禁則処理	句読点のぶら下げ	○	
		ワードラップ	○	
		行頭/行末禁則	○	
		追い出し後の両端揃え	○	
		折返し後の行頭空白抑止	○	
OCR-B項目		×	OCR-B文字の読み取りについては保証していません。	
ラジオボタン項目		○		
チェックボックス項目		○		
バーコード項目	バーコード種別	JAN標準	○ (*1)	指定された範囲よりも大きくまたは小さく出力される場合があります。
		JAN短縮	○	
		Code 3 of 9	○	
		Code 3 of 9 (EIAJ準拠)	○	
		Industrial 2 of 5	○	
		Interleaved 2 of 5 (ITF)	○	
		NW-7	○	指定された範囲よりも大きくまたは小さく出力される場合があります。
		カスタマバーコード	○ (*1)	
		Code 128	○	
		EAN-128	○	
		EAN-128 (コンビニエンスストア向け)	○	
		UPCバージョンA	○	
		UPCバージョンE	○	
		EAN-13	○ (*1)	

分類		対応	備考
			*1:「フラグキャラクタを下に印刷する」を指定しなくてもバーコードの下にフラグキャラクタが出力されます。
	U.S. POSTNET (Delivery Point Code)	○ (*1)	*1:「文字印刷」を指定しないでください。指定しても文字は印刷されません。
	U.S. POSTNET (ZIP+4 Code)	○ (*1)	
	U.S. POSTNET (5-Digit ZIP Code)	○ (*1)	
	QR Code (モデル1)	○	
	QR Code (モデル2)	○	
	QR Code (マイクロQR)	○	
	PDF417	○	
	MaxiCode	○	
	FIM A (U.S. Postal FIM)	○	
	FIM B (U.S. Postal FIM)	○	
	FIM C (U.S. Postal FIM)	○	
	Intelligent Mail Barcode	○	
	GS1 DataBar Omnidirectional	○	
	GS1 DataBar Truncated	○	
	GS1 DataBar Stacked	○	
	GS1 DataBar Stacked Omnidirectional	○	
	GS1 DataBar Limited	○	
	GS1 DataBar Expanded	○	
	GS1 DataBar Expanded Stacked	○	
印刷方向	0°	○	
	90°	△ (*1)	*1: 印刷時と出力結果が異なります。帳票様式定義画面で領域を出カイメージと同じになるよう縦長で定義してください。また、必ず出力結果を確認してください。
	180°	△ (*2)	
	270°	△ (*1) (*2)	*2: カスタマバーコードの場合、「印刷方向」に「180°」を指定した場合、「0°」が指定されたものとして出力されます。 また、「270°」を指定した場合、「90°」が指定されたものとして出力されます。

分類		対応	備考	
	文字印刷	○	バーコードの下に出力されるデータの位置は印刷時と異なります。	
	チェックキャラクタ	○		
	チェックキャラクタ(文字)の印字抑止	○		
	フラグキャラクタ	○		
QR Code詳細設定	誤り訂正比率	○		
	分割方向	○		
	分割数	○ (*1)	*1:帳票出力環境設定ファイルまたは帳票出力情報ファイルでキーワード「PDFBARQRPART」に「Y」を指定した場合に有効になります。「N」を指定した場合、または省略した場合は分割されず、1つで出力されます。	
MaxiCode詳細設定	誤り訂正レベル	○		
GS1DataBar Expanded Stacked 詳細設定	段数	○		
詳細設定	指定範囲に収まるように出力する	○		
	項目の範囲内での配置位置	○		
	細エレメント幅	○		
	モジュール幅	○		
	バーの高さ	○		
	細太エレメント比	○		
	キャラクタ間ギャップ幅	○		
	クワイエットゾーンの描画方法	○		
繰返し		○		
組込みメディア項目	メディア種	ビットマップ	○	Windows BMP形式が扱えます。
		JPEG	○	デジタル静止画像圧縮形式(JPEG形式)の基本DCT方式(ベースラインJPEG)、および拡張DCT方式(プログレッシブJPEG)が扱えます。
		TIFF	○	TIFF6.0形式が扱えます。
		OLE2	×	指定すると帳票の出力時にエラーになります。
		PNG	○	
		グラフデータ	○	グラフデータの詳細については、オンラインマニュアル“帳票設計編”を参照してください。
	クリッピング	○ (*1)	印刷時と出力結果が異なります。必ず出力結果を確認してください。 *1:クリッピングと中央表示を同時に指定すると、正しい大きさとクリッピングされず、表示場所も中央になりません。	
クリッピング	メディアデータの解像度で出力する	○		

分類		対応	備考	
	中央表示	○ (*1)	*1:クリッピングと中央表示を同時に指定すると、正しい大きさをクリッピングされず、表示場所も中央になりません。	
	透過	○		
	繰返し	○		
日付項目		○		
時刻項目		○		
郵便番号項目		×	正しく出力されません。	
パーティション罫線	線種	実線、点線、破線、一点鎖線、長破線、長鎖線、長二点鎖線、任意線	○	
		二重線、波線1、波線2	×	実線で出力されます。
	線端	平面	△	四角で出力される場合があります。
		四角	○	
		円	○	
	線幅	○		
	線色	○		
	丸め	○		
	網がけ	○	領域が塗りつぶされます。複数の網がけを重ねる場合は、出力結果を確認してください。	
パターン	○			
オーバーレイ文字 (KOL6)	フォント	日本語フォント	○	
		英文フォント	○	
		縦書きフォント	○	
		利用者定義文字	○	
	スタイル	標準	○	
		太字	○	
		斜体	○	
		太字斜体	○	
	サイズ	○		
	横幅	○		
	文字間隔	○		
	下線	○		
	色	○		
	文字配置	指定なし	○	
		両端揃え	○	
		中央配置	○	
		右揃え	○	
文字幅の自動調整		○		
文字範囲		○		
文字の向き	左から右	○		

分類			対応	備考
		右から左	○	
		上から下	○	
		下から上	○	
矩形オーバーレイ文字 (KOL6)			×	指定しても出力されません。
直線/枠/円/楕円 (KOL6)	線種	実線、点線、破線、一点鎖線、長破線、長鎖線、任意線、長二点鎖線	○	
		二重線、波線1、波線2	×	実線で出力されます。
	線幅		○	
	線色		○	
	線端	平面、四角、円	△	平面を指定しても四角で出力される場合があります。
	網がけ	(枠、円、楕円)	○	領域が塗りつぶされます。複数の網がけを重ねる場合は、出力結果を確認してください。
	丸め	(枠)	○	
	位置、サイズ、パターン	(枠)	○	
	中心、半径	(円、楕円)	○	
	開始位置、終了位置	(直線)	○	
イメージ (KOL6)			○	Windows BMP形式が扱えます。

○:定義が有効となる項目

△:条件付きで定義が有効となる項目

×:定義が無効となる項目

A.1.2 帳票業務情報のサポート一覧

PDFファイル保存を行う場合の帳票業務情報のサポート状況を示します。

表A.2 帳票業務情報のサポート一覧

分類			対応	備考
格納先ファイル名			○	
バーコード補正情報			○	
文書情報	概要	サブタイトル	○	
		作成者	○	
	セキュリティ	互換性のある形式	○	
		暗号化レベル	○	<ul style="list-style-type: none"> 「互換性のある形式」でAcrobatのバージョンを指定すると暗号化レベルが表示されます。 Acrobatのバージョンによって暗号化レベルは異なります。
		印刷の許可指定	○	
	文書変更の許可指定	○		

分類		対応	備考		
		テキストとグラフィックスの選択許可指定	○		
		注釈とフォームフィールドの追加と変更の許可指定	○		
	閲覧制限	URIによる閲覧制限を行う	閲覧可能なサイト	○	
			URIによる閲覧制限時に表示されるメッセージ	○	
		期間による閲覧制限を行う	開始日時、終了日時による閲覧制限を行う	○	
			日数による閲覧制限を行う	○	
			期間による閲覧制限時に表示するメッセージ	○	
	文書管理	文字の埋め込み		○	
		JPEG圧縮時の品質		○	
		PDFファイルに添付するファイル名		○	
		バーコードを項目のサイズに収まるように出力する		○	
	動作	PDFファイル表示時のアプリケーションの設定	ツールバーを表示する	○	閲覧制限が設定されている場合は、無効となります。
			メニューバーを表示する	○	
			全画面で表示する	○	
PDFファイルの自動印刷を行う		文書を開くと同時に印刷ダイアログを表示する	△		
		文書を開くと同時に印刷する	△		
閲覧制限時の動作		文書を閉じる	○		
		ページをマスクする	○		

○:定義が有効となる項目

△:条件付きで定義が有効となる項目

A.1.3 出力できる文字について(【UNIX系OS版】の場合)

帳票出力サーバがUNIX系OSの場合の、PDFファイル保存できる文字コードについて説明します。

A.1.3.1 帳票に指定できる文字

Unicodeの文字を使用できる帳票定義情報を設計する場合、Unicodeの範囲の文字を指定できます。

Unicodeの文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合、帳票設計時に指定できる文字は、Shift-JIS (Windowsで表示できる文字)の範囲です。

以下に、Unicodeの文字を使用しない帳票定義情報を設計する場合に、帳票に指定できる文字を示します。

表A.3 帳票設計時に指定できる文字

文字種		文字コード範囲 (16進)	対応 状況	備考
JIS非漢字		8140～84FC	◎	—
JIS第一水準漢字		889F～989E	◎	<ul style="list-style-type: none"> 83年度JISで字体変更された文字は、新字体で出力されます。 詳細については、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。
JIS第二水準漢字		989F～EAFC	◎	
他 社 文 字	NEC特殊文字 (㊦、㊧など)	8740～879E	△	<ul style="list-style-type: none"> 入力データの文字コード系により以下のように異なります。 — Shift-JIS すべての文字が出力できます。 — EUC (U90) オーバーレイ文字以外はShift-JISコード系で出力できないNEC特殊文字の14文字は出力できません。 オーバーレイ文字は、すべての文字が出力できます。 詳細については、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。 — EUC (S90) オーバーレイ文字以外は、出力できません。 オーバーレイ文字は、すべての文字が出力できます。 詳細については、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。
	IBM拡張文字	FA40～FCFC	△	
	NEC/IBM選定文字	ED40～EEFC	△	
利用者定義文字		F040～F9FC	△	<ul style="list-style-type: none"> 入力データがEUC (S90)の場合、オーバーレイ文字以外は出力できません。

◎:出力可能

△:出力可能だが、一部出力不可能

A.1.3.2 帳票の文字コード変換

入力データの文字コード系がEUCの場合は、帳票を作成するWindows上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめEUCコード系にしておく必要があります。

入力データの文字コード系がUNICODE (UTF8)の場合は、帳票を作成するWindows上で帳票の文字コード変換を行い、あらかじめUNICODE (UTF8)コード系にしておく必要があります。

なお、入力データがEUC (S90)の場合は、帳票を文字コード変換するWindows上にCharset Managerをインストールして、文字コード変換する必要があります。

帳票の文字コード変換については、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。

A.1.3.3 入力データに指定できる文字

入力データがShift-JISの場合

入力データがShift-JISの場合に指定できる文字は次のとおりです。

表A.4 入力データがShift-JISのときに指定できる文字

文字種		文字コード範囲 (16進)	対応 状況	備考
JIS非漢字		8140～84FC	◎	—
JIS第一水準漢字		889F～989E	◎	<ul style="list-style-type: none"> 83年度JISで字体変更された文字は、新字体で出力されます。 詳細については、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。
JIS第二水準漢字		989F～EAFC	◎	
他社文字	NEC特殊文字 (㊦、㊧など)	8740～879E	◎	—
	IBM拡張文字	FA40～FCFC	◎	—
	NEC/IBM選定文字	ED40～EEFC	◎	—
利用者定義文字		F040～F9FC	◎	—

◎:出力可能

入力データがEUC(U90)の場合

入力データがEUC(U90)の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表A.5 入力データがEUC(U90)のときに指定できる文字

文字種		文字コード範囲 (16進)	対応 状況	備考
JIS非漢字		A1A1～A8FE	◎	—
JIS第一水準漢字		B0A1～CFFE	△	<ul style="list-style-type: none"> 83年度JISで字体変更された文字は、一部のみ旧字体で出力され、その他は()に置き換わりません。 詳細については、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。 出力されない旧字体は、Charset Managerの文字コード変換表カスタマイズ機能を使用することで、例えばEUC(U90)の旧字体を83年度JISの新字体に対応付けを行うことで、新字体で出力することができます。
JIS第二水準漢字		D0A1～F4FE	△	
OASYS拡張文字		F7A1～FDFE	△	<ul style="list-style-type: none"> UNICODEに存在する文字は出力されます。UNICODEに存在しない文字は、()に置き換わります(PDFファイル保存時にUNICODEに変換されるためです)。
JEF拡張漢字		8FA1A1～8FD0FE	△	
JEF拡張非漢字		8FD1A1～8FDCFE	△	
利用者定義文字		8FDDA1～8FFDFE	◎	—

◎:出力可能

△:出力可能だが、一部出力不可能

入力データがEUC(S90)の場合

入力データがEUC(S90)の場合に指定できる文字は次のとおりです。

表A.6 入力データがEUC(S90)のときに指定できる文字

文字種		文字コード範囲 (16進)	対応 状況	備考
JIS非漢字		A1A1～A8FE	◎	—

文字種		文字コード範囲 (16進)	対応 状況	備考
JIS第一水準漢字		B0A1～CFFE	◎	・ 83年度JISで字体変更された文字は、新字体で出力されます。 詳細については、オンラインマニュアル“環境設定・帳票運用編”を参照してください。
JIS第二水準漢字		D0A1～F4FE	◎	
他社文字	NEC特殊文字 (㊦、㊧など)	ADA1～ADFC	◎	—
利用者定義文字		F5A1～FEFE	◎	—

◎:出力可能



注意

- ・ EUC(S90)の場合、IBM拡張文字およびNEC/IBM選定文字は使用できません。
- ・ CharsetMGR-A 5.0以前を使用する場合、NEC特殊文字は使用できません。

入力データがUNICODE(UTF8)の場合

UNICODE(UTF8)の文字コード系で作成した入力データをPDFファイル保存する場合、すべての文字が出力できます。

なお、利用者定義文字の出力方法については、以下を参照してください。

⇒ [“2.1.9 外字を使用したPDFの出力方法”](#)

A.1.4 その他の留意事項(【UNIX系OS版】の場合)

以下に、帳票出力サーバがUNIX系OSの場合の留意事項について説明します。

帳票様式情報設計時

- ・ 入力データがEUCコード系で、半角カナを使用する場合、項目長に「実際に出力する文字数×2」の長さを指定してください。また、入力データがUNICODE(UTF8)コード系で、日本語文字(半角カタカナを含む)を使用する場合、項目長に「実際に出力する文字数×3」の長さを指定してください。

項目長が短い場合、文字列が途中で切れて出力される場合があります。

項目長は、帳票様式定義画面で、該当する項目を選択し、[書式]—[プロパティ]を選択して表示されるプロパティ画面で設定します。

A.2 PDF変換機能一覧

ここでは、PDF変換を行う機能範囲について説明します。

表A.7 PDF変換機能一覧

印刷サイズ	任意
用紙方向	縦
	横
印刷範囲	任意
レイアウト	2UP
	4UP
	9UP

フォント	日本語フォント (PDFフォント未登録時)	明朝体	エンベッド時：FUJ明朝体		
			非エンベッド時：MS 明朝		
		P 明朝体プロ ポーションナル	エンベッド時：FUJ明朝体		
			非エンベッド時：MS 明朝		
		ゴシック体	エンベッド時：FUJゴシック体		
			非エンベッド時：MS ゴシック		
		P ゴシック体プロ ポーションナル	エンベッド時：FUJ明朝体		
			非エンベッド時：MS 明朝		
	縦書きフォント (PDFフォント未登録時)	明朝体	エンベッド時：@FUJ明朝体		
			非エンベッド時：@MS 明朝		
		P 明朝体プロ ポーションナル	エンベッド時：FUJ明朝体		
			非エンベッド時：MS 明朝		
		ゴシック体	エンベッド時：@FUJゴシック体		
			非エンベッド時：@MS ゴシック		
		P ゴシック体プロ ポーションナル	エンベッド時：FUJ明朝体		
			非エンベッド時：MS 明朝		
	PDFフォント登録	任意のTrueTypeフォントを使用することができます。			
	バーコード用フォント	OCRB/MS ゴシック (Code 3 of 9 (EIAJ準拠)のみ)			
	スタイル	標準			
		太字			
斜体					
太字斜体					
サイズ	任意				
色	約1,670万色				
文字列方向	○				
JIS X0213:2004	○	⇒ “2.1.2 帳票設計時のフォントをPDF/TIFF 中に使用する”			
IVS文字	○				
イメージ	種別	ビットマップ	○	Windows BMP形式	
		JPEG	○	ベースライン、プログレッシブ形式	
		TIFF	○	TIFF6.0形式	
		OLE2オブジェクト	×		
		PNG	○		
		グラフデータ	○		
		透過機能	○	⇒ “3.3.9 イメージ透過機能”	
		メディアデータの 解像度で出力	○		
線種	種別	実線	○		
		点線	○		
		破線	○		
		一点鎖線	○		

		長破線	○
		長鎖線	○
		長二点鎖線	○
		任意線	○
		二重線	× 実線に代替
		波線	× 実線に代替
	線端	バット	○
		ラウンド	○
		スクエア	○
	線幅	任意	
	線色	約1,670万色に加え、42種類の網がけパターン	
	円弧	線色	約1,670万色に加え、42種類の網がけパターン
	だ円弧	線色	約1,670万色に加え、42種類の網がけパターン
	弓形	線色	約1,670万色に加え、42種類の網がけパターン
	矩形	線色	約1,670万色に加え、42種類の網がけパターン
	多角形	線色	約1,670万色に加え、42種類の網がけパターン
	自由曲線	○	
バーコード	種別	標準物流	
		拡張物流	
		JAN標準	
		JAN短縮	
		Code 3 of 9	
		Code 3 of 9 (EIAJ準拠)	
		Industrial 2 of 5	
		Interleaved 2 of 5 (ITF)	
		NW-7	
		カスタマバーコード	
		Code 128	
		EAN-128	
		EAN-128 (コンビニエンスストア向け)	
		UPC バージョンA	
		UPC バージョンE	
		EAN-13	
		U.S. POSTNET (Delivery Point Code)	
		U.S. POSTNET (ZIP+4 Code)	
		U.S. POSTNET (5-Digit ZIP Code)	
		QR Code (モデル1)	
		QR Code (モデル2)	
		QR Code (マイクロQR)	
		PDF417	

		MaxiCode		
		FIM A (U.S. Postal FIM)		
		FIM B (U.S. Postal FIM)		
		FIM C (U.S. Postal FIM)		
		Intelligent Mail Barcode		
		GS1 DataBar Omnidirectional		
		GS1 DataBar Truncated		
		GS1 DataBar Stacked		
		GS1 DataBar Stacked Omnidirectional		
		GS1 DataBar Limited		
		GS1 DataBar Expanded		
		GS1 DataBar Expanded Stacked		
	配置方向	0度		
		90度		
		180度		
		270度		
	文字印刷	△	カスタマバーコード、U.S. POSTNET、QR Code、PDF417、MaxiCodeは不可	
	チェックキャラクタ	△	帳票定義情報設計時、チェックキャラクタの有無が設定できないバーコード種別があります	
	EAN-128 (コンビニエンスストア向け) 補正機能	○		
オーバーレイ (KOL1)	ファイル形式 (イメージデータ)	富士通オーバーレイ形式 (KOL1)		
オーバーレイ (KOL5)	ファイル形式	富士通オーバーレイ形式 (KOL5)		
	文字	日本語 フォント	明朝体	エンベッド時 : FUJ明朝体 非エンベッド時 : MS 明朝
			ゴシック体	エンベッド時 : FUJゴシック体 非エンベッド時 : MS ゴシック
		外字	○	Charset Manager連携
		スタイル	標準	○
	斜体		○	
	長体		△	文字間隔を設定したとき、オーバーレイ定義と異なる場合があります
	平体		△	文字間隔を設定したとき、オーバーレイ定義と異なる場合があります
	半角		○	
	倍角		○	
	文字間隔		△	長体/平体のとき、オーバーレイ定義時と異なる場合があります
	サイズ	任意		
	色	○		

	文字列 方向	位置	○	
		文字列	○	
		右	○	
		左	○	
		上	○	
		下	○	
	図形	線種	実線	○
			点線	○
			破線	○
			一点鎖線	○
			任意線	○
		線端	○	⇒ “3.4 オーバレイに関する注意事項”
		線幅	任意	
線色		○		
網がけ	○			
角丸め	○			
オーバレイ (KOL6)	ファイル形式		富士通オーバレイ形式(KOL6)	
	文字	日本語 フォント	明朝体	エンベッド時: FUJ明朝体
				非エンベッド時: MS 明朝
			P明朝体	エンベッド時: FUJ明朝体
				非エンベッド時: MS 明朝
			ゴシック体	エンベッド時: FUJゴシック体
		非エンベッド時: MS ゴシック		
		Pゴシック体	エンベッド時: FUJゴシック体	
			非エンベッド時: MS ゴシック	
		その他	⇒ “3.4 オーバレイに関する注意事項”	
		縦書き フォント	明朝体	エンベッド時: @FUJ明朝体
	非エンベッド時: @MS 明朝			
	P明朝体		エンベッド時: @FUJ明朝体	
			非エンベッド時: @MS 明朝	
	ゴシック体		エンベッド時: @FUJゴシック体	
			非エンベッド時: @MS ゴシック	
	Pゴシック体		エンベッド時: @FUJゴシック体	
			非エンベッド時: @MS ゴシック	
	欧文	明朝/ゴシック体に代替		
外字	○	Charset Manager連携		
スタイル	標準	○		
	太字	○		
	斜体	○		
	太字斜体	○		

		サイズ	任意		
		下線	△	横書き文字かつ文字列方向“右”以外は不可	
		色	約1,670万色		
	文字列方向	位置	○		
		文字列	○		
		右	○		
		左	○		
		上	○		
		下	○		
	矩形オーバーレイ文字		×		
図形	線種	実線	○		
		点線	○		
		破線	○		
		一点鎖線	○		
		長破線	○		
		長鎖線	○		
		長二点鎖線	○		
		任意線	○		
		二重線	×	実線に代替	
		波線	×	実線に代替	
	線端	バット	○	⇒“3.4 オーバレイに関する注意事項”	
		ラウンド	○		
		スクエア	○		
文字	線幅	任意			
	線色	約1,670万色			
	網がけ	△	濃度階調で表現		
イメージ	ビットマップ	○	Windows BMP形式		
	JPEG	○	ベースライン、プログレッシブ形式		
	TIFF	○	TIFF6.0形式		
	OLE2オブジェクト	×			
	PNG	○			
PDF操作コマンド		○			
連携製品	List Works	△	Windows(x86)/Solaris/Linux for Itaniumのみサポート		
	MeFt	○			
	Charset Manager	△	印刷資源管理での外字連携は、Windows/Solarisのみサポート		
	ホスト連携プレミアム	△	Windows/Solarisのみサポート		

○:サポート

△:一部、未サポート

×:未サポート

表A.8 PDFメール配信機能一覧

メールメッセージの配信時変更	○	
メールテンプレートによる定型メール送信	○	
Fromヘッダへのアドレス記載	○	
Fromヘッダフィールドへの名前記載	○	
カーボンコピー(CC)送信先指定	○	
ブラインドカーボンコピー(CC)送信先指定	○	
分割メール送信	○	
署名機能	△	Solarisのみサポート
S/MIME形式の暗号メール機能	△	Solarisのみサポート
認証が必要なSMTPサーバ	○	Windows/Linux for Intel64のみサポート
複数のSMTPサーバ	○	10多重まで可能
DSN配信状況の通知	△	送信経路で中継される全てのSMTPサーバがDSN対応している場合のみ

○:サポート

△:一部、未サポート

×:未サポート

付録B PDF手元非表示印刷機能Webサーバサンプルプログラム

ここでは、PDF手元非表示印刷機能Webサーバサンプルプログラムについて説明します。

B.1 Javaインタフェース版サンプルプログラム

HTMLサンプルプログラム

```
<HTML>
<H2>Listcreator PDF手元非表示印刷プログラムサンプル (Java)</H2>

<!-- フォームデータを送信して、WebサーバサイドのJava Servletを起動します。 -->
<!-- 注意: 「somehost:8100」の部分は、ご使用のWebサーバ、およびServletのポート番号に合わせて変更ください -->
<FORM METHOD="POST" ACTION="http://somehost:8100/servlet/sample">
<INPUT TYPE="RADIO" NAME="printWay" VALUE="silent" CHECKED>サイレント印刷<BR>
<INPUT TYPE="RADIO" NAME="printWay" VALUE="dialog">プリンタ選択ダイアログ表示印刷<BR>
<INPUT TYPE="RADIO" NAME="printWay" VALUE="showpdf">PDFを画面表示<BR>
<BR>
<INPUT TYPE="SUBMIT" VALUE="印刷">
</FORM>

</HTML>
```

Javaサンプルプログラム

```
/*
 * PDF手元非表示印刷サンプル (Java Servlet版)
 *
 * Copyright (c) 2001-2008 PFU LIMITED, Fujitsu LIMITED. All rights reserved
 *
 **
 ** 本サンプルは、Listcreator EE版に添付されたサンプル「URIAGE」を
 ** 使って、PDFファイルを動的に生成し、ブラウザに復帰します。
 ** ブラウザにPDFファイルを復帰するとき、パラメタで指定された印刷方法に
 ** 従って、PDFファイル名の拡張子を以下のように変更します。
 ** サイレント印刷 .pd1
 ** プリンタ選択ダイアログ表示印刷 .pd2
 ** PDFファイルを画面表示 .pdf
 ** PDF手元非表示印刷を実行するには、WebサーバとWebブラウザの環境設定を
 ** あらかじめ行ってください。設定内容については、本サンプルが掲載された
 ** マニュアルを参照ください。
 **
 **
 ** 本サンプルを動作させるには、あらかじめ以下の設定が必要です。
 ** ※ディレクトリ名や、ファイルの配置ディレクトリについては、
 ** ご使用の環境に合わせて変更ください。
 ** ・ディレクトリの作成
 ** 以下の構成でディレクトリの作成とファイルの配置を行います
 ** sample¥ サンプル用ディレクトリ
 ** +----pdffout¥ PDFファイルの出力先
 ** ・「/local/sample」ディレクトリを、「/sample」仮想ディレクトリに
 ** 設定する。
 ** ・本ソースをコンパイルした.classファイルを、/servlet/sample で
 ** 呼び出せるように、servlet環境の設定、および.classファイルの
 ** 配置を行う。
 ** ・「/local/sample/pdfout」ディレクトリに、全てのユーザに書込権を与える。
 ** ・「/opt/FJSVoast/Samples」ディレクトリに帳票を配置する。
 **
```

```

*/
import java.io.*;
import javax.servlet.*;
import javax.servlet.http.*;
import com.fujitsu.systemwalker.outputassist.connector.*;

public class sample extends HttpServlet
{
    public void doPost(HttpServletRequest request,
        HttpServletResponse response ) throws IOException {
        Forms form = null;      /* Formsクラス */
        String sAssets;        /* 帳票格納ディレクトリ名 */
        String sPdfDir;        /* PDFファイル格納ディレクトリ名 */
        String sPdfLocation;   /* PDF格納先URL */

        sAssets = "/opt/FJSVoast/Samples";
        sPdfDir = "/local/sample/pdfout";
        sPdfLocation = "/sample/pdfout";

        try{
            /* 帳票名を設定する */
            String sFormName = "URIAGE";

            /* Forms クラスを作成する */
            form = new Forms( sFormName, sAssets );

            /* 入力データを指定します */
            form.pushRecord("2118588|神奈川県川崎市中原区|上小田中X-X-X|△△△△電気
|20031221|03101|005|0020|カラーテレビ|3|120000|1234567890");
            form.pushRecord("2118588|神奈川県川崎市中原区|上小田中X-X-X|△△△△電気
|20031221|03101|005|0022|カラオケセット|1|82000|1234567890");
            form.pushRecord("2118588|神奈川県川崎市中原区|上小田中X-X-X|△△△△電気
|20031221|03101|005|0100|電気掃除機|2|23000|1234567890");
            form.pushRecord("2118588|神奈川県川崎市中原区|上小田中X-X-X|△△△△電気
|20031221|03101|005|0001|電気スタンド|7|10000|1234567890");
            form.pushRecord("1008211|東京都千代田区|丸の内Y-Y-Y|○○○○電気
|20031221|03102|005|0100|電気掃除機|2|23000|1234567890");
            form.pushRecord("1008211|東京都千代田区|丸の内Y-Y-Y|○○○○電気
|20031221|03102|005|0110|冷蔵庫|2|125000|1234567890");
            form.pushRecord("1008211|東京都千代田区|丸の内Y-Y-Y|○○○○電気
|20031221|03102|005|0201|電気カーペット|5|10000|1234567890");
            form.pushRecord("1008211|東京都千代田区|丸の内Y-Y-Y|○○○○電気
|20031221|03102|005|0211|電気ストーブ|3|5000|1234567890");
            form.pushRecord("1008211|東京都千代田区|丸の内Y-Y-Y|○○○○電気
|20031221|03102|005|0221|電気ごたつ|3|7800|1234567890");

            /*---PrintPropertiesを設定する-----*/
            File filepdf = null; /* 作成するPDFファイルのFileオブジェクト */

            /* PrintProperties オブジェクトを構築する */
            PrintProperties prop = new PrintProperties();

            /* 印刷方法に応じて、ブラウザに復帰するPDFファイルの
            拡張子を変更する */
            String printWay = request.getParameter( "printWay" );
            String ext;
            if(printWay.equals("silent")) {
                ext = ".pd1";
            }
        }
    }
}

```

```

else if(printWay.equals("dialog")) {
    ext = ".pd2";
}
else {
    ext = ".pdf";
}

/* 出力方法を指定する(PDFファイル) */
prop.setProperty( PrintProperties.ID_DIRECTMETHOD,
PrintProperties.OUTPUTMODE_PDF );
/* PDFファイル名を生成する */
filepdf = File.createTempFile( "tmp", ext, new File(sPdfDir) );
/* プロパティ指定(PDFファイル名)を行う */
prop.setProperty( PrintProperties.ID_KEEPPDF, filepdf.getPath() );

/*---帳票を出力する-----*/

/* PrintForm オブジェクトを作成する */
PrintForm pform = new PrintForm();

/* 帳票を出力する */
pform.PrintOut( form, prop );

String sHost = request.getHeader("Host");
int i;

/* 作成されたPDFファイルのURLを構築する */
/* ホスト名にポート番号が付加されている場合は、削除する */
i = sHost.lastIndexOf(':');
if(i >= 0) {
    sHost = sHost.substring(0, i);
}
String sUrl = "http://" + sHost + sPdfLocation
            + "/" + filepdf.getName();

/* PDFファイルをブラウザに復帰する */
if(printWay.equals("showpdf")) {
    /* PDFを表示する場合 */
    /* コンテンツタイプを設定する */
    response.setContentType( "text/html" );

    /* PrintWriterオブジェクトを取得する */
    PrintWriter out = response.getWriter();

    /* 取得したPrintWriterオブジェクトを使ってHTMLを
    テキスト送信する */
    out.println( "<HTML><HEAD>" );
    out.println( "<META HTTP-EQUIV='Refresh%' CONTENT='0:URL=' + sUrl + '%>' );
    out.println( "</HEAD></HTML>" );

    /* ストリームをクローズする */
    out.close();
}
else {
    /* PDFを手元非表示印刷する場合 */
    response.sendRedirect(sUrl); /* Locationヘッダを復帰する */
}
} catch ( ConnectorException e ){
    /* Javaインタフェース使用時に発生する例外 */
    response.setContentType( "text/plain" );
    PrintWriter out = response.getWriter();
    out.println( "ERROR: " +e.getCode() );
}

```

```

        e.printStackTrace( out );
        out.close();
    }catch ( Exception e ){
        response.setContentType( "text/plain" );
        PrintWriter out = response.getWriter();
        e.printStackTrace( out );
        out.close();
    }finally {
        try{
            /* Javaインタフェースが使用している資源を解放する */
            if ( form != null ){
                form.cleanup();
            }
        }catch ( Exception e ){
            e.printStackTrace();
        }
    }
}
}
}

```

B.2 CFXカスタムタグインタフェース(ColdFusion MX)版のサンプル (【Solaris版】)

HTMLサンプルプログラム

```

<HTML>
<H2>Listcreator PDF手元非表示印刷プログラムサンプル(CFX)</H2>

<!-- フォームデータを送信して、WebサーバサイドのColdFusionアプリファイルを起動します。 -->
<FORM METHOD="POST" ACTION="sample.cfm">
<INPUT TYPE="RADIO" NAME="printWay" VALUE="silent" CHECKED>サイレント印刷<BR>
<INPUT TYPE="RADIO" NAME="printWay" VALUE="dialog">プリンタ選択ダイアログ表示印刷<BR>
<INPUT TYPE="RADIO" NAME="printWay" VALUE="showpdf">PDFを画面表示<BR>
<BR>
<INPUT TYPE="SUBMIT" VALUE="印刷">
</FORM>
</HTML>

```

ColdFusionサンプルプログラム

```

<!--
*   PDF手元非表示印刷サンプル (CFX版)
*
*   Copyright (c) 2001-2016 PFU Limited, Fujitsu LIMITED. All rights reserved
*
**
** 本サンプルは、Listcreator EE版に添付されたサンプル「URIAGE」を
** 使って、PDFファイルを動的に生成し、ブラウザに復帰します。
** ブラウザにPDFファイルを復帰するとき、パラメタで指定された印刷方法に
** 従って、PDFファイル名の拡張子を以下のように変更します。
**   サイレント印刷           .pd1
**   プリンタ選択ダイアログ表示印刷 .pd2
**   PDFファイルを画面表示     .pdf
** PDF手元非表示印刷を実行するには、WebサーバとWebブラウザの環境設定を
** あらかじめ行ってください。設定内容については、本サンプルが掲載された
** マニュアルを参照ください。
**

```

```

**
** 本サンプルを動作させるには、あらかじめ以下の設定が必要です。
** ※ディレクトリ名や、ファイルの配置ディレクトリについては、
**   ご使用の環境に合わせて変更ください。
**   ・ディレクトリの作成
**     以下の構成でディレクトリの作成とファイルの配置を行います
**     /var/pub/sample/                サンプル用ディレクトリ
**     +----cfx/                        HTMLとColdFusion
**                                     ソースを格納する
**     +----pdfout/                     PDFファイルの出力先
**   ・「/var/pub/sample」ディレクトリを、「/sample」仮想ディレクトリに
**     割り当てる。
**   ・「/var/pub/sample/cfx」ディレクトリに実行可能権を与える
**   ・「/var/pub/sample/pdfout」ディレクトリに、全てのユーザに書込権を与える。
**   ・Listcreator EEを、/opt/FJSVoastディレクトリにインストールする
**     EE:Enterprise Edition
---->

<!-- 帳票出力を行うための環境を設定する ---->
<cfset method = "PDF">
<cfset assetsdir = "/opt/FJSVoast/samples">
<cfset tmpdir = "/var/pub/sample/pdfout/">
<cfset tmpdir_url = "/sample/pdfout/">

<!--PDFファイルの出力クエリを作成する ---->
<CFX_OAST_CONNECT
  ACTION="CREATE"
  NAME="PDF出カクエリ"
  ASSETS DIRECTORY="#assetsdir#"
  FORMNAME="URIAGE"
>

<!-- 帳票(売上伝票)にレコードを設定する ---->
<CFX_OAST_CONNECT
  ACTION="SETDATA"
  QUERY="PDF出カクエリ"
  DATA="2118588|神奈川県川崎市中原区|上小田中X-X-X|△△△△電気|20031221|03101|005|0020|カラーテレビ|3|120000|1234567890"
>

<CFX_OAST_CONNECT
  ACTION="SETDATA"
  QUERY="PDF出カクエリ"
  DATA="2118588|神奈川県川崎市中原区|上小田中X-X-X|△△△△電気|20031221|03101|005|0022|カラオケセット|1|82000|1234567890"
>

<CFX_OAST_CONNECT
  ACTION="SETDATA"
  QUERY="PDF出カクエリ"
  DATA="2118588|神奈川県川崎市中原区|上小田中X-X-X|△△△△電気|20031221|03101|005|0100|電気掃除機|2|23000|1234567890"
>

<CFX_OAST_CONNECT
  ACTION="SETDATA"
  QUERY="PDF出カクエリ"
  DATA="2118588|神奈川県川崎市中原区|上小田中X-X-X|△△△△電気|20031221|03101|005|0001|電気スタンド|7|10000|1234567890"
>

<!-- 印刷方法に応じて、ブラウザに復帰するPDFファイルの拡張子を変更する ---->
<cfif #printWay# EQ "silent">
  <cfset ext = ".pd1">          <!-- サイレント印刷 ---->
<cfelseif #printWay# EQ "dialog">
  <cfset ext = ".pd2">          <!-- プリンタ選択ダイアログ表示印刷 ---->

```

```
<cfelse>
  <cfset ext = ".pdf">          <!-- PDFファイルを画面表示 -->
</cfif>

<!-- PDFファイル名とURLを生成する -->
<cfset randval = #RandRange(100000, 999999)#>
<cfset pdffile = #tmpdir# & "tmp" & #randval# & #ext#>
<cfset pdffile_url = "#tmpdir_url##GetFileFromPath(pdffile)#">

<!-- Listcreatorで帳票を出力する -->
<CFX_OAST_CONNECT
  ACTION="OUTPUT"
  QUERY="PDF出カクエリ"
  METHOD="#method#"
  PDF_KEEPFILE="#pdffile#"
>

<!-- 作成したクエリを破棄する -->
<CFX_OAST_CONNECT
  ACTION="DELETE"
  QUERY="PDF出カクエリ"
>

<!-- PDFファイルをブラウザに復帰する -->
<cfif #printWay# EQ "showpdf">
  <cfoutput>
    <HTML><META HTTP-EQUIV=Refresh CONTENT=0:URL="#pdffile_url#"></HTML>
  </cfoutput>
<cfelse>
  <cflocation URL="#pdffile_url#"> <!-- Locationヘッダを復帰する -->
</cfif>
```

索引

[A]	
Acrobat JavaScriptの設定.....	181
Acrobatによる文書情報の表示に関する注意事項.....	179
Adobe Readerの注意事項.....	177
Adobe Readerの版数に関する注意事項.....	177
[L]	
lcaddcert.....	143
lchgpsswd.....	146
lclistcacert.....	145
lcrmcert.....	144
lcrmenv.....	142
lcsenv.....	141
List Creator単体でのPDFファイルの出力.....	18
List Worksと連携したPDFファイルの出力.....	42
[M]	
MeFtと連携したPDFファイルの出力.....	40
[P]	
PDF環境設定ファイル.....	47
PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイルの記述例.....	132
PDF操作コマンドで使用するPDF文書情報ファイルのキーワード一覧.....	122
PDF手元非表示印刷.....	7
PDF手元非表示印刷クライアント環境設定プログラム.....	148
PDF手元非表示印刷の環境設定の概要.....	147
PDF手元非表示印刷の注意事項.....	152
PDFファイル出力.....	18
PDFファイル操作コマンド.....	105
PDFファイルの暗号化機能.....	5
PDFファイルの印刷に関する注意事項.....	179
PDFファイルの検索.....	179
PDFファイルの制限に関する注意事項.....	178
PDFファイルのセキュリティ機能.....	5
PDFフォント登録情報の移行.....	32
PDF文書情報ファイル.....	46,122
PDF文書情報ファイルの記述例.....	74
PDF文書情報ファイルのキーワード一覧.....	48
PDF文書情報ファイルの指定方法.....	47
PDF文書情報ファイルの書式.....	48
PDF変換機能一覧.....	187
PDF変換機能とは.....	1
PDF変換機能の動作環境.....	17
PDFメール環境設定ファイル.....	47
PDFメール環境設定ファイルの記述例.....	94
PDFメール環境設定ファイルのキーワード一覧.....	84
PDFメール環境設定ファイルの書式.....	75
PDFメール配信.....	11,19
PDFメール配信時の注意事項.....	185
PDFメール配信情報ファイル.....	46
PDFメール配信情報ファイルの記述例.....	94
PDFメール配信情報ファイルのキーワード一覧.....	77
PDFメール配信情報ファイルの指定方法.....	74
PDFメール配信情報ファイルの書式.....	75
PDFリモート印刷.....	35
PDFリモート印刷の環境設定.....	153
pmdocinf.....	112
pmxteff.....	118
pmfmerge.....	106
pmfsplit.....	109
pmpagcnt.....	117
pmsecinf.....	115
[U]	
URI閲覧制限設定.....	6
[W]	
Webクライアントの環境設定.....	148
Webサーバの環境設定.....	148
WebブラウザにPDFファイルをダウンロードさせるしくみについて.....	151
[あ]	
アプリケーション作成時の注意事項.....	176
網かけパターンに関する注意事項.....	179
暗号化.....	5
印刷資源管理での運用.....	45
運用上の注意.....	172
閲覧期間設定.....	6
閲覧期限設定.....	6
エンベッド(貼り付け).....	24,43
オーバーレイに関する注意事項.....	182
[か]	
外字のエンベッド(貼り付け).....	43
外字を使用したPDFの出力方法.....	43
機能概要.....	1
基本運用形態.....	18
高精度なバーコード生成機能.....	4
[さ]	
作業ファイルの生成に関する注意事項.....	177
出力できる文字について(PDFファイル保存時).....	195
証明書管理環境定義ファイル.....	137
証明書管理環境定義ファイルのキーワード一覧.....	137
証明書管理コマンド.....	137
証明書管理コマンドの一覧.....	140
セキュアなメール配信.....	35
セキュリティ.....	5
[た]	
帳票業務情報設定時の留意事項(PDFファイル保存時).....	175
帳票業務情報のサポート一覧(PDFファイル保存時).....	194
帳票設計時のフォントの使用.....	24
帳票に指定できる文字(PDFファイル保存時).....	195
帳票の文字コード変換(PDFファイル保存時).....	196
帳票様式情報設計時の留意事項(PDFファイル保存時).....	172
[な]	
日本語資源管理から直接登録する運用.....	44
入力データに指定できる文字(PDFファイル保存時).....	196

[は]

破線パターンに関する注意事項.....	179
バーコード生成.....	4
バーコードに関する注意事項.....	183
フォントのエンベッド(貼り付け).....	24,43
フルスクリーン表示に関する注意事項.....	177
ページマスク機能.....	6

[ま]

文字の表示に関する注意事項.....	176
--------------------	-----